

IBM

@server

iSeries

制御言語 (CL)





@server

iSeries

制御言語 (CL)

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2002. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2002

目次

制御言語 (CL)	1
V5R2 の新機能	1
トピックの印刷	2
CL コマンド検索プログラム	3
コマンドのアルファベット順リスト	4
CL の概念および参照情報	47
コマンド	47
コマンド名	47
OS/400 オブジェクトを処理するコマンド	48
複数のオブジェクトを処理するコマンド	48
コマンドの記述形式	49
構文図の形式	50
コマンドの構成要素	60
OS/400 オブジェクト	149
一般に使用されるパラメーター: 補足説明	158
CL コマンドで使用されるデータベースおよび装置ファイル	190
サーバーでのコマンド記述の印刷	247
CL の関連情報	247

制御言語 (CL)

システム・プログラマーおよびシステム管理者は制御言語 (CL) を使用して、オペレーティング・システム・コマンドおよびその他の IBM 提供のコマンドを使用したプログラムを作成することができます。

『V5R2 の新機能』

CL の V5R2 での主な変更点を知りたい場合は、このリンクを選択してください。

2 ページの『トピックの印刷』

CL コマンドのグループまたは概念を印刷したい場合は、このリンクを選択してください。

3 ページの『CL コマンド検索プログラム』

CL コマンド検索プログラム (CL コマンドを名前または記述で検索できるツール) にアクセスする場合は、このリンクを選択してください。すべてのコマンド、新しく追加されたすべてのコマンド、あるいは変更されたすべてのコマンドを、アルファベット順にリスト表示することもできます。

4 ページの『コマンドのアルファベット順リスト』

すべてのコマンドを、記述でのアルファベット順にリスト表示したい場合は、このリンクを選択してください。

47 ページの『CL の概念および参照情報』

このトピックでは、CL コマンドを使って効率的に作業を行なうために理解しておく必要のある基本概念について説明しています。

247 ページの『CL の関連情報』

このトピックでは、マニュアルのリストおよびその他の関連情報を提供しています。

V5R2 の新機能

以下に、V5R2 の Information Center の 制御言語 (CL) のトピックで新たに追加された情報を示します。コマンドの説明などの CL 情報を印刷するには、2 ページの『トピックの印刷』を参照してください。

以下は、新しいオブジェクト・タイプおよび新しいシステム値のリストです。

新しいオブジェクト・タイプ

以下のオブジェクト・タイプは、OS/400 ライセンス・プログラムのバージョン 5 リリース 2 モディフィケーション 0 (V5R2M0) で新たに追加されたものです。

- *IMGCLG (イメージ・カタログ)

新しいコマンドおよび変更されたコマンド



Information Center の左のナビゲーション・バーで CL コマンド検索プログラムへのリンクを選択すると、CL コマンド検索プログラム (CL コマンドを名前または記述で検索できるツール) にアクセスすることができます。すべてのコマンド、新しく追加されたすべてのコマンド、あるいは変更されたすべてのコマンドを、アルファベット順にリスト表示することもできます。

以下の製品のコマンドが、バージョン 5 リリース 2 モディフィケーション 0 (V5R2M0) の Information Center に追加されました。

- System Manager (製品 ID 5722SM1)
- Managed System Services (製品 ID 5722MG1)


新機能や変更点の参照方法

CL 情報の中で技術的な変更のあった箇所を分かりやすくするために、ここでは以下の方法で変更箇所を区別しています。

-  のイメージが、新しい情報または変更された情報の始まりを示しています。
-  のイメージが、新しい情報または変更された情報の終わりを示しています。

上記の新機能または機能強化に関する情報に加え、CL のトピックでは以下の機能強化についても説明しています。

- 記述または名前による CL コマンドの検索を容易にする、3 ページの『CL コマンド検索プログラム』が新たに追加されました。
- 47 ページの『CL の概念および参照情報』が再構成され、よりナビゲートしやすくなりました。

このリリースでの新機能または変更点についてのその他の情報は、「プログラム資料説明書」 を参照してください。

トピックの印刷

次のリンクから、PDF 版の基本的な CL 情報をはじめ、CL コマンドにアクセスできます。(ご使用のサーバーでのコマンド情報の印刷に関する詳細は、247 ページの『サーバーでのコマンド記述の印刷』を参照してください)。

PDF 版のコマンドには、構文図は含まれていません。しかし、HTML 版の表示と印刷が可能です。PDF をダウンロードまたは表示するには、次のリンクのいずれかを選択します。

CL のトピック	ページ数/KB
制御言語 (基本 CL 情報)	200/634
Commands ADDACC - ADDPRBSLTE	322/804
Commands ADDPRDCRQA - CHGCLURCY	244/628
Commands CHGCRG - CHGEWLM	316/756
Commands CHGFTR - CHGNODGRPA	356/885
Commands CHGOBJAUD - CHGTCPDMN	338/820
Commands CHGTCPHTE - CPYFRMIMPF	210/556
Commands CPYFRMPCD - CRTDEVSNUP	356/867
Commands CRTDEVTAP - CRTPTFPKG	422/1061
Commands CRTQMFORM - DLTJRN	184/510
Commands DLTJRNRCV - DSPAUTUSR	124/383
Commands DSPBCKUPL - DSPLANSTS	154/433
Commands DSPLOG - DSPUSRPMN	151/422
Commands DSPUSRPTI - ENDMGDSYS	124/344


CL のトピック	ページ数/KB
Commands ENDMGRSRV - MRGMSGF	138/383
Commands MRGTCPHT - QRYTIEF	310/794
Commands RCV DST - RMVLANADPT	156/459
Commands RMVLANADPI - RRTJOB	108/322
Commands RST - RUNRMTCMD	262/659
Commands RUNSQLSTM - STRCLUNOD	312/789
Commands STRCRG - STRUSF	154/425
Commands SBMCRQ - WRKDEV D	188/511
Commands WRKDEVTBL - WRKLNK	100/315
Commands WRKOBJLCK - WRKTAPCTG	104/313
Commands WRKTCPSTS - WRKWTR	10/70

PDF ファイルの保管

表示用または印刷用の PDF ファイルを Netscape Navigator からワークステーションに保存するには、以下の操作を行います。

1. ブラウザーで PDF を右マウス・ボタンでクリックする (上記のリンクを右マウス・ボタンでクリックする)。
2. 「リンクを名前を付けて保存」(Netscape Navigator) または「対象をファイルに保存」(Internet Explorer) を選択する。
3. PDF を保存したいディレクトリーに進む。
4. 「保存」をクリックする。

Adobe Acrobat Reader のダウンロード

これらの PDF を表示したり印刷したりするには、Adobe Acrobat Reader が必要です。これは、Adobe Web サイト (www.adobe.com/products/acrobat/readstep.html)  から、ダウンロードできます。

CL コマンド検索プログラム

CL コマンド検索プログラムを使用すると、制御言語コマンドに関する情報を検索できます。CL コマンドを検索したり、CL コマンドの全リストを表示したりすることができます。

コマンドのアルファベット順リスト

3 ページの『CL コマンド検索プログラム』 このリンクを選択すると、CL コマンド検索プログラム (CL コマンドを名前または記述で検索できるツール) にアクセスすることができます。すべてのコマンド、新しく追加されたすべてのコマンド、あるいは変更されたすべてのコマンドを、アルファベット順にリスト表示することもできます。

A (4 ページ) B (7 ページ) C (7 ページ) D (19 ページ) E (26 ページ) F (28 ページ)
 G (28 ページ) H (29 ページ) I (29 ページ) L (29 ページ) M (29 ページ) N (30 ページ)
 O (30 ページ) P (30 ページ) Q (31 ページ) R (31 ページ) S (37 ページ) T (41 ページ)
 U (41 ページ) V (41 ページ) W (42 ページ)

A	
	アクセス・コード追加 (ADDACC) コマンド、ADDACC の構文図
	警報処置項目追加 (ADDALRACNE) コマンド、ADDALRACNE の構文図
	警報記述追加 (ADDALRD) コマンド、ADDALRD の構文図
	警報選択項目追加 (ADDALRSLTE) コマンド、ADDALRSLTE の構文図
	権限リスト項目追加 (ADDAUTLE) コマンド、ADDAUTLE の構文図
	自動開始ジョブ項目追加 (ADDAJE) コマンド、ADDAJE の構文図
	バインド・ディレクトリー項目追加 (ADDBNDDIRE) コマンド、ADDBNDDIRE の構文図
	停止点追加 (ADDBKP) コマンド、ADDBKP の構文図
	変更制御サーバー・クライアント追加 (ADDCCSCLT) コマンド、ADDCCSCLT の構文図
	変更要求活動追加 (ADDCRQA) コマンド、ADDCRQA の構文図
	▶ クラスタ・ノード項目追加 (ADDCLUNODE) コマンド、ADDCLUNODE の構文図 ◀
	▶ クラスタ資源グループ装置項目追加 (ADDCRGDEVE) コマンド、ADDCRGDEVE の構文図 ◀
	▶ クラスタ資源グループ・ノード項目追加 (ADDCRGNODE) コマンド、ADDCRGNODE の構文図 ◀
	コマンド変更要求活動追加 (ADDCMDCRQA) コマンド、ADDCMDCRQA の構文図
	通信項目追加 (ADDCMNE) コマンド、ADDCMNE の構文図
	SNMP のコミュニティ追加 (ADDCOMSNMP) コマンド、ADDCOMSNMP の構文図
	構成リスト項目追加 (ADDCFGLE) コマンド、ADDCFGLE の構文図
	接続リスト項目追加 (ADDCNNLE) コマンド、ADDCNNLE の構文図
	データ定義追加 (ADDDTADFN) コマンド、ADDDTADFN の構文図
	▶ 装置ドメイン項目追加 (ADDDEVDMNE) コマンド、ADDDEVDMNE の構文図 ◀
	ディレクトリー項目追加 (ADDDIRE) コマンド、ADDDIRE の構文図
	ディレクトリー・シャドー・システム追加 (ADDDIRSHD) コマンド、ADDDIRSHD の構文図
	配布カタログ項目追加 (ADDDSTCLGE) コマンド、ADDDSTCLGE の構文図
	配布リスト項目追加 (ADDDSTLE) コマンド、ADDDSTLE の構文図
	配布待ち行列追加 (ADDDSTQ) コマンド、ADDDSTQ の構文図
	配布経路追加 (ADDDSTRTE) コマンド、ADDDSTRTE の構文図
	配布 2 次システム名追加 (ADDDSTSYSN) コマンド、ADDDSTSYSN の構文図
	文書ライブラリー・オブジェクト権限追加 (ADDDLOAUT) コマンド、ADDDLOAUT の構文図
	エミュレーション構成項目追加 (ADDEMLCFGE) コマンド、ADDEMLCFGE の構文図
	環境変数追加 (ADDENVVAR) コマンド、ADDENVVAR の構文図

出口プログラムの追加 (ADDEXITPGM) コマンド、ADDEXITPGM の構文図
拡張無線制御装置バーコード項目追加 (ADDEWCBCDE) コマンド、ADDEWCBCDE の構文図
拡張無線制御装置メンバー追加 (ADDEWCM) コマンド、ADDEWCM の構文図
拡張無線制御装置 PTC 項目追加 (ADDEWCPTCE) コマンド、ADDEWCPTCE の構文図
拡張無線回線メンバー追加 (ADDEWLM) コマンド、ADDEWLM の構文図
フォント・テーブル項目追加 (ADDFNTTBLE) コマンド、ADDFNTTBLE の構文図
データ・リンク・ファイル・マネージャーへのホスト・データベースの追加 (ADDHDBDLFM) コマンド、ADDHDBDLFM の構文図
▶▶ イメージ・カタログ項目追加 (ADDIMGCLGE) コマンド、ADDIMGCLGE の構文図 ◀◀
ICF プログラム装置項目追加 (ADDICFDEVE) コマンド、ADDICFDEVE の構文図
IP over SNA インターフェース追加 (ADDIPSIFC) コマンド、ADDIPSIFC の構文図
IP over SNA ロケーション項目追加 (ADDIPSLOC) コマンド、ADDIPSLOC の構文図
IP over SNA 経路の追加 (ADDIPSRTE) コマンド、ADDIPSRTE の構文図
ジョブ待ち行列項目追加 (ADDJOBQE) コマンド、ADDJOBQE の構文図
ジョブ・スケジュール項目追加 (ADDJOBSCDE) コマンド、ADDJOBSCDE の構文図
ジョブ・スケジューラーの使用によるジョブ追加 (ADDJOBJS) コマンド、ADDJOBJS の構文図
ライブラリー・リスト項目追加 (ADDLIBLE) コマンド、ADDLIBLE の構文図
ライセンス CRQ 活動追加 (ADDLICRQA) コマンド、ADDLICRQA の構文図
ライセンス・キー情報追加 (ADDLICENSE) コマンド、ADDLICENSE の構文図
リンク追加 (ADDLNK) コマンド、ADDLNK の構文図
ローカル・エリア・ネットワーク・アダプター情報追加 (ADDLANADPI) コマンド、ADDLANADPI の構文図
論理ファイル・メンバー追加 (ADDLFM) コマンド、ADDLFM の構文図
BRM への媒体情報追加 (ADDMEDIBRM) コマンド、ADDMEDIBRM の構文図
BRM への媒体ライブラリー媒体追加 (ADDMLMBRM) コマンド、ADDMLMBRM の構文図
BRM への媒体追加 (ADDMEDBRM) コマンド、ADDMEDBRM の構文図
メッセージ記述追加 (ADDMSGD) コマンド、ADDMSGD の構文図
装てんファイル・システム追加 (ADDMFS) コマンド、ADDMFS の構文図
装てんファイル・システム追加 (MOUNT) コマンド、MOUNT の構文図
NetWare 認証項目追加 (ADDNTWAUTE) コマンド、ADDNTWAUTE の構文図
ネットワーク・ジョブ項目追加 (ADDNETJOBE) コマンド、ADDNETJOBE の構文図
ネットワーク・サーバー記憶リンク追加 (ADDNWSSTGL) コマンド、ADDNWSSTGL の構文図
ネットワーク・テーブル項目追加 (ADDNETTBLE) コマンド、ADDNETTBLE の構文図
ニックネーム追加 (ADDNCK) コマンド、ADDNCK の構文図
ノード・リスト項目追加 (ADDNODLE) コマンド、ADDNODLE の構文図
オブジェクト CRQ 活動追加 (ADDOBJCRQA) コマンド、ADDOBJCRQA の構文図
光ディスク・カートリッジ追加 (ADDOPTCTG) コマンド、ADDOPTCTG の構文図
光ディスク・サーバー追加 (ADDOPTSVR) コマンド、ADDOPTSVR の構文図
Performance Explorer 定義の追加 (ADDPEXDFN) コマンド、ADDPEXDFN の構文図
▶▶ Performance Explorer フィルター追加 (ADDPEXFTR) コマンド、ADDPEXFTR の構文図 ◀◀
物理ファイル制約追加 (ADDPFCST) コマンド、ADDPFCST の構文図
物理ファイル・メンバー追加 (ADDPFM) コマンド、ADDPFM の構文図

物理ファイル・トリガー追加 (ADDPFTRG) コマンド、ADDPFTRG の構文図
2 地点間 TCP/IP プロファイル追加 (ADDTCPPTP) コマンド、ADDTCPPTP の構文図
事前開始ジョブ項目追加 (ADDPJE) コマンド、ADDPJE の構文図
問題処置項目追加 (ADDPBACNE) コマンド、ADDPBACNE の構文図
問題選択項目追加 (ADDPBLSLITE) コマンド、ADDPBLSLITE の構文図
プロダクト変更要求活動追加 (ADDPDRCRQA) コマンド、ADDPDRCRQA の構文図
プロダクト・ライセンス情報追加 (ADDPDLICI) コマンド、ADDPDLICI の構文図
プログラム追加 (ADDPGM) コマンド、ADDPGM の構文図
プログラム一時修正変更要求活動追加 (ADDPDFCRQA) コマンド、ADDPDFCRQA の構文図
プロトコル・テーブル項目追加 (ADDPCLTBLE) コマンド、ADDPCLTBLE の構文図
リレーショナル・データベース・ディレクトリー項目追加 (ADDRDBDIRE) コマンド、ADDRDBDIRE の構文図
リモート定義追加 (ADDRMTDFN) コマンド、ADDRMTDFN の構文図
リモート・ジャーナル追加 (ADDRMTJRN) コマンド、ADDRMTJRN の構文図
応答リスト項目追加 (ADDRPYLE) コマンド、ADDRPYLE の構文図
資源 CRQ 活動追加 (ADDRSCCRQA) コマンド、ADDRSCCRQA の構文図
REXX バッファー追加 (ADDREXBUF) コマンド、ADDREXBUF の構文図
経路指定項目追加 (ADDRTGE) コマンド、ADDRTGE の構文図
検索見出し項目追加 (ADDSCHIDX) コマンド、ADDSCHIDX の構文図
サーバー認証項目追加 (ADDSVRAUTE) コマンド、ADDSVRAUTE の構文図
サービス・テーブル項目追加 (ADDSRVTBLE) コマンド、ADDSRVTBLE の構文図
制御範囲項目追加 (ADDSOCE) コマンド、ADDSOCE の構文図
テープ・カートリッジ追加 (ADDTAPCTG) コマンド、ADDTAPCTG の構文図
TCP/IP ホスト・テーブル項目追加 (ADDTCPHTE) コマンド、ADDTCPHTE の構文図
TCP/IP インターフェース追加 (ADDTCPIFC) コマンド、ADDTCPIFC の構文図
TCP/IP ポート制約追加 (ADDTCPPORT) コマンド、ADDTCPPORT の構文図
TCP/IP リモート・システム情報追加 (ADDTCPRSI) コマンド、ADDTCPRSI の構文図
TCP/IP 経路追加 (ADDTCPRTE) コマンド、ADDTCPRTE の構文図
追跡追加 (ADDTRC) コマンド、ADDTRC の構文図
▶▶ 追跡フィルター追加 (ADDTRCFTR) コマンド、ADDTRCFTR の構文図 ◀◀
Ultimedia システム機能接続項目追加 (ADDUSFCNNE) コマンド、ADDUSFCNNE の構文図
Ultimedia システム機能装置項目追加 (ADDUSFDEVE) コマンド、ADDUSFDEVE の構文図
Ultimedia システム機能サーバー項目追加 (ADDUSFSVRE) コマンド、ADDUSFSVRE の構文図
ワークステーション項目追加 (ADDWSE) コマンド、ADDWSE の構文図
オブジェクト割り振り (ALCOBJ) コマンド、ALCOBJ の構文図
アクセス・グループ分析 (ANZACCGRP) コマンド、ANZACCGRP の構文図
データベース・ファイル分析 (ANZDBF) コマンド、ANZDBF の構文図
データベース・ファイル・キー分析 (ANZDBFKEY) コマンド、ANZDBFKEY の構文図
省略時パスワード分析 (ANZDFTPWD) コマンド、ANZDFTPWD の構文図
Java プログラム分析 (ANZJVAPGM) コマンド、ANZJVAPGM の構文図
▶▶ Java 仮想計算機分析 (ANZJVM) コマンド、ANZJVM の構文図 ◀◀
BRM の使用によるライブラリー分析 (ANZLIBBRM) コマンド、ANZLIBBRM の構文図

	パフォーマンス・データ分析 (ANZPFRDTA) コマンド、ANZPFRDTA の構文図
	問題分析 (ANZPRB) コマンド、ANZPRB の構文図
	プロファイル活動の分析 (ANZPRFACT) コマンド、ANZPRFACT の構文図
	プログラム分析 (ANZPGM) コマンド、ANZPGM の構文図
	QUERY 分析 (ANZQRY) コマンド、ANZQRY の構文図
	ユーザー・オブジェクト分析 (ANZUSROBJ) コマンド、ANZUSROBJ の構文図
	回線返答 (ANSLIN) コマンド、ANSLIN の構文図
	質問回答 (ANSQST) コマンド、ANSQST の構文図
	ジャーナル処理済み変更適用 (APYJRNCHG) コマンド、APYJRNCHG の構文図
	プログラム一時修正適用 (APYPTF) コマンド、APYPTF の構文図
	リモート・プログラム一時修正適用 (APYRMTPTF) コマンド、APYRMTPTF の構文図
	質問 (ASKQST) コマンド、ASKQST の構文図
B	トップに戻る
	バッチ・ジョブ (BCHJOB) コマンド、BCHJOB の構文図
C	トップに戻る
	結合プロシージャー呼び出し (CALLPRC) コマンド、CALLPRC の構文図
	プログラム呼び出し (CALL) コマンド、CALL の構文図
	会計コード変更 (CHGACGCDE) コマンド、CHGACGCDE の構文図
	活動化スケジュール項目の変更 (CHGACTSCDE) コマンド、CHGACTSCDE の構文図
	活動プロファイル・リストの変更 (CHGACTPRFL) コマンド、CHGACTPRFL の構文図
	警報処置項目変更 (CHGALRACNE) コマンド、CHGALRACNE の構文図
	警報記述変更 (CHGALRD) コマンド、CHGALRD の構文図
	警報選択項目変更 (CHGALRSLTE) コマンド、CHGALRSLTE の構文図
	警報テーブル変更 (CHGALRTBL) コマンド、CHGALRTBL の構文図
	ASP 属性変更 (CHGASPA) コマンド、CHGASPA の構文図
	属性変更 (CHGATR) コマンド、CHGATR の構文図
	監査値変更 (CHGAUD) コマンド、CHGAUD の構文図
	権限変更 (CHGAUT) コマンド、CHGAUT の構文図
	権限リスト項目変更 (CHGAUTLE) コマンド、CHGAUTLE の構文図
	自動開始ジョブ項目変更 (CHGAJE) コマンド、CHGAJE の構文図
	バックアップ・オプション変更 (CHGBCKUP) コマンド、CHGBCKUP の構文図
	BOOTP 属性変更 (CHGBPA) コマンド、CHGBPA の構文図
	変更制御サーバー属性変更 (CHGCCSA) コマンド、CHGCCSA の構文図
	変更要求活動変更 (CHGCRQA) コマンド、CHGCRQA の構文図
	変更要求記述変更 (CHGCRQD) コマンド、CHGCRQD の構文図
	クラス変更 (CHGCLS) コマンド、CHGCLS の構文図
	サービス・クラス記述変更 (CHGCOSD) コマンド、CHGCOSD の構文図
	終結処理変更 (CHGCLNUP) コマンド、CHGCLNUP の構文図
	➤ クラスター構成調整変更 (CHGCLUCFG) コマンド、CHGCLUCFG の構文図 ◀
	➤ クラスター・ノード項目変更 (CHGCLUNODE) コマンド、CHGCLUNODE の構文図 ◀
	➤ クラスター・リカバリー変更 (CHGCLURCY) コマンド、CHGCLURCY の構文図 ◀

▶ クラスター資源グループ変更 (CHGCRG) コマンド、CHGCRG の構文図 ◀◀
▶ クラスター資源グループ装置項目変更 (CHGCRGDEVE) コマンド、CHGCRGDEVE の構文図 ◀
▶ クラスター資源グループ基本変更 (CHGCRGPRI) コマンド、CHGCRGPRI の構文図 ◀◀
▶ クラスター・バージョン変更 (CHGCLUVER) コマンド、CHGCLUVER の構文図 ◀◀
コード化フォント変更 (CHGCDEFNT) コマンド、CHGCDEFNT の構文図
コマンド変更 (CHGCMD) コマンド、CHGCMD の構文図
コマンド変更要求活動変更 (CHGCMDCRQA) コマンド、CHGCMDCRQA の構文図
コマンド省略時値変更 (CHGCMDDFNT) コマンド、CHGCMDDFNT の構文図
通信項目変更 (CHGCMNE) コマンド、CHGCMNE の構文図
通信サイド情報変更 (CHGCSI) コマンド、CHGCSI の構文図
SNMP のコミュニティ変更 (CHGCOMSNMP) コマンド CHGCOMSNMP の構文図
構成リスト変更 (CHGCFGL) コマンド、CHGCFGL の構文図
構成リスト項目変更 (CHGCFGLE) コマンド、CHGCFGLE の構文図
接続リスト変更 (CHGCNNL) コマンド、CHGCNNL の構文図
接続リスト項目変更 (CHGCNNLE) コマンド、CHGCNNLE の構文図
APPC 制御装置記述変更 (CHGCTLAPPC) コマンド、CHGCTLAPPC の構文図
非同期制御装置記述変更 (CHGCTLASC) コマンド、CHGCTLASC の構文図
BSC 制御装置記述変更 (CHGCTLBSC) コマンド、CHGCTLBSC の構文図
金融機関制御装置記述変更 (CHGCTLFNC) コマンド、CHGCTLFNC の構文図
ローカル・ワークステーション制御装置記述変更 (CHGCTLLWS) コマンド、CHGCTLLWS の構文図
ネットワーク制御装置記述変更 (CHGCTLNET) コマンド、CHGCTLNET の構文図
リモート・ワークステーション制御装置記述変更 (CHGCTLRWS) コマンド、CHGCTLRWS の構文図
小売業制御装置記述変更 (CHGCTLRTL) コマンド、CHGCTLRTL の構文図
SNA ホスト制御装置記述変更 (CHGCTLHOST) コマンド、CHGCTLHOST の構文図
テーブ制御装置記述変更 (CHGCTLTAP) コマンド、CHGCTLTAP の構文図
仮想ワークステーション制御装置記述変更 (CHGCTLVWS) コマンド、CHGCTLVWS の構文図
現行ディレクトリー変更 (CD) コマンド、CD の構文図
現行ディレクトリー変更 (CHDIR) コマンド、CHDIR の構文図
現行ディレクトリー変更 (CHGCURDIR) コマンド、CHGCURDIR の構文図
現行ライブラリー変更 (CHGCURLIB) コマンド、CHGCURLIB の構文図
データ域変更 (CHGDTAARA) コマンド、CHGDTAARA の構文図
DDM TCP/IP 属性変更 (CHGDDMTCPA) コマンド、CHGDDMTCPA の構文図
デバッグ変更 (CHGDBG) コマンド、CHGDBG の構文図
専用保守ツール・パスワード変更 (CHGDSTPWD) コマンド、CHGDSTPWD の構文図
APPC 装置記述変更 (CHGDEVAPPC) コマンド、CHGDEVAPPC の構文図
ASP 装置記述変更 (CHGDEVASP) コマンド、CHGDEVASP の構文図
非同期装置記述変更 (CHGDEVASC) コマンド、CHGDEVASC の構文図
BSC 装置記述変更 (CHGDEVBSC) コマンド、CHGDEVBSC の構文図
暗号装置記述変更 (CHGDEVCRP) コマンド、CHGDEVCRP の構文図
ディスク装置記述変更 (CHGDEVDKT) コマンド、CHGDEVDKT の構文図
表示装置記述変更 (CHGDEVDSP) コマンド、CHGDEVDSP の構文図

金融機関装置記述変更 (CHGDEVFNC) コマンド、CHGDEVFNC の構文図
システム内通信装置記述変更 (CHGDEVINTR) コマンド、CHGDEVINTR の構文図
媒体ライブラリー装置記述変更 (CHGDEVMLB) コマンド、CHGDEVMLB の構文図
ネットワーク装置記述変更 (CHGDEVNET) コマンド、CHGDEVNET の構文図
光ディスク装置記述変更 (CHGDEVOPT) コマンド、CHGDEVOPT の構文図
印刷装置記述変更 (CHGDEVPRN) コマンド、CHGDEVPRN の構文図
小売業装置記述変更 (CHGDEVRTL) コマンド、CHGDEVRTL の構文図
SNA ホスト装置記述変更 (CHGDEVHOST) コマンド、CHGDEVHOST の構文図
SNA パススルー装置記述変更 (CHGDEVSNT) コマンド、CHGDEVSNT の構文図
SNUF 装置記述変更 (CHGDEVSNUF) コマンド、CHGDEVSNUF の構文図
テープ装置記述変更 (CHGDEVTAP) コマンド、CHGDEVTAP の構文図
DHCP 属性変更 (CHGDHCPA) コマンド、CHGDHCPA の構文図
ディレクトリー項目変更 (CHGDIRE) コマンド、CHGDIRE の構文図
ディレクトリー・シャドー・システム変更 (CHGDIRSHD) コマンド、CHGDIRSHD の構文図
ディスク装置ファイル変更 (CHGDKTF) コマンド、CHGDKTF の構文図
表示装置ファイル変更 (CHGDSPF) コマンド、CHGDSPF の構文図
分散データ管理 (DDM) ファイル変更 (CHGDDMF) コマンド、CHGDDMF の構文図
配布属性変更 (CHGDSTA) コマンド、CHGDSTA の構文図
配布記述変更 (CHGDSTD) コマンド、CHGDSTD の構文図
配布リスト変更 (CHGDSTL) コマンド、CHGDSTL の構文図
配布待ち行列変更 (CHGDSTQ) コマンド、CHGDSTQ の構文図
配布経路変更 (CHGDSTRTE) コマンド、CHGDSTRTE の構文図
文書記述変更 (CHGDOCD) コマンド、CHGDOCD の構文図
文書ライブラリー・オブジェクト監査変更 (CHGDLOAUD) コマンド、CHGDLOAUD の構文図
文書ライブラリー・オブジェクト権限変更 (CHGDLOAUT) コマンド、CHGDLOAUT の構文図
文書ライブラリー・オブジェクト所有者変更 (CHGDLOOWN) コマンド、CHGDLOOWN の構文図
文書ライブラリー・オブジェクト基本グループ変更 (CHGDLOPGP) コマンド、CHGDLOPGP の構文図
エミュレーション構成項目変更 (CHGEMLCFGE) コマンド、CHGEMLCFGE の構文図
環境変数変更 (CHGENVVAR) コマンド、CHGENVVAR の構文図
満了スケジュール項目の変更 (CHGEXPSCDE) コマンド、CHGEXPSCDE の構文図
拡張無線制御装置バーコード項目変更 (CHGEWCBCDE) コマンド、CHGEWCBCDE の構文図
拡張無線制御装置メンバー変更 (CHGEWCM) コマンド、CHGEWCM の構文図
拡張無線制御装置 PTC 項目変更 (CHGEWCPTCE) コマンド、CHGEWCPTCE の構文図
拡張無線回線メンバー変更 (CHGEWLM) コマンド、CHGEWLM の構文図
フィルター変更 (CHGFTR) コマンド、CHGFTR の構文図
フォント資源変更 (CHGFNTRSC) コマンド、CHGFNTRSC の構文図
フォント・テーブル項目の変更 (CHGFNTTBLE) コマンド、CHGFNTTBLE の構文図
機能領域変更 (CHGFCNARA) コマンド、CHGFCNARA の構文図
グラフ形式変更 (CHGGPHFMT) コマンド、CHGGPHFMT の構文図
グラフ・パッケージ変更 (CHGGPHPKG) コマンド、CHGGPHPKG の構文図
グループ属性変更 (CHGGRPA) コマンド、CHGGRPA の構文図
高水準言語ポインター変更 (CHGHLLPTR) コマンド、CHGHLLPTR の構文図

HTTP 属性変更 (CHGHTTPA) コマンド
ICF プログラム装置項目変更 (CHGICFDEVE) コマンド、CHGICFDEVE の構文図
▶ イメージ・カタログ変更 (CHGIMGCLG) コマンド、CHGIMGCLG の構文図 ◀◀
▶ イメージ・カタログ項目変更 (CHGIMGCLGE) コマンド、CHGIMGCLGE の構文図 ◀◀
ICF ファイル変更 (CHGICFF) コマンド、CHGICFF の構文図
IP over SNA インターフェース変更 (CHGIPSIFC) コマンド、CHGIPSIFC の構文図
IP over SNA ロケーション変更 (CHGIPSLOC) コマンド、CHGIPSLOC の構文図
IP over SNA サービス・タイプ変更 (CHGIPSTOS) コマンド、CHGIPSTOS の構文図
IPL 属性変更 (CHGIPLA) コマンド、CHGIPLA の構文図
Java プログラム変更 (CHGJVAPGM) コマンド、CHGJVAPGM の構文図
ジョブ変更 (CHGJOB) コマンド、CHGJOB の構文図
ジョブ・スケジューラーの使用によるジョブ権限変更 (CHGAUTJS) コマンド、CHGAUTJS の構文図
ジョブ記述変更 (CHGJOBBD) コマンド、CHGJOBBD の構文図
ジョブ媒体ライブラリー属性変更 (CHGJOBMLBA) コマンド、CHGJOBMLBA の構文図
ジョブ待ち行列項目変更 (CHGJOBQE) コマンド、CHGJOBQE の構文図
ジョブ・スケジュール項目変更 (CHGJOBSCDE) コマンド、CHGJOBSCDE の構文図
ジョブ・スケジューラー変更 (CHGSCDBRM) コマンド、CHGSCDBRM の構文図
ジョブ・タイプ変更 (CHGJOBTYP) コマンド、CHGJOBTYP の構文図
ジョブ・スケジューラーの使用によるジョブ変更 (CHGJOBJS) コマンド、CHGJOBJS の構文図
ジャーナル変更 (CHGJRN) コマンド、CHGJRN の構文図
キーボード・マップ変更 (CHGKBDMAP) コマンド、CHGKBDMAP の構文図
LAN アダプター情報変更 (CHGLANADPI) コマンド、CHGLANADPI の構文図
ライブラリー変更 (CHGLIB) コマンド、CHGLIB の構文図
ライブラリー・リスト変更 (CHGLIBL) コマンド、CHGLIBL の構文図
ライセンス CRQ 活動変更 (CHGLICRQA) コマンド、CHGLICRQA の構文図
ライセンス情報変更 (CHGLICINF) コマンド、CHGLICINF の構文図
非同期回線記述変更 (CHGLINASC) コマンド、CHGLINASC の構文図
BSC 回線記述変更 (CHGLINBSC) コマンド、CHGLINBSC の構文図
DDI ネットワーク回線記述変更 (CHGLINDDI) コマンド、CHGLINDDI の構文図
イーサネット回線記述変更 (CHGLINETH) コマンド、CHGLINETH の構文図
FAX 回線記述変更 (CHGLINFAX) コマンド、CHGLINFAX の構文図
フレーム・リレー・ネットワーク回線記述変更 (CHGLINFR) コマンド、CHGLINFR の構文図
IDLC 回線記述変更 (CHGLINIDLC) コマンド、CHGLINIDLC の構文図
ネットワーク回線記述変更 (CHGLINNET) コマンド、CHGLINNET の構文図
PPP 回線記述変更 (CHGLINPPP) コマンド、CHGLINPPP の構文図
SDLC 回線記述変更 (CHGLINSDLC) コマンド、CHGLINSDLC の構文図
TDLC 回線記述変更 (CHGLINTDLC) コマンド、CHGLINTDLC の構文図
トークンリング・ネットワーク回線記述変更 (CHGLINTRN) コマンド、CHGLINTRN の構文図
無線回線記述変更 (CHGLINWLS) コマンド、CHGLINWLS の構文図
X.25 回線記述変更 (CHGLINX25) コマンド、CHGLINX25 の構文図
論理ファイル変更 (CHGLF) コマンド、CHGLF の構文図

論理ファイル・メンバー変更 (CHGLFM) コマンド、CHGLFM の構文図
Managed System 属性変更 (CHGMGDSYSA) コマンド、CHGMGDSYSA の構文図
マネージャー・サービス属性変更 (CHGMGRSRVA) コマンド、CHGMGRSRVA の構文図
BRM の使用による媒体変更 (CHGMEDBRM) コマンド、CHGMEDBRM の構文図
メニュー変更 (CHGMNU) コマンド、CHGMNU の構文図
メッセージ記述変更 (CHGMSGD) コマンド、CHGMSGD の構文図
メッセージ・ファイル変更 (CHGMSGF) コマンド、CHGMSGF の構文図
メッセージ待ち行列変更 (CHGMSGQ) コマンド、CHGMSGQ の構文図
モード記述変更 (CHGMODD) コマンド、CHGMODD の構文図
モジュール変更 (CHGMOD) コマンド、CHGMOD の構文図
NetBIOS 記述変更 (CHGNTBD) コマンド、CHGNTBD の構文図
NetWare 認証項目変更 (CHGNTWAUTE) コマンド、CHGNTWAUTE の構文図
NetWare ボリューム変更 (CHGNTWVOL) コマンド、CHGNTWVOL の構文図
ネットワーク属性変更 (CHGNETA) コマンド、CHGNETA の構文図
ネットワーク・ファイル・システム・エクスポートの変更 (CHGNFSEXP) コマンド、CHGNFSEXP の構文図
ネットワーク・ファイル・システム・エクスポートの変更 (EXPORTFS) コマンド、EXPORTFS の構文図
ATM ネットワーク用ネットワーク・インターフェース変更 (CHGNWIATM) コマンド、CHGNWIATM の構文図
フレーム・リレー・ネットワーク用ネットワーク・インターフェース変更 (CHGNWIFR) コマンド、CHGNWIFR の構文図
ISDN 用ネットワーク・インターフェース記述変更 (CHGNWIISDN) コマンド、CHGNWIISDN の構文図
ネットワーク・ジョブ項目変更 (CHGNETJOBE) コマンド、CHGNETJOBE の構文図
ネットワーク・サーバー属性変更 (CHGNWSA) コマンド、CHGNWSA の構文図
ネットワーク・サーバー記述変更 (CHGNWSD) コマンド、CHGNWSD の構文図
ネットワーク・サーバー・ユーザー属性変更 (CHGNWSUSRA) コマンド、CHGNWSUSRA の構文図
ネットワーク時間プロトコル属性変更 (CHGNTPA) コマンド、CHGNTPA の構文図
ニックネーム変更 (CHGNCK) コマンド、CHGNCK の構文図
ノード・グループ属性変更 (CHGNODGRPA) コマンド、CHGNODGRPA の構文図
オブジェクト監査変更 (CHGOBJAUD) コマンド、CHGOBJAUD の構文図
オブジェクト変更要求活動変更 (CHGOBJCRQA) コマンド、CHGOBJCRQA の構文図
オブジェクト記述変更 (CHGOBJD) コマンド、CHGOBJD の構文図
オブジェクト所有者変更 (CHGOBJOWN) コマンド、CHGOBJOWN の構文図
オブジェクト基本グループ変更 (CHGOBJPGP) コマンド、CHGOBJPGP の構文図
光ディスク属性変更 (CHGOPTA) コマンド、CHGOPTA の構文図
光ディスク・ボリューム変更 (CHGOPTVOL) コマンド、CHGOPTVOL の構文図
出力待ち行列変更 (CHGOUTQ) コマンド、CHGOUTQ の構文図
所有者変更 (CHGOWN) コマンド、CHGOWN の構文図
ジョブ・スケジューラーの使用によるページャー・コマンド変更 (CHGPGRJS) コマンド、CHGPGRJS の構文図
パラメーター・データ変更 (CHGDTAJS) コマンド、CHGDTAJS の構文図
パスワード変更 (CHGPWD) コマンド、CHGPWD の構文図
Performance Explorer 定義変更 (CHGPEXDFN) コマンド、CHGPEXDFN の構文図
物理ファイル・トリガー変更 (CHGPFTRG) コマンド、CHGPFTRG の構文図
物理ファイル変更 (CHGPF) コマンド、CHGPF の構文図

物理ファイル制約変更 (CHGPF CST) コマンド、CHGPF CST の構文図
物理ファイル・メンバー変更 (CHGPF M) コマンド、CHGPF M の構文図
ポインター変更 (CHGPTR) コマンド、CHGPTR の構文図
電源オン / オフ・スケジュール変更 (CHGPWRSCD) コマンド、CHGPWRSCD の構文図
電源オン / オフ・スケジュール項目変更 (CHGPWRSCDE) コマンド、CHGPWRSCDE の構文図
事前開始ジョブ変更 (CHGPJ) コマンド、CHGPJ の構文図
事前開始ジョブ項目変更 (CHGPJE) コマンド、CHGPJE の構文図
事前開始ジョブ項目変更 (CHGPJE) コマンド、CHGPJE の構文図
基本グループ変更 (CHGPGP) コマンド、CHGPGP の構文図
印刷記述子グループ・プロファイル変更 (CHGPDGPRF) コマンド、CHGPDGPRF の構文図
印刷サービス機能構成の変更 (CHGPSFCFG) コマンド、CHGPSFCFG の構文図
印刷装置ファイル変更 (CHGPRTF) コマンド、CHGPRTF の構文図
問題変更 (CHGPRB) コマンド、CHGPRB の構文図
問題処置項目変更 (CHGPRBACNE) コマンド、CHGPRBACNE の構文図
問題選択項目変更 (CHGPRBSLTE) コマンド、CHGPRBSLTE の構文図
プロダクト変更要求活動変更 (CHGPRDCRQA) コマンド、CHGPRDCRQA の構文図
プロダクト・オブジェクト記述変更 (CHGPRDOBJD) コマンド、CHGPRDOBJD の構文図
プロファイル変更 (CHGPRF) コマンド、CHGPRF の構文図
プログラム変更 (CHGPGM) コマンド、CHGPGM の構文図
プログラム変数変更 (CHGPGMVAR) コマンド、CHGPGMVAR の構文図
PTF 変更要求活動変更 (CHGPTFCRQA) コマンド、CHGPTFCRQA の構文図
QUERY 属性変更 (CHGQRYA) コマンド、CHGQRYA の構文図
質問回答データベース変更 (CHGQSTDB) コマンド、CHGQSTDB の構文図
アクセス・パスの回復変更 (CHGRCYAP) コマンド、CHGRCYAP の構文図
リレーショナル・データベース・ディレクトリー項目変更 (CHGRDBDIRE) コマンド、CHGRDBDIRE の構文図
リモート定義変更 (CHGRMTDFN) コマンド、CHGRMTDFN の構文図
リモート・ジャーナル変更 (CHGRMTJRN) コマンド、CHGRMTJRN の構文図
応答リスト項目変更 (CHGRPYLE) コマンド、CHGRPYLE の構文図
資源変更要求活動変更 (CHGRSCCRQA) コマンド、CHGRSCCRQA の構文図
ルート・デーモン属性変更 (CHGRTDA) コマンド、CHGRTDA の構文図
経路指定項目変更 (CHGRTGE) コマンド、CHGRTGE の構文図
RWS 制御装置パスワード変更 (CHGRWSPWD) コマンド、CHGRWSPWD の構文図
保管ファイル変更 (CHGSAVF) コマンド、CHGSAVF の構文図
検索見出し変更 (CHGSCHIDX) コマンド、CHGSCHIDX の構文図
セキュリティ属性変更 (CHGSECA) コマンド、CHGSECA の構文図
セキュリティ監査値変更 (CHGSECAUD) コマンド、CHGSECAUD の構文図
サーバー認証項目変更 (CHGSVRAUTE) コマンド、CHGSVRAUTE の構文図
サービス属性変更 (CHGSRVA) コマンド、CHGSRVA の構文図
サービス・プログラム変更 (CHGSRVPGM) コマンド、CHGSRVPGM の構文図
サービス提供元属性変更 (CHGSRVPVDA) コマンド、CHGSRVPVDA の構文図
最大セッション数変更 (CHGSSNMAX) コマンド、CHGSSNMAX の構文図
共用記憶域プール変更 (CHGSHRPOOL) コマンド、CHGSHRPOOL の構文図

SNMP 属性変更 (CHGSNMPA) コマンド、CHGSNMPA の構文図
ソース物理ファイル変更 (CHGSRCPF) コマンド、CHGSRCPF の構文図
スプール・ファイル属性変更 (CHGSPLFA) コマンド、CHGSPLFA の構文図
サブシステム記述変更 (CHGSBSD) コマンド、CHGSBSD の構文図
システム・ディレクトリー属性変更 (CHGSYSDIRA) コマンド、CHGSYSDIRA の構文図
システム・ジョブ変更 (CHGSYSJOB) コマンド、CHGSYSJOB の構文図
システム・ライブラリー・リスト変更 (CHGSYSLIBL) コマンド、CHGSYSLIBL の構文図
システム値変更 (CHGSYSVAL) コマンド、CHGSYSVAL の構文図
システム /36 変更 (CHGS36) コマンド、CHGS36 の構文図
システム /36 属性変更 (CHGS36A) コマンド、CHGS36A の構文図
システム /36 メッセージ・リスト変更 (CHGS36MSGL) コマンド、CHGS36MSGL の構文図
システム /36 プロシーチャー属性変更 (CHGS36PRCA) コマンド、CHGS36PRCA の構文図
システム /36 プログラム属性変更 (CHGS36PGMA) コマンド、CHGS36PGMA の構文図
システム /36 ソース属性変更 (CHGS36SRCA) コマンド、CHGS36SRCA の構文図
テープ・カートリッジ変更 (CHGTAPCTG) コマンド、CHGTAPCTG の構文図
テープ装置ファイル変更 (CHGTAPF) コマンド、CHGTAPF の構文図
TCP/IP 属性変更 (CHGTCPA) コマンド、CHGTCPA の構文図
TCP/IP ドメイン変更 (CHGTCPDMN) コマンド、CHGTCPDMN の構文図
TCP/IP ホスト・テーブル項目変更 (CHGTCPHTE) コマンド、CHGTCPHTE の構文図
TCP/IP インターフェース変更 (CHGTCPIFC) コマンド、CHGTCPIFC の構文図
TCP/IP 経路変更 (CHGTCPRTE) コマンド、CHGTCPRTE の構文図
TFTP サーバー属性変更 (CHGTFTPA) コマンド、CHGTFTPA の構文図
Ultimedia システム機能装置項目変更 (CHGUSFDEVE) コマンド、CHGUSFDEVE の構文図
ユーザー監査変更 (CHGUSRAUD) コマンド、CHGUSRAUD の構文図
ユーザー印刷情報変更 (CHGUSRPTI) コマンド、CHGUSRPTI の構文図
ユーザー・プロファイル変更 (CHGUSRPRF) コマンド、CHGUSRPRF の構文図
ユーザー追跡バッファ変更 (CHGUSRTRC) コマンド、CHGUSRTRC の構文図
変数変更 (CHGVAR) コマンド、CHGVAR の構文図
ワークステーション項目変更 (CHGWSE) コマンド、CHGWSE の構文図
書き出しプログラム変更 (CHGWTR) コマンド、CHGWTR の構文図
➡ ASP バランス検査 (CHKASPBAL) コマンド、CHKASPBAL の構文図 ⬅
通信追跡検査 (CHKCMNTRC) コマンド、CHKCMNTRC の構文図
DBCS フォント・テーブル検査 (CHKIGCTBL) コマンド、CHKIGCTBL の構文図
ディスク検査 (CHKDKT) コマンド、CHKDKT の構文図
文書ライブラリー・オブジェクト検査 (CHKDLO) コマンド、CHKDLO の構文図
BRM 有効期限切れ媒体検査 (CHKEXPBRM) コマンド、CHKEXPBRM の構文図
チェックイン (CHKIN) コマンド、CHKIN の構文図
オブジェクト検査 (CHKOBJ) コマンド、CHKOBJ の構文図
オブジェクト整合性検査 (CHKOBJITG) コマンド、CHKOBJITG の構文図
チェックアウト (CHKOUT) コマンド、CHKOUT の構文図
パスワード検査 (CHKPWD) コマンド、CHKPWD の構文図

プロダクト・オプション検査 (CHKPRDOPT) コマンド、CHKPRDOPT の構文図
レコード・ロック検査 (CHKRCDLCK) コマンド、CHKRCDLCK の構文図
テープ検査 (CHKTAP) コマンド、CHKTAP の構文図
ディスクット消去 (CLRDKT) コマンド、CLRDKT の構文図
ジョブ待ち行列消去 (CLRJOBQ) コマンド、CLRJOBQ の構文図
ライブラリー消去 (CLRLIB) コマンド、CLRLIB の構文図
メッセージ待ち行列消去 (CLRMSGQ) コマンド、CLRMSGQ の構文図
出力待ち行列消去 (CLROUTQ) コマンド、CLROUTQ の構文図
物理ファイル・メンバー消去 (CLRPFM) コマンド、CLRPFM の構文図
プール消去 (CLRPOOL) コマンド、CLRPOOL の構文図
保管ファイル消去 (CLRSAVF) コマンド、CLRSAVF の構文図
▶ サーバー・セキュリティー・データ消去 (CLRSVRSEC) コマンド、CLRSVRSEC の構文図 ◀
追跡データ消去 (CLRTRCDTA) コマンド、CLRTRCDTA の構文図
ファイル・クローズ (CLOF) コマンド、CLOF の構文図
コミット (COMMIT) コマンド、COMMIT の構文図
ジャーナル・イメージ比較 (CMPJRNIMG) コマンド、CMPJRNIMG の構文図
オブジェクト圧縮 (CPROBJ) コマンド、CPROBJ の構文図
装置媒体ライブラリーの構成 (CFGDEVMLB) コマンド、CFGDEVMLB の構文図
配布サービス構成 (CFGDSTSRV) コマンド、CFGDSTSRV の構文図
HTTP 検索構成 (CFGHTTPSCH) コマンド
PM/400 構成 (CFGPM400) コマンド、CFGPM400 の構文図
2 地点間 TCP/IP 構成 (CFGTCPPTP) コマンド、CFGTCPPTP の構文図
システム・セキュリティー構成 (CFGSYSSEC) コマンド、CFGSYSSEC の構文図
TCP/IP 構成 (FGTCP) コマンド、FGTCP の構文図
TCP/IP アプリケーション構成 (FGTCPAPP) コマンド、FGTCPAPP の構文図
TCP/IP BOOTP 構成 (FGTCPBP) コマンド、FGTCPBP の構文図
TCP/IP HTTP 構成 (FGTCPHTTP) コマンド
TCP/IP ルート・デーモン構成 (FGTCPRTD) コマンド、FGTCPRTD の構文図
TCP/IP SNMP 構成 (FGTCPSPNP) コマンド、FGTCPSPNP の構文図
CL ソース変換 (CVTCLSRC) コマンド、CVTCLSRC の構文図
日付形式変換 (CVTDAT) コマンド、CVTDAT の構文図
▶ ディレクトリー変換 (CVTDIR) コマンド、CVTDIR の構文図 ◀
文書ライブラリー・サービス名変換 (CVTDLSNAM) コマンド、CVTDLSNAM の構文図
研修の変換 (CVTEDU) コマンド、CVTEDU の構文図
IP over SNA インターフェース変換 (CVTIPSIFC) コマンド、CVTIPSIFC の構文図
IP over SNA ロケーション項目変換 (CVTIPSLOC) コマンド、CVTIPSLOC の構文図
光ディスク・バックアップ変換 (CVTOPTBKU) コマンド、CVTOPTBKU の構文図
パフォーマンス・データ変換 (CVTPFRDTA) コマンド、CVTPFRDTA の構文図
パフォーマンス・スレッド・データ変換 (CVTPFRTHD) コマンド、CVTPFRTHD の構文図
RPC ソース変換 (CVTRPCSRC) コマンド、CVTRPCSRC の構文図
RPC ソース変換 (RPCGEN) コマンド、RPCGEN の構文図



TCP/IP CL ソース変換 (CVTTCPCPL) コマンド、CVTTCPCPL の構文図
コピー (COPY) コマンド、COPY の構文図
コピー (CPY) コマンド、CPY の構文図
構成リスト・コピー (CPYCFGL) コマンド、CPYCFGL の構文図
DBCS フォント・テーブル・コピー (CPYIGCTBL) コマンド、CPYIGCTBL の構文図
配布リポジトリ・オブジェクト・コピー (CPYDSTRPSO) コマンド、CPYDSTRPSO の構文図
文書コピー (CPYDOC) コマンド、CPYDOC の構文図
ファイル・コピー (CPYF) コマンド、CPYF の構文図
ディレクトリーからのコピー (CPYFRMDIR) コマンド、CPYFRMDIR の構文図
ディスクからのコピー (CPYFRMDKT) コマンド、CPYFRMDKT の構文図
インポート・ファイルからのコピー (CPYFRMIMPF) コマンド、CPYFRMIMPF の構文図
PC 文書からのコピー (CPYFRMPCD) コマンド、CPYFRMPCD の構文図
PCF ファイルからのコピー (CPYFRMPCFF) コマンド、CPYFRMPCFF の構文図
QUERY ファイルからのコピー (CPYFRMQRYF) コマンド、CPYFRMQRYF の構文図
ストリーム・ファイルからのコピー (CPYFRMSTMF) コマンド、CPYFRMSTMF の構文図
テープからのコピー (CPYFRMTAP) コマンド、CPYFRMTAP の構文図
機能領域コピー (CPYFCNARA) コマンド、CPYFCNARA の構文図
グラフ形式コピー (CPYGPHFMT) コマンド、CPYGPHFMT の構文図
グラフ・パッケージ・コピー (CPYGPHPKG) コマンド、CPYGPHPKG の構文図
ジョブ・スケジューラーの使用によるジョブ・コピー (CPYJOBJS) コマンド、CPYJOBJS の構文図
ライブラリー・コピー (CPYLIB) コマンド、CPYLIB の構文図
BRM の使用による媒体情報コピー (CPYMEDIBRM) コマンド、CPYMEDIBRM の構文図
光ディスクのコピー (CPYOPT) コマンド、CPYOPT の構文図
パフォーマンス・データ・コピー (CPYPRDTA) コマンド、CPYPRDTA の構文図
プログラム一時修正コピー (CPYPTF) コマンド、CPYPTF の構文図
PTF カバー・レターのコピー (CPYPTFCVR) コマンド、CPYPTFCVR の構文図
▶ PTF グループ・コピー (CPYPTFGRP) コマンド、CPYPTFGRP の構文図 ◀
保管ファイルへの PTF コピー (CPYPTFSAVF) コマンド、CPYPTFSAVF の構文図
ソース・ファイル・コピー (CPYSRCF) コマンド、CPYSRCF の構文図
スプール・ファイル・コピー (CPYSPLF) コマンド、CPYSPLF の構文図
ディレクトリーへのコピー (CPYTODIR) コマンド、CPYTODIR の構文図
ディスクへのコピー (CPYTODKT) コマンド、CPYTODKT の構文図
インポート・ファイルへのコピー (CPYTOIMPF) コマンド、CPYTOIMPF の構文図
PC 文書へのコピー (CPYTOPCD) コマンド、CPYTOPCD の構文図
PCF ファイルへのコピー (CPYTOPCFF) コマンド、CPYTOPCFF の構文図
ストリーム・ファイルへのコピー (CPYTOSTMF) コマンド、CPYTOSTMF の構文図
テープへのコピー (CPYTOTAP) コマンド、CPYTOTAP の構文図
著作権 (COPYRIGHT) コマンド、COPYRIGHT の構文図
データ・ディクショナリー作成 (CRTDTADCT) コマンド、CRTDTADCT の構文図
警報テーブル作成 (CRTALRTBL) コマンド、CRTALRTBL の構文図
権限ホルダー作成 (CRTAUTHLR) コマンド、CRTAUTHLR の構文図

権限リスト作成 (CRTAUTL) コマンド、CRTAUTL の構文図
バインド・ディレクトリー作成 (CRTBNDDIR) コマンド、CRTBNDDIR の構文図
バインド制御言語プログラム作成 (CRTBNDCL) コマンド、CRTBNDCL の構文図
変更要求記述作成 (CRTCRQD) コマンド、CRTCRQD の構文図
クラス作成 (CRTCLS) コマンド、CRTCLS の構文図
サービス・クラス記述作成 (CRTCOSD) コマンド、CRTCOSD の構文図
▶ クラスター作成 (CRTCLU) コマンド、CRTCLU の構文図 ◀
▶ クラスター資源グループ作成 (CRTCRG) コマンド、CRTCRG の構文図 ◀
コマンド作成 (CRTCMD) コマンド、CRTCMD の構文図
通信サイド情報作成 (CRTCSI) コマンド、CRTCSI の構文図
構成リスト作成 (CRTCFGL) コマンド、CRTCFGL の構文図
接続リスト作成 (CRTCNL) コマンド、CRTCNL の構文図
制御言語モジュール作成 (CRTCLMOD) コマンド、CRTCLMOD の構文図
制御言語 (CL) プログラム作成 (CRTCLPGM) コマンド、CRTCLPGM の構文図
APPC 制御装置記述作成 (CRTCLAPPC) コマンド、CRTCLAPPC の構文図
非同期制御装置記述作成 (CRTCLASC) コマンド、CRTCLASC の構文図
BSC 制御装置記述作成 (CRTCLBSC) コマンド、CRTCLBSC の構文図
金融機関制御装置記述作成 (CRTCLFNC) コマンド、CRTCLFNC の構文図
ローカル・ワークステーション制御装置記述作成 (CRTCLLWS) コマンド、CRTCLLWS の構文図
ネットワーク制御装置記述作成 (CRTCLNET) コマンド、CRTCLNET の構文図
リモート・ワークステーション制御装置記述作成 (CRTCLRWS) コマンド、CRTCLRWS の構文図
小売業制御装置記述作成 (CRTCLRTL) コマンド、CRTCLRTL の構文図
SNA ホスト制御装置記述作成 (CRTCLHOST) コマンド、CRTCLHOST の構文図
テープ制御装置記述作成 (CRTCLTAP) コマンド、CRTCLTAP の構文図
仮想ワークステーション制御装置記述作成 (CRTCLVWS) コマンド、CRTCLVWS の構文図
データ域作成 (CRTDTAARA) コマンド、CRTDTAARA の構文図
データ待ち行列作成 (CRTDTAQ) コマンド、CRTDTAQ の構文図
DBCS 変換ディクショナリー作成 (CRTIGCDCT) コマンド、CRTIGCDCT の構文図
APPC 装置記述作成 (CRTDEVAPPC) コマンド、CRTDEVAPPC の構文図
ASP 装置記述作成 (CRTDEVASP) コマンド、CRTDEVASP の構文図
非同期装置記述作成 (CRTDEVASC) コマンド、CRTDEVASC の構文図
BSC 装置記述作成 (CRTDEVBSC) コマンド、CRTDEVBSC の構文図
暗号装置記述作成 (CRTDEVCRP) コマンド、CRTDEVCRP の構文図
ディスク装置記述作成 (CRTDEVDKT) コマンド、CRTDEVDKT の構文図
表示装置記述作成 (CRTDEVDSP) コマンド、CRTDEVDSP の構文図
金融機関装置記述作成 (CRTDEVFNC) コマンド、CRTDEVFNC の構文図
システム内通信装置記述作成 (CRTDEVINTR) コマンド、CRTDEVINTR の構文図
媒体ライブラリー装置記述作成 (CRTDEVMLB) コマンド、CRTDEVMLB の構文図
ネットワーク装置記述作成 (CRTDEVNET) コマンド、CRTDEVNET の構文図
光ディスク装置記述作成 (CRTDEVOPT) コマンド、CRTDEVOPT の構文図
印刷装置記述作成 (CRTDEVPRT) コマンド、CRTDEVPRT の構文図

小売業装置記述作成 (CRTDEVRTL) コマンド、CRTDEVRTL の構文図
SNA ホスト装置記述作成 (CRTDEVHOST) コマンド、CRTDEVHOST の構文図
SNA パススルー装置記述作成 (CRTDEVSNTPT) コマンド、CRTDEVSNTPT の構文図
SNUF 装置記述作成 (CRTDEVSNUF) コマンド、CRTDEVSNUF の構文図
テープ装置記述作成 (CRTDEVTAP) コマンド、CRTDEVTAP の構文図
ディレクトリー作成 (CRTDIR) コマンド、CRTDIR の構文図
ディレクトリー作成 (MD) コマンド、MD の構文図
ディレクトリー作成 (MKDIR) コマンド、MKDIR の構文図
ディスク装置ファイル作成 (CRTDKTF) コマンド、CRTDKTF の構文図
表示装置ファイル作成 (CRTDSPF) コマンド、CRTDSPF の構文図
分散データ管理 (DDM) ファイル作成 (CRTDDMF) コマンド、CRTDDMF の構文図
配布リスト作成 (CRTDSTL) コマンド、CRTDSTL の構文図
文書作成 (CRTDOC) コマンド、CRTDOC の構文図
複製オブジェクト作成 (CRTDUPOBJ) コマンド、CRTDUPOBJ の構文図
編集記述作成 (CRTEDTD) コマンド、CRTEDTD の構文図
フィルター作成 (CRTFTR) コマンド、CRTFTR の構文図
フォルダー作成 (CRTFLR) コマンド、CRTFLR の構文図
フォント資源作成 (CRTFNTRSC) コマンド、CRTFNTRSC の構文図
フォント・テーブルの作成 (CRTFNNTBL) コマンド、CRTFNNTBL の構文図
用紙定義作成 (CRTFORMDF) コマンド、CRTFORMDF の構文図
機能領域作成 (CRTFCNARA) コマンド、CRTFCNARA の構文図
グラフ形式作成 (CRTGPHFMT) コマンド、CRTGPHFMT の構文図
グラフ・パッケージ作成 (CRTGPHPKG) コマンド、CRTGPHPKG の構文図
グラフィック記号セット作成 (CRTGSS) コマンド、CRTGSS の構文図
ヒストリー・データ作成 (CRTHSTDTA) コマンド、CRTHSTDTA の構文図
▶▶ イメージ・カタログ作成 (CRTIMGCLG) コマンド、CRTIMGCLG の構文図 ◀◀
ICF ファイル作成 (CRTICFF) コマンド、CRTICFF の構文図
Java プログラム作成 (CRTJVAPGM) コマンド、CRTJVAPGM の構文図
ジョブ記述作成 (CRTJOB) コマンド、CRTJOB の構文図
ジョブ待ち行列作成 (CRTJOBQ) コマンド、CRTJOBQ の構文図
ジャーナル作成 (CRTJRN) コマンド、CRTJRN の構文図
ジャーナル・レシーバー作成 (CRTJRNRCV) コマンド、CRTJRNRCV の構文図
ライブラリー作成 (CRTLIB) コマンド、CRTLIB の構文図
非同期回線記述作成 (CRTLINASC) コマンド、CRTLINASC の構文図
BSC 回線記述作成 (CRTLINBSC) コマンド、CRTLINBSC の構文図
DDI ネットワーク回線記述作成 (CRTLINDDI) コマンド、CRTLINDDI の構文図
イーサネット回線記述作成 (CRTLINETH) コマンド、CRTLINETH の構文図
FAX 回線記述作成 (CRTLINFAX) コマンド、CRTLINFAX の構文図
フレーム・リレー・ネットワーク回線記述作成 (CRTLINFR) コマンド、CRTLINFR の構文図
IDLC 回線記述作成 (CRTLINIDLC) コマンド、CRTLINIDLC の構文図
ネットワーク回線記述作成 (CRTLINNET) コマンド、CRTLINNET の構文図

PPP 回線記述作成 (CRTLINPPP) コマンド、CRTLINPPP の構文図
SDLC 回線記述作成 (CRTLINS DLC) コマンド、CRTLINS DLC の構文図
TDLC 回線記述作成 (CRTLINTDLC) コマンド、CRTLINTDLC の構文図
トークンリング・ネットワーク回線記述作成 (CRTLINTRN) コマンド、CRTLINTRN の構文図
無回線記述作成 (CRTLINWLS) コマンド、CRTLINWLS の構文図
X.25 回線記述作成 (CRTLINX25) コマンド、CRTLINX25 の構文図
ロケール作成 (CRTLOCALE) コマンド、CRTLOCALE の構文図
論理ファイル作成 (CRTLF) コマンド、CRTLF の構文図
メニュー作成 (CRTMNU) コマンド、CRTMNU の構文図
メッセージ・ファイル作成 (CRTMSGF) コマンド、CRTMSGF の構文図
メッセージ・ファイル・メニュー作成 (CRTMSGFMNU) コマンド、CRTMSGFMNU の構文図
メッセージ待ち行列作成 (CRTMSGQ) コマンド、CRTMSGQ の構文図
モード記述作成 (CRTMODD) コマンド、CRTMODD の構文図
NetBIOS 記述作成 (CRTNTBD) コマンド、CRTNTBD の構文図
NetWare ボリューム作成 (CRTNTWVOL) コマンド、CRTNTWVOL の構文図
ATM ネットワーク用ネットワーク・インターフェース作成 (CRTNWIATM) コマンド、CRTNWIATM の構文図
フレーム・リレー・ネットワーク用ネットワーク・インターフェース作成 (CRTNWIFR) コマンド、CRTNWIFR の構文図
ISDN ネットワーク・インターフェース記述作成 (CRTNWIISDN) コマンド、CRTNWIISDN の構文図
ネットワーク・サーバー記述作成 (CRTNWS D) コマンド、CRTNWS D の構文図
ネットワーク・サーバー記憶域作成 (CRTNWSSTG) コマンド、CRTNWSSTG の構文図
ノード・グループ作成 (CRTNODGRP) コマンド、CRTNODGRP の構文図
ノード・リスト作成 (CRTNODL) コマンド、CRTNODL の構文図
出力待ち行列作成 (CRTOUTQ) コマンド、CRTOUTQ の構文図
オーバーレイ作成 (CRTOVL) コマンド、CRTOVL の構文図
ページ定義作成 (CRTPAGDFN) コマンド、CRTPAGDFN の構文図
ページ・セグメント作成 (CRTPAGSEG) コマンド、CRTPAGSEG の構文図
パネル・グループ作成 (CRTPNLGRP) コマンド、CRTPNLGRP の構文図
パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンド、CRTPFRDTA の構文図
▶ Performance Explorer データ作成 (CRTPEXDTA) コマンド、CRTPEXDTA の構文図 ◀
物理ファイル作成 (CRTPF) コマンド、CRTPF の構文図
印刷記述子グループ作成 (CRTPDG) コマンド、CRTPDG の構文図
印刷サービス機能構成の作成 (CRTPSFCFG) コマンド、CRTPSFCFG の構文図
印刷装置ファイル作成 (CRTPRTF) コマンド、CRTPRTF の構文図
プロダクト定義作成 (CRTPRDDFN) コマンド、CRTPRDDFN の構文図
プロダクト・ロード作成 (CRTPRDLOD) コマンド、CRTPRDLOD の構文図
プログラム (CRTPGM) コマンド、CRTPGM の構文図
プログラム一時修正作成 (CRTPTF) コマンド、CRTPTF の構文図
プログラム一時修正パッケージ作成 (CRTPTFPKG) コマンド、CRTPTFPKG の構文図
QUERY 管理機能書式作成 (CRTQMFORM) コマンド、CRTQMFORM の構文図
QUERY 管理機能プログラム作成 (CRTQMQR Y) コマンド、CRTQMQR Y の構文図
質問回答データベース作成 (CRTQSTDB) コマンド、CRTQSTDB の構文図

	質問回答ロード作成 (CRTQSTLOD) コマンド、CRTQSTLOD の構文図
	保管ファイル作成 (CRTSAVF) コマンド、CRTSAVF の構文図
	検索見出し作成 (CRTSCHIDX) コマンド、CRTSCHIDX の構文図
	サービス・プログラム作成 (CRTSRVPGM) コマンド、CRTSRVPGM の構文図
	ソース物理ファイル作成 (CRTSRCPF) コマンド、CRTSRCPF の構文図
	スペル援助ディクショナリー作成 (CRTSPADCT) コマンド、CRTSPADCT の構文図
	構造化照会言語パッケージ作成 (CRTSQLPKG) コマンド、CRTSQLPKG の構文図
	サブシステム記述作成 (CRTSBSD) コマンド、CRTSBSD の構文図
	システム /36 表示装置ファイル作成 (CRTS36DSPF) コマンド、CRTS36DSPF の構文図
	システム /36 メニュー作成 (CRTS36MNU) コマンド、CRTS36MNU の構文図
	システム /36 メッセージ・ファイル作成 (CRTS36MSGF) コマンド、CRTS36MSGF の構文図
	テーブル作成 (CRTTBL) コマンド、CRTTBL の構文図
	テーブル・カテゴリー作成 (CRTTAPCGY) コマンド、CRTTAPCGY の構文図
	テーブル装置ファイル作成 (CRTTAPF) コマンド、CRTTAPF の構文図
	ユーザー・プロファイル作成 (CRTUSRPRF) コマンド、CRTUSRPRF の構文図
	ユーザー定義ファイル・システムの作成 (CRTUDFS) コマンド、CRTUDFS の構文図
	妥当性検査リスト作成 (CRTVLDL) コマンド、CRTVLDL の構文図
	ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト作成 (CRTWSCST) コマンド、CRTWSCST の構文図
D	トップに戻る
	データ (DATA) コマンド、DATA の構文図
	オブジェクト割り振り解除 (DLCOBJ) コマンド、DLCOBJ の構文図
	CL 変数宣言 (DCL) コマンド、DCL の構文図
	ファイル宣言 (DCLF) コマンド、DCLF の構文図
	オブジェクト圧縮解除 (DCPOBJ) コマンド、DCPOBJ の構文図
	ジョブ延期 (DLYJOB) コマンド、DLYJOB の構文図
	警報解除 (DLTALR) コマンド、DLTALR の構文図
	警報テーブル削除 (DLTALRTBL) コマンド、DLTALRTBL の構文図
	APAR データ削除 (DLTAPARDTA) コマンド、DLTAPARDTA の構文図
	権限ホルダー削除 (DLTAUTHLR) コマンド、DLTAUTHLR の構文図
	権限リスト削除 (DLTAUTL) コマンド、DLTAUTL の構文図
	バインド・ディレクトリー削除 (DLTBNDDIR) コマンド、DLTBNDDIR の構文図
	変更要求記述削除 (DLTCRQD) コマンド、DLTCRQD の構文図
	クラス削除 (DLTCLS) コマンド、DLTCLS の構文図
	サービス・クラス記述削除 (DLTCOSD) コマンド、DLTCOSD の構文図
	▶▶ クラスター削除 (DLTCLU) コマンド、DLTCLU の構文図 ◀◀
	クラスター資源グループ削除 (DLTCRG) コマンド、DLTCRG の構文図
	▶▶ クラスターからのクラスター資源グループ削除 (DLTCRGCLU) コマンド、DLTCRGCLU の構文図 ◀◀
	コマンド削除 (DLTCMD) コマンド、DLTCMD の構文図
	通信サイド情報削除 (DLTCSI) コマンド、DLTCSI の構文図
	通信追跡削除 (DLTCMNTRC) コマンド、DLTCMNTRC の構文図
	構成リスト削除 (DLTCFGL) コマンド、DLTCFGL の構文図

接続リスト削除 (DLTCNNL) コマンド、DLTCNNL の構文図
制御装置記述削除 (DLTCTLD) コマンド、DLTCTLD の構文図
データ域削除 (DLTDTAARA) コマンド、DLTDTAARA の構文図
データ・ディクショナリー削除 (DLTDTADCT) コマンド、DLTDTADCT の構文図
データ待ち行列削除 (DLTDTAQ) コマンド、DLTDTAQ の構文図
DBCS 変換ディクショナリー削除 (DLTIGCDCT) コマンド、DLTIGCDCT の構文図
DBCS フォント・テーブル削除 (DLTIGCTBL) コマンド、DLTIGCTBL の構文図
装置記述削除 (DLTDEVD) コマンド、DLTDEVD の構文図
ディスク・ラベル削除 (DLTDKTLBL) コマンド、DLTDKTLBL の構文図
配布削除 (DLTDST) コマンド、DLTDST の構文図
配布リスト削除 (DLTDSTL) コマンド、DLTDSTL の構文図
文書ライブラリー・オブジェクト削除 (DLTDLO) コマンド、DLTDLO の構文図
文書リスト削除 (DLTDOCL) コマンド、DLTDOCL の構文図
編集記述削除 (DLTEDTD) コマンド、DLTEDTD の構文図
ファイル削除 (DLTF) コマンド、DLTF の構文図
フィルター削除 (DLTFTR) コマンド、DLTFTR の構文図
ファイアウォール・ログ削除 (DLFRWLOG) コマンド、DLFRWLOG の構文図
フォント資源削除 (DLTFNTRSC) コマンド、DLTFNTRSC の構文図
フォント・テーブル削除 (DLFNTTBL) コマンド、DLFNTTBL の構文図
用紙定義削除 (DLTFORMDF) コマンド、DLTFORMDF の構文図
機能領域削除 (DLTFCNARA) コマンド、DLTFCNARA の構文図
グラフ形式削除 (DLTGPHFMT) コマンド、DLTGPHFMT の構文図
グラフ・パッケージ削除 (DLTGPHPKG) コマンド、DLTGPHPKG の構文図
グラフィック記号セット削除 (DLTGSS) コマンド、DLTGSS の構文図
履歴・データ削除 (DLTHSTDTA) コマンド、DLTHSTDTA の構文図
 イメージ・カタログ削除 (DLTIMGCLG) コマンド、DLTIMGCLG の構文図 
IPX 記述削除 (DLTIPXD) コマンド、DLTIPXD の構文図
Java プログラム削除 (DLTJVAPGM) コマンド、DLTJVAPGM の構文図
ジョブ記述削除 (DLTJOB) コマンド、DLTJOB の構文図
ジョブ待ち行列削除 (DLTJOBQ) コマンド、DLTJOBQ の構文図
ジャーナル削除 (DLTJRN) コマンド、DLTJRN の構文図
ジャーナル・レシーバー削除 (DLTJRNRCV) コマンド、DLTJRNRCV の構文図
ライブラリー削除 (DLTLIB) コマンド、DLTLIB の構文図
ライセンス・プログラム削除 (DLTLICPGM) コマンド、DLTLICPGM の構文図
回線記述削除 (DLTLIND) コマンド、DLTLIND の構文図
ロケール削除 (DLTLOCALE) コマンド、DLTLOCALE の構文図
媒体定義削除 (DLTMEDDFN) コマンド、DLTMEDDFN の構文図
管理収集削除 (DLTMGTCOL) コマンド、DLTMGTCOL の構文図
メニュー削除 (DLTMNU) コマンド、DLTMNU の構文図
メッセージ・ファイル削除 (DLTMSGF) コマンド、DLTMSGF の構文図
メッセージ待ち行列削除 (DLTMSGQ) コマンド、DLTMSGQ の構文図

モード記述削除 (DLTMODD) コマンド、DLTMODD の構文図
モジュール削除 (DLTMOD) コマンド、DLTMOD の構文図
NetBIOS 記述削除 (DLTNTBD) コマンド、DLTNTBD の構文図
ネットワーク・ファイル削除 (DLTNETF) コマンド、DLTNETF の構文図
ネットワーク・インターフェース記述削除 (DLTNWID) コマンド、DLTNWID の構文図
ネットワーク・サーバー記述削除 (DLTNWSD) コマンド、DLTNWSD の構文図
ネットワーク・サーバー記憶域削除 (DLTNWSSTG) コマンド、DLTNWSSTG の構文図
ノード・グループの削除 (DLTNODGRP) コマンド、DLTNODGRP の構文図
ノード・リスト削除 (DLTNODL) コマンド、DLTNODL の構文図
出力待ち行列削除 (DLTOUTQ) コマンド、DLTOUTQ の構文図
オーバーレイ削除 (DLTOVL) コマンド、DLTOVL の構文図
一時変更削除 (DLTOVR) コマンド、DLTOVR の構文図
装置項目一時変更削除 (DLTOVRDEVE) コマンド、DLTOVRDEVE の構文図
ページ定義削除 (DLTPAGDFN) コマンド、DLTPAGDFN の構文図
ページ・セグメント削除 (DLTPAGSEG) コマンド、DLTPAGSEG の構文図
パネル・グループ削除 (DLTPNLGRP) コマンド、DLTPNLGRP の構文図
パフォーマンス・データ削除 (DLTPFRDTA) コマンド、DLTPFRDTA の構文図
Performance Explorer データの削除 (DLTPEXDTA) コマンド、DLTPEXDTA の構文図
印刷記述子グループ削除 (DLTPDG) コマンド、DLTPDG の構文図
印刷サービス機能構成削除 (DLTPSFCFG) コマンド、DLTPSFCFG の構文図
問題削除 (DLTPRB) コマンド、DLTPRB の構文図
プロダクト定義削除 (DLTPRDDFN) コマンド、DLTPRDDFN の構文図
プロダクト・ロード削除 (DLTPRDLOD) コマンド、DLTPRDLOD の構文図
プログラム削除 (DLTPGM) コマンド、DLTPGM の構文図
PTF 削除 (DLTPTF) コマンド、DLTPTF の構文図
QUERY 削除 (DLTQRY) コマンド、DLTQRY の構文図
QUERY 管理機能書式削除 (DLTQMFORM) コマンド、DLTQMFORM の構文図
QUERY 管理機能プログラム削除 (DLTQMORY) コマンド、DLTQMORY の構文図
質問削除 (DLTQST) コマンド、DLTQST の構文図
質問回答データベース削除 (DLTQSTDB) コマンド、DLTQSTDB の構文図
リモート・プログラム一時修正削除 (DLTRMTPTF) コマンド、DLTRMTPTF の構文図
検索見出し削除 (DLTSCHIDX) コマンド、DLTSCHIDX の構文図
サービス・プログラム削除 (DLTSRVPGM) コマンド、DLTSRVPGM の構文図
スペル援助ディクショナリー削除 (DLTSPADCT) コマンド、DLTSPADCT の構文図
スプール・ファイル削除 (DLTSPLF) コマンド、DLTSPLF の構文図
構造化照会言語パッケージ削除 (DLTSQLPKG) コマンド、DLTSQLPKG の構文図
投入変更要求削除 (DLTSBMCRQ) コマンド、DLTSBMCRQ の構文図
サブシステム記述削除 (DLTSBSD) コマンド、DLTSBSD の構文図
System Manager オブジェクト削除 (DLTSMGOBJ) コマンド、DLTSMGOBJ の構文図
テーブル削除 (DLTTBL) コマンド、DLTTBL の構文図
テーブル・カテゴリー削除 (DLTTAPCGY) コマンド、DLTTAPCGY の構文図
追跡データ削除 (DLTTRC) コマンド、DLTTRC の構文図

ユーザー見出し削除 (DLTUSRIDX) コマンド、DLTUSRIDX の構文図
ユーザー・プロファイル削除 (DLTUSRPRF) コマンド、DLTUSRPRF の構文図
ユーザー待ち行列削除 (DLTUSRQ) コマンド、DLTUSRQ の構文図
ユーザー・スペース削除 (DLTUSRSPC) コマンド、DLTUSRSPC の構文図
ユーザー追跡バッファ削除 (DLTUSRTRC) コマンド、DLTUSRTRC の構文図
ユーザー定義ファイル・システム削除 (DLTUDFS) コマンド、DLTUDFS の構文図
妥当性検査リスト削除 (DLTVLDL) コマンド、DLTVLDL の構文図
ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト削除 (DLTWSCST) コマンド、DLTWSCST の構文図
ジョブ切り離し (DSCJOB) コマンド、DSCJOB の構文図
アクセス・コード表示 (DSPACC) コマンド、DSPACC の構文図
アクセス・コード権限表示 (DSPACCAUT) コマンド、DSPACCAUT の構文図
アクセス・グループ表示 (DSPACCGRP) コマンド、DSPACCGRP の構文図
活動化スケジュール表示 (DSPACTSCD) コマンド、DSPACTSCD の構文図
活動事前開始ジョブ表示 (DSPACTPJ) コマンド、DSPACTPJ の構文図
活動プロファイル・リスト表示 (DSPACTPRFL) コマンド、DSPACTPRFL の構文図
APPN 情報表示 (DSPAPPNINF) コマンド、DSPAPPNINF の構文図
ASP 情報表示 (DSPASBRM) コマンド、DSPASBRM の構文図
監査ジャーナル項目表示 (DSPAUDJRNE) コマンド、DSPAUDJRNE の構文図
権限表示 (DSPAUT) コマンド、DSPAUT の構文図
権限ホルダー表示 (DSPAUTHLR) コマンド、DSPAUTHLR の構文図
権限リスト表示 (DSPAUTL) コマンド、DSPAUTL の構文図
権限リスト文書ライブラリー・オブジェクト表示 (DSPAUTLDLO) コマンド、DSPAUTLDLO の構文図
権限リスト・オブジェクト表示 (DSPAUTLOBJ) コマンド、DSPAUTLOBJ の構文図
認可ユーザー表示 (DSPAUTUSR) コマンド、DSPAUTUSR の構文図
バックアップ・リスト表示 (DSPBCKUPL) コマンド、DSPBCKUPL の構文図
バックアップ・オプション表示 (DSPBCKUP) コマンド、DSPBCKUP の構文図
BRM の使用によるバックアップ計画表示 (DSPBKUBRM) コマンド、DSPBKUBRM の構文図
バックアップ状況表示 (DSPBCKSTS) コマンド、DSPBCKSTS の構文図
バインド・ディレクトリー表示 (DSPBNDDIR) コマンド、DSPBNDDIR の構文図
停止点表示 (DSPBKP) コマンド、DSPBKP の構文図
変更制御サーバー属性表示 (DSPCCSA) コマンド、DSPCCSA の構文図
検査保留制約表示 (DSPCPCST) コマンド、DSPCPCST の構文図
クラス表示 (DSPCLS) コマンド、DSPCLS の構文図
サービス・クラス記述表示 (DSPCOSD) コマンド、DSPCOSD の構文図
▶▶ クラスタ情報表示 (DSPCLUINF) コマンド、DSPCLUINF の構文図 ◀◀
▶▶ クラスタ資源グループ情報表示 (DSPCRGINF) コマンド、DSPCRGINF の構文図 ◀◀
コード化フォント表示 (DSPCDEFNT) コマンド、DSPCDEFNT の構文図
コマンド表示 (DSPCMD) コマンド、DSPCMD の構文図
通信サイド情報表示 (DSPCSI) コマンド、DSPCSI の構文図
構成リスト表示 (DSPCFGL) コマンド、DSPCFGL の構文図
接続リスト表示 (DSPCNNL) コマンド、DSPCNNL の構文図

接続状況表示 (DSPCANNSTS) コマンド、DSPCANNSTS の構文図
制御装置記述表示 (DSPCTLD) コマンド、DSPCTLD の構文図
現行ディレクトリー表示 (DSPCURDIR) コマンド、DSPCURDIR の構文図
データ域表示 (DSPDATAARA) コマンド、DSPDATAARA の構文図
データ・ディクショナリー表示 (DSPDTADCT) コマンド、DSPDTADCT の構文図
データベース関連表示 (DSPDBR) コマンド、DSPDBR の構文図
DBCS 変換ディクショナリー表示 (DSPIGCDCT) コマンド、DSPIGCDCT の構文図
デバッグ表示 (DSPDBG) コマンド、DSPDBG の構文図
デバッグ監視の表示 (DSPDBGWCH) コマンド、DSPDBGWCH の構文図
装置記述表示 (DSPDEVD) コマンド、DSPDEVD の構文図
ディレクトリー項目表示 (DSPDIRE) コマンド、DSPDIRE の構文図
ディスク表示 (DSPDKT) コマンド、DSPDKT の構文図
分散データ管理ファイル表示 (DSPDDMF) コマンド、DSPDDMF の構文図
配布カタログ項目表示 (DSPDSTCLGE) コマンド、DSPDSTCLGE の構文図
配布リスト表示 (DSPDSTL) コマンド、DSPDSTL の構文図
配布ログ表示 (DSPDSTLOG) コマンド、DSPDSTLOG の構文図
配布サービス表示 (DSPDSTSRV) コマンド、DSPDSTSRV の構文図
文書表示 (DSPDOC) コマンド、DSPDOC の構文図
文書ライブラリー・オブジェクト監査表示 (DSPDLOAUD) コマンド、DSPDLOAUD の構文図
文書ライブラリー・オブジェクト権限表示 (DSPDLOAUT) コマンド、DSPDLOAUT の構文図
文書ライブラリー・オブジェクト名表示 (DSPDLONAM) コマンド、DSPDLONAM の構文図
重複媒体表示 (DSPDUPBRM) コマンド、DSPDUPBRM の構文図
編集記述表示 (DSPEDTD) コマンド、DSPEDTD の構文図
満了スケジュール表示 (DSPEXPSCD) コマンド、DSPEXPSCD の構文図
拡張無線制御装置バーコード項目表示 (DSPEWCBCDE) コマンド、DSPEWCBCDE の構文図
拡張無線制御装置メンバー表示 (DSPEWCM) コマンド、DSPEWCM の構文図
拡張無線制御装置 PTC 項目表示 (DSPEWCPTCE) コマンド、DSPEWCPTCE の構文図
拡張無線回線メンバー表示 (DSPEWLM) コマンド、DSPEWLM の構文図
ファイル表示 (DSPF) コマンド、DSPF の構文図
ファイル記述表示 (DSPFD) コマンド、DSPFD の構文図
ファイル・フィールド記述表示 (DSPFFD) コマンド、DSPFFD の構文図
フォルダー表示 (DSPFLR) コマンド、DSPFLR の構文図
フォント資源属性表示 (DSPFNTRSCA) コマンド、DSPFNTRSCA の構文図
フォント・テーブル表示 (DSPFNTTBL) コマンド、DSPFNTTBL の構文図
ハードウェア資源表示 (DSPHDWRSC) コマンド、DSPHDWRSC の構文図
ヘルプ文書表示 (DSPHLPDOC) コマンド、DSPHLPDOC の構文図
階層ファイル・システム表示 (DSPHFS) コマンド、DSPHFS の構文図
ヒストリー・グラフ表示 (DSPHSTGPH) コマンド、DSPHSTGPH の構文図
ジョブ・スケジューラーの使用によるヒストリー表示 (DSPHSTJS) コマンド、DSPHSTJS の構文図
IPL 属性表示 (DSPIPLA) コマンド、DSPIPLA の構文図
IPX 記述表示 (DSPIPXD) コマンド、DSPIPXD の構文図
Java プログラム表示 (DSPJVAPGM) コマンド、DSPJVAPGM の構文図



ジョブ表示 (DSPJOB) コマンド、DSPJOB の構文図
ジョブ記述表示 (DSPJOBBD) コマンド、DSPJOBBD の構文図
ジョブ・ログ表示 (DSPJOBLOG) コマンド、DSPJOBLOG の構文図
ジョブ・テーブル表示 (DSPJOBTBL) コマンド、DSPJOBTBL の構文図
ジョブ・スケジューラーの使用によるジョブ表示 (DSPJOBJS) コマンド、DSPJOBJS の構文図
ジャーナル表示 (DSPJRN) コマンド、DSPJRN の構文図
ジャーナル・レシーバー属性表示 (DSPJRNRCVA) コマンド、DSPJRNRCVA の構文図
キーボード・マップ表示 (DSPKBDMAP) コマンド、DSPKBDMAP の構文図
LAN 媒体ライブラリー表示 (DSPLANMLB) コマンド、DSPLANMLB の構文図
ライブラリー表示 (DSPLIB) コマンド、DSPLIB の構文図
ライブラリー記述表示 (DSPLIBD) コマンド、DSPLIBD の構文図
ライブラリー・リスト表示 (DSPLIBL) コマンド、DSPLIBL の構文図
ライセンス・キー情報表示 (DSPLICKEY) コマンド、DSPLICKEY の構文図
回線記述表示 (DSPLIND) コマンド、DSPLIND の構文図
ローカル・エリア・ネットワーク・アダプター・プロファイル表示 (DSPLANADPP) コマンド、DSPLANADPP の構文図
ローカル・エリア・ネットワーク状況表示 (DSPLANSTS) コマンド、DSPLANSTS の構文図
ログ表示 (DSPLOG) コマンド、DSPLOG の構文図
BRM のログ表示 (DSPLOGBRM) コマンド、DSPLOGBRM の構文図
ジョブ・スケジューラーのログ表示 (DSPLOGJS) コマンド、DSPLOGJS の構文図
Managed System 属性表示 (DSPMGDSYSA) コマンド、DSPMGDSYSA の構文図
メニュー属性表示 (DSPMNUA) コマンド、DSPMNUA の構文図
メッセージ記述表示 (DSPMSGD) コマンド、DSPMSGD の構文図
メッセージ表示 (DSPMSG) コマンド、DSPMSG の構文図
モード記述表示 (DSPMODD) コマンド、DSPMODD の構文図
モード状況表示 (DSPMODSTS) コマンド、DSPMODSTS の構文図
モジュール表示 (DSPMOD) コマンド、DSPMOD の構文図
モジュール・ソース表示 (DSPMODSRC) コマンド、DSPMODSRC の構文図
装てんファイル・システム情報表示 (DSPMFSINF) コマンド、DSPMFSINF の構文図
装てんファイル・システム情報表示 (STATFS) コマンド、STATFS の構文図
NetBIOS 記述表示 (DSPNTBD) コマンド、DSPNTBD の構文図
ネットワーク属性表示 (DSPNETA) コマンド、DSPNETA の構文図
ネットワーク・インターフェース記述表示 (DSPNWID) コマンド、DSPNWID の構文図
ネットワーク・サーバー属性表示 (DSPNWSA) コマンド、DSPNWSA の構文図
ネットワーク・サーバー記述表示 (DSPNWS D) コマンド、DSPNWS D の構文図
ネットワーク・サーバー記憶域表示 (DSPNWSSTG) コマンド、DSPNWSSTG の構文図
ネットワーク・サーバー・ユーザー属性表示 (DSPNWSUSRA) コマンド、DSPNWSUSRA の構文図
ネットワーク・サーバー・ユーザー表示 (DSPNWSUSR) コマンド、DSPNWSUSR の構文図
ニックネーム表示 (DSPNCK) コマンド、DSPNCK の構文図
ノード・グループの表示 (DSPNODGRP) コマンド、DSPNODGRP の構文図
オブジェクト権限表示 (DSPOBJAUT) コマンド、DSPOBJAUT の構文図
オブジェクト記述表示 (DSPOBJD) コマンド、DSPOBJD の構文図

オブジェクト・リンク表示 (DSPLNK) コマンド、DSPLNK の構文図
光ディスク表示 (DSPOPT) コマンド、DSPOPT の構文図
光ディスク・ロック表示 (DSPOPTLCK) コマンド、DSPOPTLCK の構文図
光ディスク・サーバー表示 (DSPOPTSVR) コマンド、DSPOPTSVR の構文図
OptiConnect リンク状況表示 (DSPOPCLNK) コマンド、DSPOPCLNK の構文図
一時変更表示 (DSPOVR) コマンド、DSPOVR の構文図
パフォーマンス・データ表示 (DSPPFRTDA) コマンド、DSPPFRTDA の構文図
パフォーマンス・グラフ表示 (DSPPFGRPH) コマンド、DSPPFGRPH の構文図
物理ファイル・メンバー表示 (DSPPFM) コマンド、DSPPFM の構文図
電源オン / オフ・スケジュール表示 (DSPPWSCD) コマンド、DSPPWSCD の構文図
印刷記述子グループ・プロファイル表示 (DSPPDGPRF) コマンド、DSPPDGPRF の構文図
印刷サービス機能構成の表示 (DSPSF CFG) コマンド、DSPSF CFG の構文図
問題表示 (DSPPRB) コマンド、DSPPRB の構文図
プログラム表示 (DSPPGM) コマンド、DSPPGM の構文図
プログラム参照表示 (DSPPGMREF) コマンド、DSPPGMREF の構文図
プログラム一時修正表示 (DSPPTF) コマンド、DSPPTF の構文図
プログラム変数表示 (DSPPGMVAR) コマンド、DSPPGMVAR の構文図
プログラム借用状況表示 (DSPPGMADP) コマンド、DSPPGMADP の構文図
PTF カバー・レター表示 (DSPPTFCVR) コマンド、DSPPTFCVR の構文図
受信済みコマンド表示 (DSPRCVCMD) コマンド、DSPRCVCMD の構文図
レコード・ロック表示 (DSPRDLCK) コマンド、DSPRDLCK の構文図
アクセス・パスの回復表示 (DSPRCYAP) コマンド、DSPRCYAP の構文図
リレーショナル・データベース・ディレクトリー項目表示 (DSPRBDIRE) コマンド、DSPRBDIRE の構文図
リモート定義表示 (DSPRMTDFN) コマンド、DSPRMTDFN の構文図
保管ファイル表示 (DSPSAVF) コマンド、DSPSAVF の構文図
セキュリティ属性の表示 (DSPSECA) コマンド、DSPSECA の構文図
セキュリティ監査値表示 (DSPSECAUD) コマンド、DSPSECAUD の構文図
▶▶ サーバー認証項目表示 (DSPSVRAUTE) コマンド、DSPSVRAUTE の構文図 ◀◀
サービス属性表示 (DSPSRVA) コマンド、DSPSRVA の構文図
サービス・プログラム表示 (DSPSRVPG) コマンド、DSPSRVPG の構文図
サービス提供元属性表示 (DSPSRVPVDA) コマンド、DSPSRVPVDA の構文図
サービス状況表示 (DSPSRVSTS) コマンド、DSPSRVSTS の構文図
ソフトウェア資源表示 (DSPSFWRSC) コマンド、DSPSFWRSC の構文図
制御範囲状況表示 (DSPSOCSTS) コマンド、DSPSOCSTS の構文図
スプール・ファイル表示 (DSPSPLF) コマンド、DSPSPLF の構文図
投入変更要求活動表示 (DSPSBMCRQA) コマンド、DSPSBMCRQA の構文図
投入変更要求メッセージ表示 (DSPSBMCRQM) コマンド、DSPSBMCRQM の構文図
投入変更要求表示 (DSPSBMCRQ) コマンド、DSPSBMCRQ の構文図
サブシステム記述表示 (DSPSBSD) コマンド、DSPSBSD の構文図
システム状況表示 (DSPSYSSTS) コマンド、DSPSYSSTS の構文図
システム値表示 (DSPSYSVAL) コマンド、DSPSYSVAL の構文図

	システム /36 表示 (DSPS36) コマンド、DSPS36 の構文図
	テープ表示 (DSPTAP) コマンド、DSPTAP の構文図
	テープ・カートリッジ表示 (DSPTAPCTG) コマンド、DSPTAPCTG の構文図
	テープ・カテゴリー表示 (DSPTAPCGY) コマンド、DSPTAPCGY の構文図
	テープ状況表示 (DSPTAPSTS) コマンド、DSPTAPSTS の構文図
	追跡表示 (DSPTRC) コマンド、DSPTRC の構文図
	追跡データ表示 (DSPTRCDTA) コマンド、DSPTRCDTA の構文図
	商標表示 (DSPTM) コマンド、DSPTM の構文図
	ユーザー許可表示 (DSPUSRPMN) コマンド、DSPUSRPMN の構文図
	ユーザー印刷情報表示 (DSPUSRPTI) コマンド、DSPUSRPTI の構文図
	ユーザー・プロフィール表示 (DSPUSRPRF) コマンド、DSPUSRPRF の構文図
	ユーザー定義ファイル・システム表示 (DSPUDFS) コマンド、DSPUDFS の構文図
	ワークステーション・ユーザー表示 (DSPWSUSR) コマンド、DSPWSUSR の構文図
	DO (DO) コマンド、DO の構文図
	ダンプ (DMP) コマンド、DMP の構文図
	BRM ダンプ (DMPBRM) コマンド、DMPBRM の構文図
	🔗 クラスタ追跡ダンプ (DMPCLUTRC) コマンド、DMPCLUTRC の構文図 🔗
	CL プログラム・ダンプ (DMPCLPGM) コマンド、DMPCLPGM の構文図
	文書ライブラリー・オブジェクト・ダンプ (DMPDLO) コマンド、DMPDLO の構文図
	Java 仮想計算機ダンプ (DMPJVM) コマンド、DMPJVM の構文図
	ジョブ・ダンプ (DMPJOB) コマンド、DMPJOB の構文図
	ジョブ内部事象ダンプ (DMPJOBINT) コマンド、DMPJOBINT の構文図
	オブジェクト・ダンプ (DMPOBJ) コマンド、DMPOBJ の構文図
	システム・オブジェクト・ダンプ (DMPSYSOBJ) コマンド、DMPSYSOBJ の構文図
	テープ・ダンプ (DMPTAP) コマンド、DMPTAP の構文図
	追跡ダンプ (DMPTRC) コマンド、DMPTRC の構文図
	ユーザー追跡バッファ・ダンプ (DMPUSRTRC) コマンド、DMPUSRTRC の構文図
	ディスク複製 (DUPDKT) コマンド、DUPDKT の構文図
	BRM の使用による媒体複製 (DUPMEDBRM) コマンド、DUPMEDBRM の構文図
	光ディスク・ボリューム複製 (DUPOPT) コマンド、DUPOPT の構文図
	テープ複製 (DUPTAP) コマンド、DUPTAP の構文図
E	トップに戻る
	権限リスト編集 (EDTAUTL) コマンド、EDTAUTL の構文図
	バックアップ・リスト編集 (EDTBCKUPL) コマンド、EDTBCKUPL の構文図
	検査保留制約編集 (EDTCPCST) コマンド、EDTCPCST の構文図
	DBCS 変換ディクショナリー編集 (EDTIGCDCT) コマンド、EDTIGCDCT の構文図
	文書編集 (EDTDOC) コマンド、EDTDOC の構文図
	文書ライブラリー・オブジェクト権限編集 (EDTDLOAU) コマンド、EDTDLOAU の構文図
	ファイル編集 (EDTF) コマンド、EDTF の構文図
	ライブラリー・リスト編集 (EDTLIBL) コマンド、EDTLIBL の構文図
	オブジェクト権限編集 (EDTOBJAUT) コマンド、EDTOBJAUT の構文図

質問回答の編集 (EDTQST) コマンド、EDTQST の構文図
アクセス・パス再作成編集 (EDTRBDAP) コマンド、EDTRBDAP の構文図
アクセス・パスの回復編集 (EDTRCYAP) コマンド、EDTRCYAP の構文図
システム /36 プロシージャ属性編集 (EDTS36PRCA) コマンド、EDTS36PRCA の構文図
システム /36 プログラム属性編集 (EDTS36PGMA) コマンド、EDTS36PGMA の構文図
システム /36 ソース属性編集 (EDTS36SRCA) コマンド、EDTS36SRCA の構文図
ワークステーション・オブジェクト権限編集 (EDTWSOAUT) コマンド、EDTWSOAUT の構文図
エミュレーション出力排出 (EJTEMLOUT) コマンド、EJTEMLOUT の構文図
ELSE (ELSE) コマンド、ELSE の構文図
印刷装置キー・エミュレート (EMLPRTKEY) コマンド、EMLPRTKEY の構文図
ASP バランス終了 (ENDASPBAL) コマンド、ENDASPBAL の構文図
バッチ・ジョブ終了 (ENDBCHJOB) コマンド、ENDBCHJOB の構文図
終結処理終了 (ENDCLNUP) コマンド、ENDCLNUP の構文図
▶ クラスタ・ノード終了 (ENDCLUNOD) コマンド、ENDCLUNOD の構文図 ◀
▶ クラスタ資源グループ終了 (ENDCRG) コマンド、ENDCRG の構文図 ◀
クラスタ化ハッシュ・テーブル・サーバー終了 (ENDCHTSVR) コマンド、ENDCHTSVR の構文図
コミットメント制御終了 (ENDCMTCTL) コマンド、ENDCMTCTL の構文図
通信サーバー終了 (ENDCMNSVR) コマンド、ENDCMNSVR の構文図
通信追跡終了 (ENDCMNTRC) コマンド、ENDCMNTRC の構文図
制御装置回復終了 (ENDCTLRCY) コマンド、ENDCTLRCY の構文図
画面コピー終了 (ENDCPYSC) コマンド、ENDCPYSC の構文図
データベース・モニター終了 (ENDDBMON) コマンド、ENDDBMON の構文図
デバッグ終了 (ENDDDBG) コマンド、ENDDDBG の構文図
デバッグ・サーバー終了 (ENDDBGSVR) コマンド、ENDDBGSVR の構文図
装置回復終了 (ENDDEVRCY) コマンド、ENDDEVRCY の構文図
ディレクトリー・シャドウ化終了 (ENDDIRSHD) コマンド、ENDDIRSHD の構文図
ディスク再編成終了 (ENDDSKRGZ) コマンド、ENDDSKRGZ の構文図
ENDDO (ENDDO) コマンド、ENDDO の構文図
グループ・ジョブ終了 (ENDGRPJOB) コマンド、ENDGRPJOB の構文図
ホスト・サーバー終了 (ENDHOSTSVR) コマンド、ENDHOSTSVR の構文図
HTTP クロール終了 (ENDHTTPCRL) コマンド
入力終了 (ENDINP) コマンド、ENDINP の構文図
IP over SNA インターフェース終了 (ENDIPSIFC) コマンド、ENDIPSIFC の構文図
ジョブ終了 (ENDJOB) コマンド、ENDJOB の構文図
ジョブ異常終了 (ENDJOBABN) コマンド、ENDJOBABN の構文図
ジョブ・スケジューラー終了 (ENDJS) コマンド、ENDJS の構文図
ジョブ追跡終了 (ENDJOBTRC) コマンド、ENDJOBTRC の構文図
ジャーナル終了 (ENDJRN) コマンド、ENDJRN の構文図
アクセス・パス・ジャーナル処理終了 (ENDJRNAP) コマンド、ENDJRNAP の構文図
オブジェクト・ジャーナル処理終了 (ENDJRNOBJ) コマンド、ENDJRNOBJ の構文図
物理ファイル・ジャーナル処理終了 (ENDJRNPF) コマンド、ENDJRNPF の構文図

	回線回復終了 (ENDLINRCY) コマンド、ENDLINRCY の構文図
	メール・サーバー・フレームワーク終了 (ENDMSF) コマンド、ENDMSF の構文図
	Managed System Services 終了 (ENDMGDSYS) コマンド、ENDMGDSYS の構文図
	マネージャー・サービス終了 (ENDMGRSRV) コマンド、ENDMGRSRV の構文図
	モード終了 (ENDMOD) コマンド、ENDMOD の構文図
	ネットワーク・ファイル・システム・サーバー終了 (ENDNFSSVR) コマンド、ENDNFSSVR の構文図
	ネットワーク・インターフェース回復終了 (ENDNWIRCY) コマンド、ENDNWIRCY の構文図
	パススルー終了 (ENDPASTHR) コマンド、ENDPASTHR の構文図
	Performance Explorer 終了 (ENDPEX) コマンド、ENDPEX の構文図
	パフォーマンス追跡終了 (ENDPFRTRC) コマンド、ENDPFRTRC の構文図
	2 地点間 TCP/IP の終了 (ENDTCPPTP) コマンド、ENDTCPPTP の構文図
	事前開始ジョブ終了 (ENDPJ) コマンド、ENDPJ の構文図
	印刷装置エミュレーション終了 (ENDPRTEML) コマンド、ENDPRTEML の構文図
	プログラム終了 (ENDPGM) コマンド、ENDPGM の構文図
	プログラム・プロファイル終了 (ENDPGMPRF) コマンド、ENDPGMPRF の構文図
	読み取りプログラム終了 (ENDRDR) コマンド、ENDRDR の構文図
	受信終了 (ENDRCV) コマンド、ENDRCV の構文図
	リモート保守サポート終了 (ENDRMTSPT) コマンド、ENDRMTSPT の構文図
	要求終了 (ENDRQS) コマンド、ENDRQS の構文図
	RPC バインド・プログラム・デーモン終了 (ENDRPCBIND) コマンド、ENDRPCBIND の構文図
	サービス・ジョブ終了 (ENDSRVJOB) コマンド、ENDSRVJOB の構文図
	投入変更要求活動終了 (ENDSBMCRQA) コマンド、ENDSBMCRQA の構文図
	サブシステム終了 (ENDSBS) コマンド、ENDSBS の構文図
	システム終了 (ENDSYS) コマンド、ENDSYS の構文図
	System Manager 終了 (ENDSYSMGR) コマンド、ENDSYSMGR の構文図
	システム /36 終了 (ENDS36) コマンド、ENDS36 の構文図
	TCP/IP 終了 (ENDTCP) コマンド、ENDTCP の構文図
	TCP/IP 異常終了 (ENDTCPABN) コマンド、ENDTCPABN の構文図
	TCP/IP 接続終了 (ENDTCPENN) コマンド、ENDTCPENN の構文図
	TCP/IP インターフェース終了 (ENDTCPIFC) コマンド、ENDTCPIFC の構文図
	TCP/IP サーバー終了 (ENDTCPSVR) コマンド、ENDTCPSVR の構文図
	技術情報交換セッション終了 (ENDTISSN) コマンド、ENDTISSN の構文図
	追跡終了 (ENDTRC) コマンド、ENDTRC の構文図
	トラップ管理機能終了 (ENDTRPMGR) コマンド、ENDTRPMGR の構文図
	Ultimedia システム機能終了 (ENDUSF) コマンド、ENDUSF の構文図
	書き出しプログラム終了 (ENDWTR) コマンド、ENDWTR の構文図
	媒体情報抽出 (EXTMEDIBRM) コマンド、EXTMEDIBRM の構文図
F	トップに戻る
	文書ファイル (FILDOC) コマンド、FILDOC の構文図
G	トップに戻る
	ライセンス・キー生成 (GENLICKY) コマンド、GENLICKY の構文図
	GOTO (GOTO) コマンド、GOTO の構文図

	メニュー表示 (GO) コマンド、GO の構文図
	アクセス・コード権限認可 (GRTACCAUT) コマンド、GRTACCAUT の構文図
	オブジェクト権限認可 (GRTOBJAUT) コマンド、GRTOBJAUT の構文図
	ユーザー権限認可 (GRTUSRAUT) コマンド、GRTUSRAUT の構文図
	ユーザー許可認可 (GRTUSRPMN) コマンド、GRTUSRPMN の構文図
	ワークステーション・オブジェクト権限認可 (GRTWSOAUT) コマンド、GRTWSOAUT の構文図
H	トップに戻る
	通信装置保留 (HLDCMNDEV) コマンド、HLDCMNDEV の構文図
	配布待ち行列保留 (HLDDSTQ) コマンド、HLDDSTQ の構文図
	ジョブ保留 (HLDJOB) コマンド、HLDJOB の構文図
	ジョブ待ち行列保留 (HLDJOBQ) コマンド、HLDJOBQ の構文図
	ジョブ・スケジュール項目保留 (HLDJOBSCDE) コマンド、HLDJOBSCDE の構文図
	ジョブ・スケジューラーの使用によるジョブ保留 (HLDJOBJS) コマンド、HLDJOBJS の構文図
	出力待ち行列保留 (HLDOUTQ) コマンド、HLDOUTQ の構文図
	プログラム一時修正保留 (HLDPTF) コマンド、HLDPTF の構文図
	読み取りプログラム保留 (HLDRDR) コマンド、HLDRDR の構文図
	スプール・ファイル保留 (HLDSPLF) コマンド、HLDSPLF の構文図
	投入変更要求活動保留 (HLDSBMCRQA) コマンド、HLDSBMCRQA の構文図
	書き出しプログラム保留 (HLDWTR) コマンド、HLDWTR の構文図
I	トップに戻る
	IF (IF) コマンド、IF の構文図
	BRMS/400 初期設定 (INZBRM) コマンド、INZBRM の構文図
	クライアント・アクセス初期設定 (INZPCS) コマンド、INZPCS の構文図
	ディスク初期設定 (INZDKT) コマンド、INZDKT の構文図
	配布待ち行列初期設定 (INZDSTQ) コマンド、INZDSTQ の構文図
	BRM の使用による媒体初期設定 (INZMEDBRM) コマンド、INZMEDBRM の構文図
	光ディスク初期設定 (INZOPT) コマンド、INZOPT の構文図
	物理ファイル・メンバー初期設定 (INZPFM) コマンド、INZPFM の構文図
	システム初期設定 (INZSYS) コマンド、INZSYS の構文図
	テープ初期設定 (INZTAP) コマンド、INZTAP の構文図
	プログラム一時修正導入 (INSPTF) コマンド、INSPTF の構文図
	リモート・プロダクト導入 (INSRMTPRD) コマンド、INSRMTPRD の構文図
L	トップに戻る
	データ定義連携 (LNKDTADFN) コマンド、LNKDTADFN の構文図
	媒体プログラム・ロード実行 (LODRUN) コマンド、LODRUN の構文図
	 イメージ・カタログ・ロードまたはアンロード (LODIMGCLG) コマンド、LODIMGCLG の構文図 
	プログラム一時修正ロード (LODPTF) コマンド、LODPTF の構文図
	質問回答データベース・ロード (LODQSTDB) コマンド、LODQSTDB の構文図
M	トップに戻る
	メッセージ・カタログ組み合わせ (GENCAT) コマンド、GENCAT の構文図
	メッセージ・カタログ組み合わせ (MRGMSGCLG) コマンド、MRGMSGCLG の構文図

	メッセージ・ファイル組み合わせ (MRGMSGF) コマンド、MRGMSGF の構文図
	TCP/IP ホスト・テーブル組み合わせ (MRGTCPTH) コマンド、MRGTCPTH の構文図
	BRM の使用による移行 (MGRBRM) コマンド、MGRBRM の構文図
	メッセージ・モニター (MONMSG) コマンド、MONMSG の構文図
	活動時保管モニター (MONSWABRM) コマンド、MONSWABRM の構文図
	移動 (MOV) コマンド、MOV の構文図
	移動 (MOVE) コマンド、MOVE の構文図
	文書移動 (MOVDOC) コマンド、MOVDOC の構文図
	BRM の使用による媒体移動 (MOVMEDBRM) コマンド、MOVMEDBRM の構文図
	オブジェクト移動 (MOV OBJ) コマンド、MOV OBJ の構文図
	BRM の使用による保管スプール・ファイル移動 (MOV SPLFBRM) コマンド、MOV SPLFBRM の構文図
N	トップに戻る
	NETSTAT (NETSTAT) コマンド、NETSTAT の構文図
O	トップに戻る
	QUERY ファイル・オープン (OPNQRYF) コマンド、OPNQRYF の構文図
	サポート・プロダクト PTF 発注 (ORDSPTPTF) コマンド、ORDSPTPTF の構文図
	データベース・ファイル一時変更 (OVRDBF) コマンド、OVRDBF の構文図
	ディスク装置ファイル一時変更 (OVRDKTF) コマンド、OVRDKTF の構文図
	表示装置ファイル一時変更 (OVRDSPF) コマンド、OVRDSPF の構文図
	ICF ファイル一時変更 (OVRICFF) コマンド、OVRICFF の構文図
	ICF プログラム装置項目一時変更 (OVRICFDEVE) コマンド、OVRICFDEVE の構文図
	メッセージ・ファイル一時変更 (OVRMSGF) コマンド、OVRMSGF の構文図
	印刷装置ファイル一時変更 (OVRPRTF) コマンド、OVRPRTF の構文図
	保管ファイル一時変更 (OVRSAVE) コマンド、OVRSAVE の構文図
	テープ装置ファイル一時変更 (OVRTAPF) コマンド、OVRTAPF の構文図
P	トップに戻る
	導入可能オブジェクト・パッケージ (PKGINSOBJ) コマンド、PKGINSOBJ の構文図
	配布用プロダクト・パッケージ (PKGPRDDST) コマンド、PKGPRDDST の構文図
	プロダクト・オプション・パッケージ (PKGPRDOPT) コマンド、PKGPRDOPT の構文図
	PING (PING) コマンド、PING の構文図
	データベース・ファイル位置決め (POSDBF) コマンド、POSDBF の構文図
	システム電源遮断 (PWRDWN SYS) コマンド、PWRDWN SYS の構文図
	活動報告書印刷 (PRTACTRPT) コマンド、PRTACTRPT の構文図
	借用オブジェクト印刷 (PRTADPOBJ) コマンド、PRTADPOBJ の構文図
	AFP データ印刷 (PRTAFPDT) コマンド、PRTAFPDT の構文図
	コマンド使用状況印刷 (PRTCMDUSG) コマンド、PRTCMDUSG の構文図
	通信保護機能印刷 (PRTCMNSEC) コマンド、PRTCMNSEC の構文図
	通信追跡の印刷 (PRTCMNTRC) コマンド、PRTCMNTRC の構文図
	コンポーネント報告書印刷 (PRTCPTRPT) コマンド、PRTCPTRPT の構文図
	装置アドレス印刷 (PRTDEVADR) コマンド、PRTDEVADR の構文図
	ディスク情報印刷 (PRTDSKINF) コマンド、PRTDSKINF の構文図
	文書印刷 (PRTDOC) コマンド、PRTDOC の構文図

	エラー・ログ印刷 (PRERRLOG) コマンド、PRERRLOG の構文図
	内部データ印刷 (PRTINTDTA) コマンド、PRTINTDTA の構文図
	IP over SNA 構成印刷 (PRTIPSCFG) コマンド、PRTIPSCFG の構文図
	ジョブ記述権限印刷 (PRTJOBDAUT) コマンド、PRTJOBDAUT の構文図
	ジョブ報告書印刷 (PRTJOBTRC) コマンド、PRTJOBTRC の構文図
	ジョブ追跡印刷 (PRTJOBTRC) コマンド、PRTJOBTRC の構文図
	BRM の使用によるラベル印刷 (PRTLBLBRM) コマンド、PRTLBLBRM の構文図
	ロック報告書印刷 (PRTLCKRPT) コマンド、PRTLCKRPT の構文図
	BRM の使用による媒体例外印刷 (PRTMEDBRM) コマンド、PRTMEDBRM の構文図
	媒体移動印刷 (PRTMOVBRM) コマンド、PRTMOVBRM の構文図
	Performance Explorer 報告書の印刷 (PRTPEXRPT) コマンド、PRTPEXRPT の構文図
	2 地点間 TCP/IP プロファイル印刷位置 (PRTTCPPTP) コマンド、PRTTCPPTP の構文図
	プール報告書印刷 (PRTPOLRPT) コマンド、PRTPOLRPT の構文図
	私用認可印刷 (PRTPVTAUT) コマンド、PRTPVTAUT の構文図
	プロファイル内部情報印刷 (PRTPRFINT) コマンド、PRTPRFINT の構文図
	共通認可オブジェクト印刷 (PRTPUBAUT) コマンド、PRTPUBAUT の構文図
	待ち行列権限報告書印刷 (PRTQAUT) コマンド、PRTQAUT の構文図
	資源報告書印刷 (PRTSCRPT) コマンド、PRTSCRPT の構文図
	ジョブ・スケジューラーの使用によるスケジュール印刷 (PRTSCDJS) コマンド、PRTSCDJS の構文図
	停止語句リスト印刷 (PRTSWL) コマンド、PRTSWL の構文図
	構造化照会言語情報印刷 (PRTSQLINF) コマンド、PRTSQLINF の構文図
	サブシステム記述権限報告書印刷 (PRTSBSDAUT) コマンド、PRTSBSDAUT の構文図
	システム情報印刷 (PRTSYSINF) コマンド、PRTSYSINF の構文図
	システム報告書印刷 (PRTSYSRPT) コマンド、PRTSYSRPT の構文図
	システム・セキュリティー属性印刷 (PRTSYSSECA) コマンド、PRTSYSSECA の構文図
	追跡印刷 (PRTTRC) コマンド、PRTTRC の構文図
	追跡報告書印刷 (PRTTRCRPT) コマンド、PRTTRCRPT の構文図
	トランザクション報告書印刷 (PRTTNSRPT) コマンド、PRTTNSRPT の構文図
	トリガー・プログラム印刷 (PRTTRGPGM) コマンド、PRTTRGPGM の構文図
	ユーザー・オブジェクト印刷 (PRTUSROBJ) コマンド、PRTUSROBJ の構文図
	ユーザー・プロファイル印刷 (PRTUSRPRF) コマンド、PRTUSRPRF の構文図
	プログラム (PGM) コマンド、PGM の構文図
Q	トップに戻る
	QSH (QSH) コマンド、QSH の構文図
	配布 QUERY (QRYDST) コマンド、QRYDST の構文図
	文書ライブラリー QUERY (QRYDOCLIB) コマンド、QRYDOCLIB の構文図
	問題状況 QUERY (QRYPRBSTS) コマンド、QRYPRBSTS の構文図
	技術情報交換ファイル QUERY (QRYTIEF) コマンド、QRYTIEF の構文図
R	トップに戻る
	配布受信 (RCVDST) コマンド、RCVDST の構文図
	ファイル受信 (RCVF) コマンド、RCVF の構文図
	ジャーナル項目受信 (RCVJRNE) コマンド、RCVJRNE の構文図

メッセージ受信 (RCVMSG) コマンド、RCVMSG の構文図
ネットワーク・ファイル受信 (RCVNETF) コマンド、RCVNETF の構文図
技術情報交換ファイル受信 (RCVTIEF) コマンド、RCVTIEF の構文図
活動化グループ再利用 (RCLACTGRP) コマンド、RCLACTGRP の構文図
分散データ管理会話再利用 (RCLDDMCNV) コマンド、RCLDDMCNV の構文図
文書ライブラリー・オブジェクト再利用 (RCLDLO) コマンド、RCLDLO の構文図
ライブラリー再利用 (RCLLIB) コマンド、RCLLIB の構文図
光ディスク再利用 (RCLOPT) コマンド、RCLOPT の構文図
資源再利用 (RCLRSC) コマンド、RCLRSC の構文図
スプール記憶域再利用 (RCLSPLSTG) コマンド、RCLSPLSTG の構文図
記憶域再利用 (RCLSTG) コマンド、RCLSTG の構文図
一時記憶域再利用 (RCLTMPSTG) コマンド、RCLTMPSTG の構文図
通信装置解放 (RLSCMNDEV) コマンド、RLSCMNDEV の構文図
配布待ち行列解放 (RLSDSTQ) コマンド、RLSDSTQ の構文図
統合ファイル・システム・ロック解放 (RLSIFSLCK) コマンド、RLSIFSLCK の構文図
ジョブ解放 (RLSJOB) コマンド、RLSJOB の構文図
ジョブ待ち行列解放 (RLSJOBQ) コマンド、RLSJOBQ の構文図
ジョブ・スケジュール項目解放 (RLSJOBSCDE) コマンド、RLSJOBSCDE の構文図
ジョブ・スケジューラーの使用によるジョブ解放 (RLSJOBJS) コマンド、RLSJOBJS の構文図
出力待ち行列解放 (RLSOUTQ) コマンド、RLSOUTQ の構文図
プログラム一時修正解放 (RLSPTF) コマンド、RLSPTF の構文図
読み取りプログラム解放 (RLSRDR) コマンド、RLSRDR の構文図
リモート・フェーズ解放 (RLSRMTPHS) コマンド、RLSRMTPHS の構文図
スプール・ファイル解放 (RLSSPLF) コマンド、RLSSPLF の構文図
投入変更要求活動解放 (RLSSBMCRQA) コマンド、RLSSBMCRQA の構文図
書き出しプログラム解放 (RLSWTR) コマンド、RLSWTR の構文図
アクセス・コード除去 (RMVACC) コマンド、RMVACC の構文図
警報記述除去 (RMVALRD) コマンド、RMVALRD の構文図
権限リスト項目除去 (RMVAUTLE) コマンド、RMVAUTLE の構文図
自動開始ジョブ項目除去 (RMVAJE) コマンド、RMVAJE の構文図
バインド・ディレクトリー項目除去 (RMVBNDIRE) コマンド、RMVBNDIRE の構文図
停止点除去 (RMVBKP) コマンド、RMVBKP の構文図
変更制御サーバー・クライアント除去 (RMVCCSCLT) コマンド、RMVCCSCLT の構文図
変更要求記述活動除去 (RMVCRQDA) コマンド、RMVCRQDA の構文図
▶▶ クラスタ・ノード項目除去 (RMVCLUNODE) コマンド、RMVCLUNODE の構文図 ◀◀
▶▶ クラスタ資源グループ装置項目除去 (RMVCRGDEVE) コマンド、RMVCRGDEVE の構文図 ◀◀
▶▶ クラスタ資源グループ・ノード項目除去 (RMVCRGNODE) コマンド、RMVCRGNODE の構文図 ◀◀
通信項目除去 (RMVCMNE) コマンド、RMVCMNE の構文図
SNMP のコミュニティ除去 (RMVCOMSNMP) コマンド、RMVCOMSNMP の構文図
構成リスト項目除去 (RMVCFGLE) コマンド、RMVCFGLE の構文図
接続リスト項目除去 (RMVCNNLE) コマンド、RMVCNNLE の構文図

▶ 装置ドメイン項目除去 (RMVDEVDMNE) コマンド、RMVDEVDMNE の構文図 ◀
ディレクター除去 (RD) コマンド、RD の構文図
ディレクトリー除去 (RMDIR) コマンド、RMDIR の構文図
ディレクトリー除去 (RMVDIR) コマンド、RMVDIR の構文図
ディレクトリー項目除去 (RMVDIRE) コマンド、RMVDIRE の構文図
ディレクトリー・シャドー・システム除去 (RMVDIRSHD) コマンド、RMVDIRSHD の構文図
配布カタログ項目除去 (RMVDSTCLGE) コマンド、RMVDSTCLGE の構文図
配布リスト項目除去 (RMVDSTLE) コマンド、RMVDSTLE の構文図
配布待ち行列除去 (RMVDSTQ) コマンド、RMVDSTQ の構文図
配布経路除去 (RMVDSTRTE) コマンド、RMVDSTRTE の構文図
配布 2 次システム名除去 (RMVDSTSYSN) コマンド、RMVDSTSYSN の構文図
文書ライブラリー・オブジェクト権限除去 (RMVDLOAUT) コマンド、RMVDLOAUT の構文図
エミュレーション構成項目除去 (RMVEMLCFGE) コマンド、RMVEMLCFGE の構文図
環境変数除去 (RMVENVVAR) コマンド、RMVENVVAR の構文図
出口プログラム除去 (RMVEXITPGM) コマンド、RMVEXITPGM の構文図
拡張無線制御装置バーコード項目除去 (RMVEWCBCDE) コマンド、RMVEWCBCDE の構文図
拡張無線制御装置 PTC 項目除去 (RMVEWCPTCE) コマンド、RMVEWCPTCE の構文図
フィルター処置項目除去 (RMVFTRACNE) コマンド、RMVFTRACNE の構文図
フィルター選択項目除去 (RMVFTRSLTE) コマンド、RMVFTRSLTE の構文図
フォント・テーブル項目除去 (RMVFNTTBLE) コマンド、RMVFNTTBLE の構文図
ジョブ・スケジューラーの使用によるヒストリー除去 (RMVHSTJS) コマンド、RMVHSTJS の構文図
▶ イメージ・カタログ項目除去 (RMVIMGCLGE) コマンド、RMVIMGCLGE の構文図 ◀
ICF プログラム装置項目除去 (RMVICFDEVE) コマンド、RMVICFDEVE の構文図
IP over SNA インターフェース除去 (RMVIPSIFC) コマンド、RMVIPSIFC の構文図
IP over SNA ロケーション項目除去 (RMVIPSLOC) コマンド、RMVIPSLOC の構文図
IP over SNA 経路除去 (RMVIPS RTE) コマンド、RMVIPS RTE の構文図
ジョブ待ち行列項目除去 (RMVJOBQE) コマンド、RMVJOBQE の構文図
ジョブ・スケジュール項目除去 (RMVJOBSCDE) コマンド、RMVJOBSCDE の構文図
ジョブ・スケジューラーの使用によるジョブ除去 (RMVJOBJS) コマンド、RMVJOBJS の構文図
ジャーナル処理済み変更除去 (RMVJRNCHG) コマンド、RMVJRNCHG の構文図
LAN アダプター除去 (RMVLANADPT) コマンド、RMVLANADPT の構文図
LAN アダプター情報除去 (RMVLANADPI) コマンド、RMVLANADPI の構文図
ライブラリー・リスト項目除去 (RMVLIBLE) コマンド、RMVLIBLE の構文図
ライセンス・キー情報除去 (RMVLICKEY) コマンド、RMVLICKEY の構文図
リンク除去 (DEL) コマンド、DEL の構文図
リンク除去 (ERASE) コマンド、ERASE の構文図
リンク除去 (RMVLNK) コマンド、RMVLNK の構文図
BRM からのログ項目除去 (RMVLOGEBRM) コマンド、RMVLOGEBRM の構文図
ジョブ・スケジューラーからのログ項目除去 (RMVLOGEJS) コマンド、RMVLOGEJS の構文図
BRM からの媒体情報除去 (RMVMEDIBRM) コマンド、RMVMEDIBRM の構文図
BRM からの媒体ボリューム除去 (RMVMEDBRM) コマンド、RMVMEDBRM の構文図

メンバー除去 (RMVM) コマンド、RMVM の構文図
メッセージ除去 (RMVMSG) コマンド、RMVMSG の構文図
メッセージ記述除去 (RMVMSGD) コマンド、RMVMSGD の構文図
装てんファイル・システム除去 (RMVMFS) コマンド、RMVMFS の構文図
装てんファイル・システム除去 (UNMOUNT) コマンド、UNMOUNT の構文図
NetWare 認証項目除去 (RMVNTWAUTE) コマンド、RMVNTWAUTE の構文図
ネットワーク・ジョブ項目除去 (RMVNETJOB) コマンド、RMVNETJOB の構文図
ネットワーク・サーバー記憶域リンク除去 (RMVNWSSTGL) コマンド、RMVNWSSTGL の構文図
ネットワーク・テーブル項目除去 (RMVNETTBLE) コマンド、RMVNETTBLE の構文図
ニックネーム除去 (RMVNCK) コマンド、RMVNCK の構文図
ノード・リスト項目除去 (RMVNODLE) コマンド、RMVNODLE の構文図
光ディスク・カートリッジ除去 (RMVOPTCTG) コマンド、RMVOPTCTG の構文図
光ディスク・サーバー除去 (RMVOPTSVR) コマンド、RMVOPTSVR の構文図
パフォーマンス・エクスプローラー定義除去 (RMVPEXDFN) コマンド、RMVPEXDFN の構文図
▶ Performance Explorer フィルター除去 (RMVPEXFTR) コマンド、RMVPEXFTR の構文図 ◀
物理ファイル制約除去 (RMVPFCST) コマンド、RMVPFCST の構文図
物理ファイル・トリガー除去 (RMVPFTRG) コマンド、RMVPFTRG の構文図
2 地点間 TCP/IP プロファイル除去 (RMVTCPPPT) コマンド、RMVTCPPPT の構文図
事前開始ジョブ項目除去 (RMVPJE) コマンド、RMVPJE の構文図
プロファイル・トークン除去 (RMVPRFTKN) コマンド、RMVPRFTKN の構文図
プログラム除去 (RMVPGM) コマンド、RMVPGM の構文図
プログラム一時修正除去 (RMVPTF) コマンド、RMVPTF の構文図
プロトコル・テーブル項目除去 (RMVPLTBLE) コマンド、RMVPLTBLE の構文図
リレーショナル・データベース・ディレクトリー項目除去 (RMVRDBDIRE) コマンド、RMVRDBDIRE の構文図
リモート定義除去 (RMVRMTDFN) コマンド、RMVRMTDFN の構文図
リモート・ジャーナル除去 (RMVRMTJRN) コマンド、RMVRMTJRN の構文図
リモート・プログラム一時修正除去 (RMVRMTPTF) コマンド、RMVRMTPTF の構文図
応答リスト項目除去 (RMVRPYLE) コマンド、RMVRPYLE の構文図
REXX バッファ除去 (RMVREXBUF) コマンド、RMVREXBUF の構文図
経路指定項目除去 (RMVRTGE) コマンド、RMVRTGE の構文図
検索見出し項目除去 (RMVSCIDXE) コマンド、RMVSCIDXE の構文図
サーバー認証項目除去 (RMVSVRAUTE) コマンド、RMVSVRAUTE の構文図
サービス・テーブル項目除去 (RMVSRVTBLE) コマンド、RMVSRVTBLE の構文図
制御範囲項目除去 (RMVSOCE) コマンド、RMVSOCE の構文図
テープ・カートリッジ除去 (RMVTAPCTG) コマンド、RMVTAPCTG の構文図
TCP/IP ホスト・テーブル項目除去 (RMVTCPHTE) コマンド、RMVTCPHTE の構文図
TCP/IP インターフェース除去 (RMVTCPIFC) コマンド、RMVTCPIFC の構文図
TCP/IP ポート制約除去 (RMVTCPPORT) コマンド、RMVTCPPORT の構文図
TCP/IP リモート・システム情報除去 (RMVTCPRSI) コマンド、RMVTCPRSI の構文図
TCP/IP 経路除去 (RMVTCPRTE) コマンド、RMVTCPRTE の構文図
TCP/IP テーブル除去 (RMVTCPTBL) コマンド、RMVTCPTBL の構文図

追跡除去 (RMVTRC) コマンド、RMVTRC の構文図
追跡フィルター除去 (RMVTRCFTR) コマンド、RMVTRCFTR の構文図
Ultimedia システム機能接続項目除去 (RMVUSFCNNE) コマンド、RMVUSFCNNE の構文図
Ultimedia システム機能装置項目除去 (RMVUSFDEVE) コマンド、RMVUSFDEVE の構文図
Ultimedia システム機能サーバー項目除去 (RMVUSFSVRE) コマンド、RMVUSFSVRE の構文図
ワークステーション項目除去 (RMVWSE) コマンド、RMVWSE の構文図
名前変更 (REN) コマンド、REN の構文図
名前変更 (RNM) コマンド、RNM の構文図
接続リスト項目名変更 (RNMENNLE) コマンド、RNMENNLE の構文図
ディレクトリー項目名変更 (RNMDIRE) コマンド、RNMDIRE の構文図
ディスク名変更 (RNMDKT) コマンド、RNMDKT の構文図
配布リスト名変更 (RNMDSTL) コマンド、RNMDSTL の構文図
文書ライブラリー・オブジェクト名変更 (RNMDLO) コマンド、RNMDLO の構文図
ジョブ・スケジューラーの使用によるジョブ名変更 (RNMJOBJS) コマンド、RNMJOBJS の構文図
ローカル・エリア・ネットワーク・アダプター情報名変更 (RNMLANADPI) コマンド、RNMLANADPI の構文図
メンバー名変更 (RNMM) コマンド、RNMM の構文図
ニックネーム変更 (RNMNCK) コマンド、RNMNCK の構文図
オブジェクト名変更 (RNMOBJ) コマンド、RNMOBJ の構文図
TCP/IP ホスト・テーブル項目名変更 (RNMTCPHTE) コマンド、RNMTCPHTE の構文図
文書ライブラリー・オブジェクト再編成 (RGZDLO) コマンド、RGZDLO の構文図
物理ファイル・メンバー再編成 (RGZPFM) コマンド、RGZPFM の構文図
文書置き換え (RPLDOC) コマンド、RPLDOC の構文図
発注援助要求 (RQSORDAST) コマンド、RQSORDAST の構文図
ジョブ経路再指定 (RRTJOB) コマンド、RRTJOB の構文図
復元 (RST) コマンド、RST の構文図
APAR データ復元 (RSTAPARDTA) コマンド、RSTAPARDTA の構文図
権限復元 (RSTAUT) コマンド、RSTAUT の構文図
BRM の使用による権限復元 (RSTAUTBRM) コマンド、RSTAUTBRM の構文図
構成復元 (RSTCFG) コマンド、RSTCFG の構文図
BRM の使用による DLO 復元 (RSTDLOBRM) コマンド、RSTDLOBRM の構文図
文書ライブラリー・オブジェクト復元 (RSTDLO) コマンド、RSTDLO の構文図
ライブラリー復元 (RSTLIB) コマンド、RSTLIB の構文図
BRM の使用によるライブラリー復元 (RSTLIBBRM) コマンド、RSTLIBBRM の構文図
ライセンス・プログラム復元 (RSTLICPGM) コマンド、RSTLICPGM の構文図
オブジェクト復元 (RSTOBJ) コマンド、RSTOBJ の構文図
BRM の使用によるオブジェクト復元 (RSTBRM) コマンド、RSTBRM の構文図
BRM の使用によるオブジェクト復元 (RSTOBJBRM) コマンド、RSTOBJBRM の構文図
システム /36 ファイル復元 (RSTS36F) コマンド、RSTS36F の構文図
システム /36 フォルダー復元 (RSTS36FLR) コマンド、RSTS36FLR の構文図
システム /36 ライブラリー・メンバー復元 (RSTS36LIBM) コマンド、RSTS36LIBM の構文図
Ultimedia システム機能コンテナー復元 (RSTUSFCNR) コマンド、RSTUSFCNR の構文図

ユーザー・プロフィール復元 (RSTUSRPRF) コマンド、RSTUSRPRF の構文図
停止点再開 (RSMBKP) コマンド、RSMBKP の構文図
制御装置回復再開 (RSMCTLRKY) コマンド、RSMCTLRKY の構文図
装置回復再開 (RSMDEVRCY) コマンド、RSMDEVRCY の構文図
HTTP クロール再開 (RSMHTTPCRL) コマンド
回線回復再開 (RSMLINRCY) コマンド、RSMLINRCY の構文図
ネットワーク・インターフェース回復再開 (RSMNWIRCY) コマンド、RSMNWIRCY の構文図
BRM の使用による検索再開 (RSMRTVBRM) コマンド、RSMRTVBRM の構文図
権限リスト項目検索 (RTVAUTLE) コマンド、RTVAUTLE の構文図
バックアップ検索 (RTVBCKUP) コマンド、RTVBCKUP の構文図
バインド・プログラム・ソース検索 (RTVBNSRC) コマンド、RTVBNSRC の構文図
CL ソース検索 (RTVCLSRC) コマンド、RTVCLSRC の構文図
終結処理検索 (RTVCLNUP) コマンド、RTVCLNUP の構文図
構成ソース検索 (RTVCFGSRC) コマンド、RTVCFGSRC の構文図
構成状況検索 (RTVCFGSTS) コマンド、RTVCFGSTS の構文図
現行ディレクトリー検索 (RTVCURDIR) コマンド、RTVCURDIR の構文図
データ域検索 (RTVDTAARA) コマンド、RTVDTAARA の構文図
ディスク情報検索 (RTVDSKINF) コマンド、RTVDSKINF の構文図
文書検索 (RTVDOC) コマンド、RTVDOC の構文図
文書ライブラリー・オブジェクト権限検索 (RTVDLOAUT) コマンド、RTVDLOAUT の構文図
文書ライブラリー・オブジェクト名検索 (RTVDLONAM) コマンド、RTVDLONAM の構文図
グループ属性検索 (RTVGRPA) コマンド、RTVGRPA の構文図
ジョブ属性検索 (RTVJOBA) コマンド、RTVJOBA の構文図
ジャーナル項目検索 (RTVJRNE) コマンド、RTVJRNE の構文図
ライブラリー記述検索 (RTVLIBD) コマンド、RTVLIBD の構文図
メンバー記述検索 (RTVMBRD) コマンド、RTVMBRD の構文図
メッセージ検索 (RTVMSG) コマンド、RTVMSG の構文図
ネットワーク属性検索 (RTVNETA) コマンド、RTVNETA の構文図
オブジェクト記述検索 (RTVOBJD) コマンド、RTVOBJD の構文図
電源スケジュール項目検索 (RTVPWRSCDE) コマンド、RTVPWRSCDE の構文図
印刷記述子グループ・プロフィール検索 (RTVPDGPRF) コマンド、RTVPDGPRF の構文図
プロダクト検索 (RTVPRD) コマンド、RTVPRD の構文図
プログラム一時修正検索 (RTVPTF) コマンド、RTVPTF の構文図
QUERY 管理機能書式検索 (RTVQMFORM) コマンド、RTVQMFORM の構文図
QUERY 管理機能プログラム検索 (RTVQMQR) コマンド、RTVQMQR の構文図
ソフトウェア・パッケージ属性検索 (RTVSFWPKGA) コマンド、RTVSFWPKGA の構文図
停止語句リスト・ソース検索 (RTVSWLSRC) コマンド、RTVSWLSRC の構文図
システム情報検索 (RTVSYNINF) コマンド、RTVSYNINF の構文図
System Manager オブジェクト検索 (RTVSMGOBJ) コマンド、RTVSMGOBJ の構文図
システム値検索 (RTVSYNVAL) コマンド、RTVSYNVAL の構文図
システム /36 属性検索 (RTVS36A) コマンド、RTVS36A の構文図
テーブル・ソース検索 (RTVTBSRC) コマンド、RTVTBSRC の構文図

	ユーザー印刷情報検索 (RTVUSRPTI) コマンド、RTVUSRPTI の構文図
	ユーザー・プロファイル検索 (RTVUSRPRF) コマンド、RTVUSRPRF の構文図
	ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト・ソース検索 (RTVWSCST) コマンド、RTVWSCST の構文図
	戻り (RETURN) コマンド、RETURN の構文図
	アクセス・コード権限取り消し (RVKACCAUT) コマンド、RVKACCAUT の構文図
	オブジェクト権限取り消し (RVKOBJAUT) コマンド、RVKOBJAUT の構文図
	共通認可取り消し (RVKPUBAUT) コマンド、RVKPUBAUT の構文図
	ユーザー許可取り消し (RVKUSRPMN) コマンド、RVKUSRPMN の構文図
	ワークステーション・オブジェクト権限取り消し (RVKWSOAUT) コマンド、RVKWSOAUT の構文図
	ロールバック (ROLLBACK) コマンド、ROLLBACK の構文図
	バックアップ実行 (RUNBCKUP) コマンド、RUNBCKUP の構文図
	Java 実行 (RUNJVA) コマンド、RUNJVA の構文図
	LPDA-2 実行 (RUNLPDA) コマンド、RUNLPDA の構文図
	QUERY 実行 (RUNQRY) コマンド、RUNQRY の構文図
	リモート・コマンド実行 (AREXEC) コマンド、AREXEC の構文図
	リモート・コマンド実行 (RUNRMTCMD) コマンド、RUNRMTCMD の構文図
	構造化照会言語ステートメント実行 (RUNSQLSTM) コマンド、RUNSQLSTM の構文図
	System Manager コマンド実行 (RUNSMGCMD) コマンド、RUNSMGCMD の構文図
	System Manager オブジェクト実行 (RUNSMGOBJ) コマンド、RUNSMGOBJ の構文図
S	トップに戻る
	保管 (SAV) コマンド、SAV の構文図
	APAR データ保管 (SAVAPARDTA) コマンド、SAVAPARDTA の構文図
	変更済みオブジェクト保管 (SAVCHGOBJ) コマンド、SAVCHGOBJ の構文図
	構成保管 (SAVCFG) コマンド、SAVCFG の構文図
	BRM の使用による DLO 保管 (SAVDLOBRM) コマンド、SAVDLOBRM の構文図
	文書ライブラリー・オブジェクト保管 (SAVDLO) コマンド、SAVDLO の構文図
	BRM の使用によるフォルダー・リスト保管 (SAVFLRLBRM) コマンド、SAVFLRLBRM の構文図
	ライブラリー保管 (SAVLIB) コマンド、SAVLIB の構文図
	BRM の使用によるライブラリー保管 (SAVLIBBRM) コマンド、SAVLIBBRM の構文図
	ライセンス・プログラム保管 (SAVLICPGM) コマンド、SAVLICPGM の構文図
	BRM の使用による媒体情報保管 (SAVMEDIBRM) コマンド、SAVMEDIBRM の構文図
	オブジェクト保管 (SAVOBJ) コマンド、SAVOBJ の構文図
	BRM の使用によるオブジェクト・リスト保管 (SAVOBJLBRM) コマンド、SAVOBJLBRM の構文図
	BRM の使用によるオブジェクト保管 (SAVBRM) コマンド、SAVBRM の構文図
	BRM の使用によるオブジェクト保管 (SAVOBJBRM) コマンド、SAVOBJBRM の構文図
	保管ファイル・データ保管 (SAVSAVFDTA) コマンド、SAVSAVFDTA の構文図
	BRM の使用による保管ファイル保管 (SAVSAVFBRM) コマンド、SAVSAVFBRM の構文図
	セキュリティー・データ保管 (SAVSECDDTA) コマンド、SAVSECDDTA の構文図
	記憶域保管 (SAVSTG) コマンド、SAVSTG の構文図
	システム保管 (SAVSYS) コマンド、SAVSYS の構文図
	BRM の使用によるシステム保管 (SAVSYSBRM) コマンド、SAVSYSBRM の構文図
	システム /36 ファイル保管 (SAVS36F) コマンド、SAVS36F の構文図

システム /36 ライブラリー・メンバー保管 (SAVS36LIBM) コマンド、SAVS36LIBM の構文図
Ultimedia システム機能コンテナ保管 (SAVUSFCNR) コマンド、SAVUSFCNR の構文図
変更オブジェクト保管 / 復元 (SAVRSTCHG) コマンド、SAVRSTCHG の構文図
構成の保管 / 復元 (SAVRSTCFG) コマンド、SAVRSTCFG の構文図
文書ライブラリー・オブジェクトの保管 / 復元 (SAVRSTDLO) コマンド、SAVRSTDLO の構文図
ライブラリーの保管 / 復元 (SAVRSTLIB) コマンド、SAVRSTLIB の構文図
オブジェクトの保管 / 復元 (SAVRSTOBJ) コマンド、SAVRSTOBJ の構文図
保管 / 復元 (SAVRST) コマンド、SAVRST の構文図
コマンド選択 (SLTCMD) コマンド、SLTCMD の構文図
中断メッセージ送信 (SNDBRKMSG) コマンド、SNDBRKMSG の構文図
DBCS 3270PC エミュレーション・コード送信 (SNDEMLIGC) コマンド、SNDEMLIGC の構文図
配布送信 (SNDDST) コマンド、SNDDST の構文図
配布待ち行列送信 (SNDDSTQ) コマンド、SNDDSTQ の構文図
ファイル送信 (SNDF) コマンド、SNDF の構文図
金融機関用ディスク・イメージ送信 (SNDFNCIMG) コマンド、SNDFNCIMG の構文図
ジャーナル項目送信 (SNDJRNE) コマンド、SNDJRNE の構文図
ライセンス送信 (SNDLIC) コマンド、SNDLIC の構文図
メッセージ送信 (SNDMSG) コマンド、SNDMSG の構文図
ネットワーク・ファイル送信 (SNDNETF) コマンド、SNDNETF の構文図
ネットワーク・メッセージ送信 (SNDNETMSG) コマンド、SNDNETMSG の構文図
ネットワーク・スプール・ファイル送信 (SNDNETSPLF) コマンド、SNDNETSPLF の構文図
プロダクト送信 (SNDPRD) コマンド、SNDPRD の構文図
プログラム・メッセージ送信 (SNDPGMMSG) コマンド、SNDPGMMSG の構文図
プログラム一時修正送信 (SNDPTF) コマンド、SNDPTF の構文図
プログラム一時修正発注送信 (SNDPTFORD) コマンド、SNDPTFORD の構文図
応答送信 (SNDRPY) コマンド、SNDRPY の構文図
ジョブ・スケジューラーの使用による報告書の送信 (SNDRPTJS) コマンド、SNDRPTJS の構文図
サービス要求送信 (SNDSRVRQS) コマンド、SNDSRVRQS の構文図
System Manager オブジェクト送信 (SNDSMGOBJ) コマンド、SNDSMGOBJ の構文図
➤ TCP/IP スプール・ファイル送信 (SNDTCPSPLF) コマンド、SNDTCPSPLF の構文図 ⚡
技術情報交換ファイル送信 (SNDTIEF) コマンド、SNDTIEF の構文図
ユーザー・メッセージ送信 (SNDUSRMSG) コマンド、SNDUSRMSG の構文図
ファイル送信 / 受信 (SNDRCVF) コマンド、SNDRCVF の構文図
➤ ASP グループ設定 (SETASPGRP) コマンド、SETASPGRP の構文図 ⚡
アテンション・プログラム設定 (SETATNPGM) コマンド、SETATNPGM の構文図
カスタマイズ・データ設定 (SETCSTDTA) コマンド、SETCSTDTA の構文図
ジョブ・スケジューラーの使用による従属ジョブ設定 (SETDEPJS) コマンド、SETDEPJS の構文図
キーボード・マップ設定 (SETKBDMAP) コマンド、SETKBDMAP の構文図
BRM の使用による媒体制御設定 (SETMEDBRM) コマンド、SETMEDBRM の構文図
オブジェクト・アクセス設定 (SETOBJACC) コマンド、SETOBJACC の構文図
BRM の検索制御設定 (SETRTVBRM) コマンド、SETRTVBRM の構文図

テープ・カテゴリー設定 (SETTAPCGY) コマンド、SETTAPCGY の構文図
BRM のユーザー使用設定 (SETUSRBRM) コマンド、SETUSRBRM の構文図
サインオフ (SIGNOFF) コマンド、SIGNOFF の構文図
3270 ディスプレイ・エミュレーション開始 (STREML3270) コマンド、STREML3270 の構文図
BRM の使用によるアーカイブ開始 (STRARCBRM) コマンド、STRARCBRM の構文図
ASP バランス開始 (STRASPBAL) コマンド、STRASPBAL の構文図
BRM の使用によるバックアップ開始 (STRBKUBRM) コマンド、STRBKUBRM の構文図
終結処理開始 (STRCLNUP) コマンド、STRCLNUP の構文図
▶ クラスタ・ノード開始 (STRCLUNOD) コマンド、STRCLUNOD の構文図 ◀◀
▶ クラスタ資源グループ開始 (STRCRG) コマンド、STRCRG の構文図 ◀◀
クラスタ化ハッシュ・テーブル・サーバー開始 (STRCHTSVR) コマンド、STRCHTSVR の構文図
コミットメント制御開始 (STRCMTCTL) コマンド、STRCMTCTL の構文図
通信サーバー開始 (STRCMNSVR) コマンド、STRCMNSVR の構文図
通信追跡開始 (STRCMNTRC) コマンド、STRCMNTRC の構文図
画面コピー開始 (STRCPYSCN) コマンド、STRCPYSCN の構文図
データベース・モニター開始 (STRDBMON) コマンド、STRDBMON の構文図
データベース読み取りプログラム開始 (STRDBRDR) コマンド、STRDBRDR の構文図
デバッグ開始 (STRDBG) コマンド、STRDBG の構文図
デバッグ・サーバー開始 (STRDBGSVR) コマンド、STRDBGSVR の構文図
ディレクトリー・シャドー化開始 (STRDIRSHD) コマンド、STRDIRSHD 構文図
ディスク再編成開始 (STRDSKRGZ) コマンド、STRDSKRGZ の構文図
ディスク読み取りプログラム開始 (STRDKTRDR) コマンド、STRDKTRDR の構文図
ディスク書き出しプログラム開始 (STRDKTWTR) コマンド、STRDKTWTR の構文図
研修の開始 (STREDU) コマンド、STREDU の構文図
BRM の有効期限開始 (STREXPBRM) コマンド、STREXPBRM の構文図
フォント管理支援機能開始 (STRFMA) コマンド、STRFMA の構文図
ジョブ・スケジューラーの使用によるグループ開始 (STRGRPJS) コマンド、STRGRPJS の構文図
ホスト・サーバーの開始 (STRHOSTSVR) コマンド、STRHOSTSVR の構文図
HTTP クロール開始 (STRHTPCRL) コマンド
InfoSeeker 開始 (STRINFSKR) コマンド、STRINFSKR の構文図
対話式データ定義ユーティリティ開始 (STRIDD) コマンド、STRIDD の構文図
端末対話機能開始 (STRITF) コマンド、STRITF の構文図
IP over SNA インターフェース開始 (STRIPSIFC) コマンド、STRIPSIFC の構文図
ジョブ・スケジューラー開始 (STRJS) コマンド、STRJS の構文図
ジョブ追跡開始 (STRJOBTRC) コマンド、STRJOBTRC の構文図
ジャーナル開始 (STRJRN) コマンド、STRJRN の構文図
アクセス・パス・ジャーナル処理開始 (STRJRNP) コマンド、STRJRNP の構文図
オブジェクト・ジャーナル処理開始 (STRJRNOBJ) コマンド、STRJRNOBJ の構文図
物理ファイル・ジャーナル処理開始 (STRJRNP) コマンド、STRJRNP の構文図
メール・サーバー・フレームワーク開始 (STRMSF) コマンド、STRMSF の構文図
BRM の保守開始 (STRMNTBRM) コマンド、STRMNTBRM の構文図

Managed System Services 開始 (STRMGDSYS) コマンド、STRMGDSYS の構文図
マネージャー・サービス開始 (STRMGRSRV) コマンド、STRMGRSRV の構文図
BRM の使用による移行開始 (STRMGRBRM) コマンド、STRMGRBRM の構文図
モード開始 (STRMOD) コマンド、STRMOD の構文図
ネットワーク・ファイル・システム・サーバー開始 (STRNFSSVR) コマンド、STRNFSSVR の構文図
ネットワーク・サーバー・コンソール開始 (STRNWCSL) コマンド、STRNWCSL の構文図
オブジェクト変換開始 (STROBJCVN) コマンド、STROBJCVN の構文図
パススルー開始 (STRPASTHR) コマンド、STRPASTHR の構文図
Performance Explorer 開始 (STRPEX) コマンド、STRPEX の構文図
パフォーマンス・グラフィックス開始 (STRPFRG) コマンド、STRPFRG の構文図
パフォーマンス測定ツール開始 (STRPFRT) コマンド、STRPFRT の構文図
パフォーマンス追跡開始 (STRPFRTRC) コマンド、STRPFRTRC の構文図
2 地点間 TCP/IP 開始 (STRTCPPTP) コマンド、STRTCPPTP の構文図
事前開始ジョブ開始 (STRPJ) コマンド、STRPJ の構文図
印刷装置書き出しプログラム開始 (STRPRTWTR) コマンド、STRPRTWTR の構文図
プログラム・プロファイル開始 (STRPGMPRF) コマンド、STRPGMPRF の構文図
プログラマー・メニュー開始 (STRPGMMNU) コマンド、STRPGMMNU の構文図
QSH 開始 (STRQSH) コマンド、STRQSH の構文図
QUERY 開始 (STRQRY) コマンド、STRQRY の構文図
QUERY 管理機能プロシージャ開始 (STRQMPCR) コマンド、STRQMPCR の構文図
QUERY 管理機能プログラム開始 (STRQMQR) コマンド、STRQMQR の構文図
質問回答開始 (STRQST) コマンド、STRQST の構文図
BRM の使用による回復開始 (STRRCYBRM) コマンド、STRRCYBRM の構文図
リモート保守サポート開始 (STRRMTSPT) コマンド、STRRMTSPT の構文図
リモート書き出しプログラム開始 (STRRMTWTR) コマンド、STRRMTWTR の構文図
REXX プロシージャ開始 (STRREXPRC) コマンド、STRREXPRC の構文図
RPC バインド・プログラム・デーモン開始 (RPCBIND) コマンド、RPCBIND の構文図
検索見出し開始 (STRSCHIDX) コマンド、STRSCHIDX の構文図
サービス・ジョブ開始 (STRSRVJOB) コマンド、STRSRVJOB の構文図
サブシステム開始 (STRSBS) コマンド、STRSBS の構文図
BRM の使用によるサブシステムの開始 (STRSBSBRM) コマンド、STRSBSBRM の構文図
サポート・ネットワーク開始 (STRSPTN) コマンド、STRSPTN の構文図
System Manager 開始 (STRSYSMGR) コマンド、STRSYSMGR の構文図
システム保守ツール開始 (STRSST) コマンド、STRSST の構文図
システム /36 開始 (STRS36) コマンド、STRS36 の構文図
システム /36 プロシージャ開始 (STRS36PRC) コマンド、STRS36PRC の構文図
TCP/IP 開始 (STRTCP) コマンド、STRTCP の構文図
TCP/IP インターフェース開始 (STRTCPIFC) コマンド、STRTCPIFC の構文図
TCP/IP サーバー開始 (STRTCPSVR) コマンド、STRTCPSVR の構文図
技術情報交換セッション開始 (STRTISSN) コマンド、STRTISSN の構文図
追跡開始 (STRTRC) コマンド、STRTRC の構文図
トラップ管理機能開始 (STRTRPMGR) コマンド、STRTRPMGR の構文図

	Ultimedia システム機能開始 (STRUSF) コマンド、STRUSF の構文図
	変更要求投入 (SBMCRQ) コマンド、SBMCRQ の構文図
	データベース・ジョブ投入 (SBMDBJOB) コマンド、SBMDBJOB の構文図
	ディスクット・ジョブ投入 (SBMDKTJOB) コマンド、SBMDKTJOB の構文図
	金融機関ジョブ投入 (SBMFNCJOB) コマンド、SBMFNCJOB の構文図
	ジョブ投入 (SBMJOB) コマンド、SBMJOB の構文図
	ジョブ・スケジューラーの使用によるジョブ投入 (SBMJOBJS) コマンド、SBMJOBJS の構文図
	ネットワーク・ジョブ投入 (SBMNETJOB) コマンド、SBMNETJOB の構文図
	ネットワーク・サーバー・コマンド投入 (SBMNWSCMD) コマンド、SBMNWSCMD の構文図
	リモート・コマンド投入 (SBMRMTCMD) コマンド、SBMRMTCMD の構文図
T	トップに戻る
	ASP バランス追跡 (TRCASPBAL) コマンド、TRCASPBAL の構文図
	接続追跡 (TRCCNN) コマンド、TRCCNN の構文図
	CPI 通信追跡 (TRCCPIC) コマンド、TRCCPIC の構文図
	ICF 追跡 (TRCICF) コマンド、TRCICF の構文図
	内部事象追跡 (TRCINT) コマンド、TRCINT の構文図
	ジョブ追跡 (TRCJOB) コマンド、TRCJOB の構文図
	REXX 追跡 (TRCREX) コマンド、TRCREX の構文図
	経路追跡 (TRACEROUTE) コマンド、TRACEROUTE の構文図
	TCP/IP アプリケーション追跡 (TRCTCPAPP) コマンド、TRCTCPAPP の構文図
	TCP/IP 経路追跡 (TRCTCPRTE) コマンド、TRCTCPRTE の構文図
	バッチ・ジョブ転送 (TFRBCHJOB) コマンド、TFRBCHJOB の構文図
	制御権転送 (TFRCTL) コマンド、TFRCTL の構文図
	ジョブ転送 (TFRJOB) コマンド、TFRJOB の構文図
	パススルー転送 (TFRPASTHR) コマンド、TFRPASTHR の構文図
	2 次ジョブ転送 (TFRSECJOB) コマンド、TFRSECJOB の構文図
	グループ・ジョブへの転送 (TFRGRPJOB) コマンド、TFRGRPJOB の構文図
U	トップに戻る
	プログラム更新 (UPDPGM) コマンド、UPDPGM の構文図
	サービス・プログラム更新 (UPDSRVPGM) コマンド、UPDSRVPGM の構文図
	システム情報更新 (UPDSYSINF) コマンド、UPDSYSINF の構文図
V	トップに戻る
	構成変更 (VRYCFG) コマンド、VRYCFG の構文図
	APPC 接続検査 (APING) コマンド、APING の構文図
	APPC 接続検査 (VFYAPPCNN) コマンド、VFYAPPCNN の構文図
	通信検査 (VFYCMN) コマンド、VFYCMN の構文図
	▶▶ イメージ・カタログ検査 (VFYIMGCLG) コマンド、VFYIMGCLG の構文図 ◀◀
	LPDA-2 をサポートしているリンクの検査 (VFYLNKLPDA) コマンド、VFYLNKLPDA の構文図
	BRM の使用による移動検査 (VFYMOVBRM) コマンド、VFYMOVBRM の構文図
	NetWare 認証項目検査 (VFYNTWAUTE) コマンド、VFYNTWAUTE の構文図
	光ディスク検査 (VFYOPT) コマンド、VFYOPT の構文図

	OptiConnect 接続検査 (VFYOPCCNN) コマンド、VFYOPCCNN の構文図
	印刷装置検査 (VFYPRT) コマンド、VFYPRT の構文図
	テープ検査 (VFYTAP) コマンド、VFYTAP の構文図
	TCP/IP 接続検査 (VFYTCPCNN) コマンド、VFYTCPCNN の構文図
W	トップに戻る
	待機 (WAIT) コマンド、WAIT の構文図
	活動ジョブ処理 (WRKACTJOB) コマンド、WRKACTJOB の構文図
	警報記述処理 (WRKALRD) コマンド、WRKALRD の構文図
	警報テーブル処理 (WRKALRTBL) コマンド、WRKALRTBL の構文図
	警報処理 (WRKALR) コマンド、WRKALR の構文図
	APPN 状況処理 (WRKAPPNSTS) コマンド、WRKAPPNSTS の構文図
	ASP 記述処理 (WRKASPBRM) コマンド、WRKASPBRM の構文図
	権限処理 (WRKAUT) コマンド、WRKAUT の構文図
	権限リスト処理 (WRKAUTL) コマンド、WRKAUTL の構文図
	バインド・ディレクトリー処理 (WRKBNDDIR) コマンド、WRKBNDDIR の構文図
	バインド・ディレクトリー項目処理 (WRKBND DIRE) コマンド、WRKBND DIRE の構文図
	BRM の使用によるカレンダー処理 (WRKCALBRM) コマンド、WRKCALBRM の構文図
	変更要求記述処理 (WRKCRQD) コマンド、WRKCRQD の構文図
	図表様式処理 (WRKCHTFMT) コマンド、WRKCHTFMT の構文図
	サービス・クラス記述処理 (WRKCOSD) コマンド、WRKCOSD の構文図
	クラス処理 (WRKCLS) コマンド、WRKCLS の構文図
	BRM の使用によるクラス処理 (WRKCLSBRM) コマンド、WRKCLSBRM の構文図
	コマンド処理 (WRKCMD) コマンド、WRKCMD の構文図
	コミットメント定義処理 (WRKCMTDFN) コマンド、WRKCMTDFN の構文図
	通信サイド情報処理 (WRKCSI) コマンド、WRKCSI の構文図
	構成リスト処理 (WRKCFGL) コマンド、WRKCFGL の構文図
	構成状況処理 (WRKCFGSTS) コマンド、WRKCFGSTS の構文図
	接続リスト項目処理 (WRKCNNLE) コマンド、WRKCNNLE の構文図
	接続リスト処理 (WRKCNL) コマンド、WRKCNL の構文図
	連絡先情報処理 (WRKCNTINF) コマンド、WRKCNTINF の構文図
	BRM の使用によるコンテナ処理 (WRKCNBRM) コマンド、WRKCNBRM の構文図
	BRM の使用による制御グループ処理 (WRKCTLGBRM) コマンド、WRKCTLGBRM の構文図
	制御装置記述処理 (WRKCTLD) コマンド、WRKCTLD の構文図
	データ域処理 (WRKDTAARA) コマンド、WRKDTAARA の構文図
	データ定義処理 (WRKDTADFN) コマンド、WRKDTADFN の構文図
	データ・ディクショナリー処理 (WRKDTADCT) コマンド、WRKDTADCT の構文図
	データ待ち行列処理 (WRKDTAQ) コマンド、WRKDTAQ の構文図
	IDDU の使用によるデータベース・ファイル処理 (WRKDBFIDD) コマンド、WRKDBFIDD の構文図
	装置記述処理 (WRKDEV D) コマンド、WRKDEV D の構文図
	装置テーブル処理 (WRKDEVTBL) コマンド、WRKDEVTBL の構文図
	BRM の使用による装置処理 (WRKDEVBRM) コマンド、WRKDEVBRM の構文図
	ディレクトリー項目処理 (WRKDIRE) コマンド、WRKDIRE の構文図

ディレクトリー位置処理 (WRKDIRLOC) コマンド、WRKDIRLOC の構文図
ディレクトリー・シャドー・システム処理 (WRKDIRSHD) コマンド、WRKDIRSHD の構文図
ディスク状況処理 (WRKDSKSTS) コマンド、WRKDSKSTS の構文図
分散データ管理ファイル処理 (WRKDDMF) コマンド、WRKDDMF の構文図
配布カタログ項目処理 (WRKDSTCLGE) コマンド、WRKDSTCLGE の構文図
配布リスト処理 (WRKDSTL) コマンド、WRKDSTL の構文図
配布待ち行列処理 (WRKDSTQ) コマンド、WRKDSTQ の構文図
文書ライブラリー処理 (WRKDOCLIB) コマンド、WRKDOCLIB の構文図
文書印刷待ち行列処理 (WRKDOCPTQ) コマンド、WRKDOCPTQ の構文図
文書処理 (WRKDOC) コマンド、WRKDOC の構文図
DSNX/PC 配布待ち行列処理 (WRKDPCQ) コマンド、WRKDPCQ の構文図
編集記述処理 (WRKEDTD) コマンド、WRKEDTD の構文図
環境変数処理 (WRKENVVAR) コマンド、WRKENVVAR の構文図
ファイル処理 (WRKF) コマンド、WRKF の構文図
フィルター処置項目処理 (WRKFTRACNE) コマンド、WRKFTRACNE の構文図
フィルター選択項目処理 (WRKFTRSLTE) コマンド、WRKFTRSLTE の構文図
フィルター処理 (WRKFTR) コマンド、WRKFTR の構文図
フォルダー処理 (WRKFLR) コマンド、WRKFLR の構文図
フォント資源処理 (WRKFNTRSC) コマンド、WRKFNTRSC の構文図
用紙定義処理 (WRKFORMDF) コマンド、WRKFORMDF の構文図
機能領域処理 (WRKFCNARA) コマンド、WRKFCNARA の構文図
グラフィック記号セット処理 (WRKGSS) コマンド、WRKGSS の構文図
ハードウェア資源処理 (WRKHDWRSC) コマンド、WRKHDWRSC の構文図
保留状態の光ディスク・ファイル処理 (WRKHLDOPTF) コマンド、WRKHLDOPTF の構文図
ジョブ・スケジューラーの使用によるヒストリー処理 (WRKHSTJS) コマンド、WRKHSTJS の構文図
HTTP 構成処理 (WRKHTTPCFG) コマンド
▶ イメージ・カタログ項目処理 (WRKIMGCLGE) コマンド、WRKIMGCLGE の構文図 ◀
IPX 記述処理 (WRKIPXD) コマンド、WRKIPXD の構文図
ジョブ処理 (WRKJOB) コマンド、WRKJOB の構文図
ジョブ記述処理 (WRKJOB) コマンド、WRKJOB の構文図
ジョブ待ち行列処理 (WRKJOBQ) コマンド、WRKJOBQ の構文図
ジョブ・スケジュール項目処理 (WRKJOBSCDE) コマンド、WRKJOBSCDE の構文図
ジョブ・スケジューラーの使用によるジョブ処理 (WRKJOBJS) コマンド、WRKJOBJS の構文図
ジャーナル処理 (WRKJRN) コマンド、WRKJRN の構文図
ジャーナル属性処理 (WRKJRNA) コマンド、WRKJRNA の構文図
ジャーナル・レシーバー処理 (WRKJRNRCV) コマンド、WRKJRNRCV の構文図
LAN アダプター処理 (WRKLANADPT) コマンド、WRKLANADPT 構文図
ライブラリー処理 (WRKLIB) コマンド、WRKLIB の構文図
ライセンス情報処理 (WRKLICINF) コマンド、WRKLICINF の構文図
回線記述処理 (WRKLIND) コマンド、WRKLIND の構文図
リンク情報処理 (WRKLNKBRM) コマンド、WRKLNKBRM の構文図

BRM の使用によるリスト処理(WRKLB RM) コマンド、WRKLB RM の構文図
BRM の使用による場所処理 (WRKLOCBRM) コマンド、WRKLOCBRM の構文図
媒体情報処理 (WRKMEDIBRM) コマンド、WRKMEDIBRM の構文図
BRM の使用による媒体ライブラリー処理 (WRKMLBBRM) コマンド、WRKMLBBRM の構文図
媒体ライブラリー媒体処理 (WRKMLMBRM) コマンド、WRKMLMBRM の構文図
媒体ライブラリー資源待ち行列処理 (WRKMLBRSCQ) コマンド、WRKMLBRSCQ の構文図
媒体ライブラリー状況処理 (WRKMLBSTS) コマンド、WRKMLBSTS の構文図
BRM の使用による媒体処理 (WRKMEDBRM) コマンド、WRKMEDBRM の構文図
メニュー処理 (WRKMNU) コマンド、WRKMNU の構文図
メッセージ記述処理 (WRKMSGD) コマンド、WRKMSGD の構文図
メッセージ・ファイル処理 (WRKMSGF) コマンド、WRKMSGF の構文図
メッセージ待ち行列処理 (WRKMSGQ) コマンド、WRKMSGQ の構文図
メッセージ処理 (WRKMSG) コマンド、WRKMSG の構文図
BRM の使用による移行情報処理 (WRKMGRIBRM) コマンド、WRKMGRIBRM の構文図
モード記述処理 (WRKMODD) コマンド、WRKMODD の構文図
モジュール処理 (WRKMOD) コマンド、WRKMOD の構文図
NetBIOS 記述処理 (WRKNTBD) コマンド、WRKNTBD の構文図
NetWare 認証項目処理 (WRKNTWAUTE) コマンド、WRKNTWAUTE の構文図
NetWare ボリューム処理 (WRKNTWVOL) コマンド、WRKNTWVOL の構文図
ネットワーク・ファイル処理 (WRKNETF) コマンド、WRKNETF の構文図
ネットワーク・インターフェース記述処理 (WRKNWID) コマンド、WRKNWID の構文図
ネットワーク・ジョブ項目処理 (WRKNETJOB E) コマンド、WRKNETJOB E の構文図
ネットワーク・サーバー記述処理 (WRKNWSD) コマンド、WRKNWSD の構文図
ネットワーク・サーバー状況処理 (WRKNWSSTS) コマンド、WRKNWSSTS の構文図
ネットワーク・サーバー記憶域処理 (WRKNWSSTG) コマンド、WRKNWSSTG の構文図
ネットワーク・サーバー・ユーザー登録処理 (WRKNWSENR) コマンド、WRKNWSENR の構文図
ネットワーク・テーブル項目処理 (WRKNETTBLE) コマンド、WRKNETTBLE の構文図
ニックネーム処理 (WRKNCK) コマンド、WRKNCK の構文図
ノード・リスト項目処理 (WRKNODLE) コマンド、WRKNODLE の構文図
ノード・リスト処理 (WRKNODL) コマンド、WRKNODL の構文図
オブジェクト・リンク処理 (WRKLNK) コマンド、WRKLNK の構文図
オブジェクト・ロック処理 (WRKOBJLCK) コマンド、WRKOBJLCK の構文図
オブジェクト処理 (WRKOBJ) コマンド、WRKOBJ の構文図
所有者によるオブジェクト処理 (WRKOBJOWN) コマンド、WRKOBJOWN の構文図
基本グループによるオブジェクト処理 (WRKOBJPGP) コマンド、WRKOBJPGP の構文図
光ディスク・ディレクトリー処理 (WRKOPTDIR) コマンド、WRKOPTDIR の構文図
光ディスク・ファイル処理 (WRKOPTF) コマンド、WRKOPTF の構文図
光ディスク・ボリューム処理 (WRKOPTVOL) コマンド、WRKOPTVOL の構文図
OptiConnect 活動処理 (WRKOPCACT) コマンド、WRKOPCACT の構文図
発注情報処理 (WRKORDINF) コマンド、WRKORDINF の構文図
発注要求処理 (WRKORDRQS) コマンド、WRKORDRQS の構文図
出力待ち行列記述処理 (WRKOUTQD) コマンド、WRKOUTQD の構文図

出力待ち行列処理 (WRKOUTQ) コマンド、WRKOUTQ の構文図
オーバーレイ処理 (WRKOVL) コマンド、WRKOVL の構文図
ページ定義処理 (WRKPAGDFN) コマンド、WRKPAGDFN の構文図
ページ・セグメント処理 (WRKPAGSEG) コマンド、WRKPAGSEG の構文図
パネル・グループ処理 (WRKPNLGRP) コマンド、WRKPNLGRP の構文図
▶ Performance Explorer 定義処理 (WRKPEXDFN) コマンド、WRKPEXDFN の構文図 ◀
▶ Performance Explorer フィルター処理 (WRKPEXFTR) コマンド、WRKPEXFTR の構文図 ◀
物理ファイル制約処理 (WRKPF CST) コマンド、WRKPF CST の構文図
物理ファイル・データ・リンク処理 (WRKPF DL) コマンド、WRKPF DL の構文図
2 地点間 TCP/IP 処理 (WRKTC PPTP) コマンド、WRKTC PPTP の構文図
BRM の使用によるポリシー処理 (WRKPCYBRM) コマンド、WRKPCYBRM の構文図
印刷サービス機能構成処理 (WRKPSFCFG) コマンド、WRKPSFCFG の構文図
印刷状況処理 (WRKPRTSTS) コマンド、WRKPRTSTS の構文図
問題処理 (WRKPRB) コマンド、WRKPRB の構文図
プロダクト情報処理 (WRKPRDINF) コマンド、WRKPRDINF の構文図
プログラム・テーブル処理 (WRKPGMTBL) コマンド、WRKPGMTBL の構文図
プログラム処理 (WRKPGM) コマンド、WRKPGM の構文図
プロトコル・テーブル項目処理 (WRKPCLTBLE) コマンド、WRKPCLTBLE の構文図
PTF 処理 (WRKPTF) コマンド、WRKPTF の構文図
▶ PTF グループ処理 (WRKPTFGRP) コマンド、WRKPTFGRP の構文図 ◀
QUERY 管理機能書式処理 (WRKQMFORM) コマンド、WRKQMFORM の構文図
QUERY 管理機能プログラム処理 (WRKQMQR Y) コマンド、WRKQMQR Y の構文図
質問処理 (WRKQST) コマンド、WRKQST の構文図
読み取りプログラム処理 (WRKRDR) コマンド、WRKRDR の構文図
受信済み変更要求活動処理 (WRKRVCVCRQA) コマンド、WRKRVCVCRQA の構文図
回復活動処理 (WRKR CYBRM) コマンド、WRKR CYBRM の構文図
登録情報処理 (WRKREGINF) コマンド、WRKREGINF の構文図
リレーショナル・データベース・ディレクトリー項目処理 (WRKRDBDIRE) コマンド、WRKRDBDIRE の構文図
リモート定義処理 (WRKRMTDFN) コマンド、WRKRMTDFN の構文図
ROUTED 構成の処理 (WRKRTDCFG) コマンド、WRKRTDCFG の構文図
BRM の使用による保管ファイル処理 (WRKSAVFBRM) コマンド、WRKSAVFBRM の構文図
BRM の使用による保管フォルダー処理 (WRKFLRBRM) コマンド、WRKFLRBRM の構文図
BRM の使用による保管オブジェクト処理 (WRKOBJBRM) コマンド、WRKOBJBRM の構文図
保管スプール・ファイル処理 (WRKSPLFBRM) コマンド、WRKSPLFBRM の構文図
検索見出し項目処理 (WRKSCHIDX E) コマンド、WRKSCHIDX E の構文図
検索見出し処理 (WRKSCHIDX) コマンド、WRKSCHIDX の構文図
サービス・プログラム処理 (WRKSRVPGM) コマンド、WRKSRVPGM の構文図
サービス提供元処理 (WRKSRVPVD) コマンド、WRKSRVPVD の構文図
サービス要求元処理 (WRKSRVRQS) コマンド、WRKSRVRQS の構文図
サービス・テーブル項目処理 (WRKSRVTBLE) コマンド、WRKSRVTBLE の構文図
共用記憶域プール処理 (WRKSHRPOOL) コマンド、WRKSHRPOOL の構文図

▶ ソフトウェア契約処理 (WRKSFWAGR) コマンド、WRKSFWAGR の構文図 ◀
スペル援助ディクショナリー処理 (WRKSPADCT) コマンド、WRKSPADCT の構文図
制御範囲処理 (WRKSOC) コマンド、WRKSOC の構文図
スプール・ファイル属性処理 (WRKSPLFA) コマンド、WRKSPLFA の構文図
スプール・ファイル処理 (WRKSPLF) コマンド、WRKSPLF の構文図
投入変更要求処理 (WRKSBMCRQ) コマンド、WRKSBMCRQ の構文図
投入変更要求活動処理 (WRKSBMCRQA) コマンド、WRKSBMCRQA の構文図
投入ジョブ処理 (WRKSBMJOB) コマンド、WRKSBMJOB の構文図
サブシステム記述処理 (WRKSBSD) コマンド、WRKSBSD の構文図
サブシステム・ジョブ処理 (WRKSBSJOB) コマンド、WRKSBSJOB の構文図
サブシステム処理 (WRKSBS) コマンド、WRKSBS の構文図
サポート・プロダクト処理 (WRKSPTPRD) コマンド、WRKSPTPRD の構文図
システム活動処理 (WRKSYSACT) コマンド、WRKSYSACT の構文図
システム応答リスト項目処理 (WRKRPYLE) コマンド、WRKRPYLE の構文図
システム状況処理 (WRKSYSSTS) コマンド、WRKSYSSTS の構文図
システム値処理 (WRKSYSVAL) コマンド、WRKSYSVAL の構文図
システム /36 処理 (WRKS36) コマンド、WRKS36 の構文図
システム /36 プロシーチャー属性処理 (WRKS36PRCA) コマンド、WRKS36PRCA の構文図
システム /36 プログラム属性処理 (WRKS36PGMA) コマンド、WRKS36PGMA の構文図
システム /36 ソース属性処理 (WRKS36SRCA) コマンド、WRKS36SRCA の構文図
テーブル処理 (WRKTBL) コマンド、WRKTBL の構文図
テープ・カートリッジ処理 (WRKTAPCTG) コマンド、WRKTAPCTG の構文図
TCP/IP ネットワーク状況処理 (WRKTCPSTS) コマンド、WRKTCPSTS の構文図
技術情報交換処理 (WRKTIE) コマンド、WRKTIE の構文図
Ultimedia システム機能接続項目処理 (WRKUSFCNNE) コマンド、WRKUSFCNNE の構文図
Ultimedia システム機能装置項目処理 (WRKUSFDEVE) コマンド、WRKUSFDEVE の構文図
Ultimedia システム機能サーバー項目処理 (WRKUSFSVRE) コマンド、WRKUSFSVRE の構文図
ユーザー・ジョブ処理 (WRKUSRJOB) コマンド、WRKUSRJOB の構文図
ユーザー・プロファイル処理 (WRKUSRPRF) コマンド、WRKUSRPRF の構文図
ユーザー・テーブル処理 (WRKUSRTBL) コマンド、WRKUSRTBL の構文図
書き出しプログラム処理 (WRKWTR) コマンド、WRKWTR の構文図

CL の概念および参照情報

このセクションでは、制御言語 (CL) の概念について説明し、制御言語 (CL) コマンドを使用する際に必要な参照情報を提供します。

- 『コマンド』
- 149 ページの『OS/400 オブジェクト』
- 158 ページの『一般に使用されるパラメーター: 補足説明』
- 189 ページの『CL コマンドで使用されるデータベースおよび装置ファイル』
- 247 ページの『サーバーでのコマンド記述の印刷』

コマンド

制御言語 (CL) コマンドを使用して、システム機能を要求することができます。コマンドの概念については、以下を参照してください。

- 『コマンド名』
- 48 ページの『OS/400 オブジェクトを処理するコマンド』
- 48 ページの『複数のオブジェクトを処理するコマンド』
- 49 ページの『コマンドの記述形式』
- 50 ページの『構文図の形式』
- 60 ページの『コマンドの構成要素』
- 76 ページの『CL プログラム』
- 93 ページの『コマンド定義ステートメント』
- 147 ページの『テストおよびデバッグに使用するパラメーター値』

コマンド名

コマンド名は、動詞およびその対象となるオブジェクトを組み合わせたものです (コマンド = 動詞 + 対象となるオブジェクト)。たとえば、ライブラリーは、作成、削除、または表示することができることから、各動詞の略である CRT、DLT、および DSP が、ライブラリーの略である LIB と組み合わせられます。したがって、ライブラリーを処理できる 3 つのコマンドは、CRTLIB、DLTLIB、および DSPLIB です。

動詞およびその対象となるオブジェクトを組み合わせて名前とする規則は、以下のとおりです。

- 第 1 の規則として、上記のようにコマンドの記述名を構成する各語からそれぞれ 3 文字をとり、それを、システムが認識できる省略コマンド名として使用します。
- 第 2 の規則として、コマンド・タイトルの最後の 1 語または複数の語から 1 文字ずつ取り、それをコマンド名の終わりに使用します。たとえば、DLTDLO (Delete Document Library Object (文書ライブラリー・オブジェクト削除)) コマンドでは、3 つの文字 DLO が加えられています。
- ただし、いくつかの例外もあり、語を代表する文字がいくつか、コマンド名の中央で使用される場合があります (通常、3 文字の動詞と目的語の間)。たとえば、CRTCLPGM (Create CL Program (CL プログラム作成)) コマンドでは、文字 CL が使用されています。

MOV (移動) または DATA (データ) コマンドのように動詞のみ、またはオブジェクトのみで構成されているコマンド名もあります。

コマンド (およびキーワード) 名に使用されるすべての省略形の完全なリストについては、OBJTYPE パラメーターを含むコマンドで使用されるオブジェクト・タイプ (176 ページ) の表を参照してください。

OS/400 コマンド名が付いたコマンドもいくつかありますが、OS/400 システム以外のシステムを使用しているユーザーは、1 つ以上の使い慣れた代替名で呼ぶこともできます。代替名は、**別名**とも呼ばれます。たとえば、CD は CHGCURDIR (現行ディレクトリー変更) コマンドの別名です。このトピックでは、OS/400 コマンドの完全なコマンド記述または完全なコマンド記述を表すコマンド名の参照とともに、別名が記載されています。

OS/400 オブジェクトを処理するコマンド

OS/400 の各オブジェクト・タイプには、そのオブジェクト・タイプを処理する 1 組のコマンドがあります。ほとんどの OS/400 オブジェクト・タイプには、次の作業を実行するコマンドがあります。

- 作成 (CRT): オブジェクトを作成し、その属性を指定します。
- 削除 (DLT): システムからオブジェクトを削除します。
- 変更 (CHG): オブジェクトの属性や内容を変更します。
- 表示 (DSP): オブジェクトの内容を表示します。表示コマンドは、オブジェクトの処理には使用できません。
- 処理 (WRK): オブジェクトの属性や内容を処理します。表示コマンドの場合と異なり、処理コマンドではオブジェクトを操作しアプリケーションを変更することができます。

詳細については、『複数のオブジェクトを処理するコマンド』を参照してください。

複数のオブジェクトを処理するコマンド

単一のオブジェクト・タイプに対して機能するコマンドに加えて、複数のオブジェクト・タイプに対して機能するコマンドもあります。これらのコマンドは、異なるタイプの複数のオブジェクトを同時に扱えるので、より強力です。例を以下に示します。

- オブジェクト記述表示 (DSPOBJD): オブジェクトの共通属性を表示します。
- オブジェクト移動 (MOV OBJ): オブジェクトをあるライブラリーから別のライブラリーへ移します。
- オブジェクト名変更 (RNMOBJ): オブジェクトの新しい名前を指定します。
- オブジェクト保管 (SAVOBJ): オブジェクトとその内容を、ディスケット、テープ、光メディア、または保管ファイルに保管します。
- オブジェクト復元 (RSTOBJ): 保管バージョンのオブジェクトをディスケット、テープ、光メディア、または保管ファイルから復元します。

次の表に、多くのオブジェクト・タイプに対して機能するコマンドを示します。一部のコマンド (オブジェクト移動 (MOV OBJ) コマンドなど) では、一度に処理できるオブジェクトは 1 つのみですが、そのオブジェクトは任意のタイプの OS/400 オブジェクトとすることが可能です。たとえば、MOV OBJ コマンドは、ファイルを移動することもジョブ記述を移動することもできます。

表 1. 複数のオブジェクト・タイプを処理するコマンド

対象	識別コード	処置
オブジェクト	OBJ	ALC、CHK、CPR、DCP、DLC、DMP、MOV、RNM、RST、SAV、WRK、CRTDUP、SAVCHG
オブジェクト・アクセス	OBJACC	SET
オブジェクト監査	OBJAUD	CHG
オブジェクト権限	OBJAUT	DSP、EDT、GRT、RVK
オブジェクト記述	OBJD	DSP
オブジェクト整合	OBJITG	CHK
オブジェクト・ロック	OBJLCK	WRK

対象	識別コード	処置
オブジェクト所有者	OBJOWN	CHG、WRK
オブジェクト 1 次グループ	OBJPGP	CHG、WRK


また、175 ページの『OBJTYPE パラメーター』の『OBJTYPE パラメーターを含むコマンドで使用するオブジェクト・タイプ (176 ページ)』の表を参照することで、これらの複数オブジェクト・コマンドが特定のオブジェクト・タイプにどのように影響を与えるかを調べることができます。

詳細については、48 ページの『OS/400 オブジェクトを処理するコマンド』を参照してください。

コマンドの記述形式

各コマンドの記述は同じ形式に従っており、以下に説明する構成要素を持っています。

コマンドは iSeries 400 のオブジェクトであるため、各コマンドは、特定のユーザーに対してのみその使用権限を与えることも、共通認可ユーザー (何らかの形でシステムを使用する権限が与えられているすべてのユーザー) に対して使用権限を与えることも可能である点に注意してください。これはほぼすべてのコマンドについて当てはまるため、各コマンドの記述の項では触れません。IBM 提供のユーザー・プロファイル

およびそれぞれに認可されるコマンドについての追加情報は、「iSeries 機密保護解説書」 を参照してください。

コマンド構文

コマンド構文は、構文図の形式で表現されています。構文図には、コマンドで使用できるパラメーターおよび値がすべて示されています。パラメーターは、必ずコーディングしなければならないもの (必須パラメーター) と、必要に応じてコーディングすればよいもの (オプション・パラメーター) の 2 つのグループに分かれます。省略時値は、基線の上の位置に示されています。省略時値は、ユーザーがパラメーター (またはその一部) をコーディングしなかった場合、システムにより使用される値です。

50 ページの『構文図の形式』のトピックでは、コマンド構文についてさらに詳しく説明しています。

コマンドの記述

コマンドの一般的説明 (「目的」という見出しの項) では、コマンドの機能およびコマンドとプログラムや他のコマンドとの関係について簡潔に説明しています。コマンドに使用上の制約があれば、「制約条件」の項で説明します。

パラメーターの記述

本文中では、各パラメーターは、構文図に示されている順序で提示されます。構文図には、値を定位置に指定する場合 (すなわち、キーワードを使用しない場合) の指定順序にしたがってパラメーターが示されています。1 つのパラメーターに複数の値がある場合には、それらの値も構文図の中の順序に従って記述されています。省略時値があれば、それが常に最初に示され、省略時値であることがわかるように見出しには下線が付けられています。

各パラメーターの説明では、パラメーターの意味、指定する値、およびコマンドの他のパラメーターとの従属関係が説明されています。パラメーターに複数の値がある場合には、パラメーター全体に適用される情報を先に示し、その後、各値についての個別の情報を値の名前ごとに記述してあります。

コマンドのコーディング例

パラメーターのある各コマンドの記述には、コーディング例が少なくとも 1 つは示されています。パラメーター数が多く論理的な組み合わせがいくつかあるコマンドの場合には、必要に応じて複数のコーディング例が示されています。

分りやすくするために、どの例もキーワード形式でのみコーディングしてあります。同じ例を、定位置形式または定位置形式とキーワード形式の組み合わせを使用してコーディングすることもできます。

コマンドに関するその他の考慮事項

コマンドによっては、コーディング例の次に「追加の考慮事項」が示されている場合があります。該当のコマンドに関して役立つ補足情報がこの項に示されています。

構文図の形式

各コマンドの構文図は、コマンドとそのパラメーターおよび値を、どのようにプログラムに入力するかを示します。コマンドはバッチ方式で入力することも、対話方式でコマンド入力行に入力することもできます。

構文図の形式については、以下のトピックを参照してください。

- 『構文図の見方』では、構文図を読む上で必要な基本的な規則に関して、簡単に説明しています。
- 51 ページの『構文図によるコマンド構造の表示方法』では、構文図が CL コマンドの構造をどのように表しているかについて、より詳しく説明しています。
- 51 ページの『構文図の規則』では、図を使用して、構文図における両方の規則について説明しています。

特定のコマンドの構文図を表示するには、ナビゲーション・バーにある 4 ページの『コマンドのアルファベット順リスト』または 3 ページの『CL コマンド検索プログラム』のトピックを参照してください。

構文図の見方

構文図には、各 CL コマンドで使用するパラメーターおよび値が示されています。個々の構文図は、1 つのコマンドについて、そのコマンドにコーディングできるパラメーターおよび各パラメーターおよび選択できる値を示すものです。構文図および構文図がコマンド構造をどのように表しているかに関する詳細な説明については、51 ページの『構文図によるコマンド構造の表示方法』を参照してください。以下に、構文図の個々の部分とその見方を説明します。

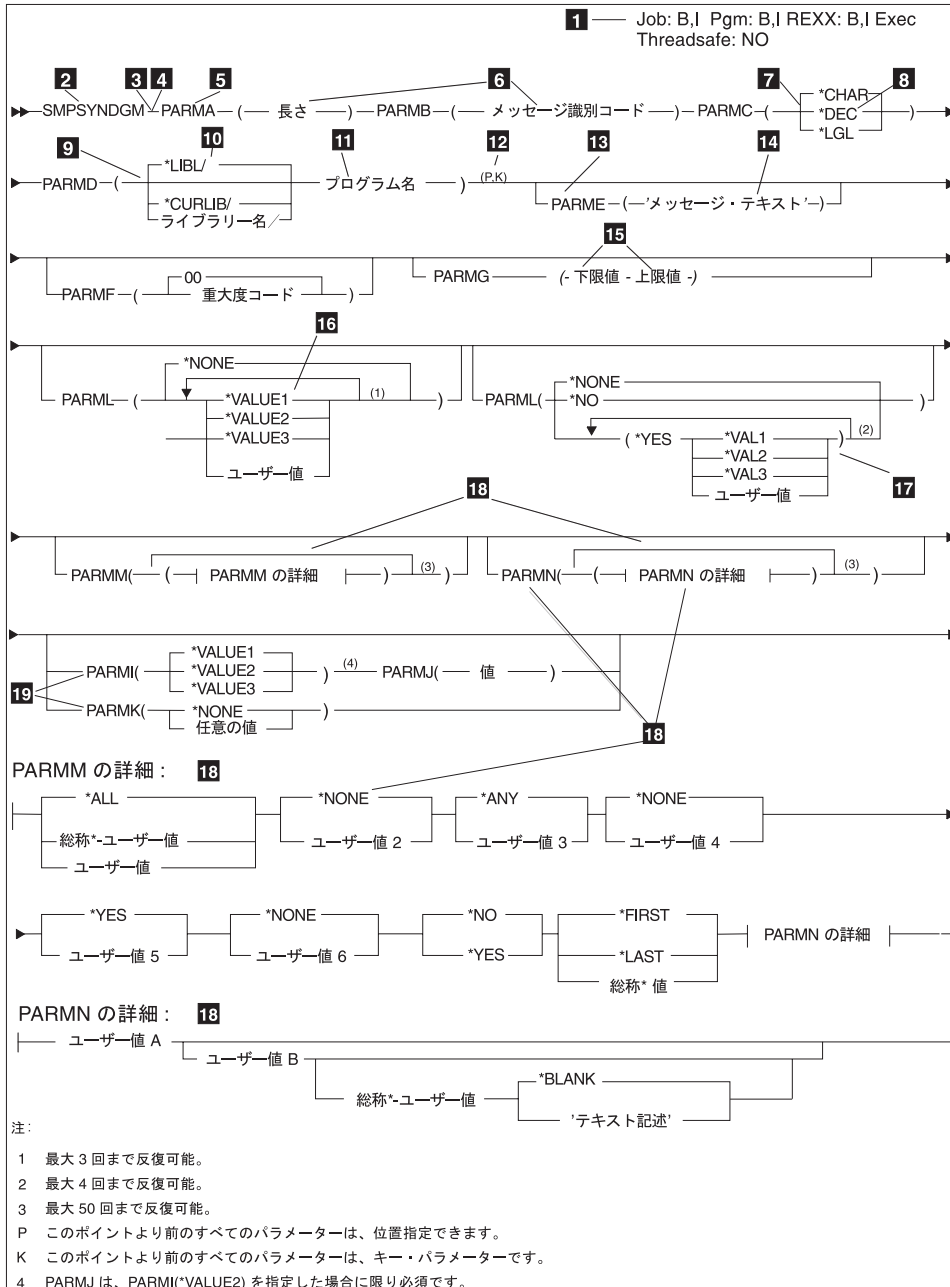
- >>— は始め を示し、—<< は終わりを示します。始めの矢印と終わりの矢印があるこの線が、構文の基線です。
- パラメーター・キーワード を入力する場合には、その**事前定義値** (* または Q で始まる値) または**ユーザー定義値**を、以下に示すように括弧で囲んで入力しなければなりません。

```
>>-KEYWORD(-----+*VALUE1-----+--)------<<
                +-*VALUE2-----+
                '-ユーザー定義値-----'
```

- 必須パラメーター は指定しなければなりません。必須パラメーターは、パラメーター・キーワードとともに基線上に示されています。

オプション・パラメーター は入力してもしなくても構いません。オプション・パラメーターは、パラメーター・キーワードとともに基線の下に示されています。

次の例では、KEYWORD1 とその値は入力しなければなりません、KEYWORD2 は入力しなくても構いません。



CL コマンドの構文図は、次の規則に従って解釈されます。

(1) 入力コード (バッチおよび対話式)

各構文図の右上に、そのコマンドを入力できる環境を示す入力コードがあります。入力コードは次のことを示します。

- このコマンドをジョブ (Job:B または I、もしくは B と I の両方) 内で使用できる (コンパイル済みプログラムの外部で)。この場合には、コマンドは、ジョブ内の独立したエンティティと見なされ、いわゆる解釈モードで別個の機能として単独で実行されます。つまり、コンパイル済みプログラムに入っていないバッチ・モード・ジョブまたは対話式ジョブ内のこのコマンドは、一度に 1 つずつ、順次解釈され実行されます。ジョブ内で解釈された 1 つのコマンドの機能が実行され、それが完了してから、次のコマンドが解釈されます。

- このコマンドをコンパイル済みプログラム (Pgm:B または I、もしくは B と I の両方) で使用できる。この場合、このコマンドはプログラムの一部です。このコマンドはプログラムの残りの部分とともにコンパイルされた形になり、コマンドの実行は、プログラムが呼び出される時点、およびコマンドの前のプログラムの論理に応じて決まります。つまり、コンパイルされたコマンドは、それが入っているプログラムを実行しない限り実行できません。
- このコマンドを CL ILE モジュール (Mod: B または I、もしくは B と I の両方) でのみ使用できる。
- このコマンドを REXX プロシージャ (REXX: B または I、もしくは B と I の両方) で使用できる。この場合、このコマンドは REXX プロシージャの一部です。このコマンドの実行は、REXX プロシージャ開始 (STRREXPRC) コマンドにより、REXX プロシージャを開始する時点によって左右されます。つまり、このコマンドが入っているプロシージャが開始されない限り、このコマンドは実行できません。

入力コードの組み合わせとその意味は、次の表のとおりです。

表 9. 入力コード (バッチおよび対話式)

コード	説明	意味
Job:B	バッチ・ジョブ	コンパイル済み CL プログラムの外部のバッチ入力ストリームで有効。
Job:I	対話式ジョブ	コンパイル済み CL プログラムの外部の対話式入力の場合に有効。
Job:B,I	バッチ・ジョブおよび対話式ジョブ	コンパイル済み CL プログラムの外部のバッチ入力および対話式入力の場合に有効。
Pgm:B	プログラム、バッチ	バッチ入力から呼び出されたコンパイル済み CL プログラムで有効。
Pgm:I	プログラム、対話式	対話式入力から呼び出されたコンパイル済み CL プログラムで有効。
Pgm:B,I	プログラム、バッチおよび対話式	バッチ入力または対話式入力から呼び出されたコンパイル済み CL プログラムで有効。
Mod:B	モジュール、バッチ	バッチ CL ILE モジュールでのみ有効。
Mod:I	モジュール、対話式	対話式 CL ILE モジュールでのみ有効。
Mod:B,I	モジュール、バッチおよび対話式	バッチまたは対話式入力から呼び出された CL ILE モジュールで有効。
REXX:B	REXX、バッチ	バッチ入力から呼び出された REXX プロシージャで有効。
REXX:I	REXX、対話式	対話式入力から呼び出された REXX プロシージャで有効。
REXX:B,I	REXX、バッチおよび対話式	バッチ入力または対話式入力から呼び出された REXX プロシージャで有効。
Exec	QCAPCMD および QCMDXC 処理	文字ストリングとして、システム・プログラム QCAPCMD および QCMDXC に渡す CALL コマンドのパラメーターとして有効。

スレッド・セーフ (保証、条件付き、非保証)

各構文の右上に挿入された枠には、コマンドがスレッド・セーフであるかどうかを示されています。本書の各コマンドにはスレッド・セーフの分類があります。スレッド・セーフの分類の 3 つのタイプを以下に示します。

- **Threadsafe: Yes**

この分類のコマンドは、制約なしで同時に複数のスレッドから安全に呼び出すことができます。また、この分類のコマンドによって呼び出された機能も、すべてスレッド・セーフです。

- **Threadsafe: Conditional**

この分類は、コマンドの提供する機能が必ずしもすべてスレッド・セーフではないことを示しています。コマンドの制約条件の項には、スレッド・セーフの制限に関する情報が記載されています。多くのコマンドは、下位のシステム・サポートのいくつかがスレッド・セーフではなかったり、出口点を呼び出したりできるため、条件付きスレッド・セーフに分類されます。条件付きスレッド・セーフのコマンドの中には、状況によってはアクセスが拒否されるものもあります。コマンドの制約条件の項には、コマンドがアクセスを拒否する原因となる条件が記載されています。

- **Threadsafe: No**

この分類のコマンドはスレッド・セーフでないため、マルチスレッド化されたプログラムで使用してはなりません。スレッド・セーフではないコマンドの中には、アクセスを拒否するものもありますが、スレッド・セーフでないコマンドのほとんどはアクセスを拒否しません。診断メッセージ CPD000D がジョブ・ログに送信され、非スレッド・セーフのコマンドが呼び出されたことが示される場合があります。診断メッセージ CPD000D がジョブ・ログに送信されるかどうかは、そのコマンドの「マルチスレッド・ジョブ・アクション」属性によって決まります。この属性は、コマンド表示 (DSPCMD) コマンドを使用して判別することができます。指定可能な値および実行可能な処置は次のとおりです。

- *SYSVAL - システム値 QMLTTHDACN に基づいた処置が行われます。
- *RUN - コマンドが実行されます。メッセージは送信されません。
- *MSG - 診断メッセージ CPD000D がジョブ・ログに送信されます。コマンドは実行されます。
- *NORUN - 診断メッセージ CPD000D がジョブ・ログに送信され、エスケープ・メッセージ CPF0001 が送信されます。コマンドは実行されません。

このコマンドは、実行されても予測できない結果を生じます。

(2) コマンド名

コマンド名は、構文図の最初に示されています。構文図例では、架空のコマンドの名前として SMPSYNDGM が示されています。

(3) コマンド・ラベル

コーディングされたコマンドにはすべて、前にラベルを付けることができます (オプション)。したがって、ラベルは構文図には示されていません。ラベルを使用する場合には、ラベル名の最後の文字の直後にコロンの (:) を付けなければなりません。

(4) パラメーターの順序

コマンドのすべてのパラメーターは、定位置コーディング限界点まで、定位置入力の場合の正しい順序で示されます (規則 12 を参照してください)。この順序は、各行の左から右へと進み、次の行へと続きます。構文図例では、パラメーターの位置順序を示すために、サンプル・パラメーターのキーワード名は、PARMA、PARMB のようにアルファベット順になっています。この名前の順序は、このコマンドが実際にあったとして、パラメーターを定位置形式でコーディングする場合に従わなければならない順序と、同じ順序になっています。

注: まれに、従属パラメーター関係が示されている場合 (規則 (19) を参照)、定位置パラメーターの順序が明確には分からないことがあります。しかし、パラメーターの順序は、構文図の注に示されており、また、コマンドのすべてのパラメーターは本文中で定位置入力の順序に従って記述されているため、本文により容易に判断できます。

パラメーターを定位置形式でコーディングする場合には、構文図に示されている順序に従って入力しなければなりません。あるパラメーターをコーディングしないで、別の定位置パラメーターをその後にコーディングする場合には、途中でコーディングされていない定位置パラメーターがあることを示すために、*N を入力しなければなりません。

パラメーターにキーワードをその値とともにコーディングする場合 (規則 (5) を参照)、または 1 つのパラメーターに複数の値がある場合 (規則 (17) を参照) には、該当の各パラメーターに括弧をコーディングしなければなりません。

(5) パラメーター・キーワード

各パラメーターは、そのキーワードが最初に示され、次にパラメーター値が示されます。パラメーター・キーワードには大文字を使用します。コーディング時に小文字で入力しても、システムで大文字に変換されます。

パラメーターをキーワード形式でコーディングする場合は、次に示すようにそのパラメーターに関連付ける値を括弧で囲まなければなりません。

```
>>-PARMA(---長さ---)-----<<
```

このパラメーターは次のようにコーディングします。

```
PARMA(15)
```

(6) ユーザー定義値

ユーザー定義値には、ユーザーがコーディングする値の内容が日本語で示されます。次の例を参照してください。

```
>>-PARMB(---メッセージ識別コード---)-----<<
```

(7) 選択可能値

選択できる値が複数あり、そのうち 1 つのみを指定する (パラメーター・キーワードの後に括弧で囲んで入力する) ことができるパラメーターの場合には、パラメーター・キーワード (これは基線 上にある) の後の別々の支線 に、選択できる値が示されています。

```
>>-PARMC(----+-*CHAR+--)------<<
          +-*DEC--+
          '-*LGL--'
```

(8) 事前定義値

事前定義値は、そのままコーディングすれば、正しいコーディングになるように記述されています。事前定義値は、通常、* で始まり、その後に大文字のみが続きます。たとえば、*CHAR や *DEC などは事前定義値です。事前定義値には文字 Q で始まるものもあります。たとえば、CRTCLPGM コマンドの SRCFILE パラメーターには、QCLSRC というオプションがあります。

(9) オプション値

値の指定がオプションである場合は、ブランクの線で示されています。

```
          .-*LIBL/-----
>>-PARMD(----+-----+-- プログラム---)-----<<
          +-*CURLIB/-----+
          '-ライブラリー名/-'
```

ブランクの線は、最初のグループ (*LIBL、*CURLIB、およびライブラリー名) 内の値が、次の例のように入力する必要がないことを示しています。

PARMD(CLPGM)

ブランクの線がない場合は、上記のパラメーターは次のように入力しなければなりません。

PARMD(*LIBL/CLPGM) または
PARMD(*CURLIB/CLPGM) または
PARMD(MYLIB/CLPGM)

(10) 省略時値

パラメーターに省略時値がある場合は、省略時値は基線の上側に示されます。上記の PARMD パラメーターでは、*LIBL という値が省略時のライブラリー修飾子です ((9) を参照)。PARMF パラメーターの省略時値は、以下に示すように 00 です。

```
>>+-----+-----+-----<<
    |                |                |
    |  .-00-----  |                |
    | -PARMF(--+-重大度コード--+-)---|
    |                |                |
```

00 が省略時値でなかったとすれば、構文は次のように表されます。

```
>>+-----+-----+-----<<
    | -PARMF(--+-00-----+----)---|
    |                | -重大度コード--|
```

(11) 修飾オブジェクト名

修飾オブジェクト名は、オプション・ライブラリー修飾子のあとにオブジェクト名を続けます。修飾子を指定しなかった場合には、省略時値 (この例では *LIBL) が使用されます。通常、修飾オブジェクト名の省略時値は *LIBL です。すなわち、システムがオブジェクトを見つける際、そのジョブに関連付けられたライブラリー・リストが検索されます。

PARMD の構文図は、プログラム名を修飾形式または非修飾形式で指定できることを示しています。コーディング例については (9) を参照してください。

(12) 定位置コーディング限界点とキー・パラメーター限界点

その範囲まではコマンドのパラメーターを定位置形式でコーディングできることを示す点を、基線上に脚注番号で示してあります。

限界点の脚注より前にあるパラメーターはすべて、キーワードなしで (つまり定位置形式で) コーディングできます。限界点の脚注より後にあるパラメーターはすべて、キーワード形式でコーディングしなければなりません。この限界点を越えてパラメーターを定位置形式でコーディングしようとする、構文エラーが起ります。パラメーターを定位置形式でコーディングできない場合は、限界点の脚注は構文図に示されていないか、またはコマンド名のすぐ後に示されています。

コマンドは、キー・パラメーターを持つこともできます。キー・パラメーターとは、そのコマンドの他のパラメーターにおける実際の値をシステムが決定するために必要な、重要なパラメーターのみを指します。ユーザーがコマンドのプロンプト画面を表示すると、画面にはキー・パラメーターのみが表示されます。キー・パラメーターに値を入力すると、残りのパラメーターが表示されます。このとき、残りのパラメーターには、省略時値 (*SAME、*PRV など) の代わりに実際の値が入っています。

キー・パラメーターには、キー・パラメーター限界点の前にあるすべてのパラメーターが含まれます。キー・パラメーター限界点は、構文図では脚注番号で示されています。キー限界点の脚注が示されていない場合、あるいはキー限界点の脚注がコマンド名のすぐ後に示されている場合には、そのコマンドにキー・パラメーターはありません。

(13) オプション・パラメーターと必須パラメーター

オプション・パラメーターはコーディングしなくても構いません。オプション・パラメーターは、次のように基線の下側に示してあります。

```
>>-+-----+-----<<
  '-PARME(--+-*BLANK-----+---)--'
    '-メッセージ・テキスト'-'
```

これが必須パラメーターであれば、次のように基線上に示されています。

```
>>-PARME(--+-*BLANK-----+---)-----<<
  '-メッセージ・テキスト'-'
```

ほとんどの場合、構文図上で、必須パラメーターはオプション・パラメーターより前に示してあります。

(14) 引用符付きの値

アポストロフィで囲む必要があるユーザー定義値は、構文図でもアポストロフィで囲んで示してあります。アポストロフィが示されるのは、英数字の中に 1 以上の特殊文字が含まれることが多いと考えられる値の場合です。

PARME に指定する値が 2 語以上になる場合、または特殊文字を使用する場合には、値全体をアポストロフィで囲むことが必要です。引用符の付かない文字ストリングでは、単語と単語の間をブランクで区切ることはできません。また、PARMJ に英数字以外の文字を指定するときは、アポストロフィが必要です。

```
PARME('This is a quoted string')
PARME('10-24-78')
PARME(102478)
```

1 番目の値にはブランク (スペース) が、2 番目の値には特殊文字 (-) が含まれているので、これらの値にはアポストロフィが必要です。3 番目の値は区切り文字の入っていない日付であり、アポストロフィは不要です。

(15) 一定順序の値のリスト

一定順序の値のリスト (すなわち、特定の順序で指定しなければならない一連の値) は、次のように示されています。

```
>>-PARMG(---下限値---上限値---)-----<<
```

注: 一定順序の値のリストには、事前定義値が含まれていることもあります ((17) を参照)。

PARMG および PARMJ には、どちらにも、パラメーターのコーディング時に、構文図に示すとおりの順序でコーディングしなければならない 2 つの値のリストが示されています。キーワードを使用しない場合でも、複数の値をコーディングする場合には、その値のリスト全体を括弧で囲むことが必要です。PARMG および PARMJ は、次のようにコーディングします。

```
PARMG(0 16)          PARMJ(1 9999)
```


多数の要素のリストに PARMN の構造を使用すると構文図が複雑になるので、1 つのパラメーターの要素数が 5 つ以上である場合は、PARMM として示されている構造を使用します (サンプル構文図の中の「PARMM の詳細」を参照)。これらの要素はすべてオプションの要素として示されています。ただし、これらの要素も、PARMN の要素と同様に定位置方式で入力しなければなりません。

サンプル構文図の中の「PARMM の詳細」に示すように、部分構文の中に別の部分構文を含めることもできます。「PARMM の詳細」には、すべての要素の定位置コーディングが必要な、PARMN の詳細全体が含まれています。

(19) パラメーターの依存関係

パラメーターまたは値の中には、他のパラメーターまたは値と依存関係にあるものがあります。値に依存するパラメーターは脚注に示してあります。相互に排他的なパラメーターは次の例のように示してあります。

```
>>+-----+<<
|          .-*VALUE1--.          (1) (2)          |
+-PARMI(--+-*VALUE2--+---)--PARMJ(-----値-----)-+
|          '-*VALUE3--'          |
|'-PARMK(--+-*NONE-----+---)------+
|          '-任意の値--'          |
+-----+<<
```

注:

1. PARMJ は、PARMI(*VALUE2) を指定した場合に限り必須です。
2. PARMJ と PARMK は相互に排他的なパラメーターです。つまり、同じコマンドで PARMJ と PARMK を両方ともコーディングすることはできません。脚注に示されているように、PARMJ は、PARMI パラメーターに *VALUE2 を指定した場合に限り指定できる依存パラメーターです。PARMK を指定する場合は PARMJ は指定できない点に注意してください。また、これらのパラメーターは基線の下に示してあるため、すべてオプションである点にも注意してください。

コマンドの構成要素

この図は、コマンドの構成要素を示しています。構成要素には、コマンド・ラベル (オプション)、コマンド名 (略号)、および 1 つ以上のパラメーターがあります。パラメーターにはキーワードおよび値があります。



コマンドの構成要素については、以下を参照してください。

- 61 ページの『コマンド・ラベル』
- 61 ページの『コマンド名』
- 61 ページの『コマンド・パラメーター』

また、コマンドのコーディングに関する詳細情報は、以下を参照してください。

- 71 ページの『コマンド構文』
- 71 ページの『コマンド区切り文字』

- 73 ページの『コマンドの継続』
- 73 ページの『コマンドへの注記の入力』
- 74 ページの『一般的なコマンド・コーディング規則の要約』

一般的に使用するパラメーターの詳細については、158 ページの『一般に使用されるパラメーター: 補足説明』を参照してください。

コマンド・ラベル

コマンド・ラベルは、CL プログラム内でブランチを行うために特定のコマンドを識別します。また、デバッグ中の CL プログラム内のステートメントを識別するためにも、ラベルが使用されます。ラベルは、停止点として使用するステートメントや、追跡のための開始ステートメントおよび終了ステートメントを識別することができます。

ラベルは、最高 10 文字までコマンド名の直前に入力することができます。ここでは、単純名 (*SNAME) を指定する際の標準的な規則が適用されます。ラベルの直後にはコロンを付けなければなりません。コロんとコマンド名の間には、任意の数の空白を置くこともできます (空白はなくても構いません)。たとえば、START: や TESTLOOP: はコマンド・ラベルの例です。

コマンド・ラベルは必須ではありませんが、どのコマンドにもラベルを付けることができます。実行不能のコマンド (CL 変数宣言 (DCL) コマンドなど) にラベルを付けた場合、プログラムがそのラベルにブランチすると、そのラベルの次のコマンドが実行されます。ラベルの次のコマンドが実行可能なコマンドではない場合には、プログラムは後続の実行可能なコマンドに進みます。ラベルは 1 行に 1 つのみ指定することができますが、その行にコマンドがない場合は、同様に、プログラムは実行可能な次のコマンドに進みます。

複数のラベルを指定する場合には、次の例のようにコマンドの前に、1 行に 1 つの追加ラベルを入れた行を指定する必要があります。

```
LABEL1:
LABEL2: CMDX
```

コマンド行の前のラベル行で、継続文字 (+ または -) を使用することはできません。

コマンド名

コマンド名は、コマンドの実行時に呼び出されるプログラムが実行する機能を識別します。コマンド名は、コマンド記述の省略形になっています。たとえば、MOV OBJ という名前は、オブジェクトをあるライブラリーから別のライブラリーに移す CL コマンド (オブジェクト移動コマンド) を指します。他のオブジェクトの場合と同様に、コマンド名もライブラリー名で任意に修飾することができます。オブジェクト名に関する詳細については、152 ページの『単純オブジェクト名および修飾オブジェクト名』を参照してください。

CL コマンドの命名方法に関する詳細については、154 ページの『オブジェクトの命名規則』を参照してください。

コマンド・パラメーター

ほとんどの CL コマンドは、そのコマンドを実行するために使用するオブジェクトおよび値を指定する、1 つ以上のパラメーターを持っています。コマンドを入力する際に、コマンドで使用するコマンド・オブジェクト名、パラメーター・キーワード名、およびパラメーター値を指定します。指定するパラメーターの数はコマンドによって異なります。パラメーターのないコマンドもありますが (たとえば、実行 (DO) コマンドやバッチ・ジョブ終了 (ENDBCHJOB) コマンドなど)、ほとんどのコマンドには 1 つ以上のパラメーターがあります。

1 つのパラメーターで値のグループを指定する方法については、70 ページの『値のリスト』で説明します。

このトピックでは、パラメーター という用語は、通常、パラメーター・キーワードとその値の組み合わせを意味します。たとえば、オブジェクト移動 (MOV OBJ) コマンドには OBJ というパラメーターがあり、これにはオブジェクト名を指定しなければなりません。OBJ はパラメーター・キーワードであり、オブジェクト名は OBJ パラメーターに入力する値です。

以下のトピックを参照してください。

- 『必須パラメーター、オプション・パラメーター、およびキー・パラメーター』
- 『キーワード形式および定位置形式のパラメーター』
- 63 ページの『パラメーター値』

必須パラメーター、オプション・パラメーター、およびキー・パラメーター: コマンドのパラメーターには、必ず指定しなければならないパラメーター (必須パラメーター) と、必ずしも指定を必要としないパラメーター (オプション・パラメーター) があります。オプション・パラメーターに対してコマンドの入力時にパラメーター値を指定しなかった場合、通常は、システム定義の省略時値が割り当てられます。

コマンドには、キー・パラメーター が存在することもあります。ユーザーがコマンドのプロンプト画面を表示した場合に画面に表示されるのは、キー・パラメーターのみです。キー・パラメーターに値を入力すると、残りのパラメーターが表示されます。このとき、残りのパラメーターには、省略時値 (*SAME、*PRV など) の代わりに実際の値が入っています。

注: キー・パラメーターには、キー・パラメーター限界点の前にあるすべてのパラメーターが含まれます。キー・パラメーター限界点は、構文図では **K** という文字で示されています。

キーワード形式および定位置形式のパラメーター: CL におけるパラメーターは、キーワード (62 ページ) 形式、定位置 (62 ページ) 形式、あるいはこの両方の組み合わせ (63 ページ) のいずれかを使用して指定できます。

キーワード形式のパラメーター

キーワード形式 のパラメーターの場合には、キーワードのすぐ後に、1 つの値 (または空白で区切った複数の値) を括弧で囲んで入力します。キーワードと、パラメーター値の前の左括弧の間に空白を使用することはできません。括弧とパラメーター値との間には空白があっても構いません。たとえば、LIB(MYLIB) は、ライブラリー名に MYLIB を指定するキーワード・パラメーターです。どのように使用されるかは、この LIB パラメーターを使用するコマンドによって異なります。

1 つのコマンドのパラメーターをすべてキーワード形式で指定する場合には、パラメーターはどのような順序で指定しても構いません。たとえば、次の 2 つのコマンドは同じものであると見なされます。

```
CRTLIB LIB(MYLIB) TYPE(*TEST)
CRTLIB TYPE(*TEST) LIB(MYLIB)
```

定位置形式のパラメーター

定位置形式 のパラメーターの場合には、キーワードをコーディングせず、値 (またはリストの場合は複数の値) のみを指定します。指定した値の働きは、そのコマンドに指定するパラメーター・セットでのその値の位置によって決まります。コマンド名とパラメーター値との間、およびパラメーター値とパラメーター値との間は、1 つ以上の空白で区切ります。コーディングできるパラメーターの定位置順序は 1 つのみであり、上記の CRTLIB の例の定位置形式は、以下のとおりです。

CRTLIB MYLIB *TEST

あるパラメーターの値を入力したくない場合は、そのパラメーターの位置に事前定義値 *N (ヌル値) を入力できます。システムは、*N をパラメーターの省略と解釈し、それに対して省略時値を割り当てるか、あるいはそのままヌルにしておきます。前記の CRTLIB コマンドの例で、TYPE パラメーターに *TEST ではなく *N をコーディングしたとすれば、コマンドの実行時には省略時値である *PROD が使用され、MYLIB という名前のプロダクション・ライブラリーが共通権限なしで作成されます。各パラメーターの説明は、CRTLIB コマンドの項を参照してください。

注: 定位置形式のコーディング限度を超えて、パラメーターを定位置形式でコーディングすることはできません。この限界点を超えて、定位置形式でパラメーターをコーディングしようとすると、システムはエラー・メッセージを戻します。

キーワード形式と定位置形式の組み合わせ

1 つのコマンドで、キーワード形式と定位置形式の両方を用いてパラメーターをコーディングすることもできます。次の例は、CL 変数宣言 (DCL) コマンドの 3 通りのコーディング方法を示しています。

キーワード形式:

```
DCL VAR(&QTY) TYPE(*DEC) LEN(5) VALUE(0)
```

定位置形式:

```
DCL &QTY *DEC 5 0
```

定位置形式とキーワード形式の組み合わせ:

```
DCL &QTY *DEC VALUE(0)
```

最後の例では、オプションの LEN パラメーターをコーディングしなかったため、VALUE パラメーターはキーワード形式でコーディングする必要があります。 ➤

注: キーワード形式で指定したパラメーターより後に、定位置形式でパラメーターを指定することはできません。



詳細については、74 ページの『一般的なコマンド・コーディング規則の要約』を参照してください。

パラメーター値: パラメーター値は、コマンドの実行中に使用されるユーザー提供の情報です。個々のパラメーター値は、次のいずれかで指定することができます。

- 64 ページの『定数値』(その実際の値): 定数には、文字ストリング定数 (名前、日付、および 16 進数値を含む)、10 進定数、および論理定数の 3 つのタイプがあります。
- 68 ページの『変数』名 (値を含む変数の名前): 変数には、文字ストリング変数 (名前を含む)、10 進変数、および論理変数の 3 つのタイプがあります。10 進変数および論理変数の値は、パラメーターとして求められている値のタイプに一致していなければなりません。文字変数にはどのようなタイプの値でも指定することができます。たとえば、10 進数値が求められている場合には、10 進変数と同様に、文字変数によってもその値を指定することができます。
- 69 ページの『式』(使用される値は、式の評価結果の値): 式には、算術式、文字ストリング式、比較式、および論理式の 4 つのタイプがあります。式は、CL プログラム中のコマンドのパラメーター値としてのみ使用することができます。
- 70 ページの『値のリスト』(値のリストとは、1 つのパラメーターに指定できる 1 つ以上の値): すべてのパラメーターが値のリストを受け入れるわけではありません。リスト・パラメーター を定義すること

で、1 つ以上のタイプからなる特定セットの複数の値を受け入れることができます。リスト中の値はそれぞれ、1 つ以上のブランクで区切らなければなりません。値のリストはそれぞれ、1 つのパラメーターとして扱うことを指示するために、全体を括弧で囲みます。定位置形式でパラメーターを指定する場合にも括弧を使用します。あるパラメーターについてリストを指定することができるかどうか、およびどのようなリストを指定することができるかについては、該当するコマンドの項の該当するパラメーターの説明を参照してください。

パラメーターには、コマンドにおけるそのパラメーターの定義に従って、上記の値を 1 つ以上指定することができます。複数の値を指定できるパラメーターは、70 ページの『値のリスト』を含むことができますので、リスト・パラメーター と呼ばれます。

キー・パラメーターおよび定位置パラメーターを持つコマンドでは、値はキーワード形式、定位置形式、または両形式の組み合わせで指定することができます。次のいずれかの条件があてはまる場合には、パラメーター値を括弧で囲む必要があります。

- 値の前にキーワードがある場合。
- 値が式である場合。
- 値のリストを指定する場合。

注: リストに値を 1 つしか指定しない場合には、括弧は不要です。

詳細については、74 ページの『一般的なコマンド・コーディング規則の要約』を参照してください。

定数値: 定数値は、実際の数値または特定の文字ストリングであり、その値は常に不変です。制御言語では、文字ストリング (引用符付き、もしくは引用符のない文字ストリング)、10 進定数、および論理定数の 3 つのタイプの定数を使用することができます。

定数値に関する詳細については、以下を参照してください。

- 『文字ストリング』
- 67 ページの『10 進数値』
- 68 ページの『論理値』

文字ストリング

文字ストリング とは、任意の EBCDIC 文字 (英数字および特殊文字) からなる文字ストリングであり、1 つの値として使用されるものです。これには、日付および 16 進数の値も含まれます。文字ストリングには、引用符付きのストリングと引用符のないストリングの 2 つの形式があります。どちらの形式の文字ストリングにも、最大 5000 文字まで使用することができます。

引用符付き 文字ストリングは、英数字と特殊文字からなるストリングをアポストロフィで囲んだものです。たとえば、'CREDIT LIMIT HAS BEEN EXCEEDED' は、引用符付き文字ストリングです。

引用符付き文字ストリングは、引用符のない文字ストリングの中で使用すると無効になる文字データを使いたい場合に使用します。たとえば、コマンドには、コマンドの機能を説明するためにユーザー指定のテキストを入れることができます。引用符のないストリングではブランクは使用できないので、その記述の中で複数の語を使用する場合には、記述をアポストロフィで囲まなければなりません。

引用符のない 文字ストリングは、英数字と、表 5 (65 ページ) の引用符のないストリング の欄に示されている特殊文字のみで構成されるストリングです。この表は、引用符付き文字ストリングおよび引用符のな

い文字ストリング値で有効な、主な EBCDIC 文字を要約したものです。表の最後の欄の X は、左側に示されている文字が有効であることを意味します。表の後の注を参照すると、その文字が有効である理由が示されています。特殊文字を使用することによって、次のものを引用符のない文字ストリング値にすることができます。

- 事前定義値 (* で始まる)
- 修飾オブジェクト名 (/)
- 総称名 (* で終る)
- 10 進定数 (+, -, ., および ,)

これらの引用符のないストリングは、いずれも、文字ストリングを受け入れることができるように定義されているパラメーターに指定することができます。また、パラメーターの中には、事前定義値、名前、または 10 進数値 (あるいはこれらを組み合わせたもの) を受け入れるように定義されているものもあります。

表 5. 引用符付き文字ストリングおよび引用符のない文字ストリング

文字の名前	文字	引用符のないストリング	引用符付きストリング
アンパーサンド	&	注 5 を参照	X
アポストロフィ	'	注 7 を参照	-
アスタリスク (*)	*	注 5 および 6 を参照	X
アットマーク	@	X	X
ブランク			X
コロンの	:		X
コンマ	,	注 1 を参照	X
数字	0 ~ 9	注 1 を参照	X
通貨記号	\$	X	X
等しい	=	注 5 および 8 を参照	X
より大きい	>	注 5 および 8 を参照	X
左括弧	(注 4 を参照	X
より小さい	<	注 5 および 8 を参照	X
英字 (小文字)	a ~ z	注 2 を参照	X
英字 (大文字)	A ~ Z	X	X
負符号	-	注 1 および 5 を参照	X
Not	¬	注 5 および 8 を参照	X
数値記号	#	X	X
パーセント	%		X
ピリオド	.	注 1 および 11 を参照	X
プラス	+	注 1 および 5 を参照	X
疑問符	?		X
引用符	“ ”	注 10 を参照	X
右括弧)	注 4 を参照	X
セミコロン	;		X
斜線	/	注 3 および 5 を参照	X
下線	_	注 9 を参照	X
縦線		注 5 および 8 を参照	X

注:

1. 数字、1 個の小数点 (. または ,) (オプション)、および 1 個の先行符号 (+ または -) (オプション) からなる引用符のない文字ストリングは、引用符のない有効な文字ストリングです。このようなストリングは、コマンド定義におけるパラメーターの属性に応じて、数値として、または文字値として扱われます。CALL コマンドまたは式の中では、このような引用符のないストリングは数値として扱われるため、文字表現が必要な場合には、引用符付きのストリングを使用する必要があります。引用符のないストリングの中では、数字と英数字とを任意に組み合わせて使用することもできます。
2. 引用符のないストリングでは、ストリングが CASE(*MIXED) 属性を持つパラメーターに指定されている場合を除いて、小文字が大文字に変換されます。
3. 斜線は修飾名とパス名の結合子として使用できます。
4. 引用符のないストリングでは、括弧は、キーワードの値およびリストを区切る場合や、式の中で評価の順序を指示するために使用する場合に有効です。
5. 引用符のないストリングでは、文字 +、-、*、/、&、!、^、<、>、および = は、単独で使用できます。これらの文字は、コマンド定義で EXPR(*NO) 属性が定義されているパラメーターで指定された場合、文字値として扱われます。コマンド定義で EXPR(*YES) 属性が定義されているパラメーターで指定された場合、これらの文字は式の演算子として扱われます。
6. 引用符のないストリングでは、アスタリスクは、その直後に名前がある場合 (事前定義値など) や、直前に名前がある場合 (総称名など) に有効です。式の中で使用される引用符なしのストリングに関する詳細については、69 ページの『式』を参照してください。
7. 引用符付きのストリングの中でアポストロフィを使用すると、そのアポストロフィは、開始アポストロフィ (区切り文字) と対をなす終了アポストロフィと解釈されてしまうので、引用符付きストリング内でアポストロフィを使用したい場合には、アポストロフィを 2 重 (') にしなければなりません。引用符付き文字ストリング内の文字を数える場合、このような隣接した 2 重のアポストロフィは 1 文字として数えられます。
8. 引用符のないストリングでは、<、>、=、^、および | は、この中の他の文字と組み合わせて使用することができます。有効な組み合わせは、<=、>=、^=、^>、^<、||、|<、および |> です。コマンド定義で EXPR(*NO) 属性が定義されているパラメーターで、このような組み合わせを指定した場合、これは文字の値として扱われます。また、コマンド定義で EXPR(*YES) 属性が定義されているパラメーターで指定した場合には、式の演算子として扱われます。
9. 引用符のないストリングでは、下線は、最初の文字として使用した場合、および単独で使用した場合には無効です。
10. 引用符は、引用符付きの名前を区切るために使用されます。
11. ピリオドは基本名の中で使用できますが、最初の文字には使用できません。

次は引用符付きストリング定数の例です。

定数 値

'1,2,' 1,2,

'DON'T'

DON'T

'24 12 20'

24 12 20

次は引用符のない定数の例です。

定数 意味

CHICAGO

CHICAGO

FILE1 FILE1

*LIBL ライブラリー・リスト

LIBX/PGMA

ライブラリー LIBX 中のプログラム PGMA

1.2 1.2


詳細情報や他の例については、このトピックの 84 ページの『文字ストリング式』を参照してください。

日付値

日付値は、日付を表す文字ストリングです。日付の形式は、システム値 QDATFMT によって指定します。日付の値の長さは、使用する形式と、区切り文字を使用するかどうかによって異なります。たとえば、区切り文字を使用しない場合には、年間通算日形式の日付の長さは 5 文字であり、年間通算日以外の形式では 6 文字です。区切り文字を使用した場合には、これより長くなります。システム値 QDATFMT の詳細につ

いては、「実行管理の手引き」 を参照してください。

システム値 QDATSEP は、日付の入力の際に使用できるオプションの区切り文字を指定します。区切り文字を使用する場合には、日付をアポストロフィで囲まなければなりません。システム値 QDATSEP の詳細

については、「実行管理の手引き」 を参照してください。

日付値は、タイプ *DATE のパラメーターで使用できます。40 以上の年の値は、1940 年から 1999 年を表します。40 未満の年の値は、2000 年から 2039 年を表します。パラメーター値 *DATE の詳細については、114 ページの『PARM (パラメーター) ステートメント』の説明を参照してください。

16 進数値

16 進数値とは、16 進数字 A から F および 0 から 9 を組み合わせて表した定数です。名前、日付、および時刻を除くすべての文字ストリングは、16 進形式で指定できます。16 進数値を指定するには、X の後に、長さが偶数の数値をアポストロフィで囲んで指定します。たとえば、X'F6' および X'A3FE' のようにします。

注: 00 から 3F の範囲の 16 進数値、または 16 進数値 FF を入力する場合には、注意が必要です。これらの文字が表示または印刷された場合、装置制御文字として処理され、予測できない結果が生じることがあります。

10 進数値

10 進数値は、1 つ以上の数字からなる数字ストリングであり、必要に応じて、その前に正符号 (+) または負符号 (-) を付けることができます。10 進数値は最高 15 桁まで可能であり、小数点 (コンマまたはピリオド) 以下は 9 桁まで使用することができます。したがって、10 進数値は、正符号または負符号と小数点 (ある場合) を含めて、17 桁を超えることはできません。10 進数値の例を以下に示します。

123.	} 等しい 値	+ .017
1.23		6278,954374
1,23		-123456.987654321
-1,23		87654321.123

論理値

論理値とは、単一文字 (1 または 0) をアポストロフィで囲んだものです。これは、オンまたはオフ、YES または NO、および真または偽などの状態を表すスイッチとしてよく使われます。論理値を式の中で使用する場合には、必要に応じて、その前に *NOT または \neg を付けることができます。次に示すのは論理値の例です。

定数	値	意味
'0'	0	オフ、NO、または偽
'1'	1	オン、YES、または真

浮動小数点定数

浮動小数点定数とは、以下の部分により構成される数値表現です。

- 仮数符号: 仮数有効符号としては、+ または - を使用できます。仮数符号はオプションであり、符号を指定しなかった場合は + であると見なされます。
- 仮数: 仮数には小数点が含まれていなければなりません。仮数として指定できる最大長は 253 桁ですが、演算に使用されるのは最初の 17 桁分の有効数字のみです。
- 指数文字: 指数文字は E でなければなりません。
- 指数符号: 指数符号は + または - でなければなりません。仮数符号はオプションであり、符号を指定しなかった場合は + であると見なされます。
- 指数: 指数は整数でなければなりません。使用できる数字は 0 から 9 までです。指定できる数字は最大で 3 桁です。

浮動小数点定数は、すべて倍精度の値として保管されます。浮動小数点定数の中で、各構成部分の間にブランクを含めることはできません。また、各部分の順序は上記のとおりでなければなりません。

浮動小数点定数を指定することのできるパラメーターを持つコマンドは、次の 3 つです。

- プログラム呼び出し (CALL) コマンド: PARM パラメーターを使用して、呼び出されるプログラムに浮動小数点定数を渡すことができます。呼び出されるプログラムは、浮動小数点定数を倍精度で受け取らなければなりません。
- プログラム変数変更 (CHGPGMVAR) コマンド: VALUE パラメーターを使用して、プログラムの中の浮動小数点変数を変更できます。
- ファイル・コピー (CPYF) コマンド: データベース・ファイルからコピーするレコードを選択するために、FROMKEY、TOKEY、および INCREL パラメーターで浮動小数点構造を使用できます。

浮動小数点定数に関する詳細については、左側のナビゲーション・バーから『データベースおよびファイル・システム』のトピックを選択し、『DDS 参照』の情報を参照してください。

変数: 変数 には、プログラムの実行中に変更できるデータの値が含まれています。変数は、コマンドの実行時点でその変数に含まれている値を渡すために、コマンドの中で使用されます。値が変化するのは、データ域、表示装置ファイル・フィールド、またはメッセージから値を受け取った場合、値がパラメーターとし

て渡された場合、プログラムの中で変数変更 (CHGVAR) コマンドが実行された場合、あるいは呼び出された別のプログラムが戻る前にその値を変更した場合です。

変数名は使用される値を識別するものであり、実際のデータがどこにあるのかを示します。CL 変数は CL プログラムの中でのみ有効なものであるため、しばしば CL プログラム変数、あるいは単に CL 変数と呼ばれます。CL 変数名はアンパーサンド (&) で始めなければなりません。

CL コマンドのほとんどすべてのパラメーターは、CL 変数によって指定できます。パラメーターに CL 変数を指定した場合、そのパラメーターを含むコマンドが実行される際には、その時点におけるその変数の値が使用されます。つまり、変数の値は、ユーザーがその値を定数として指定した場合と同じように扱われません。

一般に CL プログラムの中のコマンドのほとんどのパラメーターに、CL 変数を使用できるので、たいていの場合、コマンドの説明の中では CL 変数については触れていません。定数のみに限定されるパラメーター (DCL コマンドのパラメーター)、CL 変数のみに限定されるパラメーター (ジョブ属性検索 (RTVJOBA) コマンドのすべてのパラメーター)、または特定のタイプの変数のみに限定されるパラメーター (たとえば、RTVJOBA またはメッセージ検索 (RTVMSG) コマンドのパラメーター) については、該当のパラメーターの説明の中でそのつどその制約が示されています。このような場合以外は、CL プログラムの中で使用できるコマンドでは、事前定義値のみを取るパラメーターも含めて、パラメーター値の代わりに CL 変数を使用することができます。たとえば、*YES または *NO という事前定義値のみを取る SAVE パラメーターに、*YES または *NO の代わりに CL 変数を指定することができます。この場合、このパラメーターの値は、コマンドの実行時点での CL 変数の値に応じて、*YES または *NO になります。

CL 変数には 1 つしか値を入れることができません。すなわち、ブランクで区切った値のリストを入れることはできません。

CL プログラム変数の値には次の 3 つのタイプがあります。

- 文字: 最高で 9999 文字を含むことができる文字ストリング。文字ストリングは、引用符付きまたは引用符なしのいずれの形式でも指定することができますが、変数に保管されるのはストリング自体に入っている文字のみです。
- 10 進数値: 最高で 15 桁 (小数部分は最高 9 桁) を持つことができるパック 10 進数。
- 論理値: オン / オフ、真 / 偽、または YES/NO を表す '1' または '0' の論理値。

値	宣言可能な CL 変数
名前	文字
日付または時刻	文字
文字ストリング	文字
数字	10 進数または文字
論理値	論理値または文字

式: 式とは、いくつかの定数または変数を演算子によって結合したものであり、1 つの値を生むものです。演算子は、値をどのように組み合わせるかを指定し、結果を導き出すかを指定します。演算子には、算術演算子、文字ストリング演算子、比較演算子、および論理演算子があります。定数または変数には、文字、10 進数、論理値があります。たとえば、(&A + 1) という式は、変数 &A の値に 1 を加えた結果を式の代わりに使用することを指定します。

文字ストリング式は、CL プログラムの中で EXPR(*YES) が定義されている特定のコマンド・パラメーターの中で使用することができます。式には、%BINARY (または %BIN)、%SUBSTRING (または %SST)、

および %SWITCH という組み込み関数を含めることができます。これらの関数の詳細については、83 ページの『CL コマンドで使用する式』で説明しています。これには、式のタイプとそれぞれの例も記載されています。

値のリスト: 値のリストとは、1 つのパラメーターで指定できる 1 つ以上の値のことです。すべてのパラメーターが、このようなリストを受け入れるわけではありません。1 つ以上のタイプからなる特定セットの複数の値を受け入れるためには、リスト・パラメーターを定義できます。リスト中の値は、1 つ以上のブランクで区切らなければなりません。値のリストは、1 つのパラメーターとして扱うことを指示するために、全体を括弧で囲みます。定位置形式でパラメーターを指定する場合にも括弧を使用します。あるパラメーターについてリストを指定することができるかどうか、およびどのようなリストを指定することができるかについては、該当するコマンドの項の該当するパラメーターの説明を参照してください。

リスト・パラメーターは、複数個の同種の値のリスト (単純リスト)、または複数個の異種の値のリスト (混合リスト) を受け入れるように定義することができます。どちらのタイプのリストの場合も、リスト中の各値をリスト要素と呼びます。リスト要素には、定数、変数、または他のリストを使用できますが、式は使用できません。

- 単純リスト・パラメーターは、パラメーターで受け入れられるタイプの 1 つ以上の値を受け入れます。たとえば、(RSMITH BJONES TBROWN) は 3 つのユーザー名の単純リストです。
- 混合リスト・パラメーターは、別個に定義された一定の値のセット (特定の順序になっているもの) を受け入れます。各値は、タイプや範囲など、特定の特性を持つものとして定義することができます。たとえば、LEN(5 2) は混合リストであり、最初の要素 (5) はフィールドの長さを示し、2 番目の要素 (2) はそのフィールドの小数部分の長さを示しています。
- リストを受け入れるように定義された多くのパラメーターには、値のリストの代わりにいくつかの事前に定義された単一値を指定することができます。これらの単一値の 1 つは省略時値とすることができます。省略時値は、単純リストまたは混合リストにおいて、リストを指定しない場合に指定できる (または想定される) 値です。特定のリスト・パラメーターについてどのような省略時値が受け入れられるかについては、そのパラメーターが定義され使用されるコマンドの項の該当するパラメーターの説明を参照してください。

注: *N は単純リストには指定できませんが、混合リストには指定することができます。また、CALL コマンドで渡される個々のパラメーターにリストを指定することはできません。

- リスト内リストのネストのレベルは、最初のレベルも含めて最高 3 レベルです。これは 3 つの括弧のネスト・レベルで示されます。

下記にリストの例をいくつか挙げます。

()
KWD() } Null リスト

(A B C)

KWD(A B C)

(1 B & C)

(A B *N C) ← (異なる値のリストを想定)

((A B) (1 2))
((A B) (1 2)) } ネストされたリスト

最後の 2 つの例には、1 つのリストの中にネストされた 2 つのリストが含まれています。最初のリストには A および B という値、2 番目のリストには 1 および 2 という値が含まれています。ネストされた 2 つのリストの間にはスペースは不要です。ネストされた各リストの値の区切り文字には空白が使用されます。また、1 組の括弧を使用してネストされた値をグループ化することで、より大きなリストとして示しています。

コマンド構文: コマンド構文の一般形式は次のとおりです。大括弧はその中のオプションであることを示します。ただし、パラメーター・セットは、コマンド要件によって、オプションであることもそうでないこともあります。

[/] [?] [ラベル名:] [ライブラリー名/] コマンド名
[パラメーター・セット]

注: // が使用できるのは、DATA コマンドなど一部のバッチ・ジョブ制御コマンドの場合のみです。// は、スプール読み取りプログラムに送られるコマンドであることを示します。スプール読み取りプログラムは、バッチ・ジョブ入力ストリームを読み取ります。

コマンド区切り文字: コマンド区切り文字は、コマンドの中で、文字のグループの始まりと終わりを示す特殊文字またはスペースです。区切り文字は、1 つの文字ストリングを個々の部分に分けるために使用するもので、それらの部分が集まって 1 つのコマンドを形成します。コマンドを形成する部分には、コマンド・ラベル、コマンド名、パラメーター・キーワード、およびパラメーター値があります。パラメーター値として指定できるのは、定数、変数名、リスト、または式です。次の図に、コマンドの各種区切り文字を示します。

区切り文字

? LABEL1: DCL PGMVAR(&COST) TYPE(*DEC) LEN(5 2)

OS/400 制御言語では、次のような区切り文字が使用されます。

- コロン (:) は、コマンド・ラベルの終わりを示すもので、コマンド・ラベルとコマンド名を区切るために使用されます。
- ブランク・スペースは、コマンド名とパラメーターとの間、およびパラメーターとパラメーターとを区切るために使用されます。また、リスト中の値と値の間もブランクで区切ります。複数のブランクは、引用符で囲んだ文字ストリング、またはアポストロフィで囲んだ注記の中で使われている場合を除いて、1 つのブランクとして扱われます。キーワードと、その値の左括弧との間をブランクで区切ることはできません。
- 括弧 () は、パラメーター値とそのキーワードを区切る場合、値のリストをグループ分けする場合、およびリスト内のリストをグループ分けする場合に使用します。
- 斜線 (/) は、修飾名の各部分またはパス名の各部分を結合します。
 - 修飾オブジェクト名は、ライブラリー修飾子とオブジェクト名の 2 つの部分からなり、次のように斜線で区切られます (LIBX/OBJA)。修飾オブジェクト名の詳細については、152 ページの『単純オブジェクト名および修飾オブジェクト名』に説明があります。
 - パス名は、検索する 1 つ以上のディレクトリーとオブジェクト名で構成されます ('/Dir1/Dir2/Dir3/ObjA')。
- 10 進数の小数点にはピリオドまたはコンマを使用することができます (3.14 または 3,14)。1 つの値に対して、小数点は 1 つしか使用できません。

- アポストロフィは、引用符付き文字ストリングの始まりと終わりを示します。引用符付き文字ストリングは、256 個の拡張 2 進化 10 進コード (EBCDIC) 文字を任意に組み合わせたもので、定数として使用されます。たとえば、'YOU CAN USE \$99@123.45 ()*</ and lowercase letters' は、有効な引用符付き文字ストリングです。

引用符付き文字ストリング内のアポストロフィは、始めのアポストロフィ (区切り文字) と対をなすものと見なされ、終わりのアポストロフィと解釈されてしまうため、引用符付き文字ストリングの中でアポストロフィを使用する場合には、2 重のアポストロフィを使用しなければなりません。このように使用した場合の隣接する 2 つのアポストロフィは 1 文字として扱われます。

- 日付を、月、日、年の 3 つの部分 (年間通算日の場合は年と月の 2 つの部分) に分けるには、特殊文字を使用します。日付区切り文字として使用できる特殊文字は、斜線 (/)、ハイフン (-)、ピリオド (.), およびコンマ (,) です。コマンド中の日付の区切り文字として使用する特殊文字は、対象のジョブでの日付区切り文字として指定されている特殊文字と、同じでなければなりません。ジョブおよびシステム値の

指定に関する詳細については、「実行管理の手引き」 に説明があります。

- /* および */ は、注記の始めと終わりを表し、文字ストリングの中でも使用することができます。注記を開始するには、/* をコマンドの最初の桁に置くか、この 2 文字の前に空白を 1 つ付けるか、あるいはその後に空白またはアスタリスクを 1 つ付けなければなりません。/* または */ がコマンドの後ろの位置に現れた場合には、たいていの場合、アポストロフィで囲まれ、たとえばパス名の現行ディレクトリーにあるすべてのオブジェクトなどを表すことができます。パス名の詳細については、『統合ファイル・システム』のトピックを参照してください。
- コマンド名の前の疑問符 (?) は、そのコマンドに関するプロンプトが出されることを示します。コマンドにラベルが付いている場合、疑問符は、ラベルの前に置くことも、ラベルとコマンド名の間に置くこともできます。

CL プログラム内で、コマンド名の前に疑問符がある場合には、プロンプト画面が表示されます。プロンプト画面では、プログラム内でそのコマンド上に指定されていないパラメーターの値を入力することができます。

コマンドへのプロンプト要求文字の組み込みには、2 つの形式があります。コマンド名の前 (CL プログラム内のコマンド・ラベルの前または後) に単一の疑問符 (?) をコーディングすれば、そのコマンド全体についてのプロンプトが表示されます。いずれかのパラメーター・キーワードの前に選択プロンプト要求文字 (?? または ?*) をコーディングすれば、コマンドの実行時にそのパラメーターに関するプロンプトが表示されます。

コマンド入力画面でコマンド名の前に疑問符を入力すれば、コマンドの入力後に F4 (プロンプト) キーを押した場合と同じ結果が得られます。

CL プログラム内で、コマンド名の前に疑問符が付いていると、プロンプト画面が表示されます。この画面は、コマンド入力画面で F4 キーを押した場合に表示される画面と同じ形式のもので、コマンドのパラメーターのうち、プログラム内で値がコーディングされているパラメーターも、単なる情報として表示されますが、このようにプログラムから提供された値を、ユーザーが変更することはできません。値の指定されていないパラメーターは入力フィールドとして表示されるので、ユーザーはコマンドの処理に使用する値を入力することができます。

選択プロンプト要求を使用すれば、コマンドの特定のパラメーターについて、プロンプトを表示させることができます。選択プロンプトを呼び出すためには、プロンプトを表示したいパラメーター (1 つまたは複数) のキーワード名の直前に、??、?*、または ?- をコーディングします。プロンプトの詳細について

では、「CL プログラミング」 を参照してください。

注: 選択プロンプトは、コマンド・ストリング (*CMDSTR) パラメーターとともに使用することはできません。

注: コマンドのパラメーターのうち、前に ?* のついたパラメーターは、表示はされますが、プログラムが提供する値を変更することはできません。前に ?? のついたパラメーターは、プログラム内でコーディングされている値、またはコマンドの省略時値が入った入力フィールドとして表示されるため、ユーザーは、コマンドの処理に使用する値を入力または変更することができます。前に ?- のついたパラメーターは、表示画面上で省略されるパラメーターです。選択プロンプト要求で出されたすべてのパラメーターは、キーワード形式、または値付きのキーワード形式でコーディングしなければなりません。1 つのコマンドで、いくつかのパラメーターに、選択プロンプト要求を指定することもできます。選択プロンプトを呼び出す場合には、前に選択プロンプト要求文字が付いているキーワードについてのみ、プロンプトが表示されます。その他のパラメーターは、コマンド上にコーディングされている値 (値がコーディングされていなければ、コマンドの省略時値) を使用して処理されます。

CL プログラム内の 1 つのコマンドについて、上記の 2 つのプロンプト方式のいずれも使用することができますが、両方を使用することはできません。コマンド名の前に ? があり、いずれかのキーワードの前に、選択プロンプト要求文字 (?- を除く) がある場合は、エラー・メッセージが出され、プログラムは作成されません。

詳細については、74 ページの『一般的なコマンド・コーディング規則の要約』を参照してください。

コマンドの継続: コマンドは自由形式で入力することができます。つまり、コーディング用紙または画面の上の決まった位置から、コマンドを開始する必要はありません。コマンドは、その全体を 1 つのレコードに収めることも、複数の行またはレコードに継続させることもできます。ただし、継続させるかどうかにかかわらず、1 つのコマンドの長さが 20,000 文字を超えることはできません。コマンドの継続を示すためには、その行の最後の非空白文字として、2 つの特殊文字、すなわち正符号 (+) または負符号 (-) のいずれかを入力します。+ または - 符号のすぐ前の空白は常にコマンドに含まれ、同じレコード内の + または - のすぐ後の空白は無視されます。次のレコードの最初の非空白文字より前の空白は、+ を指定した場合には無視されますが、- を指定した場合にはコマンドに含まれます。

一般に、+ はパラメーター相互間または値相互間で使用すると便利です。パラメーター相互間または値相互間で正符号を使用する場合には、符号の前に少なくとも 1 つの空白を置かなければなりません。正符号と負符号の使い分けは、引用符付きの文字ストリングの途中で継続が生じた場合に、特に重要な意味を持ちます。次の例で、この違いを示します。

```
CRTLIB LIB(XYZ) TEXT('This is CONT+
  INUED')
```

```
CRTLIB LIB(XYZ) TEXT('This is CONT-
  INUED')
```

+ の場合: CRTLIB LIB(XYZ) TEXT('This is CONTINUED')

- の場合: CRTLIB LIB(XYZ) TEXT('This is CONT INUED')

注:

- 負符号を指定すると、次の行の先行空白がコマンドに含まれます。
- 継続文字としての + および - は CL プログラム内でのみ使用できます。コマンド入力画面で + または - を使用するとエラーが起こります。
- + および - は、単一コマンドの例ではなく、複数コマンドの例に使用されています。

コマンドへの注記の入力: 注記は空白が使用できる箇所であれば、コマンドの文字ストリングの中でも外でも使用することができます。ただし、継続文字は行 (またはレコード) の最後の非空白文字でなければならないため、その行の継続文字の後に注記を入れることはできません。

次の例に示すように、注記は、それに関連したコマンドの前または後に独立した行を設けてコーディングする方が、読みやすくなり便利です。

```

MOV OBJ  OBJA  TOLIB(LIBY)
        /* Object OBJA is moved to library LIBY. */
DLT LIB  LIBX
        /* Library LIBX is deleted. */

```

注記には、256 個の EBCDIC 文字のどれでも使用することができます。ただし、*/ という文字の組み合わせは注記の終わりを示すので、これを注記の中で使用することはできません。注記を開始するには、/* をコマンドの最初の桁に置くか、その前に空白を 1 つ付けるか、あるいはその後に空白またはアスタリスクを 1 つ付けなければなりません。

一般的なコマンド・コーディング規則の要約: ここでは、CL コマンドを正しくコーディングするために必要な一般情報を要約します。

区切り文字

- 空白は、コマンドの各部分の間に使用される基本的な区切り文字です。
 - コマンド・ラベルとコマンド名との間 (区切り文字としてコロン (:)) が使用されるため、空白は必須ではありません。
 - コマンド名と最初のパラメーターの間、およびパラメーターとパラメーターの間。
 - 値のリスト内の値と値との間 (リスト内のネストされたリストの、終わりの括弧と始めの括弧の間には必要ありません)。
 - // DATA などのジョブ制御コマンドにおける斜線と、名前またはラベルとの間 (必須ではありません)。
- パラメーターのキーワードと、そのパラメーターの値の前にある左括弧との間を、空白で区切ることはできません。キーワードを使用する場合には、値を括弧で囲まなければなりません。括弧と値の間に空白を入れることができます。たとえば、KWD(A) のようにすることができます。
- 複数の空白は、引用符付きストリングまたは注記の中で使用されている場合を除いて、1 個の空白として扱われます。
- コマンド・ラベルの直後にはコロンを付けなければなりません。どのコマンドでも、ラベルは 1 つしか使用することができません (LABEL1: DCLF)。
- 引用符付き文字ストリングの始めと終わりには、アポストロフィを使用します。空白などの特殊文字を含む文字ストリングの場合には、アポストロフィは必須です。引用符付きストリングの中でアポストロフィを使用しなければならない場合には、それが引用符付き文字ストリングの終わりを示すアポストロフィでないことを示すために、アポストロフィを 2 つ連続して使用する必要があります。
- 次の場合には括弧を使用しなければなりません。
 - パラメーターをキーワード形式で指定 (コーディング) する場合。
 - 定位置パラメーターで複数の値をまとめて 1 つのリストにする場合、または式の前後。
 - 他の リストの中にリスト (要素なし、または 1 つ以上の要素のある) をネストして指定する場合。
- 括弧内括弧は、それぞれ対になっていれば、論理式の中では最高 5 レベルまで、値のリストでは最高 3 レベルまでネストすることができます。
- 注記は、行 (またはレコード) の継続文字の後を除いて、空白が許される場所であればどこにでも入れることができます。
- 行の終わりの正符号または負符号は、コマンドが次の行に続くことを示します。同じレコード内の + または - 符号の後ろにある空白は無視されます。次のレコードの最初の非空白文字より前にある空白は、+ が指定されている場合には無視され、- が指定されている場合には組み込まれます。パラメーターとパラメーターの間、または値と値の間で + 符号を使用する場合には、その前に空白を 1 つ置かなければなりません。

パラメーター

- 必須パラメーターはすべてコーディングする必要があります。
- オプション・パラメーターをコーディングしなかった場合には、そのパラメーターに省略時値があればシステムはそれを使用します。各コマンドの構文図の中で、省略時値は、キーワード名がある行の上に示されています。省略時値が示されていない場合には、省略時値が (他のパラメーターの値に応じて) 変化するものであるため、それに関して本文中に説明があるか、あるいは、そのパラメーターは、実行される処理において必ずしも必要でないパラメーターです。
- コマンドおよびパラメーターの説明の中で英字の大文字で示されている語句または略語は、そのとおりにコーディングしなければなりません。これは、すべての簡略コマンド名、パラメーターのキーワード (使用する場合)、および多くのパラメーターの値に当てはまります。引用符付きストリングまたは注記以外のところで小文字をコーディングした場合には、それぞれ対応する大文字に変換されます。CASE(*MIXED) として定義されたパラメーターに値として指定された小文字は、大文字に変換されません。
- キー・パラメーターがある場合には、キー・パラメーターのために使用する値を、残りのパラメーターが表示される前にプロンプトに入力しなければなりません。構文図の中でキー・パラメーターの脚注の前にあるパラメーターは、キー・パラメーターです。
- 構文図に定位置パラメーターの脚注が示されている場合、それより後のパラメーターは定位置形式でコーディングすることができません。パラメーターの定位置コーディングの順序は、構文図およびコマンドの説明に示されているとおりの順序です。

パラメーター値

- すべての名前は、最初の文字が英字 (A から Z, \$, #, @ または 2 重引用符 (“)) でなければなりません。名前の長さは 10 文字以下でなければなりません (CL 変数名および組み込み関数名は、名前の最初に付ける & または % も含めて、最高 11 文字まで使用することができます)。コマンドによっては、オブジェクトの名前を、修飾形式 (ライブラリー名 / オブジェクト名)、またはパス名形式 (ディレクトリー名 / オブジェクト名) で、指定できるものもあります。
- アスタリスクで始まる事前定義値は、注記または引用符付きストリング内で使用する場合を除いて、定められた目的以外の用途に用いることはできません。事前定義値には、事前定義パラメーターの値 (*ALL など)、記号演算子 (*EQ など)、およびヌル値 (*N) があります。
- CL プログラム内では、明示的に禁止されている箇所を除いて、すべてのパラメーターに対して変数を指定できます。変数のユーザー指定値は、コマンドでその値が指定された場合と同じに扱われます。
- CL プログラム内では、EXPR(*YES) の指定されているどのパラメーターにも、文字ストリング式を指定できます。式の演算結果の値が、コマンドでその値が指定された場合と同じに扱われます。
- ヌル値 (省略を表す) は、*N で指定します。これは、該当するパラメーターについて値が指定されていないため、省略時値があればそれが使用されるということを意味します。*N が必要となるのは、省略した値の次の値を定位置パラメーターまたはリスト要素として指定する場合のみです。
- 数値内の小数点には、コンマまたはピリオドのいずれかを使用できます。小数点は、数値ストリングの中の数字と数字の間で使用できる唯一の特殊文字です。たとえば、3 桁ごとの区切りを示す記号は使用しません。
- パラメーターの反復が指示されている場合には、
 - 事前定義値は、一連の値の中で 2 回以上コーディングすることはできません。
 - ユーザー定義値 (名前または数値の範囲など) は、異なる値や名前がいくつあっても、そのそれぞれについて、許される最大反復回数まで入力できます。たとえば、構文図の脚注に「最大 20 回まで反復可能」とある場合には、最大で値 20 を指定できます。

注: 別々のコマンドで同じ名前のパラメーターを使用する場合、そのパラメーターの意味 (または値) は、コマンドごとに多少異なる場合があります。したがって、パラメーターの説明を読む際には、必ず、使用しようとしているコマンドの項に示されている説明をお読みください。また、一部のパラメーターについては、158 ページの『一般に使用されるパラメーター: 補足説明』にも、パラメーターに関する一般的な説明、およびコマンドでコーディングするパラメーター値に関する補足説明が記載されています。

CL プログラム

制御言語 (CL) プログラムとは、制御言語コマンドのみで構成されているソース・ステートメントから作成されるプログラムです。

CL プログラム関連の概念については、以下を参照してください。

- 『CL 文字セットおよび値』
- 79 ページの『コマンド内での命名』
- 81 ページの『フォルダー名および文書名』
- 83 ページの『CL コマンドで使用する式』

CL 文字セットおよび値: このセクションでは、EBCDIC 文字セット、特殊文字、および IBM 定義の固定値 (事前定義値と呼びます) の用法について説明します。

以下を参照してください。

- 『文字セット』
- 77 ページの『特殊文字の用法』
- 79 ページの『事前定義値』

文字セット: 制御言語では、拡張 2 進化 10 進コード (EBCDIC) 文字セットを使用します。制御言語で使用される文字と EBCDIC 文字セット内の文字との関係をわかりやすくするために、制御言語では EBCDIC 文字を次のようなカテゴリーに分類するものとします。

カテゴリー	含まれる文字
英字 ¹	26 個の英字 (A から Z)、\$、#、および @
数字	10 個の数字 (0 ~ 9)
英数字 ^{1,2}	A から Z、0 から 9、\$、#、@、ピリオド (.)、および下線 (_)
特殊文字	上記以外のすべての EBCDIC 文字 (CL で特殊な働きをする文字については、77 ページの『特殊文字の用法』を参照)。

注:

- ¹ 小文字 (a から z) も受け入れられますが、システムによりそれぞれ対応する大文字に変換されます。ただし、コマンド定義内にある以下のものは変換されません。すなわち、引用符に囲まれた文字列、コメント、文字 (*CHAR) 属性またはパス名 (*PNAME) 属性を持つ TYPE パラメーター上に指定された値、混合文字 (*MIXED) 属性を持つ CASE パラメーター上に指定された値です。
- ² 下線 (_) は、英数字の連結用文字であり、iSeries 400 CL では、語または英数字を連結して名前 (たとえば PAYLIB_01) を作るために使用することができます。このような下線の用法は、他の高水準言語では無効な場合もあります。

最初の 3 つのカテゴリーに含まれる文字は、引用符付き文字ストリングの中でも、引用符なしの文字ストリングの中でもまた、注記の中でも、CL 名 (コマンド、ラベル、キーワード、変数、および OS/400 オブジェクトの名前など) の中でも使用できます。最後のカテゴリーに属する特殊文字は、引用符付き文字ストリングおよび注記の中でのみ使用することができ、引用符なしの文字ストリングの中では使用することができ

きません。ただし、一部の文字については、CL コマンドの中の所定の箇所でコーディングすれば、構文上の特殊な意味に使用できます。このような使用方法については、『特殊文字の使用法』の図表で説明します。

特殊文字の使用法: 以下に示す EBCDIC 特殊文字は、CL の中でさまざまな用途に使用されます。最も多い使用方法としては、区切り文字としての使用 (これについては、71 ページの『コマンド構文』の下の 71 ページの『コマンド区切り文字』に説明があります。) と、式の中の記号演算子としての使用があります。

記号演算子の詳細については、以下を参照してください。

- 78 ページの『記号演算子』
- 87 ページの『式の中の演算子』のトピックにある、式のタイプに関する説明

特殊文字は、このような特殊な用途で使用するか、あるいは引用符付き文字ストリングまたは注記内でしか使用できません。制御言語コマンドで使用する場合の各特殊文字の意味は、次の表に示すとおりです。

区切り文字

名前	記号	意味
アポストロフィ	' '	単一アポストロフィ区切り文字は、引用符付き文字ストリング (定数) の始めと終わりを示します。
注記の始めと終わり ブランク	/* */ b ¹	注記の始めと終わりを示します。 コマンドの構成要素 (ラベル、コマンド名、およびそのパラメーター) を区切るため、およびリスト中の値を区切るための基本的な区切り文字。
コロソ	:	コマンド・ラベルの終わりを示す区切り文字。時刻の値の構成要素を区切るためにも使用されます。 ³
コンマ	,	多くの国で数値の小数点として使用されます。日付の値の構成要素を区切ります。 ²
左右の括弧	()	リストおよびパラメーター値のグループ化のための区切り文字、および式の順序を識別するための文字。
ピリオド	.	小数点。文書名およびフォルダー名の名前と拡張子を区切るために使用されます。また、日付の値の構成要素を区切るためにも使用されます。 ²
引用符 斜線	" " /	引用符付きオブジェクト名の始め。 修飾名またはパス名の各部分を連結します。
2 重斜線	//	ジョブ・ストリーム中の BCHJOB、ENDBCHJOB、および DATA コマンドの 1 桁目および 2 桁目で使用する識別文字。インライン・データ・ファイルでの省略時の区切り文字としても使用されます。

注:

- ¹ b は、本書のオンライン・バージョンではブランク・スペースが表示されないため、他の方法で明確に示すことができない場合にのみ、ブランク・スペースを表すために使用されます。
- ² ジョブ日付区切り文字の値として同じ文字が指定されている場合に限り有効です。
- ³ ジョブ時刻区切り文字の値として同じ文字が指定されている場合に限り有効です。

記号演算子

次の文字は、CL コマンドで記号演算子として使用されます。

名前	記号	意味
AND	&	AND を表す記号論理演算子。
アスタリスク	*	乗算演算子。名前の最後の文字として使用した場合には、総称名を表します。ストリングの最初の文字として使用した場合には、OS/400 の予約値 (事前定義パラメーター値および式演算子) を表します。
連結	>, <, および ³	文字ストリング演算子 (2 つの値を結合することを示します)。これらの連結演算子の相違点については、69 ページの『式』を参照してください。
等しい	=	等しい ことを表す記号比較演算子。
より大きい	>	より大きい ことを表す記号比較演算子。
より小さい	<	より小さい ことを表す記号比較演算子。
負符号 (ハイフン)	-	減算演算子、コマンド継続文字、および負符号。日付の値の構成要素を区切ります。 ¹
NOT	¬ ²	NOT (否定) を表す記号比較演算子。
OR	³	OR を表す記号論理演算子。
プラス	+	加算演算子、コマンド継続文字、および正符号。
斜線	/	除算演算子。日付の値の構成要素を区切ります。 ¹ 修飾名の各部分を区切るためにも使用されます。

注:

- ¹ ジョブ日付区切り文字の値として同じ文字が指定されている場合に限り有効です。
- ² 一部の文字セット (各国間共通文字セットを含む) では、¬ 文字の代わりに文字 ^ が使用されます。このような文字セットでは、論理 NOT 演算子として ^ または *NOT を使用することができません。
- ³ ある種の文字セット (各国共通文字セットを含む) では、| の代わりに ! が使用されます。このような文字セットでは、論理 OR 演算子として ! または *OR を使用することができ、また連結演算子として !! または *CAT を使用することができます。

注: 記号演算子は、69 ページの『式』にある 87 ページの『式の中の演算子』の図に示すように、いくつか組み合わせて使用することもできます。

記号演算子: その他の使用方法

記号演算子は、次のように使用することもできます。

名前	記号	意味
アンパーサンド	&	ストリングの最初の文字として使用した場合、そのストリングが CL 変数名であることを示します。
パーセント	%	ストリングの最初の文字として使用した場合、そのストリングが組み込みシステム関数であることを示します。
疑問符	?	コマンド名またはキーワード名の前に使用した場合、プロンプトを要求することを指定します。

事前定義値: 事前定義値は、CL の中での用法があらかじめ定められている IBM 定義の固定値であり、OS/400 システムにおける予約値と見なされます。事前定義値は、アスタリスク (*) の後に 1 つの語または略語を付けたもので、たとえば *ALL や *PGM などがこれにあたります。事前定義値で * を使用する目的は、オブジェクト名などのようなユーザー指定の値と混同されるのを防ぐためです。事前定義値には、それぞれ、1 つ以上のコマンド・パラメーター内での所定の用法があります。これについては、各コマンドの項で詳しく説明されています。

事前定義値には、*EQ および *AND などのように式の中で演算子として使用されるものもあります。事前定義値 *N はヌル値を指定するためのもので、オプション・パラメーターを表すために使用することができます。ヌル値 (*N) は、値の指定されていないパラメーターの位置を示します。これを使用することにより、後続のパラメーターを定位置形式で入力することができます。文字 *N を文字の値として (ヌル値としてではなく) 指定するためには、受け渡すする文字列をアポストロフィで囲まなければなりません (*'N')。また、CL プログラムの実行時に CL プログラム変数の中に *N が現れた場合も、常にヌル値として扱われます。

コマンド内での命名: 名前の指定に使用できる文字は、OS/400 制御言語で指定する名前のタイプによって決まります。名前のタイプによっては、使用できる文字に制約があります。名前のタイプには、*NAME、*SNAME、および *CNAME があります。

ここでは、*PNAME および *GENERIC のリスト構成要素、またはパラメーター・タイプについては、簡単に説明します。

注: コマンド定義を使用してコマンドを作成する際にこれらの名前を指定する方法の説明については、93 ページの『コマンド定義ステートメント』の PARM (パラメーター) ステートメントおよび ELEM (要素) ステートメントを参照してください。

次の表およびそれに続く文で、*NAME、*SNAME、および *CNAME の名前で使用できる文字、およびこれらの名前を指定するために使用する規則について説明します。

表 10. *NAME、*SNAME、および *CNAME に使用可能な文字

名前のタイプ	最初の文字	その他の文字	最小長	最大長
*NAME ¹	A から Z、 \$、#、 @	A から Z、 0 から 9、\$、 #、@、_、.	1	256
*SNAME ¹	A から Z、 \$、#、 @	A から Z、 0 から 9、 \$、#、@、_	1	256
*CNAME ¹	A から Z、 \$、#、 @	A から Z、 0 から 9、 \$、#、@		
引用符付き名 ²	" ³	ブランク、 *、?、'、"、X'00' ~ X'3F'、および X'FF' を除く任意の文字	3	256

名前のタイプ	最初の文字	その他の文字	最小長	最大長
注:				
1	このシステムでは、小文字が大文字に変換されます。			
2	2 重引用符が使用できるのは基本名 (*NAME) のみです。			
3	最初と最後の文字は 2 重引用符 (") でなければなりません。			

***NAME (基本名):** 基本名は、A から Z、\$, #、または @ のいずれかの文字で始めることができ、その後、9 文字以下の文字が指定できます。2 文字目以降には、最初の文字と同じ文字のほか、数字 0 から 9、下線 (_)、およびピリオド (.) も使用できます。小文字はこのシステムによって大文字に変換されます。IBM 提供のコマンドで使用する基本名は 10 文字以下でなければなりません。しかし、ユーザー定義のコマンドでは、タイプ *NAME のパラメーター (PARM ステートメント、または ELEM ステートメントの TYPE パラメーターで指定される) を、最大 256 文字で定義することができます。

基本名の例を次に示します。

```
A987@.442# ONE_NAME LIBRARY_0690 $LIBX
```

名前は引用符付きの形式でも引用符のない形式でも入力することができます。引用符付きの形式を使用する場合には、次の規則および考慮事項にも従ってください。

***NAME (引用符付きの基本名):** 引用符付きの名前は、引用符 (") で始まり、引用符で終わってなければなりません。2 つの引用符の間には、, *、?、'、"、16 進数 00 から 3F および 16 進数 FF を除く任意の文字を使用することができます、区切り文字には斜線を使用します。引用符付きの名前には、グラフィック文字を使用することもできます。IBM 提供のコマンドで使用される引用符付きの基本名は、両端の 2 重引用符を除いて 8 文字以下でなければなりません。ユーザー定義のコマンドでは、引用符付きのタイプ *NAME のパラメーターとして、両端の 2 重引用符を除いて最大 254 文字の名前を定義することができます。

注: 引用符付きの形式で使用できるのは基本名のみです。

引用符付きの名前の例を次に示します。

```
"A" "AA%abc" "ABC%abc"
```

引用符付きの名前を使用する場合には、以下に示す制約に注意してください。

- 名前の中のコード・ポイントは、すべてのキーボードからアドレス指定できるとは限りません。
- 引用符付きの名前の中の文字は、高水準言語では無効となるものもあります。
- システム /38 環境は、単純名 (*SNAME) のみサポートします。他の文字を使用した場合は、このオブジェクトをシステム /38 環境オブジェクトとしてアクセスすることはできません。
- システム /36 環境では、制御言語の一時変更を使用しない限り、8 文字を超える名前にアクセスすることができません。
- ピリオドを含む構造化照会言語 (SQL) 名は、SQL ステートメントの中で引用符で囲んで指定しなければなりません。

引用符で囲んだ名前が、引用符を外した状態で基本名として有効な名前である場合には、引用符が除去されます。たとえば、“ABC” は ABC と同じであると見なされます。引用符は除去されているため、名前の長さには含まれません。したがって、“ABCDEFGHIJ” は、引用符を含めれば 10 文字を超えています。IBM のコマンドでも有効な名前と見なされます。

***SNAME (単純名):** 単純名は、引用符の付いていない基本名と同じですが、相違点が 1 つあります。単純名ではピリオド (.) は使用できません。制御言語の構文を簡素化するために、CL 変数、ラベル、およびキーワードには、単純名が使用されます。

単純名の例を次に示します。

```
NEWCMD    LIB_2
```

***CNAME (通信名):** 通信名は、次の点を除いて、引用符の付いていない基本名と同じです。

1. ピリオド (.) および下線 (_) は使用できません。
2. IBM 提供のコマンドの場合には、*CNAME は 8 文字以下でなければなりません。

通信名の例を次に示します。

```
APPN3@@
```

注: 非 IBM システムでは制約のある文字セットを使用している場合があるため、特殊文字 #、\$、および @ を名前に使用する場合には特に注意してください。リモート・システムのキーボードに、これらの特殊文字がない場合があります。リモート・システムとの間で交換する可能性のある名前には次のものがあります。

- ネットワーク識別コード
- ロケーション名
- モード名
- サービスのクラス名
- 制御点名

フォルダー名および文書名: フォルダーには、フォルダーの内容が分かるような名前を付けてください。フォルダー名はそれぞれ固有のものでなければなりません。また、ユーザーが内容を判断しやすいということのほかに、できる限り入力しやすい名前にすることも必要です。システムの特定のフォルダーを見つけてその中の文書を変更するためには、そのフォルダー名を指定するか、あるいは、名前のリストから該当のフォルダー名を選択しなければなりません。

文書には、その文書の内容を表すような名前を付けてください。命名の際には、後で文書を見つけやすくするための十分な配慮が必要です。文書名は、フォルダーの中で固有のものでなければなりません。また、内容を判断しやすいということのほかに、できる限り入力しやすい名前にすることも必要です。

フォルダーまたは文書に使用する名前は、以下の規則に従ったものでなければなりません。

- 名前はフォルダーの中で固有のものでなければなりません。
- 文書名またはフォルダー名は、オプションの拡張子も含めて、長さが 1 から 12 文字でなければなりません。拡張子を使用しない場合の文書名またはフォルダー名は、長さが 8 文字以下でなければなりません。拡張子 (使用する場合は、ピリオドで始まり、その後最高 3 文字を付けることができます。文書名に拡張子を使用し、拡張子で文書を識別できるようにしておけば、システム内にある文書の選択リストを作成する際に役に立ちます。



- 文書名またはフォルダー名には任意の 1 バイト EBCDIC 文字を入れることができますが、次の特殊文字は使用できません。これらの文字はシステムが別の用途に使用します。

文字	特別な用途
アスタリスク (*)	乗算演算子、総称名、または OS/400 の予約語を表します。
斜線 (/)	除算演算子、システム値の区切り文字、または修飾オブジェクト名の各部分を区切る文字として使用されます。
疑問符 (?)	システム・ヘルプに対する要求を開始するための文字です。

- あるフォルダーが別のフォルダーに保管されている場合には、両方のフォルダー名を斜線 (/) で区切って使用します。このように組み合わせた名前を**フォルダー・パス**と呼びます。たとえば、FOLDR2 を FOLDR1 に保管させた場合、FOLDR2 のパスは FOLDR1/FOLDR2 となります。FOLDR1 が**第 1 レベル・フォルダー**で、FOLDR2 が**次レベル・フォルダー**です。1 つのフォルダーの名前の長さは、オプションの拡張子も含めて 1 から 12 文字です。1 つのフォルダー・パスには、最高 63 文字を入れることができます。

システム提供のフォルダー名は Q で始まっているため、ユーザーのフォルダー名の最初の文字には Q を使用することはできません。以下に、有効なフォルダー名およびフォルダー・パスの例を示します。


```

@LETTERS
FOLDER.PAY
PAYROLL/FOLDER.PAY
#TAX1/FOLD8.TAX/$1988/PAYROLL/FOLDER.PAY
  
```

注:

- CL コマンドでは、システムが修飾名 (ライブラリー名 / オブジェクト名) と混同することを避けるために、フォルダー・パス名はアポストロフィで囲まなければならない。名前の一部としてアポストロフィを含める場合には、2 つの連続したアポストロフィを使用してください。
- 多くの CL コマンドが、文書とフォルダーのいずれか一方に対して働きますが、両方に対して働くものもいくつかあります。文書またはフォルダーのいずれかを参照するには、省略語の DLO (文書ライブラリー・オブジェクト) を用います。
- CL コマンドでは、CL の区切り文字を含むフォルダー名または文書名は、アポストロフィで囲まなければならない。
- システムはグラフィック文字を認識することはできません。認識するのはコード・ポイントのみであり、さらに以下のことが前提となっています。
 - フォルダー名および文書名はすべて、1 バイト EBCDIC コード・ページを使用してコード化されていること。これらのコード・ページの中で、グラフィック文字を表すのは、16 進数 41 から FE までのコード・ポイントのみであり、したがって、フォルダー名および文書名の中で使用できるのはこれらのコード・ポイントのみです。

- 16 進数 5C、61、および 6F のコード・ポイントはそれぞれ、アスタリスク (*)、斜線 (/)、疑問符 (?) であり、これらはフォルダー名および文書の中では使用できません。
- 英字の小文字に該当するコード・ポイント (16 進数 81 から 89、91 から 99、および A2 から A9) は、大文字のコード・ポイント (C1 から C9、D1 から D9、および E2 から E9) に変換されます。

iSeries 400 でサポートされるコード・ページの詳細については、「AS/400 装置構成」 の第 5 章、および表示装置記述作成 (CRTDEV DSP) コマンドの説明を参照してください。

システム内部では、フォルダーおよび文書は、上述したフォルダー名および文書名に加え、システム・オブジェクト名によって類別されます。システム・オブジェクト名は、日付 / タイム・スタンプから抽出された 10 文字の名前で、これは通常ユーザーには知らされませんが、一部の CL コマンドでは、フォルダー名または文書名として *SYSOBJNAM を指定し、別のパラメーターでシステム・オブジェクト名を指定することによって、この名前を指定できます。

詳細については、79 ページの『コマンド内での命名』を参照してください。

CL コマンドで使用する式: 文字ストリング式は、コマンド定義オブジェクトで EXPR(*YES) が定義されているどのようなパラメーター、要素、または修飾子にも使用することができます。変数変更 (CHGVAR) コマンドおよび IF コマンドでは、どのような式でも単一のパラメーターとして使用できます。単純な式の形式としては、1 つの定数、1 つの変数、または 1 つの組み込み関数があります。通常の様式は、2 つのオペランドと 1 つの演算子によって構成されます。演算子は、その式でどのような評価 (演算) を行うかを指定します。複数の式を組み合わせると複合式とすることもできます。

CL プログラムでは次のタイプの式を使用することができます。

- 『算術式』 (&VAR + 15)
- 84 ページの『文字ストリング式』 (SIX || TEEN)
- 86 ページの『比較式』 (&VAR > 15)
- 87 ページの『論理式』 (&VAR & &TEST)

複合式は、複数のオペランド、それらのオペランドに対して行う演算を指定する演算子、および、オペランドと演算子とをまとめる括弧によって構成されます。オペランドとオペランドとの間には演算子を 1 つしか使用できません。ただし、符号として 10 進数値の前につく + および - 符号、ならびに論理式の中で使用される *NOT 演算子を除きます。

複合式で使用できる括弧のネストのレベル数は、最も外側の括弧 (必須) も含めて最高 5 レベルまでです。

算術式と文字ストリング式は、比較演算子および論理演算子とともに使用すれば、複合式の中で同時に使用することができます。たとえば、(A=B&(1+2)=3) となります。1 つの比較式の中で、1 組の算術式または 1 組の文字ストリング式を比較できます。また、1 つの論理式の中で、いくつかの比較式を使用することもできます。

算術式

算術式中のオペランドは、10 進定数または 10 進 CL 変数でなければなりません。オペランドとオペランドの間には、算術演算子 (記号形式のみ) がなければなりません。算術式の演算結果はすべて 10 進数値であり、その結果は CL 変数に保管することができます。

注: 除算演算子 (/) の場合、その前のオペランドが変数名である場合には、演算子の前に空白を 1 つ付けなければなりません。(たとえば、&A/2 とせずに、&A /2 とします。) その他の演算子の場合、前後の空白の使用は任意です。

算術オペランドは、符号付きでも符号なしでも構いません。すなわち、各オペランドは (数値定数でも、10 進 CL 変数でも)、その直前に正符号 (+) または負符号 (-) を付けることができます。ただし、符号は必須ではありません。+ または - を符号として使用する場合には、その符号と値との間に空白を入れることはできません。たとえば、23.7 という 10 進定数は、+23.7 もしくは -23.7 (符号付き)、または 23.7 (符号なし) と表すことができます。

下記に算術式の例をいくつか挙げます。

(&A + 1)	(&A + &B -15)
(&A - &F)	(&A+&B-15)
(&A + (-&B))	

ある行の空白以外の最後の文字が + または - である場合には、それは、算術演算子ではなく継続文字として扱われます。

文字ストリング式

文字ストリング式のオペランドは、引用符付きもしくは引用符なしの文字ストリング、文字変数、またはサブストリング (%SUBSTRING または %SST) 組み込み関数でなければなりません。各変数または組み込み関数に結び付いている値は、いずれも文字ストリングでなければなりません。連結の結果も文字ストリングになります。

文字ストリング式では、次の 3 つの演算子を使用できます。これらの演算子はいずれも文字ストリングを連結 (結合) するものですが、それぞれの機能に若干の相違があります。すなわち、

- *CAT (連結、記号 ||)

*CAT 演算子

*CAT 演算子は次の例のように 2 つの文字ストリングを連結します。例を以下に示します。

ABC *CAT DEF は ABCDEF

となります。

空白は、次の例のように連結の結果に含まれます。例を以下に示します。

'ABC ' *CAT 'DEF 'は 'ABC DEF 'となります。

- *BCAT (空白挿入連結、記号 |>)

*BCAT 演算子

*BCAT 演算子の場合には、最初の文字ストリングの後書き空白はすべて切り捨てられ、1 つの空白が挿入された上で、2 つの文字ストリングが連結されます。2 番目のオペランドの先行空白は切り捨てられません。例を以下に示します。

ABC *BCAT DEF は ABC DEFとなります。

'ABC ' *BCAT DEF は 'ABC DEF'となります。

- *TCAT (後書き空白切り捨て連結、記号 |<)

*TCAT 演算子

*TCAT 演算子の場合には、最初の文字ストリングのすべての後書き空白が切り捨てられた上で、2 つの文字ストリングが連結されます。2 番目のオペランドの先行空白は切り捨てられません。例を以下に示します。

ABC *TCAT DEF は ABCDEFとなります。
 'ABC ' *TCAT DEF は 'ABCDEF'となります。
 ABC *TCAT ' DEF'は'ABC DEF'
 となります。'ABC '*TCAT ' DEF'は 'ABC DEF'となります。

連結演算子の両側の空白はすべて無視されますが、事前定義値の演算子 (*CAT、*BCAT、または *TCAT) の前後には、それぞれ少なくとも 1 つは空白がなければなりません。式の中で複数の空白を使用する場合には、引用符付き文字ストリング (アポストロフィで囲んだ文字ストリング) を使用しなければなりません。

文字ストリング式に関する詳細については、次の例を参照してください。

- 『例: 文字ストリング式』
- 86 ページの『例: 文字ストリングおよび変数の使用』

例: 文字ストリング式

以下に文字ストリング式の例を示します。各変数の値は以下のものとする。

変数	値
&AA	'GOOD '
&BB	'REPLACEMENT'
&CC	'ALSO GOOD'
&DD	'METHOD'

式	結果
(&AA &BB)	GOOD REPLACEMENT
(&AA &BB)	GOOD REPLACEMENT
(&AA *CAT &BB)	GOOD REPLACEMENT
(&CC > &DD)	ALSO GOOD METHOD
(&CC *BCAT &DD)	ALSO GOOD METHOD
(A *CAT MOUSE)	AMOUSE
('A ' *CAT MOUSE)	A MOUSE
(FAST *CAT MOUSE)	FASTMOUSE
('FAST ' *BCAT MOUSE)	FAST MOUSE
('FAST ' *TCAT MOUSE)	FASTMOUSE
('AB' *CAT 'CD')	ABCD
('AB' *BCAT 'CD')	AB CD
('AB' *TCAT 'CD')	ABCD
(%SST(&AA 1 5)) *CAT (%SST(&BB 3 5))	GOOD PLACE
(%SST(&CC 1 9)) *BCAT (%SST(&BB 3 5))	ALSO GOOD PLACE
(&AA *CAT ' TIME')	GOOD TIME
(&CC *BCAT TIME)	ALSO GOOD TIME

文字ストリングおよび変数を使用した別の例については、以下を参照してください。

- 『例: 文字ストリングおよび変数の使用』

例: 文字ストリングおよび変数の使用

次の例は、いくつかの文字変数および文字ストリングを連結して、ワークステーション・オペレーターへのメッセージを作成する方法を示しています。この例では、変数 &DAYS および &CUSNUM は、10 進変数ではなく文字変数として宣言されているものとします。

```
DCL      VAR(&MSG)TYPE(*CHAR)      LEN(100)
          *
          *
CHGVAR   &MSG('Customer' *BCAT &CUSNUMD +
            *BCAT'Account Number' *BCAT +
            &CUSNUM *BCAT 'is overdue by' +
            *BCAT &DAYS *BCAT 'days.')
```

各変数が該当の値で置き換えられた結果、次のようなメッセージができあがります。

```
Customer ABC COMPANY Account Number 12345
is overdue by 4 days.
```

変数 &DAYS および &CUSNUM が 10 進変数として宣言されていたとすれば、さらに別の 2 つの CHGVAR コマンドを使用して 10 進変数を文字変数に変更しない限り、連結を行うことはできません。たとえば、プログラムの中で &DAYSALPH および &CUSNUMALPH という 2 つの文字変数も宣言されていたとすれば、CHGVAR コマンドは次のようになります。

```
CHGVAR  &DAYSALPH  &DAYS
CHGVAR  &CUSNUMALPH  &CUSNUM
```

この場合は、&MSG 用のすべての変数および文字ストリングを連結する CHGVAR コマンドでは、&DAYS および &CUSNUM の代わりに、新しい変数である &DAYSALPH および &CUSNUMALPH が指定されることとなります。

文字ストリング式を使用した別の例については、以下を参照してください。

- 85 ページの『例: 文字ストリング式』

比較式

比較式のオペランドは、算術式または文字ストリング式でもよく、また論理定数または論理変数であっても構いません。比較式では、2 つのオペランドと 1 つの演算子しか使用できません。この 2 つのオペランドは、データ・タイプ (算術データ、文字ストリング・データ、または論理データ) が同じでなければなりません。比較式の演算結果は、'0' または '1' の論理値になります。

比較演算子は、記号 (=、>、<、>=、<=、≡、≡>、≡<) またはそれらに対応する予約値 (*EQ、*GT、*LT、*GE、*LE、*NE、*NG、*NL) で指定することができます。それぞれの意味については、87 ページの『式の中の演算子』の項の表を参照してください。

演算において 2 つの文字フィールドの長さが同じでない場合には、短い方のフィールドの右側にブランクが追加されて、両者の長さが同じになるように調整されます。

算術フィールドは算術的に比較され、文字フィールドは EBCDIC 照合順序に従って比較されます。

論理フィールドを比較する場合、論理値 1 ('1') は論理値 0 ('0') より大きいと見なされます。これを記号で表せば ('1' > '0') となります。

次に、比較式の例を示します。

```
(&X *GT 25)
(&X > 25)
(&X>25)

(&NAME *EQ GSD)
(&NAME *EQ &GSD)
(&NAME *EQ 'GSD')
(&BLANK *EQ ' ')
```

論理式

論理式のオペランドは、論理演算子で区切られた比較式、論理変数、または定数で構成されています。これらのオペランドを 2 つ以上組み合わせ、論理式の中で 2 つ以上の式を作ることができます。この場合のネストのレベル数は最高 5 レベルまでです。論理式の演算結果は '0' または '1' のいずれかで、これは他の式の一部として使用することも、また論理変数に入れることもできます。

オペランド相互間の関係を指定するために使用する論理演算子は、*AND と *OR (予約値の場合) および & と | (記号の場合) です。AND 演算子は、両方のオペランド (演算子の両側のオペランド) が所定の値を持っている場合に、はじめて特定の結果が得られることを示します。OR 演算子は、いずれか一方のオペランドで結果が決まることを示します。

論理演算子 *NOT (または \neg) は、論理変数または論理定数を否定するために使用されます。*NOT 演算子は常に、*AND または *OR 演算子より先に評価されます。すなわち、*NOT 演算子の後に続くすべてのオペランドは、オペランド相互間の関係より先に評価されます。

以下に論理式の例を示します。

```
((&C *LT 1) *AND (&TIME *GT 1430))
(&C *LT 1 *AND &TIME *GT 1430)
((&C < 1) & (&TIME *GT 1430))
((&C<1)&(&TIME>1430))

(&A *OR *NOT &B)
(&TOWN *EQ CHICAGO *AND &ZIP *EQ 60605)
```

IF コマンドで使用される論理式の 2 つの例を下に示します。

```
IF &A CALL PROG1
IF (&A *OR &B) CALL PROG1
```

式の中の演算子

式の中で使用する演算子は、その式の中のオペランドに対して行う演算、または、オペランドとオペランドとの関係を指定します。演算子には 4 種類のタイプがあり、それぞれが、次の式のタイプに対応しています。

- 算術演算子 (+、-、*、/)
- 文字演算子 (||、|>、|<)
- 論理演算子 (&、|、)
- 比較演算子 (=、>、<、>=、<=、=、>、<)

各演算子は、その演算子を使用している式のオペランドとオペランドの間になければなりません。たとえば、(&A + 4) のようになります。演算子は、事前定義値 (*EQ など) または記号 (= など) で指定することができます。

- 事前定義値の演算子の前後には空白が必要です。
(&VAR *EQ 7)
- 除算演算子 (/) の場合を除いて、記号演算子の前後には空白はなくても構いません。たとえば、(&VAR=7) と (&VAR = 7)はいずれも有効です。
除算演算子を変数名の後に付ける 場合には、その除算演算子の前に空白がなければなりません。たとえば、(&VAR / 5) と (&VAR /5) はいずれも有効ですが、(&VAR/5)は無効です。

次の表は、事前定義値とそれに対応する記号を示すとともに、それらが 4 種類の演算子のどれに属するものであるかを示しています。これらの値および記号は、引用符なしのstringの中で、演算子以外の目的で使用してはなりません。

表 11.4 種類の演算子を表す事前定義値および記号

事前定義値	事前定義記号	意味	タイプ
	+	加算	算術演算子
	-	減算	算術演算子
	*	乗算	算術演算子
	/	除算	算術演算子
*CAT	!! ¹	連結	文字string演算子
*BCAT	!> ¹	空白挿入を伴う連結	文字string演算子
*TCAT	!< ¹	空白切り捨てを伴う連結	文字string演算子
*AND	&	AND	論理演算子
*OR	! ¹	OR	論理演算子
*NOT	!¬ ²	NOT	論理演算子
*EQ	=	等しい	比較演算子
*GT	>	より大きい	比較演算子
*LT	<	より小さい	比較演算子
*GE	>=	より大きいまたは等しい	比較演算子
*LE	<=	より小さいまたは等しい	比較演算子
*NE	!¬ ₌₂	等しくない	比較演算子
*NG	!¬ _{>2}	より大きくない	比較演算子
*NL	!¬ _{<2}	より小さくない	比較演算子

注:

- 1 一部の国の文字セットおよび各国間共通文字セットでは、! (16 進 4F) の代わりに ! (感嘆符) が使用されます。このような文字セットでは、OR 演算子として ! または *OR を使用することができます、また連結に !! または *CAT、!> または *BCAT、!< または *TCAT を使用することができます。
- 2 一部の国の文字セットおよび各国間共通文字セットでは、!¬ (16 進 5F) の代わりに * が使用されます。このような文字セットでは、NOT 演算子として * または *NOT を使用することができます。

式を評価する際の演算子の優先順位

1 つの式に複数の演算子がある場合には、式の中の各演算子に応じて、一定の順序で式が評価されます。式の評価の順序を変えるためには、括弧を使用することができます。次の表は、符号付きの 10 進数の値も含めて、式の中で使用されるすべての演算子の優先順位を示しています。

優先順位	演算子
1	符号 (+ および -) 付きの 10 進数値、*NOT、 \neg
2	*, /
3	+, - (2 つのオペランドの間で使用されている場合)
4	*CAT、 、*BCAT、 >、*TCAT、 <
5	*GT、*LT、*EQ、*GE、*LE、*NE、*NG、*NL、>、<、=、>=、<=、 \neg =、 \neg >、 \neg <
6	*AND、&
7	*OR、

優先順位 1 は最高優先順位であり (符号付き数値が最初に評価されます)、優先順位 7 が最低優先順位です (OR 関係が最後に評価されます)。1 つの式の中に優先順位の異なる複数の演算子がある場合には、演算子の優先順位に従って演算が行われます。

1 つの式の中に同じ優先順位を持つ複数の演算子がある場合には、演算はその式の中で左から右への順序で行われます。括弧は、演算の実行順序を制御するためにいつでも使用することができます。括弧内の式の値は、内側の括弧から外側の括弧への順に評価され、また、一对の括弧の中では上記の優先順位に従って評価されます。

CL の組み込み関数

CL は、次の組み込み関数を提供します。

- 『%BINARY』
- 91 ページの 『%SUBSTRING』
- 92 ページの 『%SWITCH』

%BINARY

2 進 (%BINARY) 組み込み関数は、CL 文字変数に含まれている文字ストリングに対して機能します。

%BINARY または %BIN は、式の中で使用できます。また、変数変更 (CHGVAR) コマンドのどちらのオペランド (レシーバー) としても使用できます。詳細については、CHGVAR コマンドの説明を参照してください。

注: また、2 進組み込み関数は、数値 (*DEC、*INT2、および *INT4) と EXPR(*YES) が指定されていると定義されているコマンド・パラメーターでも使用することができます。

サンプル %BINARY 構文図

2 進組み込み関数の構文は次のとおりです。

```
>>-%BINARY(-----文字変数名-----+-----+---)->  
                '-開始位置-+-2-+-'  
                '-4-'  
  
>-----<
```

2 進組み込み関数は、指定された位置から始まる、長さが 2 文字または 4 文字の、指定された CL 文字変数の内容を符号付き 2 進整数として扱います。

2 進組み込み関数が CHGVAR コマンドの VAR パラメーターで使用される場合、VALUE パラメーター内の 10 進数または算術式は 2 バイトまたは 4 バイトの符号付き 2 進整数に変換されます。10 進数の小数部は含まれません。

開始位置と長さが指定されていない場合には、開始位置 1、長さは文字変数に指定されている長さとなります。文字変数の長さは 2 または 4 と宣言されている必要があります。

%BINARY 組み込み関数の使用例は次のとおりです。

例 1: 2 進数から 10 進数への変換

```
DCL VAR(&N) TYPE(*DEC) LEN(3 0)  
DCL VAR(&B2) TYPE(*CHAR) LEN(2) VALUE(X'0012')  
CHGVAR &N %BINARY(&B2)
```

文字変数 &B2 の内容は 2 バイトの符号付き 2 進数として取り扱われ、等価な 10 進数の 18 に変換されます。さらに、10 進変数 &N に割り当てられます。

例 2: 10 進数から 2 進数への変換

```
CHGVAR %BIN(&B2) &N
```

10 進変数 &N に含まれる数値が 2 バイトの符号付き 2 進数に変換され、文字変数 &B2 の 1 番目と 2 番目のバイトに置かれます。

例 3: 算術式の中での使用

```
CHGVAR &N VALUE(%BIN(&B2) + 4)
```

文字変数 &B2 の内容は 2 バイトの符号付き 2 進整数として取り扱われ、等価な 10 進数の 18 に変換されます。さらに、10 進数の 4 が加えられ、その合計の 22 が 10 進変数 &N に割り当てられます。

例 4: 10 進数から 2 進数への変換 (切り捨てあり)

```
CHGVAR %BINARY(&B2) VALUE(122.567)
```

数値 122.567 が整数 122 に切り捨てられてから、2 バイトの符号付き 2 進整数に変換されて、文字変数 &B2 に割り当てられます。文字変数 &B2 には、X'007A' と等価な 16 進数が含まれます。

例 5: 負の数値の変換

```
DCL VAR(&B4) TYPE(*CHAR) LEN(4)  
CHGVAR %BIN(&B4) VALUE(-45)
```

値 -45 が 4 バイトの符号付き 2 進整数に変換され、文字変数 &B4 に割り当てられます。文字変数 &B4 には、X'FFFFFFD3' と等価な 16 進数が含まれます。

例 6: IF コマンドでの使用

```
IF COND(%BIN(&B4) *EQ 0) THEN(GOTO ENDIT)
```

文字変数 &B4 の内容が 4 バイトの符号付き 2 進整数として取り扱われ、10 進数の 0 と比較されます。それらが等しい場合は、ラベル ENDIT の後のコマンドが実行されます。等しくない場合は、IF コマンドの後のコマンドが実行されます。

例 7: 長さ文字ストリングの CPP への変換

```
PGM PARM(&P ... )

DCL VAR(&P) TYPE(*CHAR) LEN(202)

DCL VAR(&L) TYPE(*DEC) LEN(5 0)
DCL VAR(&C) TYPE(*CHAR) LEN(200)
*
*
*
CHGVAR &L %BINARY(&P 1 2)
CHGVAR &C %SST(&P 3 &L)
*
*
*
ENDPGM
```

このプログラムは、最初のパラメーターが属性 TYPE(*CHAR)、LEN(200)、および VARY(*YES) で定義されたコマンドのためのコマンド処理プログラム CPP です。文字変数 &P の最初の 2 バイトには、パラメーターの長さが、2 バイトの符号付き 2 進整数 *INT2 として入っています。コマンドに指定された文字ストリングは、変数 &P の位置 3 から始まります。文字ストリングの最大長は 200 文字です。

最初の CHGVAR コマンドは変数 &P の最初の 2 文字から長さを検索し、その 2 バイトを符号付き 2 進整数として取り扱います。これらのバイトは、符号付き 2 進整数と等価の 10 進数に変換され、10 進変数 &L に割り当てられます。

2 番目の CHGVAR コマンドは、変数 &P をサブストリングにし、変数 &C に割り当てて、パラメーターの内容を検索します。

%SUBSTRING

サブストリング組み込み関数は、CL 文字変数または内部データ域に入っている文字ストリングに対して機能します。%SUBSTRING または %SST は、式の中で使用できます。また、変数変更 (CHGVAR) コマンドのどちらのオペランド (レシーバー) としても使用できます。詳細については、CHGVAR コマンドの説明を参照してください。この組み込み関数は、%SUBSTRING または %SST の形でコーディングすることができます。

サンプル %SUBSTRING 構文図

サブストリング組み込み関数の構文は次のとおりです。

```
>>-&SST(+--+LDA-----+--開始位置--長さ---)->
      '-文字変数名-----'
```

```
>-----<
```

この組み込み関数は、指定された CL 文字変数または内部データ域の内容からサブストリングを作成します。サブストリングは、対象となる値の中で指定された桁から始まり、指定された長さで終わります。例を以下に示します。

```
%SST(&TEST 5 3)
```

この例では、&TEST という変数の一部が参照されます。参照される部分 (すなわちサブストリング) は、長さが 3 文字で、5 文字目から始まります。&TEST の内容が ABCDEFGHIJ であるとするれば、サブストリングは EFG となります。

関数の開始桁および長さを指定するために、CL 変数を使用することもできます。例を以下に示します。

```
CHGVAR &X %SST(*LDA &B &C)
```

&X という名前の文字変数の値は、ジョブの内部データ域の中の、変数 &B から得られる桁で始まり、&C の値で示される長さの部分で置き換えられます。

```
RTVJOBA SWS(&JOBSWS)
```

```
CHGVAR VAR(&CURSW4) VALUE(%SST(&JOBSWS 4 1))
```

この例では、ジョブ属性検索 (RTVJOBA) コマンドが使用されて、ジョブの 8 個のジョブ・スイッチの現在の値が検索されます。その後で、CHGVAR コマンドが使用されて、4 番目のジョブ・スイッチのみの現在値が取り出され、その値が変数 &CURSW4 に入れます。&JOBSWS で検索された 8 つのジョブ・スイッチの値が 10010000 であったとするれば、2 つ目の 1 が &CURSW4 に入れます。

%SWITCH

組み込み関数 %SWITCH は、現行ジョブにおける 8 つのジョブ・スイッチのうち 1 つ以上をテストし、1 または 0 の論理値を戻します。%SWITCH によりテストされたジョブ・スイッチがすべて指示どおりの値であれば、結果は 1 (真) であり、テストされたスイッチに指示どおりでないものがあれば、結果は 0 (偽) です。

8 文字のマスクは、どのジョブ・スイッチをテストするか、および各スイッチをどのような値と対照してテストするかを指定します。マスクの各桁は、ジョブの 8 つのジョブ・スイッチの 1 つ 1 つに対応しています。すなわち、1 桁目はスイッチ 1 に、そして 2 桁目はスイッチ 2 に、というように対応しています。マスクの各桁には、3 つの値、0、1、または X のいずれかを指定できます。

0 対応するジョブ・スイッチが 0 (オフ) であるかどうかをテストされます。

1 対応するジョブ・スイッチが 1 (オン) であるかどうかをテストされます。

X 対応するジョブ・スイッチはテストされません。

スイッチの値は、%SWITCH の結果に影響しません。

サンプル %SWITCH 構文図

スイッチ組み込み関数の構文は次のとおりです。

```
>>-&SWITCH(--)->>
```

%SWITCH(0X111XX0)を指定した場合、ジョブ・スイッチ 1 および 8 が 0 であるかどうかをテストされ、スイッチ 3、4、および 5 が 1 であるかどうかをテストされますが、スイッチ 2、6、および 7 はテストされません。各ジョブ・スイッチに、マスクで指定された値 (1 または 0 のみ) が入っていれば、%SWITCH の結果は真 (1) になります。

%SWITCH 組み込み関数は、変数変更 (CHGVAR) コマンドおよび IF コマンドの中で使用できます。CHGVAR コマンドでは、VALUE パラメーターの論理変数の代わりにこれを使用できます。IF コマンドでは、テストされる論理式として COND パラメーターで使用できます。

次の 2 つの例は、同じマスクを使用して、プログラム内でのブランチ (分岐) を制御する方法 (IF コマンド)、および変数の値をセットする方法 (CHGVAR コマンド) を示しています。

```
IF COND(%SWITCH(0X111XX0)) THEN(GOTO C)
```

```
CHGVAR VAR(&A) VALUE(%SWITCH(0X111XX0))
```

IF コマンドで %SWITCH(0X111XX0) を指定した場合、ジョブ・スイッチ 1、3、4、5、および 8 の値がそれぞれ 0、1、1、1、および 0 であれば、結果は真になり、プログラムはラベル C のコマンドにブランチします。テストしたスイッチの中にマスクで指示された値ではないものが 1 つ以上あれば、結果は偽で、ブランチは発生しません。これと同じマスクを CHGVAR コマンドで使用した場合には、結果が真であれば変数 &A が '1' に設定され、結果が偽であれば &A は '0' に設定されます。&A は論理変数として宣言されていなければならない点に注意してください。


メッセージのモニター

*ESCAPE メッセージ、*STATUS メッセージ、および *NOTIFY メッセージは、モニター可能なメッセージであり、プログラムで使用可能な各 CL コマンドによって発行されます。この情報を使用して、プログラムにおいてモニターの対象とするメッセージを判別できます。

メッセージ・モニター (MONMSG) CL コマンドを使用して、1 つ以上のメッセージをモニターし、モニターしているコマンドがこれらのいずれかのメッセージを発行したときに取りたい処置を (MONMSG コマンドで) 指定できます。

4 ページの『コマンドのアルファベット順リスト』からコマンドを選択することによって、各コマンド記述の末尾にリストされているモニター可能なメッセージを参照することができます。

V4R2 以降のシステムの場合は、個々のコマンドに関するオンライン・ヘルプを参照して、モニター可能なメッセージに関する情報を入手できます。iSeries 400 コンピューターでオンライン・コマンド・ヘルプを表示するには、コマンド行にコマンド名を入力して、F1 (ヘルプ) を押します。コマンドの目的の要旨の後に、エラー・メッセージ情報が表示されます。

QSYSMSG 待ち行列に送信されるメッセージの詳細については、「CL プログラミング」 の第 8 章を参照してください。

コマンド定義ステートメント: OS/400 制御プログラムを使用することにより、機能を実行するプログラムを呼び出すコマンドを定義できます。ユーザーは、コマンド定義ステートメントを使用してコマンドを定義できます。定義するコマンドには次のものを入れることができます。

- キーワード表記パラメーター。プログラムにデータを渡します。
- 省略されたパラメーターに代わる省略時値。
- パラメーターの妥当性検査。機能を実行するプログラムに対して正しい値が渡されるようにします。
- プロンプト・テキスト。対話式ユーザーに対して操作上の指示を与えます。

コマンド定義ステートメントに関する詳細については、以下を参照してください。

- 94 ページの『ユーザー定義のコマンドの作成』
- 94 ページの『CMD (コマンド) ステートメント』

- 95 ページの『DEP (従属) ステートメント』
- 98 ページの『ELEM (要素) ステートメント』
- 114 ページの『PARM (パラメーター) ステートメント』
- 134 ページの『PMTCTL (プロンプト制御) ステートメント』
- 136 ページの『QUAL (修飾子) ステートメント』

ユーザー定義のコマンドの作成

ユーザーは、ソース・ファイルにコマンド定義ステートメントを入力し、そのソース・ファイルを入力としてコマンド作成 (CRTCMD) コマンドを実行することによって、コマンドを定義することができます。ソース・ファイルには、コマンド (CMD) ステートメントが必ず 1 つのみ含まれていなければなりません。作成するコマンドに指定する各パラメーターについて、それぞれパラメーター (PARM) ステートメントが必要です。特定のキーワード関係を検査する必要がある場合には、従属 (DEP) ステートメントを用いてその関係を定義します。DEP ステートメントは、すでに定義されているパラメーターのみを参照できます。これらのステートメントは、任意の順序で指定できます。これらのステートメントを使用してコマンドを定義

する方法の詳細については、「CL プログラミング」 を参照してください。

ソース・ファイルの 1 つのソース・メンバーによって定義できるコマンドは 1 つのみです。1 つのソース・ファイル・メンバー内のコマンド定義ステートメントから、コマンド定義オブジェクトを作成するには、CRTCMD コマンドを実行します。他のユーザーには、オブジェクト権限認可 (GRTOBJAUT) コマンド、またはオブジェクト権限編集 (EDTOBJAUT) コマンドにより、新しいコマンドの使用を許可できます。

コマンド定義ステートメントの記述

各コマンドのコマンド定義ステートメントは、下記のコマンド・ステートメントを 1 つ以上含みます。

- 『CMD (コマンド) ステートメント』
- 95 ページの『DEP (従属) ステートメント』
- 98 ページの『ELEM (要素) ステートメント』
- 114 ページの『PARM (パラメーター) ステートメント』
- 134 ページの『PMTCTL (プロンプト制御) ステートメント』
- 136 ページの『QUAL (修飾子) ステートメント』

CMD (コマンド) ステートメント

コマンド (CMD) ステートメントは、作成中のコマンドに関するプロンプト・テキストを指定します。プロンプト・テキストは、現在定義中のコマンドを後でユーザーが入力する過程で、ユーザーがプロンプト表示を要求した場合に、ワークステーションに表示されるものです。CMD ステートメントは、コマンド作成 (CRTCMD) コマンドにより参照されるソース・ファイルの、どこにでも指定することができます。作成するコマンドにプロンプト・テキストを指定しない場合でも、ソース・ファイルに 1 つのみ、必ず CMD ステートメントを使用しなければなりません。次の構文図に、CMD 定義ステートメントの構文を示します。

```

      .-*NONE-----
>>-CMD--PROMPT--(--+--メッセージ識別コード--+--)------>>
      '-'プロンプト・テキスト'-'
```

PROMPT パラメーター

PROMPT パラメーターは、定義されるコマンドのプロンプト画面の見出し (タイトル) に使用するプロンプト・テキストを指定します。プロンプト・テキストには、コマンドの名前をさらに詳しく

記述します。たとえば、CRTLIB プロンプト見出しが「ライブラリー作成 (CRTLIB)」であれば、この PROMPT パラメーターでプロンプト・テキストとして、ライブラリー作成 という語を指定します。

注: このコマンドの各パラメーター についてのプロンプト・テキストは、PARM、ELEM、および QUAL の各コマンド定義ステートメントの PROMPT パラメーターに指定することができます。これらのステートメントは、CMD ステートメントの PROMPT パラメーターが、コマンドについての (見出しの) プロンプト・テキストを指定するのと同様に、パラメーターに対するプロンプト・テキストを指定します。

***NONE:** コマンド・プロンプトの表示を行う場合に、表示されるプロンプトの見出しにプロンプト・テキストは組み込まれません。

メッセージ識別コード: このコードは、メッセージ識別コードを指定します。コマンド・プロンプトの表示の際に示される 30 文字以内のプロンプト・テキストのメッセージを指定します。コマンド作成 (CRTCMD) コマンドの PMTFILE パラメーターに指定されたメッセージ・ファイルの中に指定の識別コードを持つメッセージが見つからない場合には、メッセージ識別コード自体がプロンプト・テキストとして使用されます。

'プロンプト・テキスト': コマンド・プロンプトの表示の際に表示される、プロンプト・テキストを指定してください。これは、アポストロフィで囲んだ 30 文字以内の文字ストリングでなければなりません。

注: このパラメーターには、変数をコーディングすることはできません。

詳細については、『例: CMD ステートメント』を参照してください。

例: CMD ステートメント

```
CMD PROMPT(UCD0001)
```

このステートメントは、プロンプト表示の際、画面の見出しに表示される追加テキストでコマンドを説明するものです。そのプロンプト・テキストは、UCD0001 により識別されるメッセージから得られます。

DEP (従属) ステートメント

従属 (DEP) ステートメントは、パラメーターとパラメーター値との間の関係を検査する必要がある場合に、両者の関係を定義するために用いられます。これには、パラメーターと、それに関連する特定の値との関係を検査する場合 (関係の検査) と、パラメーターが存在しなければならないことを検査する場合 (指定の検査) とがあります。

パラメーターに省略時値があり、そのパラメーターに値が指定されていない場合には、DEP ステートメントが指定の検査を行うのか関係の検査を行うのかによって検査方法が異なります。値が指定されていないパラメーターに対して、指定の検査 (当該パラメーターの値の存在の有無についての検査) を行う場合には、システムは、値が指定されていないものと見なし、したがって、省略時値も使用されません。値が指定されていないパラメーターに対して関係の検査を行う場合には、省略時値がそのパラメーターの値として使用されます。次の構文図に、DEP 定義ステートメントの構文を示します。

```
>>-DEP----->
>-----CTL--(--+*ALWAYS-----+-----)->
      |                (1)                |
      +-キーワード名-----+
```

```

      |
      |-&キーワード名-----比較演算子-----+値-----+
      |                                     |
      |                                     |-&キーワード名-----|
      |
      |
      |-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+
      | (1)  v      (1)                                     | (3)
      |>-----PARM-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+
      |                   |-&キーワード名-----比較演算子-----+値-----+
      |                   |                                     |
      |                   |                                     |-&キーワード名-----|
      |                   |
      |                   |
      |-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+
      | .-*ALL-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+
      | -NBRTRUE--(-+--比較演算子-----真となる数-----+-----+-----+-----+
      |
      |
      |-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+
      | .-*NONE-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+
      | -MSGID--(-+--メッセージ識別コード--+-----+-----+-----+-----+
  
```

注:

1. TYPE(*NULL) として定義されてはなりません。
2. TYPE(*NULL) または PASSVAL(*NULL) として定義されてはなりません。
3. 最大 25 回まで反復可能。

CTL パラメーター

PARM ステートメントに定義されたパラメーターの従属関係が真であるかどうか検査する前に、何が真であるかという制御条件を指定する必要があります。このパラメーターは、このために使用されます。指定する最初のキーワードは、制御パラメーターを識別するためのものです。制御条件は、キーワード名のみで指定してもよいし、あるいは、キーワード名とテスト関係とによって指定することもできます。このテスト関係は、従属するパラメーターの存在を制御条件が必要とするかどうかを判定するものです。制御パラメーターと指定値との関係が、指定した条件が満足されるかどうかを判定するためにテストされます。指定した条件が満たされた場合、制御パラメーターが従属するパラメーターは、PARM パラメーターと NBRTRUE パラメーターに指定された要件を満たす必要があります。

***ALWAYS:** パラメーターの従属関係は、コマンドの形式にかかわらず常に検査されます。

キーワード名: 従属関係を制御するために値を指定する必要があるパラメーターのキーワード名を指定してください。キーワード名は、それを定義する PARM ステートメントの KWD パラメーターで指定したパラメーターの名前と同じでなければなりません。キーワードを指定した場合には、パラメーターの従属関係が検査されます。このキーワードは、TYPE(*NULL) として定義されてはなりません。

&キーワード名 比較演算子 値: 制御パラメーターのキーワード名と、それに続く比較演算子 (*LE または *EQ など) およびテストする値を指定してください。テスト条件を満たしている場合、制御パラメーターが従属するパラメーターは、PARM ステートメントに指定した要件を満たす必要があります。値は 32 文字以下でなければなりません。このキーワードは、TYPE(*NULL) として定義されてはなりません。

テストされる値が特殊な値または単一の値 (PARM ステートメントの SPCVAL パラメーター、または SNGVAL パラメーター) として指定されている場合には、取り出し値でなく受け入れ値を使用しなければなりません。

比較演算子と値を指定する場合には、キーワードの値をテストすることを示すために、キーワード名の前にアンパーサンド (&) を付けなければなりません。比較演算子および値を指定しない場合には、アンパーサンドを使用してはなりません。

制御パラメーターが修飾名である場合、最初の修飾子が比較値に使用されます。制御パラメーターがリストである場合、リストの最初の要素が比較値に使用されます。最初の要素がリストである場合はそのリストの最初の要素、という具合に使用されます。

(&キーワード名 比較演算子 &キーワード名): 制御パラメーターのキーワード名と、それに続けて比較演算子 (*EQ など)、さらに制御パラメーターの値と比較するための値を持つ別のパラメーターのキーワード名とを指定してください。このキーワードは TYPE(*NULL) として定義してはならず、また PASSVAL(*NULL) を指定して定義してはなりません。

PARM パラメーター

CTL パラメーターで定義した制御条件が真である場合にテストするパラメーターの従属関係を指定します。従属関係としては、次のいずれかまたは両方を指定できます。

- 存在 (指定) の有無がテストされる 1 つ以上のパラメーターの名前。
- 他のキーワードの値または定数の値に対するキーワードの値との 1 つ以上のテスト関係。
PARM パラメーターには、最高 25 個のパラメーターを指定することができます。このパラメーターに指定するキーワードは、TYPE(*NULL) として定義してはなりません。

キーワード名: 指定の値を備えていなければならない個々のパラメーターのキーワード名を指定してください。

&キーワード名 比較演算子 値: 各パラメーターのキーワード名と、それに続く比較演算子およびテスト値を指定してください。キーワードの値をテストすることを示すために、キーワード名の前にアンパーサンドを付けなければなりません。指定する値は、32 文字以内でなければなりません。

比較テストに使用する値を特殊値または単一値 (PARM ステートメントの SPCVAL パラメーター、または SNGVAL パラメーター) として指定する場合には、取り出し値でなく受け入れ値を使用しなければなりません。

制御パラメーターが修飾名である場合、最初の修飾子が比較値に使用されます。制御パラメーターがリストである場合、リストの最初の要素が比較値に使用されます。最初の要素がリストである場合はそのリストの最初の要素、という具合に使用されます。

&キーワード名 比較演算子 &キーワード名: パラメーターのキーワード名と、それに続く比較演算子、および、値を最初のパラメーターの値と比較する別のパラメーターのキーワード名とを指定してください。PASSVAL(*NULL) により定義されたキーワードは指定できません。

NBRTRUE パラメーター

制御条件を満たすためには、関連の PARM ステートメントに定義されているパラメーター従属関係のうちのいくつが、真でなければならないかを指定します。

***ALL:** 制御条件を満たすためには、PARM ステートメントに指定されたすべてのパラメーター従属関係が真でなければなりません。

比較演算子 真となる数: 指定した関係を満たすために真でなければならないパラメーター従属関係の数と、比較演算子を指定してください。たとえば、NBRTRUE に (*EQ 2) を指定した場合には、PARM ステートメントのパラメーター従属関係のうち 2 つのみが真になっていなければなりません。

注: このパラメーターには、変数をコーディングすることはできません。

MSGID パラメーター

指定したパラメーター従属関係がすべては満たされなかった場合にユーザーに送られるメッセージ・ファイル内のエラー・メッセージのメッセージ識別コードを指定します。

***NONE:** 特定のメッセージは送られません。代わりに、コマンド分析プログラムにより作成されたメッセージがユーザーに送られます。

メッセージ識別コード: このステートメントに関する従属関係のいずれかが満たされなかった場合にユーザーに送られるエラー・メッセージのメッセージ識別コードを指定してください。CPF または CPD という 3 文字の接頭部で始まる識別コードのメッセージは、IBM 提供のメッセージ・ファイル QCPFMSG から取り出されます。ここで指定する他のすべてのメッセージは、該当の従属関係付きで定義されたコマンドを作成した CRTCMD コマンドの MSGF パラメーターに指定したメッセージ・ファイルから取り出されます。

注: このパラメーターには、変数をコーディングすることはできません。

詳細については、『例: DEP ステートメント』を参照してください。

例: DEP ステートメント

```
DEP CTL(&TYPE *EQ LIST) PARM(ELEMLIST)
```

TYPE(LIST) を指定した場合には、ELEMLIST パラメーターも指定しなければなりません。

```
DEP CTL(FILE) PARM(VOL LABEL) NBRTRUE(*EQ 2)
```

FILE パラメーターを指定した場合には、VOL パラメーターおよび LABEL パラメーターの両方を指定しなければなりません。

```
DEP CTL(GLOOP) PARM(J1 D J2) NBRTRUE(*EQ 1)
```

GLOOP パラメーターを指定した場合には、J1、D、および J2 の各パラメーターのいずれか 1 つのみに値を指定しなければなりません。

```
DEP CTL(&LIB *EQ MYLIB)  
PARM((&PASSWORD *EQ XYZ5)  
      (&USRPRF *EQ BOBJ))  
NBRTRUE(*GE 1) MSGID(MSG001)
```

LIB パラメーターが MYLIB である場合は、PASSWORD パラメーターが XYZ5 であるか、または USRPRF パラメーターが BOBJ でなければなりません。この条件が満たされていない場合、メッセージ MSG001 がユーザーに送られます。

ELEM (要素) ステートメント

要素 (ELEM) ステートメントは、このコマンド上の混合リスト (リスト要素) パラメーターの要素を定義するために使用されます。リスト・パラメーターは、複数の値を受け入れるパラメーターで、この複数の値は、1 つのキーワードによって連続の値としてまとめて渡されます。値の前には、このパラメーターについて定義される要素の数を示す 2 バイトの 2 進数が置かれます。CL プログラムでは、変数中における 2 進数値の使用はサポートされていませんが、%BINARY 組み込み関数を使用して長さを検査できます。

リスト要素は、特定の順序でリストに編成された一群の値のうちの 1 つの値を表す値です。リスト要素のすべてが同一のタイプではない場合には、定義中のリストに入る各要素ごとに 1 つずつ ELEM ステート

メントを使用しなければなりません。すべての要素が同一タイプ (単純リスト) である場合には、個別の ELEM ステートメントは不要です。単純リストの場合には、PARM ステートメントの MAX パラメーターにリストの要素数を指定してください。

ELEM ステートメントをソース・ファイルに入力する順序により、リスト内の要素の順序 (位置) が決まります。最初のリスト要素に対応する最初の ELEM ステートメントには、同じリストについての PARM ステートメントまたは ELEM ステートメントの、TYPE(ステートメント・ラベル) に一致するステートメント・ラベルを付けなければなりません。リスト内の 2 番目以降の ELEM ステートメントは、ラベルのないステートメントでなければなりません。異なる値を持つ要素のリストは、最高レベルのネストで 3 レベルまでネストすることができます。1 つのリストに入れることができる要素の数は最高 300 個です。

注: ELEM ステートメントには、定義中のコマンドによって IBM 提供のコマンド処理プログラム (CPP) が呼び出される場合にのみ使用できる、特定のパラメーターおよび事前定義値が含まれています。高水準言語の一部には制約があるため、これらの値はユーザー定義のコマンドの定義ステートメントでは使用できない場合があります。パラメーター全体が IBM 提供のコマンド専用のものである場合、このようなパラメーターおよび値には、パラメーター・キーワードまたは該当の事前定義値の直後に「(IBM 提供のコマンド用)」という断わり書きがあります。

次の構文図に、ELEM 定義ステートメントの構文を示します。

```

>>-ELEM---TYPE(--+*DEC-----+---)----->
+*LGL-----+
+*CHAR-----+
+*NAME-----+
+*SNAME-----+
+*CNAME-----+
+*PNAME-----+
+*GENERIC-----+
+*DATE-----+
+*TIME-----+
+*HEX-----+
+*ZEROELEM-----+
+*INT2-----+
+*INT4-----+
+*UINT2-----+
+*UINT4-----+
+*VARNAME-----+
'-ステートメント・ラベル-'

>-----+-----+----->
'-LEN(--+長さ-----+---)---'
'-長さ---小数点位置-----'

>-----+-----+----->
'-CONSTANT(---値---)---' | '.*NO--.' |
'-RSTD(--+*YES+---)---' |

>-----+----->
'-DFT(-----値-----)---'

>-----+-----+----->
| '-----' |
| v | (1) | |
+VALUES(-----値-----+---)-----+
+REL(-----比較演算子-----値-----)-----+
'-RANGE(-----下限値-----上限値-----)-----'

>-----+-----+----->
'-SPCVAL(--+特殊値-----+---)---'
| '-----' |
| v | (1) | |

```


***GENERIC:** このリスト要素は、総称名を表す文字ストリングです。総称名は、アスタリスク (*) が後に付く場合には最大 255 文字、アスタリスクが付かない場合には最大 256 文字の長さで、153 ページの『総称オブジェクト名』の規則に準拠していなければなりません。この名前は、* の前の文字で始まる名前を持つオブジェクトのグループを識別します。* がいない場合には、システムはその総称名を 1 つのオブジェクト名と見なします。

***DATE:** このリスト要素は、日付を表す文字ストリングです。コマンドを入力する際には、年を 2 桁か 4 桁のいずれかで指定できます。年を 2 桁で指定する場合、日付は 1940 年 1 月 1 日から 2039 年 12 月 31 日の範囲内と見なされます。年を 4 桁で指定する場合、日付は 1928 年 8 月 24 日から 2071 年 5 月 9 日の範囲内となります。CPP に渡される場合、日付は、必ず *Cyymmdd* の形式となります。ここで、C は世紀、yy は年、mm は月、dd は日を表します。世紀の桁は、19xx 年の場合は 0 に設定され、20xx 年の場合は 1 に設定されます。この ELEM ステートメントに日付の値を指定する場合には、引用符を付けずに *mmddy*、*mmddyyyy*、または *Cyymmdd* のいずれかの形式で指定しなければなりません。コマンドの実行時にユーザーが日付を入力する場合は、ジョブ日付形式で入力しなければなりません。ジョブ日付区切り記号は、日付を入力する際に使用しなければならないオプションの区切り文字を指定します。区切り文字を使用する場合には、日付をアポストロフィで囲まなければなりません。

***TIME:** このリスト要素は、時間を表す文字ストリングです。入力の際の形式は、*hhmmss* です。ここで、hh は時、mm は分、ss は秒を表します。これは、6 バイトの文字ストリング *hhmmss* として CPP に渡されます。このステートメントで指定する値は、すべて *hhmmss* の形式になっていなければなりません。ジョブ時刻区切り記号は、時刻を入力する際に使用できるオプションの区切り文字を指定します。区切り文字を使用する場合は、時刻をアポストロフィで囲まなければなりません。

***CHAR:** このリスト要素は、必要に応じてアポストロフィで囲むことのできる文字ストリングです。この文字ストリングに特殊値 (アスタリスク (*) を除く) が含まれている場合には、文字ストリング全体をアポストロフィで囲まなければなりません。文字ストリングの最大長は 5000 文字です。

***DEC:** このリスト要素はパック 10 進数です。

***LGL:** このリスト要素は、論理値の 1 ('1') か ゼロ ('0') です。

***HEX:** このリスト要素の値は 16 進形式です。指定する文字は、0 から F でなければなりません。これらの文字は、16 進 (EBCDIC) 文字 (1 バイトあたり 2 つの 16 進数) に変換され、右寄せされて、ゼロが埋め込まれます。値をアポストロフィで囲む場合には、長さを偶数にする必要があります。値をアポストロフィで囲まない場合には、桁数は偶数でも奇数でも構いません。

***ZEROELEM:** このリスト要素は、常に要素数がゼロのリストであると見なされ、コマンドでこの要素に値を指定することはできません。これは、たとえ CPP が値の入力を期待していても、リスト内の要素に値を入力できないようにするために使用します。パラメーター中の他の要素についてはプロンプトが出され、それらの要素がリストとして CPP に渡される場合でも、*ZEROELEM が指定されている要素についてはプロンプトは出されません。

***INT2:** このリスト要素は、2 バイトの符号付き 2 進数として渡される整数です。CL プログラムでは、変数内での 2 進数値の使用はサポートされていません。

***INT4:** このリスト要素は、4 バイトの符号付き 2 進数として渡される整数です。CL プログラムでは、変数内での 2 進数値の使用はサポートされていません。

***UINT2:** このリスト要素は、2 バイトの符号なし 2 進数として渡される整数です。CL プログラムでは、変数内での 2 進数値の使用はサポートされていません。

***UINT4:** このリスト要素は、4 バイトの符号なし 2 進数として渡される整数です。CL プログラムでは、変数内での 2 進数値の使用はサポートされていません。

***VARNAME:** (IBM 提供のコマンド用) このリスト要素は、文字ストリングとして渡される変数名です。この名前は、先頭のアンパーサンド (&) を含めて最大 11 文字にすることができます。

ステートメント・ラベル: 修飾名または値の混合リストを指定してください。TYPE パラメーターでここに指定するステートメント・ラベルは、定義中の修飾名または混合リストをさらに詳しく記述する一連の QUAL ステートメントまたは ELEM ステートメントの最初を識別します。ラベルは、このリストについて PARM ステートメントの TYPE(ステートメント・ラベル) で指定したラベルと同じものにしなければなりません。

LEN パラメーター

CPP に渡す該当リスト要素の値の長さを指定します。TYPE に、*INT2、*INT4、*UINT2、*UINT4、*DATE、*TIME、*ZEROELEM、またはステートメント・ラベルを指定した場合には、LEN を指定することはできません。TYPE(*DEC) を指定した場合には、(n1 n2) の形式で 10 進桁数を指定します。n1 には、小数点以下の桁数も含めてその値の全桁数を指定し、n2 には小数点以下の許容桁数を指定します。n2 の値はオプションです。n2 を指定しなかった場合には、ゼロを指定したものと見なされます。TYPE が *DEC 以外の場合には、小数点以下の桁数 (n2) は指定せず、文字数のみを指定しなければなりません。

表 12. コーディングできるデータ・タイプの長さ

データ・タイプ	省略時の長さ	最大長 ¹
*DEC	(15 5)	(24 9)
*LGL	1	1
*CHAR	32	5000
*NAME	10	256
*SNAME	10	256
*CNAME	10	256
*PNAME	32	5000
*GENERIC	10	256
*HEX	1	256
*VARNAME	11	11

注:

- ¹ ここに示す最大長は、コマンド定義で指定可能な最大長です。コマンドの CPP として使用される高水準言語では、これらのデータ・タイプについて、別の最大長が存在する場合があります (たとえば、*DEC の値は、CL プログラムでは最大長が (15 9) になります)。
- ここに示す最大長は、コマンドの実行時に使用される値です。コマンド定義に指定する文字定数の最大長は 32 文字に制限されています。この制約条件は、CONSTANT、DFT、VALUES、REL、RANGE、SPCVAL、および SNGVAL の各パラメーターに適用されます。

長さをコーディングできないデータ・タイプについては、最大長および渡される長さは次のとおりになります。

表 13. コーディングできないデータ・タイプの長さ

データ・タイプ	最大長	渡される長さ
*DATE ¹	8	7
*TIME ²	8	6
*ZEROELEM	0	0
*INT2 ³	6	2
*INT4 ⁴	11	4
*UINT2 ⁵	6	2
*UINT4 ⁶	11	4
ステートメント・ラベル ⁷	-	-

注:

- 1 日付を指定した場合には、値は 7 文字で渡されます。
- 2 時刻を指定した場合には、値は 6 文字で渡されます。
- 3 値は、「 $-2^{15} \leq \text{値} \leq 2^{15}-1$ 」の条件を満たしていなければなりません。値は 2 バイトの符号付き 2 進数として渡されます。
- 4 値は、「 $-2^{31} \leq \text{値} \leq 2^{31}-1$ 」の条件を満たしていなければなりません。値は 4 バイトの符号付き 2 進数として渡されます。
- 5 値は、「 $0 \leq \text{値} \leq 2^{16}-1$ 」の条件を満たしていなければなりません。値は 2 バイトの符号なし 2 進数として渡されます。
- 6 値は、「 $0 \leq \text{値} \leq 2^{32}-1$ 」の条件を満たしていなければなりません。値は 4 バイトの符号なし 2 進数として渡されます。
- 7 受け渡されるデータの長さは、そのラベルで識別される ELEM ステートメント、または QUAL ステートメントにより定義されます。

CONSTANT パラメーター

定義されるコマンドが処理される際、定数として CPP に渡される値を指定します。このリスト要素に対応する値は外見上はコマンドに現れることはありません。指定する値は、TYPE、LEN、VALUES、REL、RANGE、SPCVAL、および FULL の各パラメーターにより指定される要件を満たしていなければなりません。LEN パラメーターの表に示したように、このパラメーターに文字定数を指定する場合、指定する文字定数は 32 文字を超えることはできません。

TYPE(*ZEROELEM)、EXPR(*YES)、または MAX(>1) を指定した場合、または ELEM に DFT を指定した場合には、CONSTANT は無効です。

定義される要素に定数を指定する場合には、この ELEM ステートメントの PROMPT パラメーターに、プロンプト・テキストを指定することはできません。しかし、このリスト要素がその値の一部であるリスト・パラメーターの他の要素については、プロンプトが表示され、それらの他の要素の値も (この定数値とともに) リストとして CPP に渡されます。

このパラメーターには、変数をコーディングすることはできません。

RSTD パラメーター

ELEM ステートメントに指定したリスト要素に対して入力できる値が、VALUES、SPCVAL、または SNGVAL のいずれかのパラメーターで与えられている値の 1 つのみに制限されるかどうか、

あるいは、TYPE、LEN、REL、RANGE、SPCVAL、SNGVAL、および FULL の各パラメーターに指定された要件を満たすものであればどのような値でもよいかどうかを指定します。

***NO:** この ELEM ステートメントで定義されたリスト要素に入力する値は、TYPE、LEN、REL、RANGE、SPCVAL、SNGVAL、および FULL の各パラメーターに指定された要件を満たすものであれば、どのような値でも差し支えありません。

***YES:** この ELEM ステートメントで定義されたリスト要素に入力する値は、VALUES パラメーターのいずれか 1 つ、あるいは SPCVAL または SNGVAL パラメーターの取り出し値の 1 つに制限されます。TYPE(ステートメント・ラベル) または TYPE(*ZEROELEM) を指定した場合には、*YES を指定することはできません。

DFT パラメーター

リスト要素に割り当てる省略時値を指定します。コマンドのコーディング時または入力時に、ユーザーがこのリスト要素を表すパラメーターを省略した場合、または要素について *N を指定した場合には、そのリスト要素の値として省略時値が使用されます。省略時値は、次のいずれか 1 つを満たすものでなければなりません。

- TYPE、LEN、REL、RANGE、および FULL パラメーターにより指定された要件に合っていないければなりません。
- SPCVAL パラメーターまたは SNGVAL パラメーターの取り出し値の 1 つでなければなりません。
- 省略時値が文字定数である場合には、32 文字を超えることはできません (LEN パラメーターの表を参照してください)。
- RSTD(*YES) を指定した場合には、VALUES パラメーターの値のリスト、または SPCVAL パラメーターまたは SNGVAL パラメーターの取り出し値のリストに入っていないければなりません。
- この ELEM ステートメント自体がリストを定義するものである場合には、省略時値は SNGVAL パラメーターで指定しなければなりません。

DFT パラメーターは、MIN が 0 の場合、すなわち該当のリストに対し、この ELEM ステートメントで指定された要素がオプションである場合に限り有効です。CONSTANT パラメーターを指定した場合には、DFT パラメーターは無効です。TYPE(*ZEROELEM) を指定すると、省略時値を指定することができません。この場合には、想定省略時値が渡されます。

DFT を指定しなかった場合には、指定した要素タイプに応じて、次の省略時値が想定され、使用されます。

想定省略時値	要素のタイプ
0	*DEC *INT2 *INT4 *UINT2 *UINT4 *ZEROELEM
'0'	*LGL
ゼロ	*DATE *TIME *HEX
ブランク	*CHAR *NAME *SNAME *CNAME *PNAME *GENERIC *VARIABLE

想定 省略時値は、コマンド・プロンプトでは表示されません。代わりに、ブランク入力フィールドが表示されます。DFT パラメーターに省略時値を指定した場合には、プロンプトによりその値が指定どおり正確に表示されます。

値: 指定の要件を満たす省略時値か、SPCVAL、SNGVAL、または VALUES パラメーターに指定したいいずれかの値の省略時値を指定してください。

この値には変数をコーディングすることはできません。

VALUES パラメーター

300 個までの定数 (固定値) のリストを指定します。この指定によって、リストの要素の値として、この中から 1 つの定数を定義できるようになります。VALUES パラメーターは、次のすべての条件が備わっている場合に限り有効です。すなわち、RSTD(*YES) が指定されていて、RANGE および REL の両方が同時に指定されてはならず、各定数が ELEM ステートメントの TYPE、LEN、および FULL の各パラメーターに指定された属性に該当する場合があります。LEN パラメーターの表に示したように、このパラメーターに指定する文字定数は 32 文字を超えることはできません。リスト要素の値として、300 個以下の定数を入力してください。TYPE(ステートメント・ラベル) または TYPE(*ZEROELEM) を指定した場合には、VALUES パラメーターは指定できません。

この ELEM ステートメントでリストの最初の要素を定義する場合には、このパラメーターに指定する値は、この ELEM ステートメントを指す PARM ステートメント、または ELEM ステートメントのいずれかの SNGVAL パラメーターに指定した値と同じであってはなりません。

REL パラメーター

リスト要素の値と定数の値との関係を指定します。

この関係を指定するために、次の比較演算子の 1 つに定数を付けて入力してください。

- *LT より小さい
- *LE より小さいかまたは等しい
- *EQ 等しい
- *GE より大きいかまたは等しい
- *GT より大きい
- *NL より小さくない
- *NE 等しくない
- *NG より大きくない

TYPE に *LGL、*VARNAME、*ZEROELEM、またはステートメント・ラベルを指定した場合、あるいは RANGE または VALUES を指定した場合には、REL パラメーターは無効です。

TYPE(*CHAR) により文字タイプが指定されている場合には、文字ストリングの EBCDIC 値が無符号の整数として比較に使用されます。LEN パラメーターの表に示したように、このパラメーターに指定する文字定数は 32 文字を超えることはできません。

RANGE パラメーター

リスト要素の値の範囲 (限界) を指定します。リスト要素の値は、指定された下限値に等しいかまたはそれより大きくなければならず、指定された上限値以下でなければなりません。テストされる値は、CPP に送られる値であり、ユーザー指定の値ではありません。たとえば、15 が有効になるのは、RANGE が (0 16) と指定されている場合です。

*CHAR などの非数字データ・タイプの場合には、指定した値の範囲およびデータは左寄せされ、右側にブランクが埋め込まれます。先行ゼロを指定するか、またはデータの長さが 1 のみの場合を除いて、非数字データの間隔を定義するために数字の範囲を使用してはなりません。

REL または VALUES を指定した場合、あるいは、TYPE に *LGL、*VARNAME、*ZEROELEM、またはステートメント・ラベルを指定した場合には、RANGE パラメーターは無効です。LEN パラメーターの表に示したように、このパラメーターに指定する文字定数は 32 文字を超えることはできません。

SPCVAL パラメーター

この ELEM ステートメントにより定義する要素に対して入力できる特殊値を定義する項目を、1 個から 300 個までの範囲で指定します。各項目には、すべての妥当性検査基準には適合していない場合でも入力できる文字ストリング (取り出し値) を指定します。入力された文字ストリングが 1 つの項目の取り出し値に一致し、かつ受け入れ値が指定されている場合には、文字ストリングが受け入れ値で置き換えられ、それ以上の検査を受けずに CPP に渡されます。受け入れ値が省略されている場合には、取り出し値が CPP に渡されます。TYPE(ステートメント・ラベル) または TYPE(*ZEROELEM) を指定した場合には、SPCVAL パラメーターは無効です。

受け入れ値に *CURLIB を指定した場合に CPP に渡されるのは、そのジョブの現行ライブラリーの名前であり、*CURLIB という値ではありません。取り出し値に *CURLIB を指定し、受け入れ値を指定しなかった場合、または受け入れ値にアポストロフィで囲んだ *CURLIB を指定した場合には、*CURLIB という値が CPP に渡されます。

取り出し値は文字ストリングですが、受け入れ値は、受け渡し可能な値であればどのような値でも指定することができます。ただし、TYPE(*DATE) の場合には、受け入れ値はアポストロフィで囲まずに *mmddy*、*mmddyyy*、または *Cyyymmdd* の形式で指定しなければなりません。取り出し値として CL 変数を使用する場合には、そのタイプは *CHAR でなければなりません。この ELEM ステートメントでリストの最初の要素を定義している場合、取り出し値に指定する値は、この ELEM ステートメントを指し示す PARM ステートメントか ELEM ステートメントのいずれかの SNGVAL パラメーターで指定した値と、同じ値にすることはできません。

受け入れ値は、LEN の指定の値を超えてはなりません。TYPE が *DEC、*INT2、*INT4、*UINT2、または *UINT4 の場合には、そのタイプと受け入れ値のタイプが同じでなければなりません。TYPE が文字タイプ (*CHAR、*LGL、または *DATE など) の場合には、受け入れ値は文字ストリングでなければなりません。LEN パラメーターの表に示したように、このパラメーターに指定する文字定数は 32 文字を超えることはできません。受け入れ値を指定しない場合には、取り出し値が受け渡し可能なものでなければなりません。

この要素には変数を指定することはできません。

SNGVAL パラメーター

1 個から 300 個までの単一の値を指定します。これらの単一値は、定義される要素に対してステートメント・ラベルとして指定できる値か、あるいはネストされたリスト内の (MAX パラメーターにより定義された) 複数のリスト要素を持つ値です。単一値の中のどの値でも、要素が受け入れるものとして定義されているネストされた値のリストまたは修飾名の代わりに使用できます。各項目には、入力できる文字ストリング (取り出し値) を指定します。入力された文字ストリングがいずれかの項目の取り出し値と一致しており、かつ受け入れ値を指定してある場合には、データは受け入れ値で置き換えられ、それ以上の検査なしで CPP に渡されます。受け入れ値が省略されている場合には、取り出し値が CPP に渡されます。

この ELEM ステートメントがリストの最初の要素を定義するものである場合には、取り出し値に指定する値は、この ELEM ステートメントを指し示す PARM ステートメントか ELEM ステートメントのいずれかの SNGVAL パラメーターに指定した値と、同じ値にすることはできません。

受け入れ値 (受け入れ値を省略した場合には取り出し値) は、SPCVAL パラメーターの場合と同様に、受け渡し可能な値でなければなりません。LEN パラメーターの表に示したように、このパラメーターに指定する文字定数は 32 文字を超えることはできません。SNGVAL を指定することが

できるのは、MAX が 1 より大きい場合か、TYPE にステートメント・ラベルを指定した場合に限ります。TYPE(*ZEROELEM) を指定した場合には、SNGVAL を指定することはできません。各単一値は、値のリストまたは修飾名と置き換えることができるのみであり、リスト要素または修飾子になることはできません。値は、リストの最初の要素として渡されます。

受け入れ値に *CURLIB を指定した場合に CPP に渡されるのは、そのジョブの現行ライブラリーの名前であり、*CURLIB という値ではありません。取り出し値に *CURLIB を指定し、受け入れ値を指定しなかった場合、または受け入れ値にアポストロフィで囲んだ *CURLIB を指定した場合には、*CURLIB という値が CPP に渡されます。

この要素には変数を指定することはできません。

MIN パラメーター

定義中のリスト要素に対して入力しなければならない値の最小数を指定します。

複数の同種の値を指定することができない要素については、最小数として指定できるのは、要素がオプションの場合はゼロ (0)、必須の場合は 1 のみです。

MAX パラメーターに 1 より大きい値が指定されていて、複数の同種の値が指定できる要素の場合には、ゼロ (0) は、値を入力しなくてもよいことを示します。したがって、これはオプションの要素です。1 以上の値は、その要素に対して入力しなければならない値の最小数を示します。したがって、それは必須要素です。MIN パラメーターに指定する値は、MAX パラメーターに指定した値を超えることはできません。

指定した値は、別のリストで必要とされるリスト要素の数を示します。MIN を指定しなかった場合には、ゼロ (0) を指定したものと見なされます。したがって、その要素はオプションの要素となります。

0: このリスト要素は、オプションです。値を入力する必要はありません。

最小数: ネストされたリストに指定しなければならない要素の最小数を指定してください。1 を値として割り当てた場合には、その要素に対して、少なくとも 1 つの値を入力することが必須であることを意味します。1 より大きい数を指定した場合には、その要素には、少なくとも指定値と同数の要素を持つリストが含まれることになります。

MAX パラメーター

この ELEM ステートメントで単純リスト要素を定義している場合には、そのリスト要素がそのネストされるリスト中に持つことができる要素の最大数を指定してください。1 より大きい値を指定した場合には、その要素は、複数の同種の値 (ネストされた単純リスト) を受け入れることができます。コマンドの実行時にこの要素に入力されるすべての値は、この ELEM ステートメント上の他のパラメーター値により指定された妥当性検査の要件を満たしていなければなりません。

注: ネストされるリストの値は、ユーザーがリスト要素に入力した値の数を示す 2 バイトの 2 進数に続いて渡されます。CL プログラムでは、変数内での 2 進数値の処理はサポートしていませんが、%BINARY 組み込み関数を使用して長さを検査することができます。

1: このリスト要素は値を 1 つしか受け入れません。ネストされるリストはありません。

最大数: リスト要素に入力できる要素の最大数を指定してください。指定する最大数は、MIN に指定した値に等しいかまたはそれより大きく、かつ 300 以下でなければなりません。最大数が 1 より大きく、かつ TYPE が QUAL ステートメントか、別の ELEM ステートメントを識別するステートメント・ラベルではない場合には、当該パラメーター (これも 1 つの要素です) は、同種の値の単純リストです。(したがって、リストの各要素では、タイプおよび長さなどの要件が同じで

す。) TYPE(ステートメント・ラベル) が指定されていて、その TYPE が QUAL ステートメントまたは別の ELEM ステートメントのラベルを指している場合に、複数リストからなるリストまたは修飾名のリストを受け入れる場合、MAX に指定できるのは 1 より大きい値のみです。CONSTANT パラメーターを指定した場合、1 より大きい最大数は無効です。

ALWUNPRT パラメーター

この ELEM ステートメントが、16 進文字 X'FF' または、X'00' から X'3F' までの範囲の 16 進文字を受け入れるかどうかを指定します。このパラメーターは、TYPE(*CHAR) または TYPE(*X) の場合に限り有効です。

***YES:** 表示装置または印刷装置にどのような文字でも送ることができます。

***NO:** 印刷不能な文字コマンドをコマンド処理プログラムに渡すことはできません。

ALWVAR パラメーター

要素に変数名が使用できるかどうかを指定します。TYPE に *VARNAME、*ZEROELEM、*NULL、またはステートメント・ラベルを指定した場合は、ALWVAR(*NO) を指定することはできません。

***YES:** この要素に変数名を使用することができます。

***NO:** この要素に変数名を使用することはできません。

PGM パラメーター

このリスト要素がプログラム名であるかどうかを指定します。PGM(*YES) を指定できるのは、TYPE にステートメント・ラベル、*CHAR、*NAME、*SNAME、*CNAME、および *GENERIC を指定した場合のみです。PGM(*YES) パラメーターを指定しても、該当の ELEM ステートメントにより定義された要素にはいかなる影響もありません。この指定は、この要素の値がプログラム名であることをコンパイラに示すのみです。この情報は、保管され、プログラム参照表示 (DSPPGMREF) コマンドの出力に組み込まれます。

***NO:** この ELEM ステートメントに定義する要素は、プログラム名ではありません。

***YES:** この要素は、プログラム名です。

DTAARA パラメーター

このリスト要素がデータ域名であるかどうかを指定します。DTAARA(*YES) は、ステートメント・ラベル、*CHAR、*NAME、*SNAME、*CNAME、および *GENERIC の各タイプに対してのみ有効です。DTAARA(*YES) パラメーターを指定しても、該当の ELEM ステートメントにより定義される要素には影響しません。この指定は、この要素の値がデータ域であることを CL コンパイラに示すのみです。この情報は、保管され、プログラム参照表示 (DSPPGMREF) コマンドの出力に組み込まれます。

***NO:** この ELEM ステートメントに定義する要素は、データ域名ではありません。

***YES:** この要素はデータ域名です。

FILE パラメーター

リスト要素がファイル名であるかどうか、さらにファイル名の場合には、その用途を指定します。この要素には、特定の用途を持つファイルの名前を指定することができます。これにより、CL コンパイル時に、ファイル名を用いて、ファイルがどこで使用されるかについてのファイル参照情報を得ることができます。FILE が有効となるのは、TYPE の値がステートメント・ラベル、*CHAR、*NAME、*SNAME、*CNAME、または *GENERIC の場合のみです。FILE パラメーターを指定しても、該当の ELEM ステートメントにより定義されるリスト要素にはいかなる影響もありません。この指定は、この要素の値がファイル名であること、ならびにそれがどのタイプのファ

イルであるかを CL コンパイラーに示すのみです。この情報は、保管され、プログラム参照表示 (DSPPGMREF) コマンドの出力に含まれます。指定できるファイルのタイプは、以下のいずれか 1 つです。

***NO:** この ELEM ステートメントに定義されるリスト要素は、ファイル名ではありません。

***IN:** このリスト要素は入力ファイル名です。

***OUT:** このリスト要素は出力ファイル名です。

***UPD:** このリスト要素は更新ファイル名です。

***INOUT:** このリスト要素値は、入力および出力の両方に使用するファイル名です。

***UNSPFD:** このリスト要素値はファイル名ですが、用途を指定することはできません。

FULL パラメーター

リスト要素内の文字の数が、LEN パラメーターに指定した数 (LEN を指定した場合)、または省略時の長さ (LEN を指定しなかった場合) とまったく同じでなければならないかどうかを指定します。

***NO:** リスト要素内の文字数は、LEN パラメーターに指定した数より少なくても構いません。

***YES:** リスト要素内の文字数は、LEN パラメーターに指定した数か、そのタイプの省略時の長さに等しくなければなりません。正確な長さの一致を要求する指定が有効となるのは、要素タイプが *LGL、*CHAR、*NAME、*SNAME、*CNAME、*GENERIC、*VARNAME、および *HEX の場合のみです。

EXPR パラメーター

このリスト要素が、結合される、すなわち連結される文字を含む式を、受け入れることができるかどうかを指定します。有効な文字連結演算子は次のとおりです。

連結	*CAT または
ブランク挿入を伴う連結	*BCAT または >
ブランク切り捨てを伴う連結	*TCAT または <

***NO:** この要素の値に連結式を指定することはできません。

***YES:** この要素の値に連結式を指定することができます。CONSTANT パラメーターに値を指定した場合には、*YES は無効です。

VARY パラメーター

CPP に渡されるリスト要素値の前に、要素値に入力された文字の数を示す長さの値があるかどうかを指定します。このパラメーターは、単一値 (*NO) として、または 2 つの値 (要素) のリストとして指定することができます。

***NO:** この要素値の前に長さの値はありません。

要素 1: 長さの値があることの指定

***YES:** CPP に渡される要素値の前に、実際にパラメーターに指定する文字数を示すフィールドが置かれます。*YES は、*CHAR、*NAME、*SNAME、*CNAME、*PNAME、*GENERIC、*LGL、*VARNAME、*CMD、*CMDSTR、および *X の各パラメーター・タイプに対してのみ有効です。

注: 長さの値は、コマンド・パラメーターに実際に入力された文字の数で、後書きブランクを除いたものです。長さの値は、定義されたパラメーターまたは宣言された変数の長さとは異なる場合があります。文字ストリング・データを含むフィールドの長さは、CL プログラム変数のパラメーター、または宣言された LEN で定義された長さで決まります。長さの値は、文字ストリング・データ・フィールドの中の実際にコマンド・パラメーターに入力された文字数を定義します。

要素 2: 値の長さ

***INT2:** この要素の値の長さは、2 バイトの符号付き 2 進数として渡される整数です。

***INT4:** この要素の値の長さは、4 バイトの符号付き 2 進数として渡される整数です。

PASSATR パラメーター

(IBM 提供のコマンド用) このリスト要素データとともに、属性バイトを CPP に渡すかどうかを指定します。TYPE(ステートメント・ラベル) または TYPE(*ZEROELEM) を指定した場合には、PASSATR は無効です。

***NO:** このリスト要素とともに属性バイトは渡されません。

***YES:** 属性バイトがこのリスト要素とともに渡されます。属性バイトは、データ値が省略時値であるかどうか、および値のデータ・タイプを示します。また、TYPE(*CHAR) が指定されている場合は、文字ストリングがアポストロフィで囲まれているかどうかを示します。

CASE パラメーター

CPP に渡された値を小文字から大文字へ変換するか、あるいはコマンド・パラメーターに指定した文字のままにするかを指定します。

***MONO:** この要素の値を小文字から大文字へ変換します。ただし、アポストロフィが付いた単一引用符付きパラメーターの場合は、この値を指定しなくても、小文字は小文字のまま、大文字は大文字のままになります。

***MIXED:** この要素の値は、コマンド・パラメーターに指定されたままになります。この値は、*CHAR および *PNAME パラメーター・タイプでのみ指定できます。

DSPINPUT パラメーター

このキーワードの値をジョブ・ログ、またはプロンプト画面に表示するかどうかを指定します。

DSPINPUT(*PROMPT) および DSPINPUT(*NO) が有効であるのは、要素タイプが *CHAR、*NAME、*SNAME、*CNAME、*GENERIC、*DEC、*LGL、*INT2、*INT4、*UINT2、*UINT4、*DATE、*TIME、および *HEX の場合のみです。

注: DSPINPUT パラメーターは、データベース読み取りプログラムのジョブ、組み込みコマンド (たとえば SBMJOB コマンドによって投入されるコマンド)、あるいは QCMDXEC API または QCAEXEC API を用いて実行されたコマンドに関するジョブ・ログ項目に対しては効力はありません

***YES:** この要素の値は、プロンプト画面とジョブ・ログの両方に表示されます。

***PROMPT:** この要素の値は、プロンプト画面に表示され、ジョブ・ログには表示されません。

***NO:** この要素の値は、ジョブ・ログおよびプロンプト画面のどちらにも表示されません。前に入力したコマンドを検索する場合は、非表示フィールド項目を入力し直す必要があり、元の値を検索することはできません。ジョブ・ログ項目が作成される際には、非表示フィールドは空の括弧 () で示されます。

CHOICE パラメーター

プロンプト画面上の各パラメーターのプロンプト行の右側に表示するテキストを指定します。最大 30 文字までのテキストを表示できます。

***VALUES:** 指定できる各値が、コンマとスペースで区切られて、指定可能値フィールドに表示されます。省略時値パラメーター、単一値パラメーター、特殊値パラメーターを値に指定した場合は、表示される順序は、まず省略時値、次に単一値、その後に特殊値となります。値の数が多すぎて 30 文字に収まらない場合は、最後の値の後に 3 個のピリオドが表示されます。

以下に指定可能値テキストの例をいくつか挙げます。

- RSTD パラメーターに *NO、TYPE パラメーターに *DEC を指定し、RANGE パラメーターを指定しなかった場合は、指定可能値フィールドには「RANGE」という語が表示されます。結果の行の形式は、Number、*XXX、*YYY、*ZZZ... となります。
- RSTD パラメーターに *NO、TYPE パラメーターに *DEC を指定し、RANGE パラメーターを指定した場合は、指定可能値フィールドには指定可能な値の範囲が表示されます。結果の行の形式は、a から b、*XXX、*YYY、*ZZZ となります (ここで a と b は、範囲を示す数値です)。
- RSTD パラメーターに *YES を指定した場合は、表示される指定可能値は、VALUES パラメーター、SNGVAL パラメーター、および SPCVAL パラメーターに指定した値によって決まります。結果の行の形式は、*XXX、*YYY、*ZZZ... となります。

***NONE:** 値は表示されません。

***PGM:** 表示される値は、呼び出されるプログラムによって決まります。呼び出されるプログラムは、CHOICEPGM パラメーターで指定します。

メッセージ識別コード: メッセージを検索するために使用するメッセージ識別コードを指定してください。このメッセージは、指定可能値フィールドに表示されるテキストが含まれているものです。コマンド作成 (CRTCMD) コマンドの PMTFILE パラメーターに指定されているメッセージ・ファイルを使用して、メッセージの検索が行われます。

‘選択テキスト’: 30 文字以内のテキストをアポストロフィで囲んで指定してください。

CHOICEPGM パラメーター

使用可能な選択テキストおよび暗黙的値を指定するために、プロンプト表示の際に呼び出すプログラムの名前を指定します。CHOICE(*PGM) を指定した場合のみ、このパラメーターを指定しなければなりません。

***NONE:** 使用可能な選択テキストおよび暗黙的値を指定するためのプログラムは指定されません。指定可能なライブラリーの値は次のとおりです。

***LIBL:** その名前のプログラムを見つけるために、ライブラリー・リストを使用します。

***CURLIB:** その名前のプログラムを見つけるために、そのジョブの現行のライブラリーを使用します。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合は、QGPL ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名: そのプログラム名が含まれているライブラリーの名前を指定してください。

プログラム名: 使用可能な選択テキストや暗黙的値を表示するため、プロンプト表示の際に呼び出すプログラムの名前を指定します。

プログラムが呼び出される際に例外状態が起きた場合には、使用可能な選択テキストはブランクにならず、暗黙的値のリストが、コマンドから得られます。

INLPMTLEN パラメーター

コマンドのプロンプトが出される際に、その要素のために最初に表示される入力フィールドの長さを指定します。ユーザーは、フィールドの先頭位置にアンパーサンド (&) を入力し、続けてブランクを入れることにより、そのフィールドを最大 512 バイトまで拡張することができます。

INLPMTLEN が有効となるのは、TYPE パラメーターに *CHAR、*NAME、*SNAME、*CNAME、*PNAME、*GENERIC、または *HEX を指定した場合のみです。FULL(*YES)、RSTD(*YES)、または CONSTANT を指定した場合は、INLPMTLEN(*CALC) を指定するか、省略時のままにしておかなければなりません。

***CALC:** プロンプターは、パラメーターのタイプと長さに基づいて、プロンプト・フィールドの長さを決定します。

初期プロンプト長: プロンプト・フィールドの初期の長さをバイト数で指定します。有効な値は 1 ~ 12、17、25、32、50、80、132、256、512 です。

PROMPT パラメーター

プロンプト・テキストを使用する場合に、この ELEM ステートメントで定義されているリスト要素に対してどのプロンプト・テキストを使用するのかを指定します。プロンプト・テキストは、表示される情報に対してユーザーが応答を入力できるように、要素についてのさらに詳しい説明をユーザーに提示するものです。TYPE(*ZEROELEM) を指定した場合、または CONSTANT パラメーターに定数を指定した場合には、プロンプト・テキストを指定することはできません。

***NONE:** この ELEM ステートメントで定義するリスト要素については、プロンプト・テキストは表示されません。このリスト要素を入力フィールドに入力することは必要ですが、テキストは表示されません。

メッセージ識別コード: プロンプト・テキスト・メッセージを識別するためのメッセージ識別コードを指定してください。このメッセージは、プログラムがリスト要素の入力を求めるときに表示される 30 文字以下のテキストです。コマンド作成 (CRTCMD) コマンドの PMTFILE パラメーターに指定されたメッセージ・ファイルの中に指定の識別コードを持つメッセージが見つからなかった場合には、メッセージ識別コード自体がプロンプト・テキストとして使用されます。

'プロンプト・テキスト': プログラムがリスト要素の入力を求めるときに表示されるプロンプト・テキストを指定してください。このテキストは、アポストロフィで囲んだ 30 文字以下の文字ストリングでなければなりません。

詳細については、『例: ELEM ステートメント』を参照してください。

例: ELEM ステートメント

例 1: JOBDESC パラメーターの定義

```
>>+-----+<<
  '-JOBDESC(---ジョブ名---数---)-'
```

コマンド定義ステートメント:

```
PARM KWD(JOBDESC) TYPE(L1)
L1:  ELEM TYPE(*NAME) MIN(1)
     ELEM TYPE(*DEC) LEN(2) MIN(1) REL(*LE 60)
```

JOBDESC パラメーターは省略することができます。指定する場合には、JOBDESC は 2 つの要素から構成されるリストでなければなりません。最初の要素は名前、2 番目の要素は 60 以下の 2 桁の 10 進数です。

例 2: RANGE パラメーターの定義

```

      .-*SAME-----
>>-RANGE(-+---下限値---上限値-----+--)----->>

```

コマンド定義ステートメント:

```

      PARM KWD(RANGE) TYPE(L1) DFT(*SAME) +
      SNGVAL((*SAME 101))
L1:   ELEM TYPE(*DEC) MIN(1) REL(*LE 100)
      ELEM TYPE(*DEC) MIN(1) REL(*LE 100)

```

RANGE パラメーターは省略することができます。指定する場合には、RANGE は、それぞれが 100 以下の 2 つの 10 進数から成るリストでなければなりません。下限の値が上限の値より小さいか判定するために、妥当性検査が行われます。渡された値がユーザー指定の値であるか省略時値であるかを CPP が判定できるようにするために、*SAME が 101 にマッピングされています。

PARM (パラメーター) ステートメント

パラメーター (PARM) ステートメントは、作成中のコマンドのパラメーターを定義するためのものです。パラメーターは、値をコマンド処理プログラム (CPP) に渡す手段です。定義中のコマンドに指定する各パラメーターごとに、必ず 1 つの PARM ステートメントを使用しなければなりません。コマンドを定位置形式で入力する場合のパラメーターを指定する順序、およびパラメーターを妥当性検査プログラムや CPP に渡す順序は、PARM ステートメントをソース・ファイルに入力する順序によって決まります。1 つのコマンドについて、最大 75 個のパラメーターを指定することができます。ただし、多数のパラメーターを持つコマンドの実行に要する時間は、実際に指定するパラメーターの数にかかわらず長くなるという点に注意してください。

注: PARM ステートメントには、定義中のコマンドによって IBM 提供のコマンド処理プログラム (CPP) が呼び出された場合のみ使用できる特定のパラメーターおよび事前定義の値が含まれています。高水準言語によっては、一定の制約があり、これらの値をユーザー定義のコマンド定義ステートメントで使用してもあまり役立たない場合があります。このようなパラメーターおよび値については、パラメーター全体が IBM 提供のコマンド専用のものであればパラメーター・キーワードの直後に、そうでない場合には該当の事前定義値の直後に、「(IBM 提供のコマンド用)」という断わり書きがあります。

次の構文図に、PARM 定義ステートメントの構文を示します。

```

>>-PARM---KWD--(--キーワード名--)----->>
>----TYPE--(--+*DEC-----+---)----->
      +-*LGL-----+
      +-*CHAR-----+
      +-*NAME-----+
      +-*SNAME-----+
      +-*CNAME-----+
      +-*PNAME-----+
      +-*GENERIC-----+
      +-*CMDSTR-----+
      +-*DATE-----+
      +-*TIME-----+
      +-*HEX-----+
      +-*ZEROELEM-----+
      +-*X-----+
      +-*INT2-----+
      +-*INT4-----+

```



```

+*UINT2-----+
+*UINT4-----+
+*VARNAME-----+
+*CMD-----+
+*NULL-----+
'-ステートメント・ラベル-'

```

```

>-----+-----+-----+----->
'-LEN--(--+長さ1-----+)--'
      +-長さ1--長さ2-----+
      '-長さ1--長さ2--長さ3-----'

```

```

>-----+-----+-----+-----+----->
|          .-*NO--. | '-CONSTANT--(--値--)-'
'-RTNVAL--(--+*YES+---)-'

```

```

>-----+-----+-----+-----+----->
|          .-*NO--. | '-DFT(---値---)-'
'-RSTD--(--+*YES+---)-'

```

```

>-----+-----+-----+-----+-----+----->
|          v          |
|          (1)        |
+-VALUES(---値---)---+
+-REL(--比較演算子---+&キーワード名---)+
|          '-値-'      |
'-RANGE(--+&下限値キーワード--+&上限値キーワード---)-'
|          '-下限値-'   |          '-上限値-'

```

```

>-----+-----+-----+-----+-----+----->
'-SPCVAL(--+特殊値-----)-'
|          v          |
|          (1)        |
'---(--取り出し値--受け入れ値--)-'

```

```

>-----+-----+-----+-----+-----+----->
'-SNGVAL(--+単一値-----)-'
|          v          |
|          (1)        |
'---(--取り出し値--受け入れ値--)-'

```

```

>-----+-----+-----+-----+----->
|          .-0-----. |
'-MIN--(--+最小数-----)-'

```

```

>-----+-----+-----+-----+----->
|          .-1-----. |
'-MAX--(--+最大数-----)-'

```

```

>-----+-----+-----+-----+----->
|          .-*YES--. |
'-ALWUNPRT--(--+*NO---)-'

```

```

>-----+-----+-----+-----+-----+----->
|          .-*YES--. |          .-*NO--. |
'-ALWVAR--(--+*NO---)-' | '-PGM--(--+*YES+---)-'

```

```

>-----+-----+-----+-----+----->
|          .-*NO--. |
'-DTAARA--(--+*YES+---)-'

```

```

>-----+-----+-----+-----+----->
|          .-*NO----. |
'-FILE--(--+*IN-----)-'
      +-*OUT-----+
      +-*UPD-----+
      +-*INOUT---+

```

'-*UNSPFD-'

```
>-----+-----+-----+-----+----->
|          .-*NO--.          |          .-*NO--.          |
|-FULL--(--+-*YES+---)--    |-EXPR--(--+-*YES+---)--    |
```

```
>-----+-----+-----+-----+----->
|          .-*NO--          |          .-*INT2--.          |
|          |          (2)          |          |          |          |
|-VARY(--+---*YES-----+*INT4--+---)--    |
```

```
>-----+-----+-----+-----+----->
|          .-*NO--.          |
|-PASSATR--(--+-*YES+---)--    |
```

```
>-----+-----+-----+-----+----->
|          .-*DFT--.          |
|-PASSVAL--(--+-*NULL+---)--    |
```

```
>-----+-----+-----+-----+----->
|          .-*MONO-----|
|          |          (3) |
|-CASE(--+-*MIXED-----+---)--    |
```

```
>-----+-----+-----+-----+----->
|          .-*INT2--.          |
|-LISTDSPL(--+-*INT4--+---)--    |
```

```
>-----+-----+-----+-----+----->
|          .-*YES---.          |
|-DSPINPUT--(--+-*PROMPT+---)--    |
|          |          .-*NO---.          |
```

```
>-----+-----+-----+-----+----->
|          .-*VALUES-----|
|-CHOICE--(--+-*NONE-----+---)--    |
|          +-*PGM-----+          |
|          +-メッセージ識別コード-+          |
|          |-'選択テキスト'-|          |
```

```
>-----+-----+-----+-----+-----+>
|          .-*NONE-----|
|          |          .-*LIBL/-----|
|-CHOICEPGM--(--+--+-----+プログラム名--+---)--    |
|          +-*CURLIB/-----+          |
|          |-'ライブラリー名/'|          |
```

```
>-----+-----+-----+-----+----->
|          .-*NONE-----|
|-PMTCTL--(--+-*PMTRQS-----+---)--    |
|          |          .-*STATEMENT LABEL-|
```

```
>-----+-----+-----+-----+-----+>
|          .-*NONE-----|
|          |          .-*LIBL/-----|
|-PMTCTLPGM--(--+--+-----+プログラム名--+---)--    |
|          +-*CURLIB/-----+          |
|          |-'ライブラリー名/'|          |
```

```
>-----+-----+-----+-----+----->
|          .-*NO--.          |
|-KEYPARM--(--+-*YES+---)--    |
```

```
>-----+-----+-----+-----+----->
|          .-*CALC-----|
|-INLPMTLEN--(--+-*PWD-----+---)--    |
|          |          .-*INITIAL PROMPT LENGTH-|
```

```

-----+-----
| .-*NONE-----|
| -PROMPT--(--+--+メッセージ識別コード--+--+相対プロンプト番号--+--)-|
|   '-'プロンプト・テキスト'-'|
-----+-----

```

注:

1. 最大 300 回まで反復可能。
2. *YES は、*CHAR、*NAME、*SNAME、*CNAME、*PNAME、*GENERIC、*LGL、*VARNAME、*CMD、*CMDSTR、および *X の各パラメーター・タイプに対してのみ有効です。PASSATR(*YES) および RTNVAL(*YES) を指定する場合は、*YES を指定しなければなりません。
3. この値は、*CHAR および *PNAME パラメーター・タイプでのみ指定できます。

KWD パラメーター

作成されるパラメーターのキーワード名を指定します。このキーワードは、コマンドのパラメーターを識別します。このキーワードが使用されるのは、パラメーターをキーワード形式で入力する場合です。キーワード名は、最初の文字が英字で、全体が 10 文字以下の英数字を用いて指定します。

TYPE パラメーター

定義される値のタイプを指定します。値は、整数、10 進数値、または論理値のいずれでもよく、また、名前、ラベル、日付、または時刻を示す引用符付きまたは引用符なしの文字ストリングとすることもできます。次の値のいずれか 1 つを入力して、パラメーターのタイプを指定してください。

注: 下記の名前に関する詳細については、156 ページの『パス名 (*PNAME)』を参照してください。

***NAME:** このパラメーター値は、基本名を表す文字ストリングです。名前の最大の長さは 256 文字で、最初の文字は A から Z、\$、@、または # でなければなりません。その他の文字は、最初の文字と同じタイプの文字の他に、数字の 0 から 9、下線 (_)、およびピリオド (.) も使用できます。名前は、2 重引用符 (") で始まり 2 重引用符で終る文字ストリングにすることもできます。特殊値 (*LIBL または *NONE など) を使用する場合には、その特殊値を SPCVAL パラメーターに指定しておかなければなりません。

***SNAME:** このパラメーター値の要素は、単純名を表す文字ストリングです。名前の最大の長さは 256 文字で、最初の文字は A から Z、\$、@、または # でなければなりません。その他の文字には、最初の文字と同じタイプの文字の他に、数字の 0 から 9 および下線 (_) も使用できます。ピリオド (.) は使用できません。特殊値 (*LIBL または *NONE など) を使用する場合には、その特殊値を SPCVAL パラメーターに指定しなければなりません。

***CNAME:** このパラメーター値は、通信名を表す文字ストリングです。名前の最大の長さは 256 文字で、最初の文字は A から Z、\$、@、または # でなければなりません。その他の文字には、最初の文字と同じタイプの文字の他に、数字の 0 から 9 も使用できます。ピリオド (.) および下線 (_) は使用できません。特殊値 (*LIBL または *NONE など) を使用する場合には、その特殊値を SPCVAL パラメーターに指定しなければなりません。

***PNAME:** このパラメーター値は、パス名を表す文字ストリングです。パス名は、アポストロフィで囲むことができます。パス名に特殊文字が含まれている場合 (アスタリスク (*) を除く) には、アポストロフィで囲まなければなりません。パス名の文字ストリングは、最高で 5000 文字です。

パス名は、統合ファイル・システムで使用されます。パラメーター値 *PNAME の使用に関する詳細については、Information Center の『統合ファイル・システム』のトピックを参照してください。

***GENERIC:** このパラメーター値は、総称名を表す文字ストリングです。総称名は、アスタリスク (*) が最後につく場合には最大 255 文字、アスタリスクがない場合には最大 256 文字の長さで、総称名の規則にかなっていなければなりません。この名前は、* の前の文字で始まる名前を持つオブジェクトのグループを識別します。* がない場合には、システムはその総称名を 1 つのオブジェクト名と見なします。

***CMDSTR:** このパラメーター値は、コマンド分析プログラムによって妥当性が検査されるコマンド・ストリングです。このコマンドは、文字ストリングとして CPP に渡されます。

コマンド分析プログラムは、コマンド・ストリングの妥当性を検査する際にコマンド・ストリングを再作成します。コマンドの再作成時には、定位置で指定されたパラメーターにキーワードが追加され、パラメーターが並べ替えられる場合があります。また、印刷できない文字 (X'FF', X'00 から X'3F') を含むパラメーターが 16 進表記に変換されます。その結果、元のコマンド・ストリングより再作成されたコマンド・ストリングのほうが実質的に長くなる場合があります。再作成コマンドの長さが、LEN キーワードで指定されている指定可能な長さより長い場合、コマンドは失敗します。

注: *CMDSTR パラメーターでは、選択プロンプトは使用できません。

***DATE:** このパラメーター値は、日付を表す文字ストリングです。コマンドを入力する際、年は、2 桁か 4 桁のいずれかで指定できます。年を 2 桁で指定する場合、日付は 1940 年 1 月 1 日から 2039 年 12 月 31 日の範囲内と見なされます。年を 4 桁で指定する場合、日付は 1928 年 8 月 24 日から 2071 年 5 月 9 日の範囲内となります。CPP に渡される場合、日付は必ず *Cyyymmdd* の形式となります。ここで、C は世紀、yy は年、mm は月、dd は日を表します。世紀の桁は、19xx 年の場合は 0 に設定され、20xx 年の場合は 1 に設定されます。この PARM ステートメントに日付の値を指定する場合には、*mmddy*、*mmddyyyy*、または *Cyyymmdd* のいずれかの形式で指定しなければなりません。ユーザーが実行時にコマンドに日付を入力する場合は、ジョブ日付形式で入力しなければなりません。ジョブ日付区切り記号は、日付を入力する際に使用できるオプションの区切り文字を指定します。区切り文字を使用する場合には、日付をアポストロフィで囲まなければなりません。

***TIME:** このパラメーター値は、時間を表す文字ストリングです。入力の際の形式は *hhmmss* です。これは、6 バイトの文字ストリング *hhmmss* として CPP に渡されます。ジョブ時刻区切り記号は、時刻を入力する際に使用できるオプションの区切り文字を指定します。区切り文字を使用する場合は、時刻をアポストロフィで囲まなければなりません。

***CHAR:** このパラメーター値は、文字ストリングで、必要に応じてアポストロフィで囲むことができます。この文字ストリングに特殊値 (アスタリスク (*) を除く) が含まれている場合には、文字ストリング全体をアポストロフィで囲まなければなりません。文字ストリングの最大長は 5000 文字です。

***DEC:** このパラメーター値は、パック 10 進数です。

***LGL:** このパラメーター値は、論理値の 1 ('1') か、ゼロ ('0') です。

***HEX:** このパラメーター値は、16 進形式です。指定する文字は、0 から F でなければなりません。これらの文字は、16 進 (EBCDIC) 文字 (1 バイトあたり 2 つの 16 進数) に変換され、右寄せされて、左側にゼロが埋め込まれます。値をアポストロフィで囲む場合には、長さを偶数にする必要があります。値をアポストロフィで囲まない場合には、桁数を偶数にする必要はありません。

***ZEROELEM:** このパラメーターは、常に要素がないリストであると見なされ、コマンドに値を指定することはできません。これは、たとえ CPP が値の入力を期待していても、リストであるパラメーターに値が入力できないようにするために使用します。たとえば、2 つのコマンドが同じ CPP を使用している場合には、1 つのコマンドはパラメーターにリストを渡し、もう 1 つのコマンドには渡す値が何もないということがあります。このような場合に、2 番目のコマンドに TYPE(*ZEROELEM) を指定します。

***X:** (IBM 提供のコマンド用) このパラメーター値は、文字ストリング、変数名、または数値です。値に数字、”+“ または ”-“ の符号、または小数点 (あるいはこれらの任意の組み合わせ) しか含まれていない場合には、その値は数値として渡されます。

***INT2:** このパラメーター値は、2 バイトの符号付き 2 進数として渡される整数です。CL プログラムでは、変数内での 2 進数値はサポートされていません。

***INT4:** このパラメーター値は、2 バイトの符号なし 2 進数として渡される整数です。CL プログラムでは、変数内での 2 進数値はサポートされていません。

***UINT2:** このパラメーター値は、2 バイトの符号付き 2 進数として渡される整数です。CL プログラムでは、変数内での 2 進数値はサポートされていません。

***UINT4:** このパラメーター値は、4 バイトの符号なし 2 進数として渡される整数です。CL プログラムでは、変数内での 2 進数値はサポートされていません。

***VARNAME:** (IBM 提供のコマンド用) このパラメーター値は、文字ストリングとして渡される CL 変数名です。この名前は、アンパーサンド (&) を含めて最大 11 文字にすることができます。

***CMD:** (IBM 提供のコマンド用) このパラメーター値は、コマンドです。たとえば、IF コマンドには THEN という名前のパラメーターがありますが、この THEN パラメーターの値は別のコマンドでなければなりません。コマンドは、コマンド分析プログラムによって妥当性が検査されます。

***NULL:** このパラメーター値は、定数位置ホルダーとして使用できるヌル・ポインターです。DEP ステートメント、または他の PARM ステートメントの REL キーワードおよび RANGE キーワードでは、TYPE(*NULL) と定義されたパラメーター値を参照することはできません。

ステートメント・ラベル: 修飾名または値の混合リストを指定してください。TYPE パラメーターでここに指定するステートメント・ラベルは、この PARM ステートメントが定義している修飾名または混合リストをさらに詳しく記述する一連の QUAL ステートメントまたは ELEM ステートメントの先頭を識別します。

LEN パラメーター

CPP に渡すパラメーター値の長さを指定します。TYPE に *INT2、*INT4、*DATE、*TIME、*CMD、*ZEROELEM、*NULL、またはステートメント・ラベルを指定した場合には、LEN を指定することはできません。その他の TYPE 指定の場合には、このパラメーターには次の規則が適用されます。

- TYPE(*DEC) を指定した場合、10 進数の長さは (長さ1 長さ2) の形式で指定します。長さ1 には、その値の全体の桁数 (小数点を含む) を指定し、長さ2 には小数点以下の許容桁数を指定します。(長さ2 の値はオプションです。値を入力しなければ、ゼロを指定したものと見なされず。)
- TYPE(*CHAR)、TYPE(*NAME)、TYPE(*SNAME)、TYPE(*CNAME)、TYPE(*CMDSTR)、または TYPE(*VARNAME) を指定した場合には、長さ1 のみを指定することができます。これは、渡される文字の数を示します。
- TYPE(*HEX) を指定した場合には、長さ1 のみを指定できます。この長さは、16 進数字を 10 進数の文字に変換した後で渡される文字の数を示します。2 桁の 16 進数字は 1 桁の 10 進数字に変換されるので、変換する 16 進数字の長さは、この長さの 2 倍になります。
- TYPE(*X) を指定した場合には、LEN パラメーターは次のように使用されます。
 - 文字データの場合には、長さ1 で、渡す値の最小の長さを示します。これより長い値を入力すると、その値全体が渡されます。
 - 10 進データの場合には、長さ2 で定数値の全体の桁数を示し、長さ3 で定数値の小数部の桁数を示します。変数を入力した場合には、その変数は変数の属性に従って渡されます。
 - 論理値の場合には、長さ1 で値の長さを示します。この長さは常に 1 です。

パラメーター値の各タイプについて、システムが取る省略時の長さおよび最大長は、次の表に示すとおりです。

データ・タイプ	省略時の長さ	最大長 ¹
*DEC	(15 5)	(24 9)
*LGL	1	1
*CHAR	32	5000
*NAME	10	256
*SNAME	10	256
*CNAME	10	256
*PNAME	32	5000
*GENERIC	10	256
*HEX	1	256
*X	(1 15 5)	(256 24 9)
*VARNAME	11	11
*CMDSTR	256	20,000

注:

- ¹ ここに示す最大長は、コマンド定義で指定可能な最大長です。コマンドの CPP として使用される高水準言語では、これらのデータ・タイプについて、別の最大長が存在する場合があります (たとえば、*DEC の値は、CL プログラムでは最大長が (15 9) になります)。
- ここに示す最大長は、コマンドの実行時に使用される値です。コマンド定義に指定する文字定数の最大長は 32 文字に制限されています。この制約条件は、CONSTANT、DFT、VALUES、REL、RANGE、SPCVAl、および SNGVAL の各パラメーターに適用されます。

長さがコーディングできないデータ・タイプについては、最大長および渡される長さは次のとおりです。

データ・タイプ	最大長	渡される長さ
*DATE ¹	8	7
*TIME ²	8	6
*ZEROELEM	0	0
*INT2 ³	6	2
*INT4 ⁴	11	4
*UINT2 ⁵	6	2
*UINT4 ⁶	11	4
*CMD	無制限	必要な長さ
ステートメント・ラベル ⁵	-	-

注:

- 1 日付を指定した場合には、値は 7 文字で渡されます。
- 2 時刻を指定した場合には、値は 6 文字で渡されます。
- 3 値は、2 バイトの符号付き 2 進数として渡され、次の条件を満たしていなければなりません。
 $-2^{15} < \text{または} = \text{値} < \text{または} = 2^{15}-1$
- 4 値は、4 バイトの符号付き 2 進数として渡され、次の条件を満たしていなければなりません。
 $-2^{31} < \text{または} = \text{値} < \text{または} = 2^{31}-1$
- 5 値は、2 バイトの符号なし 2 進数として渡され、次の条件を満たしていなければなりません。
 $0 < < \text{または} = \text{値} < \text{または} = 2^{16}-1$
- 6 値は、4 バイトの符号付き 2 進数として渡され、次の条件を満たしていなければなりません。
 $0 < < \text{または} = \text{値} < \text{または} = 2^{32}-1$
- 7 受け渡しされるデータの長さは、そのラベルで識別される ELEM ステートメント、または QUAL ステートメントにより定義されます。

RTNVAL パラメーター

この PARM ステートメントで定義するパラメーターを介して、CPP が値を戻すかどうかを指定します。

***NO:** 定義されるパラメーターには、値が戻されません。このパラメーターは入力専用パラメーターです。

***YES:** CPP により、パラメーターに値が戻されます。コマンドが呼び出されたときに値を受け取るためには、CL 変数名をパラメーターに指定しなければなりません。コマンドの呼び出し時に変数名を指定しないと、ヌル・ポインターが CPP に渡されます。

- *YES が有効となるのは、TYPE パラメーターに *DEC、*CHAR、*LGL、または *X を指定した場合のみです。また、*YES は、CL プログラムのコマンドでのみ有効です。
- *YES は、MAX(>1)、CONSTANT、DFT、RSTD、VALUES、REL、RANGE、SPCVAL、SNGVAL、FILE、FULL、EXPR、または ALWVAR(*NO) には無効です。
- この PARM ステートメントが入っているソース・ファイルを使用する CRTCMD コマンドで *BPGM、*IPGM、*BREXX、または *IREXX が指定されている場合に、RTNVAL(*YES) を指定することができます。

- PASSATR(*YES) および RTNVAL(*YES) を指定した場合には、VARY(*YES) を指定しなければなりません。

CONSTANT パラメーター

定義されるコマンドが処理される際、定数として CPP に渡す値を指定します。このパラメーターは、外見上はコマンドに現れることはありません。このパラメーターに値を指定する場合には、その指定値は、TYPE、LEN、VALUES、REL、RANGE、SPCVAL、および FULL の各パラメーターによって指定される要件を満たさなければなりません。LEN パラメーターの表に示したように、このパラメーターに文字定数を指定する場合、指定する文字定数は 32 文字を超えることはできません。

定義されるパラメーターに定数を指定する場合、そのパラメーターについてはプロンプトは表示されないため、この PARM ステートメントの PROMPT パラメーターにプロンプト・テキストを指定することはできません。

TYPE(*CMD)、TYPE(*NULL)、TYPE(*ZEROELEM)、MAX(>1)、DFT、RTNVAL(*YES)、または EXPR(*YES) を指定した場合には、CONSTANT パラメーターは無効です。

このパラメーターには、変数をコーディングすることはできません。

RSTD パラメーター

PARM ステートメントに指定したパラメーターに対して入力できる値が、VALUES、SPCVAL、または SNGVAL のいずれかのパラメーターで与えられている値の 1 つに制限されるか、あるいは、TYPE、LEN、REL、RANGE、SPCVAL、SNGVAL、および FULL の各パラメーターに指定された要件を満たすものであればどのような値でもよいかを指定します。

***NO:** この PARM ステートメントの KWD で指定されたパラメーターに入力する値は、この PARM ステートメントの TYPE、LEN、REL、RANGE、SPCVAL、SNGVAL、および FULL パラメーターに指定された要件を満たすものであれば、どのような値にすることもできます。

***YES:** この PARM ステートメントの KWD で指定されたパラメーターに入力する値は、VALUES パラメーターの値のいずれか 1 つ、あるいは SPCVAL または SNGVAL パラメーターの取り出し値の 1 つに制限されます。TYPE(ステートメント・ラベル)、TYPE(*CMD)、TYPE(*NULL)、TYPE(*ZEROELEM)、TYPE(*X)、または RTNVAL(*YES) を指定した場合には、*YES を指定することができません。

DFT パラメーター

ユーザーが値を指定しなかった場合にパラメーターに割り当てる省略時値を指定します。コマンドの入力時にユーザーがこのパラメーターを省略した場合、またはパラメーター値として *N を入力した場合には、この省略時値がパラメーター値として使用されます。省略時値は、以下のいずれか 1 つを満たすものでなければなりません。

- TYPE、LEN、REL、RANGE、および FULL パラメーターにより指定された要件に合っていないければなりません。
- SPCVAL パラメーターまたは SNGVAL パラメーターの取り出し値の 1 つでなければなりません。
- 省略時値が文字定数である場合には、32 文字を超えることはできません (LEN パラメーターの表を参照してください)。
- RSTD(*YES) を指定した場合には、VALUES パラメーターの値のリスト、または SPCVAL パラメーターまたは SNGVAL パラメーターの取り出し値のリストに入っていないければなりません。

- 定義されるパラメーターが非類似値のリストまたは修飾名である場合には、SNGVAL パラメーターの取り出し値でなければなりません。これは、TYPE にステートメント・ラベルを指定した場合にあてはまる事項です。このラベルは、QUAL または ELEM ステートメントを識別するために使用されます。

CONSTANT パラメーターを指定した場合には、DFT パラメーターは無効です。DFT パラメーターは、MIN が 0 の場合、すなわち KWD パラメーターに指定したパラメーターがオプションである場合に限り有効です。RTNVAL(*YES) を指定した場合は省略時値を指定することはできません。代わりに省略時値にヌル・ポインターが渡されます。TYPE(*CMD)、TYPE(*ZEROELEM)、または TYPE(*NULL) を指定した場合には、省略時値は使用することができません。TYPE(*VARNAME) を指定した場合は、省略時の特別な値を指定することができます。ただし、省略時変数名は指定することができません。

DFT を指定せず、かつ MIN(0) および RTNVAL(*NO) を指定した場合には、指定されたタイプに応じて次の省略時値が想定されます。

想定省略時値	パラメーター・タイプ
0	*DEC *INT2 *INT4 *ZEROELEM
'0'	*LGL
ゼロ	*DATE *TIME *HEX
ブランク	*CHAR *NAME *SNAME *CNAME *PNAME *GENERIC *VARNAME *CMDSTR
ヌル	*CMD *X *NULL

想定 省略時値は、コマンド・プロンプトでは表示されません。代わりに、ブランク入力フィールドが表示されます。DFT パラメーターに省略時値を指定した場合には、プロンプトによりその値が指定どおり正確に表示されます。

値: 指定の要件を満たす省略時値か、VALUES、SPCVAl、または SNGVAL パラメーターに指定したいいずれかの値である省略値を指定してください。

この値には変数をコーディングすることはできません。

VALUES パラメーター

1 個から 300 個までの定数 (固定値) のリストを指定します。このうちの 1 つの定数をこの KWD パラメーターに指定したパラメーターの値として指定できます。VALUES パラメーターは次のすべての条件が備わっている場合に限り有効です。すなわち、RSTD(*YES) が指定されていて、RANGE および REL の両方のパラメーターが同時に指定されてはならず、各定数が TYPE、LEN、および FULL の各パラメーターに指定された属性に該当する場合があります。LEN パラメーターの表に示したように、このパラメーターに指定する文字定数は 32 文字を超えることはできません。パラメーター値として、300 個以下の定数を入力してください。TYPE(*CMD)、TYPE(*CMDSTR)、TYPE(*X)、TYPE(*NULL)、TYPE(ステートメント・ラベル)、TYPE(*VARNAME)、または TYPE(*ZEROELEM) を指定した場合、あるいは RTNVAL(*YES) を指定した場合は、VALUES パラメーターは無効です。

REL パラメーター

このパラメーターのパラメーター値と、定数または他のパラメーターの値との関係を指定します。キーワードを指定する場合には、それがテストするキーワードの値であることを示すために、キーワードの前にアンパーサンド (&) を付けなければなりません。CPP に渡される値は、参照されるキーワードに結び付いている値であり、ユーザー指定の値ではありません。指定した関係が、値のリストまたは修飾名を値として持つ別のパラメーターとの関係の場合には、最初の値のみが比較に使用されます。

この関係を指定するために、次の比較演算子の 1 つに、定数または他のパラメーターのキーワード名 (KWD) (この場合には前に & が必要) を付けて入力してください。

- *LT より小さい
- *LE より小さいかまたは等しい
- *EQ 等しい
- *GE より大きいかまたは等しい
- *GT より大きい
- *NL より小さくない
- *NE 等しくない
- *NG より大きくない

RTNVAL(*YES) を指定した場合、RANGE または VALUES の一方を指定した場合、あるいは、TYPE に *LGL、*VARNAME、*CMD、*CMDSTR、*X、*ZEROELEM、*NULL、またはステートメント・ラベルを指定した場合には、REL パラメーターは無効です。

TYPE(*CHAR) により文字タイプが指定されている場合には、文字ストリングの EBCDIC 値が無符号の整数として比較に使用されます。LEN パラメーターの表に示したように、このパラメーターに指定する文字定数は 32 文字を超えることはできません。

この要素には変数をコーディングすることができます。

RANGE パラメーター

パラメーターの値の範囲 (限界) を指定します。パラメーター値は、指定された下限値以上で、かつ指定された上限値以下でなければなりません。たとえば、15 が有効になるのは、RANGE が (0 16) と指定されている場合です。

*CHAR などの非数値データ・タイプの場合には、指定した値の範囲およびデータは左寄せされ、右側にブランクが埋め込まれます。先行ゼロを指定するか、またはデータの長さが 1 文字のみの場合を除いて、数値範囲を使用して非数値データの間隔を定義してはなりません。

この要素には変数をコーディングすることができます。

範囲の上限および下限は、その値を表すキーワード、またはその値自体により指定することができます。キーワードを指定する場合には、キーワードの前にアンパーサンド (&) を付けて、キーワードの値を検査することを示さなければなりません。検査時点でのパラメーター値を使用して、範囲が決定されます。検査される値は、CPP に渡される値であり、ユーザー指定の値ではありません。そのキーワードが値のリストまたは修飾名を示す場合には、最初の値のみが範囲の限界値として使用されます。PASSVAL(*NULL) により定義される値は、キーワードで参照することができません。また、PASSVAL(*NULL) を指定した場合には、RANGE は無効です。

RTNVAL(*YES) を指定した場合、REL または VALUES のいずれか一方を指定した場合、あるいは、TYPE に *LGL、*VARNAME、*CMD、*CMDSTR、*X、*ZEROELEM、*NULL、またはステートメント・ラベルを指定した場合には、RANGE パラメーターは無効です。LEN パラメーターの表に示したように、このパラメーターに指定する文字定数は 32 文字を超えることはできません。

この要素には変数をコーディングすることができます。

SPCVAL パラメーター

KWD パラメーターに指定したパラメーターに入力できる特殊値を定義する項目を、1 個から 300 個までの範囲で指定します。各項目には、すべての妥当性検査基準には適合していない場合でも入力できる文字ストリング (取り出し値) を指定します。入力された文字ストリングが 1 つの項目の取り出し値に一致し、かつ受け入れ値が指定されている場合には、文字ストリングが受け入れ値で置き換えられ、それ以上の検査を受けずに CPP に渡されます。受け入れ値が省略されている場合には、取り出し値が CPP に渡されます。TYPE に *CMD、*CMDSTR、*X、*NULL、ステートメント・ラベル、または *ZEROELEM を指定した場合、あるいは RTNVAL(*YES) を指定した場合には、SPCVAL は無効です。

取り出し値は文字ストリングですが、受け入れ値は、受け渡し可能な値であればどのような値でも指定することができます。ただし、TYPE(*DATE) の場合には、受け入れ値はアポストロフィで囲まらずに *mmddy*、*mmddyyy*、または *Cyymmdd* の形式で指定しなければなりません。取り出し値として CL 変数を使用する場合には、そのタイプは *CHAR でなければなりません。受け入れ値は、LEN の指定値を超えてはなりません。また、TYPE が *DEC、*INT2、または *INT4 の場合には、そのタイプと受け入れ値のタイプが同じでなければならず、TYPE が文字タイプ (*CHAR、*LGL、または *DATE など) の場合には、受け入れ値は文字ストリングでなければなりません。LEN パラメーターの表に示したように、このパラメーターに指定する文字定数は 32 文字を超えてはなりません。受け入れ値を指定しなかった場合には、取り出し値が受け渡し可能なものでなければなりません。

受け入れ値に *CURLIB を指定した場合に CPP に渡されるのは、そのジョブの現行ライブラリーの名前であり、*CURLIB という値ではありません。取り出し値に *CURLIB を指定し、受け入れ値を指定しなかった場合、または受け入れ値にアポストロフィで囲んだ *CURLIB を指定した場合には、*CURLIB という値が CPP に渡されます。

この要素には変数を指定することはできません。

SNGVAL パラメーター

1 個から 300 個までの単一値を指定します。これらの単一値は、定義されるパラメーターに対して混合リストまたは修飾名 (TYPE にステートメント・ラベルを指定した場合) として指定できる値か、あるいは、MAX パラメーターにより定義された複数の値を受け入れるための値です。単一値の中のどの値でも、パラメーターが受け入れるものとして定義されている値のリストまたは修飾名の代わりに使用することができます。各項目には、入力できる文字ストリング (取り出し値) を指定します。入力された文字ストリングがいずれかの項目の取り出し値と一致し、かつ受け入れ値を指定されている場合には、データは受け入れ値で置き換えられ、それ以上の検査なしで CPP に渡されます。受け入れ値が省略されている場合には、取り出し値が CPP に渡されます。

受け入れ値 (受け入れ値を省略した場合には取り出し値) は、SPCVAL パラメーターの場合と同様に、受け渡し可能な値でなければなりません。LEN パラメーターの表に示したように、このパラメーターに指定する文字定数は 32 文字を超えてはなりません。SNGVAL を指定することができるのは、MAX パラメーターが 1 より大きい場合、または TYPE に QUAL ステートメントまたは ELEM ステートメントのステートメント・ラベルを指定した場合に限ります。各単一値は、値のリストまたは修飾名と置き換えることができるのみであり、リスト要素または修飾子になることはできません。値は、リストの最初の、かつ唯一の要素として渡されます。

RTNVAL(*YES) を指定した場合、または TYPE に *CMD、*CMDSTR、*NULL、*ZEROELEM、または *X を指定した場合には、SNGVAL は無効です。

受け入れ値に *CURLIB を指定した場合に CPP に渡されるのは、そのジョブの現行ライブラリーの名前であり、*CURLIB という値ではありません。取り出し値に *CURLIB を指定し、受け入れ値を指定しなかった場合、または受け入れ値にアポストロフィで囲んだ *CURLIB を指定した場合には、*CURLIB という値が CPP に渡されます。

この要素には変数を指定することはできません。

MIN パラメーター

定義中のパラメーターに対して入力しなければならない値の最小数を指定します。

複数の同種の値を指定することができないパラメーターについては、最小数として指定できるのは、要素がオプションの場合はゼロ (0)、必須の場合は 1 のみです。

注: 必須パラメーターのステートメントは、オプションのステートメントより先に指定しなければなりません。必須パラメーターのステートメントが最初に指定されていない場合には、システムは、指定したパラメーターをオプションのパラメーターと見なし、必須パラメーター値の最小数は無視されます。

(MAX パラメーターに 1 より大きい値が指定されたために) 複数の類似値を指定することができるパラメーターの場合には、ゼロ (0) は、値を入力する必要がないことを示します。したがってオプション・パラメーターであることを示します。1 以上の値は、そのパラメーターに入力しなければならない値の最小数を示します。したがって必須パラメーターであることを示します。この値は、MAX パラメーターに指定した値より大きな値で、TYPE(*NULL) の場合には 1 を超えることはできません。

0: このパラメーターはオプションです。値を入力しなくても構いません。

最小数: このパラメーター (KWD パラメーターに指定したもの) に指定しなければならない要素の最小数を指定してください。値に 1 を割り当てた場合には、そのパラメーターに対して少なくとも 1 つの値を入力する必要があることを意味します。1 より大きい数を指定した場合には、そのパラメーターは、少なくとも指定の値と同数の要素を持たなければならないリストになります。

MAX パラメーター

この PARM ステートメントで単純リスト・パラメーターを定義している場合には、このリスト・パラメーターに入れることのできるリスト要素の最大数を指定してください。1 より大きい値を指定した場合には、パラメーターは複数の同種の値 (すなわち単純リスト) を受け入れることができます。このサポートは、主として IBM 提供のコマンドのためのものです。コマンドの実行時にこのパラメーターに入力するすべての値は、この PARM ステートメント上の他のパラメーター値により指定された妥当性検査の要件を満たしていなければなりません。

注: リスト・パラメーターの値は、ユーザーがパラメーターに入力した値の数を示す 2 バイトの 2 進数に続いて渡されます。CL プログラムは、変数内での 2 進数の処理をサポートしていません。

1: このパラメーターは値を 1 つしか受け入れません。このパラメーターはリスト・パラメーターではありません。

最大数: リスト・パラメーターが受け入れることができる要素の最大数を指定します。指定する最大数は、MIN に指定した値に等しいかまたはそれより大きく、かつ 300 以下でなければなりません。最大数が 1 より大きく、かつ TYPE が QUAL ステートメントか ELEM ステートメントを

識別するステートメント・ラベルではない場合には、パラメーターは類似要素の単純リストです(したがって、リストの各要素ではタイプや長さなどの要件が同じです)。TYPE(ステートメント・ラベル) が指定されていて、そのタイプが ELEM または QUAL ステートメントのラベルを指している場合に、複数リストからなるリストまたは修飾名のリストを受け入れる場合、MAX に指定できるのは 1 より大きい値のみです。TYPE に *CMD、*CMDSTR、または *NULL を指定した場合、あるいは、RTNVAL(*YES) または CONSTANT を指定した場合、1 より大きい最大数は無効です。

ALWUNPRT パラメーター

この PARM ステートメントが、16 進文字 X'FF' または X'00' から X'3F' までの範囲の 16 進文字を受け入れるかどうかを指定します。このパラメーターは、TYPE(*CHAR) または TYPE(*X) の場合に限り有効です。

***YES:** どのような文字でも、CPP に渡すことができ、表示装置または印刷装置に送ることができます。

***NO:** 印刷不可能な文字を CPP に渡すことはできません。

ALWVAR パラメーター

パラメーターに変数名が使用できるかどうかを指定します。TYPE に *VARNAME、*ZEROELEM、*NULL、またはステートメント・ラベルを指定した場合は、ALWVAR(*NO) を指定することはできません。

***YES:** このパラメーターに変数名を使用することができます。

***NO:** このパラメーターに変数名を使用することはできません。

PGM パラメーター

このパラメーターの要素がプログラム名であるかどうかを指定します。PGM(*YES) が有効となるのは、TYPE にステートメント・ラベル、*CHAR、*NAME、*SNAME、*CNAME、および *GENERIC を指定した場合のみです。PGM(*YES) パラメーターを指定しても、該当の PARM ステートメントにより定義されるパラメーター要素にはいかなる影響もありません。この指定は、このパラメーターの値がプログラム名であることをコンパイラーに示すのみです。この情報は、保管され、プログラム参照表示 (DSPPGMREF) コマンドの出力に組み込まれます。

***NO:** この PARM ステートメントで定義するパラメーターは、プログラム名ではありません。

***YES:** この PARM ステートメントで定義するパラメーターは、プログラム名です。

DTAARA パラメーター

このパラメーターがデータ域名であるかどうかを指定します。DTAARA(*YES) は、ステートメント・ラベル、*CHAR、*NAME、*SNAME、*CNAME、および *GENERIC の各タイプに対してのみ有効です。DTAARA(*YES) パラメーターを指定しても、PARM ステートメントにより定義されるパラメーターにはいかなる影響もありません。この指定は、このパラメーターの値がデータ域であることをコンパイラーに示すのみです。この情報は、保管され、プログラム参照表示 (DSPPGMREF) コマンドの出力に組み込まれます。

***NO:** この PARM ステートメントで定義するパラメーターは、データ域名ではありません。

***YES:** この PARM ステートメントで定義するパラメーターは、データ域名です。

FILE パラメーター

このパラメーターがファイル名であるかどうか、およびそのファイルの用途を指定します。このパラメーターには、特定の用途を持つファイルの名前を指定することができます。これにより、コンパイル時に、ファイル名を用いてファイルがどこで使用されるかについてファイル参照情報を得ることができます。FILE パラメーターを指定しても、定義中のパラメーターの操作に影響はありません。

せん。この指定は、このパラメーターの値がファイル名であることと、そのファイルのタイプが何であるかを、コンパイラーに示すのみです。この情報は、保管され、プログラム参照表示 (DSPPGMREF) コマンドの出力に組み込まれます。FILE パラメーターが有効となるのは、TYPE パラメーターに *CHAR、*NAME、*SNAME、*CNAME、*GENERIC、またはステートメント・ラベルを指定した場合のみです。RTNVAL(*YES) を指定した場合には、FILE パラメーターは無効です。指定できるファイルのタイプは、以下のいずれか 1 つです。

***NO:** このパラメーター (KWD で指定したもの) は、ファイル名ではありません。

***IN:** このパラメーター値は入力ファイル名です。

***OUT:** このパラメーター値は出力ファイル名です。

***UPD:** このパラメーター値は更新ファイル名です。

***INOUT:** このパラメーター値は、入力および出力の両方で使用されるファイルの名前です。

***UNSPFD:** このパラメーター値はファイル名ですが、用途を指定することはできません。

ファイルの用途と指定されたファイルのタイプは一致しなければなりません。たとえば、*IN を指定した場合は、そのファイルは入力にのみ使用することができます。*UPD を指定した場合は、そのファイルは既存のレコードの更新にのみ使用することができます。

FULL パラメーター

パラメーター内の文字の数が、LEN パラメーターに指定した数 (LEN を指定した場合) または省略時の長さ (LEN を指定しなかった場合) とまったく同じでなければならないかどうかを指定します。

***NO:** パラメーター内の文字数は、LEN パラメーターに指定した数より少なくとも構いません。

***YES:** パラメーター内の文字数は、LEN または該当のタイプの省略時の長さと同じでなければなりません。パラメーター・タイプが *LGL、*CHAR、*NAME、*SNAME、*CNAME、*GENERIC、*VARNAME、および *HEX である場合のみ、正確な長さの一致の指定が有効になります。RTNVAL(*YES) を指定した場合は、FULL(*YES) が有効になります。

EXPR パラメーター

KWD パラメーターに指定したパラメーターが文字連結または組み込み関数 (%SUBSTRING または %BIN) を含む式を受け入れることができるかどうかを指定します。有効な文字連結演算子は次のとおりです。

連結	*CAT または
ブランク挿入を伴う連結	*BCAT または >
ブランク切り捨てを伴う連結	*TCAT または <

制約条件: TYPE パラメーターに *CMDSTR、*CMD、*ZEROELEM、*NULL、またはステートメント・ラベルを指定したパラメーターでは、式を使用することはできません。

***NO:** このパラメーター値には、連結式も組み込み関数も指定することができません。

***YES:** このパラメーター値に、連結式または組み込み関数を指定することができます。

VARY パラメーター

CPP に渡される値の前に、コマンド・パラメーターに入力された文字の数を示す長さの値があるかどうかを指定します。

長さの値は、コマンド・パラメーターに入力された実際の文字数で、後書きブランクを取り除いたものです。長さの値は、定義されたパラメーターまたは宣言された変数の長さとは異なる場合があります。文字ストリング・データを含むフィールドの長さは、CL プログラム変数のパラメーターまたは宣言された LEN で定義された長さで決まります。長さの値は、文字ストリング・データ・フィールドの中で、実際にコマンド・パラメーターに入力された文字数を定義します。このパラメーターは、単一値 (*NO) として、または 2 つの値 (要素) のリストとして指定することができます。

***NO:** このパラメーター値の前に長さの値はありません。

要素 1: 長さの値があることの指定:

***YES:** パラメーターに実際に指定された文字数を示すフィールドが、CPP に渡されるパラメーター値の前にきます。

注: *YES は、*CHAR、*NAME、*SNAME、*CNAME、*PNAME、*GENERIC、*LGL、*VARNAME、*CMD、*CMDSTR、および *X の各パラメーター・タイプに対してのみ有効です。PASSATR(*YES) および RTNVAL(*YES) を指定する場合は、*YES を指定しなければなりません。

要素 2: 値の長さ:

***INT2:** このパラメーター値の長さは、2 バイトの符号付き 2 進数として渡される整数です。

***INT4:** このパラメーター値の長さは、4 バイトの符号付き 2 進数として渡される整数です。

PASSATR パラメーター

(IBM 提供のコマンド用) このパラメーター・データとともに属性バイトを CPP に渡すかどうかを指定します。

***NO:** このパラメーターとともに属性バイトは渡されません。

***YES:** このパラメーターとともに属性バイトが渡されます。属性バイトは、データ値が省略時値であるかどうか、および値のデータ・タイプを示します。また、TYPE(*CHAR) が指定されている場合は、文字ストリングがアポストロフィで囲まれているかどうかを示します。

PASSVAL パラメーター

このパラメーターについてコマンド処理プログラムに値を渡すかどうかを指定します。パラメーターが、定数パラメーター (値が PARM ステートメントの CONSTANT パラメーターに指定されているパラメーター、TYPE(*ZEROELEM) または TYPE(*NULL) が指定されているパラメーター、あるいは、すべての定数の ELEM または QUAL ステートメントにより定義されたリスト / 修飾名) である場合には、*NULL は無効です。また、RTNVAL(*YES) を指定した場合、または MIN パラメーターに指定した値がゼロより大きい場合にも、*NULL は無効です。PASSVAL(*NULL) に定義されたパラメーターの値は、DEP ステートメントまたは他の PARM ステートメントの REL および RANGE キーワードで参照することはできません。

***DFT:** 省略時値が常に CPP に渡されます。

***NULL:** このパラメーターを指定しなかった場合は、ヌル・ポインターが CPP に渡されます。

CASE パラメーター

CPP に渡された値を小文字から大文字へ変換するか、あるいはコマンド・パラメーターに指定した文字のままにするかを指定します。

***MONO:** パラメーター値は、小文字から大文字に変換されます。パラメーターにアポストロフィが付いている場合は、この値が指定されているかいないかにかかわらず、大文字も小文字もそのまま保存します。

***MIXED:** パラメーター値は、コマンド・パラメーターに指定されたままになります。この値は、
***CHAR** および ***PNAME** パラメーター・タイプでのみ指定できます。

LISTDSPL パラメーター

リスト内にあるリストへの変位が 2 バイト長であるか、それとも 4 バイト長であるかを指定します。これらの変位は、**CPP** に渡されるパラメーターが、リスト内にリストを持っているときに生成されます。**CPP** のために作成される値にリスト内のリストがない場合は、このパラメーターは無視されます。

***INT2:** 変位値は、2 バイトの符号付き 2 進数として渡される整数です。

***INT4:** 変位値は、4 バイトの符号付き 2 進数として渡される整数です。

DSPINPUT パラメーター

このキーワードの値がジョブ・ログまたはプロンプト画面に示されるようにするかどうかを指定します。**DSPINPUT(*PROMPT)** および **DSPINPUT(*NO)** は、パラメーター・タイプが ***CHAR**、***NAME**、***SNAME**、***CNAME**、***GENERIC**、***DEC**、***LGL**、***INT2**、***INT4**、***DATE**、***TIME**、***HEX**、および ***CMDSTR** の各タイプである場合に指定できます。

注: **DSPINPUT** パラメーターは、データベース読み取りプログラムのジョブ、組み込みコマンド (たとえば **SBMJOB** コマンドによって投入されるコマンド)、あるいは **QCMDEXEC** API または **QCAEXEC** API を用いて実行されたコマンドに関するジョブ・ログ項目に対しては効力はありません。

***YES:** このパラメーター値は、プロンプト画面およびジョブ・ログに表示されます。

***PROMPT:** このパラメーター値は、プロンプト画面には表示されますが、ジョブ・ログには表示されません。

***NO:** このパラメーター値は、ジョブ・ログにもプロンプト画面にも表示されません。前に入力したコマンドを検索する場合は、非表示フィールド項目は入力し直さなければなりません (元の値を検索することはできません)。ジョブ・ログ項目が作成される際には、非表示フィールドは空の括弧 () で示されます。

CHOICE パラメーター

プロンプト画面上の各パラメーターのプロンプト行の右側に表示するテキストを指定します。最大 30 文字までのテキストを表示できます。

***VALUES:** 指定できる各値が、コンマとスペースで区切られて、指定可能値フィールドに表示されます。省略時値パラメーター、単一値パラメーター、特殊値パラメーターを値に指定した場合は、表示される順序は、まず省略時値、次に単一値、その後に特殊値となります。値の数が多すぎて 30 文字に収まらない場合は、最後の値の後に 3 個のピリオドが表示されます。

以下に指定可能値テキストの例をいくつか挙げます。

- **RSTD** パラメーターに ***NO**、**TYPE** パラメーターに ***DEC** を指定し、**RANGE** パラメーターを指定しなかった場合は、指定可能値フィールドには「**RANGE**」という語が表示されます。結果の行の形式は、**RANGE**、***XXX**、***YYY**、***ZZZ...** となります。
- **RSTD** パラメーターに ***NO**、**TYPE** パラメーターに ***DEC** を指定し、**RANGE** パラメーターを指定した場合は、指定可能値フィールドには指定可能な値の範囲が表示されます。結果の行の形式は、**a** から **b**、***XXX**、***YYY**、***ZZZ** となります (ここで **a** と **b** は、範囲を示す数値です)。

- RSTD パラメーターに *YES を指定した場合は、表示される指定可能値は、VALUES パラメーター、SNGVAL パラメーター、および SPCVAL パラメーターに指定した値によって決まります。結果の行の形式は、*XXX、*YYY、*ZZZ... となります。

***NONE:** 値は表示されません。

***PGM:** 表示される値は、呼び出されるプログラムによって決まります。呼び出されるプログラムは、CHOICEPGM パラメーターで指定します。

メッセージ識別コード: メッセージを検索するために使用するメッセージ識別コードを指定してください。このメッセージは、指定可能値フィールドに表示されるテキストが含まれているものです。コマンド作成 (CRTCMD) コマンドの PMTFILE パラメーターに指定されているメッセージ・ファイルを使用して、メッセージの検索が行われます。

'選択テキスト': 30 文字以内のテキストをアポストロフィで囲んで指定してください。

CHOICEPGM パラメーター

使用可能な選択テキストおよび暗黙的値を入力するために、プロンプト表示の際に呼び出すプログラムの修飾名を指定します。CHOICE(*PGM) を指定する場合は、このパラメーターを指定しなければなりません。そうでない場合には、このパラメーターを指定してはなりません。

***NONE:** 使用可能な選択テキストおよび暗黙的値を指定するためのプログラムは指定されません。指定可能なライブラリーの値は次のとおりです。

***LIBL:** その名前のプログラムを見つけるために、ライブラリー・リストを使用します。

***CURLIB:** その名前のプログラムを見つけるために、そのジョブの現行のライブラリーを使用します。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合は、QGPL ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名: そのプログラム名が含まれているライブラリーの名前を指定してください。

プログラム名: 使用可能な選択テキストや暗黙的値を表示するために、プロンプトの表示の際に呼び出すプログラムの名前を指定します。

プログラムが呼び出される時点で例外状態が起きた場合には、使用可能な選択テキストはブランクにはならず、暗黙的値のリストがコマンドから得られます。

PMTCTL パラメーター

このパラメーターに関するプロンプト表示をどのように制御するかを指定します。プロンプト表示は、このパラメーターのラベルで参照する PMTCTL ステートメントに指定した別のパラメーターによって決められるか、あるいはユーザーが F10 キーを用いて要求します。

***NONE:** 選択プロンプトによって除外されない限り、このパラメーターに関するプロンプトは常に表示されます。

***PMTRQS:** 次の場合を除いて、このパラメーターに関するプロンプトは表示されません。

- ユーザーが追加のパラメーターを要求した場合。
- プロンプトが呼び出される前にパラメーターに値が入力された場合。

ステートメント・ラベル: このパラメーターに関するプロンプトを表示するかどうかを判断するために使用する PMTCTL ステートメントのラベルを指定します。次の場合を除いて、パラメーターに関するプロンプトは表示されません。

- 参照された PMTCTL ステートメントに指定されている条件が満たされた場合。
- プロンプトが呼び出される前にパラメーターに値が入力された場合。

PMTCTLPGM パラメーター

パラメーターについて指定された値を PMTCTL ステートメントで使用する値に変換するために呼び出すプログラムの修飾名を指定します。このパラメーターは、PMTCTL ステートメントの CTL パラメーターで参照されているパラメーターについてののみ有効です。

***NONE:** プロンプト制御ステートメントのためのパラメーター値を変換するプログラムがありません。PMTCTL ステートメントにパラメーターが指定されている場合は、PMTCTL ステートメントで実際の値が比較されます。

指定可能なライブラリーの値は次のとおりです。

***LIBL:** その名前のプログラムを見つけるために、ライブラリー・リストを使用します。

***CURLIB:** その名前のプログラムを見つけるために、そのジョブの現行のライブラリーを使用します。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合は、QGPL ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名: そのプログラム名が含まれているライブラリーの名前を指定してください。

プログラム名: パラメーター値を変換するために呼び出すプログラムの修飾名を指定します。

KEYPARM パラメーター

パラメーターがキー・パラメーターであるかどうかを指定します。キー・パラメーターが使用できるのは、CRTCMD コマンドまたは CHGCMD コマンドの PMTOVRPGM パラメーターにプロンプト一時変更プログラムの指定がある場合のみです。プロンプト一時変更プログラムは、コマンド処理プログラム (CPP) を一時変更して、初期プロンプト画面にキー・パラメーターのみが表示されるようにします。これらのパラメーターに値が入力されない場合、残りのパラメーターは表示されません。残りのパラメーターには、プロンプト画面に表示される時点で *SAME、*PRV などではなく、実際の値が入っています。

***NO:** このパラメーターは、キー・パラメーターではありません。

***YES:** このパラメーターは、キー・パラメーターです。*YES を指定するときは、次の規則に従ってください。

1. キー・パラメーターは、コマンド定義ステートメントの中で、キー・パラメーターではないパラメーターの前に置かなければなりません。
2. キー・パラメーターは、コマンド定義ステートメントに指定した順序と同じ順序でプロンプト画面に表示されます。
3. キー・パラメーターが有効となるのは、CRTCMD コマンドまたは CHGCMD コマンドの PMTOVRPGM パラメーターにプロンプト一時変更プログラムの指定がある場合のみです。プロンプト一時変更プログラムの指定がない場合には、キー・パラメーターがキー・パラメーターでないものとして処理され、警告メッセージが表示されます。

4. コマンド定義ステートメントに指定されるパラメーターは、キー・パラメーターのみでありはなりません。この場合、警告メッセージが表示されます。

INLPMTLEN パラメーター

コマンドのプロンプトが出される際に、そのパラメーター用に最初に表示される入力フィールドの長さを指定します。ユーザーは、フィールドの先頭位置にアンバーサンド (&) を入力し、続けて空白を入れることにより、そのフィールドを最大 512 バイトまで拡張することができます。INLPMTLEN が有効となるのは、TYPE パラメーターに *CHAR、*NAME、*SNAME、*CNAME、*PNAME、*GENERIC、*CMDSTR、*HEX、*X、または *CMD を指定した場合のみです。FULL(*YES)、RTNVAL(*YES)、RSTD(*YES)、または CONSTANT を指定した場合は、INLPMTLEN(*CALC) を指定するか、省略時のままにしておかなければなりません。

***CALC:** プロンプターは、パラメーターのタイプと長さに基づいて、プロンプト・フィールドの長さを決定します。

***PWD:** システム値 QPWDLVL の現行値が '0' または '1' の場合は、プロンプト・フィールドの長さは 10 バイトになります。それ以外の場合は、プロンプト・フィールドの長さはパラメーターの長さによって決まります。INLPMTLEN(*PWD) が有効なのは、タイプとして *CHAR、*NAME、*SNAME、*PNAME、または *CNAME を指定した場合のみです。

初期プロンプト長: プロンプト・フィールドの初期の長さをバイト数で指定します。有効な値は 1 ~ 12、17、25、32、50、80、132、256、512 です。

PROMPT パラメーター

プロンプト・テキストを使用する場合に、KWD パラメーターによって指定したパラメーターに対してどのプロンプト・テキストを使用するのかを指定します。プロンプト・テキストは、表示される情報に対してユーザーが応答を入力できるように、キーワードおよび入力フィールドについてのさらに詳しい説明をユーザーに提示するものです。たとえば、ライブラリー作成 (CRTLIB) コマンドの TYPE パラメーター用のプロンプト・テキストは次のようになります。

ライブラリー・タイプ

このコマンドについてのプロンプトが表示されると、TYPE パラメーターに対するプロンプトは次のようになります。

ライブラリー・タイプ ***PROD**

下線の付いたフィールドは、ユーザーが TYPE パラメーターの値を入力するフィールドです。プロンプトが表示されるときには、この入力フィールドには省略時値 (この例では *PROD) が入れられて、表示されます。TYPE(*ZEROELEM) または TYPE(*NULL) を指定した場合、または CONSTANT パラメーターに定数の値を指定した場合には、プロンプト・テキストを指定することはできません。

***NONE:** この PARM ステートメントで定義するパラメーターについては、プロンプト・テキストは表示されません。このパラメーターの入力を求めるためにキーワード名が表示されるのみであり、プロンプト・テキストは表示されません。

メッセージ識別コード 相対プロンプト番号: パラメーターのプロンプトとして表示したい、30 文字以下のプロンプト・テキストが含まれているメッセージを識別するためのメッセージ識別コードを指定します。コマンド作成 (CRTCMD) コマンドの PMTFILE パラメーターに指定されたメッセージ・ファイルの中に指定の識別コードを持つメッセージが見つからない場合には、メッセージ識別コード自体がプロンプト・テキストとして使用されます。

必要に応じて、メッセージ識別コードとともに相対プロンプト番号を指定することができます。相対プロンプト番号は、パラメーター・キーワードの入力を求める順序を指定します。この順序はプロンプト表示の順序に対してのみに影響し、パラメーターを CPP に渡す順序には影響を及ぼしま

せん。プロンプト番号のあるパラメーターについては、プロンプト番号のないパラメーターより前に入力指示が出されます。プロンプト番号がなく、PMTCTL(*PMTRQS) もコーディングされていないパラメーターについては、プロンプト番号がなく、PMTCTL(*PMTRQS) がコーディングされているパラメーターより前に入力指示が出されます。

‘プロンプト・テキスト’ 相対プロンプト番号: パラメーターのプロンプトとして表示したいプロンプト・テキストを指定してください。このテキストは、アポストロフィで囲んだ 30 文字以下の文字ストリングでなければなりません。メッセージ識別コードの場合と同様、必要に応じてプロンプト・テキストとともに相対プロンプト番号を指定することができます。

詳細については、『例: PARM ステートメント』を参照してください。

例: PARM ステートメント

```
PARM KWD(X) TYPE(*DEC) LEN(2) MIN(1) REL(*GT 5)
```

X という名前のパラメーターの値は、2 桁の 10 進数として入力しなければなりません。この値は 5 より大きくなければなりません。

```
PARM KWD(CLASS) TYPE(*CHAR) LEN(1)
      DFT(A) VALUES(A B C) RSTD(*YES)
```

CLASS パラメーターの値は、入力する場合、A、B、または C でなければなりません。値を指定しなかった場合には、A を指定したものと見なされます。

```
PARM KWD(MAXREC) TYPE(*DEC) LEN(3)
      MIN(1) RANGE(&MINREC 999)
```

MAXREC パラメーターの値は、小数点以下の桁数のない 3 桁以下の 10 進数として入力しなければなりません。この値は MINREC パラメーターに入力した値に等しいかまたはそれより大きくなければならず、さらに、999 に等しいかまたはそれより小さくなければなりません。

```
PARM KWD(FILES) TYPE(*NAME) MIN(2) MAX(5)
```

FILES パラメーターは、2 つから 5 つまでの名前が入っている同種要素のリストです。

```
PARM KWD(INVFNAM) TYPE(*NAME) DFT(*ALL)
      SNGVAL((*ALL XXX)) VALUES(DEPT1 DEPT2 DEPT3)
      FILE(*UPD) MIN(0) MAX(3) RSTD(*YES)
      PROMPT(USR0002 1)
```

INVFNAM パラメーターの値は、DEPT1、DEPT2、DEPT3、および *ALL を有効な選択項目とする最高 3 つのファイル名から成るリストです。*ALL を入力した場合には、このパラメーターに対して他の値を入力することはできません。このパラメーターの指定を省略した場合には、ファイル名 XXX がコマンド処理プログラムに渡されます。このパラメーターがプロンプトを通じて入力された場合には、メッセージ・ファイルに保管されているプロンプト・テキストが表示され、*ALL は省略時値として表示されます。

PMTCTL (プロンプト制御) ステートメント

プロンプト制御 (PMTCTL) ステートメントは、PARM ステートメントで PMTCTL ステートメントを参照しているパラメーターのためにプロンプトを出すかどうかを決める条件を指定します。

PMTCTL ステートメント (複数ある場合には、最初の PMTCTL ステートメント) は、コマンド定義ソース仕様の中において、1 つ以上の PARM ステートメントの PMTCTL パラメーターで参照されているラベルに一致するステートメント・ラベルを持っている必要があります。次の構文図に、PMTCTL 定義ステートメントの構文を示します。

```

>>-PMTCTL--CTL--(--キーワード名--)--COND--(-----+*SPCFD-----+-----)--->
                                     | (1)
                                     +*UNSPCFD-----+
                                     '-(比較演算子値-----)-'

>-----+-----+----->
|         .-*ALL-----|
| -NBRTRUE(--+----比較演算子番号-----+--)-|

>-----+-----+-----<
|         .-*AND--|
| -LGLREL(--+*OR-----+--)-|

```

注:

1. 最大 50 回まで反復可能。

CTL パラメーター

プロンプト表示を制御するパラメーターの名前を指定します。ここに指定したパラメーターの値が、COND パラメーターの指定値と比較されます。ここに指定されるパラメーターに対して PMTCTLPGM パラメーターをコーディングした場合には、PMTCTLPGM パラメーターに指定したプログラムから戻される値が、COND パラメーターの指定値と比較されます。ここに指定したパラメーターがリストまたは修飾名の場合には、最初のリスト要素または修飾子が比較に使用されます。

COND パラメーター

CTL パラメーターに指定したパラメーターをテストするための条件を指定します。最大 50 の条件を指定することができます。

***SPCFD:** 制御パラメーターに省略時値を指定すると、省略時値を含む条件は真になります。

***UNSPCFD:** 制御パラメーターを指定しない場合のみ、条件は真になります。省略時値が指定されている場合は、真になりません。

比較演算子 値: 制御パラメーターの値と COND パラメーターに指定された値を比較するために、使用する比較演算子および値を指定してください。比較演算子は、*GT、*EQ、*NL、*LT、*NE、*LE、および *NG です。

NBRTRUE パラメーター

COND パラメーターに指定された条件のうちで、パラメーターについてのプロンプトを表示するためには真にならなければならない条件の数を指定します。

***ALL:** すべての条件が真でなければなりません。

比較演算子 数: 真である条件の数と NBRTRUE パラメーターに指定した数を比較するために、使用する比較演算子とその数を指定してください。比較演算子は、*GT、*EQ、*NL、*LT、*NE、*LE、および *NG です。

LGLREL パラメーター

1 つのグループの中で複数の PMTCTL ステートメントを指定する場合、このパラメーターを用いて、グループ内の個々のステートメントとそれに先行するステートメントとの論理的関係を指定します。このパラメーターは、グループ内の最初の PMTCTL ステートメントに指定することはできません。

***AND:** このステートメントとこのグループの直前のステートメントは、AND 関係です。

***OR:** このステートメントと直前の PMTCTL ステートメント (複数の場合もあります) との関係は、OR 関係です。OR 関係にあるステートメントは、AND 関係の評価が終了した後で評価されます。

詳細については、『例: PMTCTL ステートメント』を参照してください。

例: PMTCTL ステートメント

```
A: PMTCTL CTL(TYPE) COND((*EQ *) (*EQ *LIST))
   NBRTRUE(*EQ 1)
```

TYPE(*) または TYPE(*LIST) を指定した場合には、この PMTCTL ステートメントを参照するパラメーターがプロンプト表示の対象として選択されます。

```
B: PMTCTL CTL(P1) COND((*EQ *ALL))
   PMTCTL CTL(P1) COND((*EQ *SOME)) LGLREL(*OR)
   PMTCTL CTL(P2) COND((*EQ *ALL)) LGLREL(*AND)
   PMTCTL CTL(P1) COND((*EQ *NONE)) LGLREL(*OR)
   PMTCTL CTL(P2) COND((*NE *ALL)) LGLREL(*AND)
```

この PMTCTL ステートメント・グループを参照するパラメーターは、次の条件のいずれかが存在していれば、プロンプト表示の対象として選択されます。

- P1 に対して *ALL が指定されている。
- P1 に対して *SOME が指定されており、P2 に *ALL が指定されている。
- P1 に対して *NONE が指定されており、P2 に *ALL が指定されていない。

QUAL (修飾子) ステートメント

修飾子 (QUAL) ステートメントは、修飾名の一部を記述します。PARM ステートメントまたは ELEM ステートメントで定義されたパラメーターまたはリストの要素として指定できる値であれば、その名前は、名前の修飾に使用する各修飾子ごとに QUAL ステートメントを使用することにより、修飾名に変更することができます。

修飾子が指定されて妥当性検査プログラムおよびコマンド処理プログラム (CPP) に渡される順序は、QUAL ステートメントをソース・ファイルに入れる順序によって決まります。

QUAL ステートメント (2 つ以上ある場合には最初の QUAL ステートメントのみ) には、修飾子を定義する対象の PARM ステートメントまたは ELEM ステートメントで指定されているステートメント・ラベルの値に一致するステートメント・ラベルを付けなければなりません。パラメーターまたはリスト要素の修飾子は、値1/値2/値3 の形式でコマンドに入力します。値1 から 3 は、それぞれ 1 つの QUAL ステートメントで記述された修飾子です。

注: システム /38 環境では、ピリオドを区切り文字として順番に値が渡されます。たとえば、値1.値2.値3 の形式となります。

値を渡す前に、各値がそれぞれ定義された長さになるように埋め込みが行われ、区切り文字 (斜線またはピリオド) が除去されます。

注: QUAL ステートメントには、定義中のコマンドによって IBM 提供のコマンド処理プログラム (CPP) が呼び出された場合にのみ使用できる特定のパラメーターおよび事前定義値が含まれています。高水準言語によっては、一定の制約があり、これらの値をユーザー定義のコマンド定義ステートメントで使用してもあまり役立たない場合があります。このようなパラメーターおよび値については、パラメーター全体が IBM 提供のコマンド専用のものであればパラメーター・キーワードの直後に、それ以外の場合には該当の事前定義値の直後に、「(IBM 提供のコマンド用)」という断わり書きがあります。

次の構文図に、QUAL 定義ステートメントの構文を示します。

```
>>-QUAL---TYPE--(--+*NAME-----+---)-+-----+-----+----->
          +-*SNAME---+      '-LEN--(--長さ---)--'
          +-*CNAME---+
          +-*GENERIC-+
          +-*CHAR-----+
          +-*INT2-----+
          +-*INT4-----+
          +-*UINT2---+
          '-*UINT4---'

>-----+-----+-----+-----+----->
          '-CONSTANT---(--値---)--' |             '.*NO--.' |
                                   '-RSTD--(--+*YES+---)--'

>-----+-----+-----+-----+----->
          '-DFT(-----値-----)'

>-----+-----+-----+-----+----->
          |                                     |
          |           v             (1)       |
          +-----VALUES(-----値-----)-----+-----+
          +-----REL(-----比較演算子-----値-----)-----+-----+
          '-RANGE(-----下限値-----上限値-----)'

>-----+-----+-----+-----+----->
          '-SPCVAL(--+特殊値-----+---)-+-----+-----+----->
          |                                     |
          |           v             (1)       |
          +-----(--取り出し値--受け入れ値--)-+-----+-----+

>-----+-----+-----+-----+----->
          |                                     |
          |             .-*YES--.             |
          '-ALWUNPRT--(--+*NO---+---)--'

>-----+-----+-----+-----+----->
          |                                     |             |             |
          |             .-*YES--.             |             |             |
          '-ALWVAR--(--+*NO---+---)--' |             '-MIN--(--+1---+---)--'

>-----+-----+-----+-----+----->
          |                                     |             |             |
          |             .-*NO--.             |             |             |
          '-FULL--(--+*YES+---)--' |             '-EXPR--(--+*YES+---)--'

>-----+-----+-----+-----+----->
          |                                     |             |
          |             .-*NO--.             |             |
          '-VARY--(--+*YES+---)--'

>-----+-----+-----+-----+----->
          |                                     |             |
          |             .-*NO--.             |             |
          '-PASSATR--(--+*YES+---)--'

>-----+-----+-----+-----+----->
          |                                     |             |             |
          |             .-*YES----.         |             |             |
          '-DSPINPUT--(--+*PROMPT+---)--' |             |             |
          '|-*NO----'

>-----+-----+-----+-----+----->
          |                                     |             |             |
          |             .-*VALUES-----+-----+         |             |             |
          '-CHOICE--(--+*NONE-----+---)--' |             |             |
          |                                     |             |             |
          |             +-*PGM-----+                     |             |             |
          |             +-メッセージ識別コード-+         |             |             |
          |             '-選択テキスト'-----'         |             |             |

>-----+-----+-----+-----+----->
          |                                     |             |             | |
          |             .-*NONE-----+-----+         |             |             |
          |             | .-*LIBL/-----'         |             |             |
```

```
'-CHOICEPGM--(--+-----+---プログラム名---+---)--'
               +-*CURLIB/-----+
               '-ライブラリー名/-'

>-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+----->
|                                     |   .-*CALC-----|
|   '-INLPMPTLEN--(--+*PWD-----+--)|             |
|                                   |'-最初のプロンプトの長さ-'|
|                                   |
|                                     |   .-*NONE-----|
|   '-PROMPT--(--+メッセージ識別コード-+---)|           |
|                                   |'-プロンプト・テキスト'-----'|
|                                   |
|                                     |
```

注:

- 最大 300 回まで反復可能。

TYPE パラメーター

パラメーター名またはリスト要素名の修飾に使用する修飾子のタイプを指定します。修飾子は名前、総称名、引用符付き文字ストリング、引用符なしの文字ストリング、または整数のいずれでも構いません。次のオプションのいずれか 1 つを入力して、修飾子のタイプを指定してください。どの修飾名の場合も、最初の修飾子のタイプは名前 (*NAME) または総称名 (*GENERIC) でなければなりません。

***NAME:** 修飾子は名前を表す文字ストリングです。名前の長さは最大 256 文字です。最初の文字は英字 (特殊文字 \$、#、または @ も含む) でなければならず、その他の文字は英数字、ピリオド、または下線でなければなりません。名前は、2 重引用符 (") で始まり 2 重引用符で終る文字ストリングでなければなりません。特殊値 (*LIBL または *NONE など) を使用する場合には、その特殊値を SPCVAL パラメーターに指定しておかなければなりません。

***SNAME:** 修飾子は名前を表す文字ストリングです。名前の長さは最大 256 文字です。最初の文字は英字 (特殊文字 \$、@、または # も含む) でなければならず、その他の文字は A から Z、0 から 9、\$、#、または @ でなければなりません。ピリオド (.) は使用できません。特殊値 (*LIBL または *NONE など) を使用する場合には、その特殊値を SPCVAL パラメーターに指定しておかなければなりません。

***CNAME:** 修飾子は名前を表す文字ストリングです。名前の長さは最大 256 文字です。最初の文字は英字 (特殊文字 \$、#、または @ も含む) でなければならず、その他の文字は A から Z、0 から 9、\$、#、または @ でなければなりません。ピリオド (.) と下線 (_) は使用できません。特殊値 (*LIBL または *NONE など) を使用する場合には、その特殊値を SPCVAL パラメーターに指定しておかなければなりません。

***GENERIC:** 修飾子は総称名を表す文字ストリングです。総称名には、アスタリスク (*) が最後に付く場合には最大 255 文字まで、アスタリスクが付かない場合には最大 256 文字まで入ります。この名前は、* の前の文字で始まる名前を持つオブジェクトのグループを識別します。アスタリスク (*) がない場合には、システムはその総称名を完結したオブジェクト名と見なします。

***CHAR:** 修飾子は文字ストリングで、必要に応じてアポストロフで囲むことができます。この文字ストリングに特殊文字 (アスタリスク (*) を除く) が含まれている場合には、文字ストリング全体をアポストロフで囲まなければなりません。文字ストリングの最大長は 5000 文字です。

***INT2:** 修飾子は、2 バイトの符号付き 2 進数として渡される整数です。CL プログラムでは、変数内の 2 進数値はサポートされていません。

***INT4:** 修飾子は、4 バイトの符号付き 2 進数として渡される整数です。CL プログラムでは、変数内の 2 進数値はサポートされていません。

LEN パラメーター

データ・タイプが *NAME、*GENERIC、または *CHAR の場合に、修飾子の長さを指定します。修飾子のタイプ別にシステムで使用される省略時の長さおよび最大長は次のとおりです。

データ・タイプ	省略時の長さ	最大長 ¹
*NAME	10	256 ²
*SNAME	10	256 ²
*CNAME	10	256 ²
*GENERIC	10	256 ²
*CHAR	32	5000 ²
*INT2 ³	6	
*INT4 ⁴	11	

注:

- ¹ ここに示す最大長は、コマンド定義で指定可能な最大長です。コマンドの CPP として使用される高水準言語では、これらのデータ・タイプについて別の最大長があることもあります (たとえば、*DEC の値は、CL プログラムでは最大長が (15 9) になります)。
- ² ここに示す最大長は、コマンドの実行時に使用される値です。コマンド定義に指定する文字定数の最大長は 32 文字に制限されています。この制約条件は、CONSTANT、DFT、VALUES、REL、RANGE、および SPCVAL の各パラメーターに適用されます。
- ³ *INT2 には、長さを指定することはできません。使用される長さは 6 です。値は、 $[-2^{15} \leq \text{値} \leq 2^{15}-1]$ の条件を満たしていなければなりません。値は 2 バイトの符号付き 2 進数として渡されます。
- ⁴ *INT4 には、長さを指定することはできません。使用される長さは 11 です。値は、 $[-2^{31} \leq \text{値} \leq 2^{31}-1]$ の条件を満たしていなければなりません。値は 4 バイトの符号付き 2 進数として渡されます。

CONSTANT パラメーター

定義中のコマンドを処理する際、修飾子の定数として CPP に渡す値を指定します。この修飾子は、外見上はコマンドに現れることはありません。指定する値には、TYPE、LEN、VALUES、REL、RANGE、および SPCVAL の各パラメーターにより指定される要件を満たしていなければなりません (LEN パラメーターの表に示したように、このパラメーターに指定する文字定数は 32 文字を超えることはできません)。

この QUAL ステートメントに定数を指定し、その直後に続けて他の QUAL ステートメントを指定する場合、それらの後続の QUAL ステートメントのどれにもラベルを付けないのであれば、それらの QUAL ステートメントも定数として定義する必要があります。ラベルは、新しい一連の QUAL ステートメントの始まりを示し、別個に定義することができます。

また、定義中の修飾子に定数を指定する場合には、この QUAL ステートメントの PROMPT パラメーターにプロンプト・テキストを指定することはできません。しかし、他の修飾子または修飾子グループにはプロンプトが表示され、それらの値も修飾名として CPP に渡されます。

DFT パラメーターを指定したとき、または EXPR パラメーターに *YES を指定したときには、CONSTANT パラメーターは無効です。

このパラメーターには、変数をコーディングすることはできません。

RSTD パラメーター

修飾子として入力できる値が、VALUES パラメーターまたは SPCVAL パラメーターに指定された値の 1 つに限定されるのか、あるいは、TYPE、LEN、REL、RANGE、および SPCVAL の各パラメーターに指定されている要件を満たす値であればどのような値でもよいのかを指定します。

***NO:** QUAL ステートメントで定義された修飾子に入力する値は、この QUAL ステートメントの TYPE、LEN、REL、RANGE、および SPCVAL の各パラメーターに指定された要件を満たすものであれば、どのような値でも差し支えありません。

***YES:** この QUAL ステートメントで定義された修飾子に入力する値は、VALUES パラメーターのいずれか 1 つ、あるいは SPCVAL パラメーターの取り出し値の 1 つに限定されます。

DFT パラメーター

ユーザーが値を指定しなかった場合に修飾子に割り当てる省略時値を指定します。省略時値は、以下のいずれか 1 つを満たすものでなければなりません。

- TYPE、LEN、REL、および RANGE パラメーターによって指定された修飾子の要件に合うものでなければなりません。
- SPCVAL パラメーターの取り出し値のいずれか 1 つでなければなりません。
- RSTD(*YES) を指定した場合には、VALUES パラメーターの値のリスト、または SPCVAL パラメーターの取り出し値のリストにある値でなければなりません。
- 省略時値が文字定数である場合には、LEN パラメーターの項の表に示したように、その値が 32 文字を超えることはできません。

DFT パラメーターは、MIN パラメーターが 0 の場合、すなわちこのリストについての QUAL ステートメントで定義する修飾子がオプションである場合に限り有効です。省略時値が修飾名の (最初の部分を定義する) 最初の値である場合、およびこの QUAL ステートメントが定義する PARM ステートメントまたは ELEM ステートメントに省略時値が指定されている場合には、この QUAL ステートメントの省略時値は無効です。

DFT が指定されない場合には、独自の省略時値が使用されます。すなわち、TYPE に *CHAR、*NAME、*SNAME、*CNAME、または *GENERIC が指定されている場合は空白 () であり、TYPE に *INT2 または *INT4 が指定されている場合はゼロ (0) になります。想定省略時値は、コマンド・プロンプトでは表示されません。代わりに、空白入力フィールドが表示されます。DFT パラメーターに省略時値を指定した場合には、プロンプトによりその値が指定どおり正確に表示されます。

CONSTANT パラメーターを指定した場合には、DFT パラメーターは無効です。

値: 指定の要件を満たす省略時値か、SPCVAL または VALUES パラメーターに指定した値の 1 つを省略時値として指定してください。

この値には変数をコーディングすることはできません。

VALUES パラメーター

1 個から 300 個までの定数 (固定値) のリストを指定するもので、このうちの 1 つの定数を修飾子の値として指定できます。VALUES パラメーターは、次のすべての条件が備わっている場

合に限り有効です。すなわち、RSTD(*YES) が指定されていて、RANGE および REL の両方が同時に指定されてはならず、定数が QUAL ステートメントの TYPE および LEN 各パラメーターに指定された属性に該当する場合です。LEN パラメーターの表に示したように、このパラメーターに指定する文字定数は 32 文字を超えることはできません。修飾子の値として指定できる、300 個以下の定数を入力してください。

REL パラメーター

修飾子の値と、他のパラメーターまたは定数の値との関係を指定します。この関係を指定するために、次の比較演算子の 1 つに定数または別のパラメーターの値を付けて入力してください。

- *LT より小さい
- *LE より小さいかまたは等しい
- *EQ 等しい
- *GE より大きいまたは等しい
- *GT より大きい
- *NL より小さくない
- *NE 等しくない
- *NG より大きくない

RANGE または VALUES のいずれかを指定した場合には、REL パラメーターは無効です。TYPE(*CHAR) により文字タイプが指定されている場合には、文字ストリングの EBCDIC 値が無符号の整数として比較に使用されます。LEN パラメーターの表に示したように、このパラメーターに指定する文字定数は 32 文字を超えることはできません。

RANGE パラメーター

修飾子の値の範囲 (限界) を指定します。修飾子の値は、指定された下限値以上で、かつ指定された上限値以下でなければなりません。たとえば、15 が有効になるのは、RANGE パラメーターが (0 16) と指定されている場合です。*CHAR などの非数値データ・タイプの場合には、指定した値の範囲およびデータは左寄せされ、右側にブランクが埋め込まれます。先行ゼロを指定した場合とデータの長さが 1 文字のみの場合を除いて、非数値データの間隔を定義するために数字の範囲を使用してはなりません。REL パラメーターまたは VALUES パラメーターのいずれかを指定した場合、RANGE パラメーターは無効です。LEN パラメーターの表に示したように、このパラメーターに指定する文字定数は 32 文字を超えることはできません。

SPCVL パラメーター

PARM ステートメントの KWD パラメーターに指定したパラメーターに入力できる特殊値を定義する項目を、1 個から 300 個までの範囲で指定します。各項目には、すべての妥当性検査基準には適合していない場合でも入力できる文字ストリング (取り出し値) を指定します。入力された文字ストリングが 1 つの項目の取り出し値に一致し、かつ受け入れ値が指定されている場合には、文字ストリングが受け入れ値で置き換えられ、それ以上の検査を受けずに CPP に渡されます。受け入れ値が省略されている場合には、取り出し値が CPP に渡されます。取り出し値は文字ストリングですが、受け入れ値は、受け渡し可能であればどのような値でも指定することができます。取り出し値として CL 変数を使用する場合には、そのタイプは *CHAR でなければなりません。

ただし、最初の修飾子が取ることができるのは、名前、総称名、または、*ALL などのようにアスタリスクが前についた名前が指定されて取り出し値を伴う特殊な受け入れ値のみです。

各受け入れ値は CPP への受け渡しが可能なものでなければなりません。受け入れ値は、LEN パラメーターの指定値を超えてはなりません。また、TYPE が *INT2 または *INT4 の場合には、そのタイプと受け入れ値のタイプが同じでなければならず、TYPE が文字タイプ (*CHAR または *NAME など) の場合には、受け入れ値は文字ストリングでなければなりません。LEN パラメーターの表に示したように、このパラメーターに指定する文字定数は 32 文字を超えることはできません。受け入れ値を指定しない場合には、取り出し値が受け渡し可能な値でなければなりません。

受け入れ値に *CURLIB を指定した場合に CPP に渡されるのは、そのジョブの現行ライブラリーの名前であり、*CURLIB という値ではありません。取り出し値に *CURLIB を指定し、受け入れ値を指定しなかった場合、または受け入れ値にアポストロフィで囲んだ *CURLIB を指定した場合には、*CURLIB という値が CPP に渡されます。

この値には変数をコーディングすることはできません。

ALWUNPRT パラメーター

この QUAL ステートメントが、16 進文字 X'FF' または X'00' から X'3F' までの範囲の 16 進文字を受け入れるかどうかを指定します。このパラメーターは、TYPE(*CHAR) または TYPE(*X) の場合に限り有効です。

***YES:** 表示装置または印刷装置にどのような値でも送ることができます。

***NO:** 印刷不能な文字をコマンド処理プログラムに渡すことはできません。

ALWVAR パラメーター

修飾子に変数名が使用できるかどうかを指定します。TYPE に *VARNAME、*ZERO、*NULL、またはステートメント・ラベルを指定した場合には、ALWVAR(*NO) を指定することができません。

***YES:** 修飾子に変数名を使用することができます。

***NO:** 修飾子には変数名を使用することができません。

MIN パラメーター

この QUAL ステートメントに定義中の修飾子が必須かオプションかを指定します。MIN を指定しなかった場合には、0 を指定したものと見なされます。これは、修飾子がオプションであることを示します。修飾子を必須にする必要がある場合には、最初の QUAL ステートメントと、それを参照する PARM ステートメントまたは ELEM ステートメントの両方に、MIN(1) をコーディングしなければなりません。

0: 修飾される名前について、修飾子はオプションです。

1: 修飾される名前について、修飾子は必須です。必ず、修飾子を入力しなければなりません。

FULL パラメーター

修飾子の値の文字数が、LEN パラメーターに指定した数 (LEN を指定した場合) または省略時の長さ (LEN を指定しなかった場合) とまったく同じでなければならないかどうかを指定します。

***NO:** 修飾子の値の文字数は、LEN パラメーターに指定した数より少なくても構いません。

***YES:** 修飾子の値の文字数は、LEN パラメーターに指定した数または該当のタイプの省略時の長さと同じでなければなりません。正確な長さの一致を要求する指定が有効となるのは、修飾子のタイプが *CHAR、*NAME、および *GENERIC の場合のみです。

EXPR パラメーター

この修飾子が文字連結を含む式を受け入れることができるかどうかを指定します。有効な文字連結演算子は次のとおりです。

連結
空白挿入を伴う連結
空白切り捨てを伴う連結

*CAT または ||
*BCAT または |>
*TCAT または |<

***NO:** 修飾子の値に連結式を指定することはできません。

***YES:** 修飾子の値に連結式を指定することができます。

VARY パラメーター

CPP に渡される修飾子の値の前に、修飾子の値として入力された文字の数を示す長さの値があるかどうかを指定します。

***NO:** 修飾子の値に先行する長さの値はありません。

***YES:** 修飾子に対して実際に指定された文字数を示す 2 バイトの長さを持つ 2 進フィールドが、CPP に渡される修飾子の値の前にきます。データは、LEN または省略時の長さにより指定された長さのフィールドに入れて渡されます。*YES が有効となるのは、修飾子のタイプとして *CHAR、*NAME、*SNAME、*CNAME、または *GENERIC を指定した場合のみです。この修飾子に CL 変数を指定した場合は、2 バイトの 2 進数長さフィールドには、CL 変数について宣言した長さではなく、後書き空白を除いた変数の値の長さが入ります。

PASSATR パラメーター

(IBM 提供のコマンド用) 修飾子とともに属性バイトを CPP に渡すかどうかを指定します。

***NO:** 修飾子とともに属性バイトは渡されません。

***YES:** 修飾子とともに属性バイトが渡されます。属性バイトは、データ値が省略時値であるかどうか、およびその値のデータ・タイプを示します。また、TYPE(*CHAR) が指定されている場合は、文字ストリングがアポストロフィで囲まれているかどうかを示します。

DSPINPUT パラメーター

キーワードの値をジョブ・ログまたはプロンプト画面に表示するかどうかを指定します。

注: DSPINPUT パラメーターは、データベース読み取りプログラムのジョブ、組み込みコマンド (たとえば SBMJOB コマンドによって投入されるコマンド)、あるいは QCMDXEC API または QCAEXEC API を用いて実行されたコマンドに関するジョブ・ログ項目に対しては効力はありません。

***YES:** パラメーター値は、プロンプト画面およびジョブ・ログの両方に示されます。

***PROMPT:** パラメーター値は、プロンプト画面には示されますが、ジョブ・ログには記録されません。

***NO:** パラメーター値は、ジョブ・ログとプロンプト画面のどちらにも表示されません。前に入力したコマンドを検索する場合、非表示フィールド項目は入力し直さなければなりません (元の値を検索することはできません)。ジョブ・ログ項目が作成される際には、非表示フィールドは空の括弧 () で示されます。

CHOICE パラメーター

プロンプト画面上の各パラメーターのプロンプト行の右側に表示するテキストを指定します。最大 30 文字までのテキストを表示できます。

***VALUES:** 指定できる各値が、コンマとスペースで区切られて、指定可能値フィールドに表示されます。省略時値パラメーター、単一値パラメーター、特殊値パラメーターを値に指定した場合は、表示される順序は、まず省略時値、次に単一値、その後に特殊値となります。値の数が多すぎて 30 文字に収まらない場合は、最後の値の後に 3 個のピリオドが表示されます。

以下に指定可能値テキストの例をいくつか挙げます。

- RSTD パラメーターに *NO、TYPE パラメーターに *DEC を指定し、RANGE パラメーターを指定しなかった場合は、指定可能値フィールドには「RANGE」という語が表示されます。結果の行の形式は、RANGE、*XXX、*YYY、*ZZZ... となります。
- RSTD パラメーターに *NO、TYPE パラメーターに *DEC を指定し、RANGE パラメーターを指定した場合は、指定可能値フィールドには指定可能な値の範囲が表示されます。結果の行の形式は、a から b、*XXX、*YYY、*ZZZ となります (ここで a と b は、範囲を示す数値です)。
- RSTD パラメーターに *YES を指定した場合は、表示される指定可能値は、VALUES パラメーター、SNGVAL パラメーター、および SPCVAL パラメーターに指定した値によって決まります。結果の行の形式は、*XXX、*YYY、*ZZZ... となります。

***NONE:** 値は表示されません。

***PGM:** 表示される値は、呼び出されるプログラムによって決まります。呼び出されるプログラムは、CHOICEPGM パラメーターで指定します。

メッセージ識別コード: メッセージを検索するために使用するメッセージ識別コードを指定してください。このメッセージは、指定可能値フィールドに表示されるテキストが含まれているものです。コマンド作成 (CRTCMD) コマンドの PMTFILE パラメーターに指定されているメッセージ・ファイルを使用して、メッセージの検索が行われます。

'選択テキスト': 30 文字以内のテキストをアポストロフィで囲んで指定してください。

CHOICEPGM パラメーター

使用可能な選択テキストおよび暗黙的値を入力するために、プロンプト表示の際に呼び出すプログラムの修飾名を指定します。CHOICE(*PGM) を指定した場合には、このパラメーターを指定しなければなりません。そうでない場合には、このパラメーターを指定してはなりません。

***NONE:** 使用可能な選択テキストおよび暗黙的値を指定するためのプログラムは指定されません。

指定可能なライブラリーの値は次のとおりです。

***LIBL:** その名前のプログラムを見つけるために、ライブラリー・リストを使用します。

***CURLIB:** その名前のプログラムを見つけるために、そのジョブの現行のライブラリーを使用します。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合は、QGPL ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名: そのプログラム名が含まれているライブラリーの名前を指定してください。

プログラム名: 使用可能な選択テキストや暗黙的値を求めるプロンプトの表示の際に呼び出すプログラムの名前を指定します。

プログラムが呼び出される時点で例外状態が起きた場合には、使用可能な選択テキストはブランクにならず、暗黙的値のリストがコマンドから得られます。

INLPMTLEN パラメーター

コマンドのプロンプトが出される際に、その修飾子用に最初に表示される入力フィールドの長さを指定します。ユーザーは、フィールドの先頭位置にアンパーサンド (&) を入力し、続けてブランクを入れることにより、そのフィールドを最大 512 バイトまで拡張することができます。

INLPMTLEN が有効となるのは、TYPE パラメーターに *NAME、*SNAME、*CNAME、*GENERIC、または *CHAR を指定した場合のみです。FULL(*YES)、RSTD(*YES)、または CONSTANT を指定した場合は、INLPMTLEN(*CALC) を指定するか、省略時のままにしておかなければなりません。

***CALC:** プロンプターは、パラメーターのタイプと長さに基づいて、プロンプト・フィールドの長さを決定します。

***PWD:** システム値 QPWDLVL の現行値が '0' または '1' の場合は、プロンプト・フィールドの長さは 10 バイトになります。それ以外の場合は、プロンプト・フィールドの長さはパラメーターの長さによって決まります。INLPMTLEN(*PWD) が有効なのは、タイプとして *CHAR、*NAME、*SNAME、*PNAME、または *CNAME を指定した場合のみです。

初期プロンプト長: プロンプト・フィールドの初期の長さをバイト数で指定します。有効な値は 1 ~ 12、17、25、32、50、80、132、256、512 です。

PROMPT パラメーター

プロンプト・テキストを使用する場合に、(この QUAL ステートメントで定義された) 修飾子に対してどのプロンプト・テキストを使用するのかを指定します。最初の修飾子または CONSTANT パラメーターを指定した修飾子については、PROMPT パラメーターを指定することはできません。最初の修飾子についてのプロンプト・テキストは、その修飾子を指す PARM ステートメントまたは ELEM ステートメントの PROMPT パラメーターから取られます。プロンプト・テキストは、表示される情報に対してユーザーが応答を入力できるように、修飾子入力フィールドについてさらに記述しています。

***NONE:** この QUAL ステートメントで定義する修飾子については、プロンプト・テキストは表示されません。この修飾子についてのプロンプトは、通常どおり入力フィールドに表示されますが、そのプロンプトにテキストは表示されません。

メッセージ識別コード: プロンプト・テキストが含まれているメッセージを指定するメッセージ識別コードを指定してください。このメッセージは、プログラムが修飾子についてのプロンプトを表示する際に表示される、30 文字以下のプロンプト・テキストを含んでいるものです。コマンド作成 (CRTCMD) コマンドの PMTFILE パラメーターに指定されたメッセージ・ファイルの中に指定の識別コードを持つメッセージが見つからない場合には、メッセージ識別コード自体がプロンプト・テキストとして使用されます。

'プロンプト・テキスト': プログラムが修飾子についてのプロンプトを出すときに表示したいプロンプト・テキストを指定してください。このテキストは、アポストロフィで囲んだ 30 文字以下の文字ストリングでなければなりません。

詳細については、『例: QUAL ステートメント』を参照してください。

例: QUAL ステートメント

例 1: *SPLFILE* パラメーターの定義

```

.-*-----
>>-SPLFILE(--ファイル名--+-----+--+)-->
          '+-----+--ジョブ名--'
          '+-----+--ユーザー名/-'
          '-ジョブ番号/-'
>-----<

```

コマンド定義ステートメント:

```

      PARM KWD(SPLFILE) TYPE(L1) DFT(*) SNGVAL(*)
L1:    ELEM TYPE(*NAME) MIN(1) /*For file name */
      ELEM TYPE(Q1) /*For job name */
Q1:    QUAL TYPE(*NAME) MIN(1) /*For job name */
      QUAL TYPE(*NAME) /*For user name */
      QUAL TYPE(*CHAR) LEN(6) /*For job number */

```

SPLFILE パラメーターはオプションであり、指定しなかった場合の省略時値はアスタリスク (*) です。指定する場合には、値は 2 つの要素のリストで構成されます。最初の要素はファイル名であり、必須です。2 番目の要素は修飾ジョブ名です。最初の修飾子は必須であり、後の 2 つの修飾子はオプションです。

例 2: *DTAMBRs* パラメーターの定義

```

.-*ALL-----
|  |-----|
|  | V .-*CURLIB/----- .-*NONE----- (1) |
>>-DTAMBRs(--+--+ライブラリー名/--+--+物理ファイル名--+--+メンバー名--+--+)-->
>-----<

```

注:

1. 最大 32 回まで反復可能。

コマンド定義ステートメント:

```

      PARM KWD(DTAMBRs) TYPE(L1) DFT(*ALL) MAX(32) +
      SNGVAL(*ALL)
L1:    ELEM TYPE(Q1) MIN(1)
      ELEM TYPE(*NAME) MIN(0) MAX(32) SPCVAL(*NONE) +
      DFT(*NONE)
Q1:    QUAL TYPE(*NAME) MIN(1)
      QUAL TYPE(*NAME) DFT(*CURLIB) SPCVAL(*CURLIB)

```

DTAMBRs パラメーターはオプションであり、指定しなかった場合の省略時値は *ALL です。指定する場合には、値はリストから成り、そのリスト内の各要素もリストになります。各サブリストは、修飾ファイル名と、必要に応じてそれに続く 1 つ以上のメンバー名で構成されます。メンバー名を指定しなかった場合には、省略時値として *NONE が使用されます。物理ファイルにライブラリー修飾子を指定しなかった場合には、省略時値として *CURRENT が使用されます。これは、この *DTAMBRs* パラメーターが適用される論理ファイルの記述中に保管されている修飾物理ファイルにより現在指示されているライブラリーをライブラリーとして使用することを意味します。各サブリストには、1 つのファイル名および 32 個までのメンバー名を入れることができます。このようなサブリストを最大 32 個まで *DTAMBRs* の値として指定することができます。

テストおよびデバッグに使用するパラメーター値

ここでは、プログラム変数、基底ポインター、添え字、および修飾名パラメーター値について補足説明を行います。これらの値は、停止点追加 (ADDBKP) コマンド、追跡追加 (ADDTRC) コマンド、高水準言語ポインター変更 (CHGHLLPTR) コマンド、プログラム変数変更 (CHGPGMVAR) コマンド、およびプログラム変数表示 (DSPPGMVAR) コマンドで指定することができます。

詳細については、以下を参照してください。

- 『プログラム変数の記述』
- 『基底ポインターの記述』
- 148 ページの『添え字の記述』
- 148 ページの『修飾名の記述』

プログラム変数の記述

プログラム変数

```
          .-----  
          V              (1) |  
>>-----修飾名-----添え字-----、添え字-----+-----<<
```

注:

- 最大 14 回まで反復可能。

プログラム変数は、特殊文字が含まれている場合にはアポストロフィで囲まなければなりません。プログラム変数名には最高 132 文字を使用できます。この文字数には、添え字、組み込みブランク、括弧、およびコンマも含まれます。ただし、特殊文字がある場合に名前を囲むために使用するアポストロフィは、この文字数には含まれません。次に例を示します。

```
COUNTA  
'VAR1(2,3)'  
'A.VAR1(I,3,A,J,1)'  
'VAR1 OF A(I,3,J OF A)'  
'&LIBNAME'
```

基底ポインターの記述

基底ポインター

```
          .-----  
          V              (1) |  
>>-----修飾名-----添え字-----、添え字-----+-----<<
```

注:

- 最大 14 回まで反復可能。

基底ポインターに特殊文字が含まれている場合には、その基底ポインターをアポストロフィで囲まなければなりません。基底ポインター名には、最大 132 文字を指定することができます。この文字数には、添え字、組み込みブランク、括弧、およびコンマも含まれます。ただし、特殊文字がある場合に名前を囲むために使用するアポストロフィは、この文字数には含まれません。次に例を示します。

```
PTRVAR1  
'ABC.PGMPTR(5,B.I)'
```

1 つの変数について複数の基底ポインターを指定する場合には、基底ポインターのリストを括弧で囲まなければなりません。複数の基底ポインターを指定する場合は、最初の基底ポインターから最後の基底ポインターまでを、変数の位置指定に使用する順序で指定しなければなりません。次の例では、基底ポインター

PTR_1 が、変数の位置指定のため使用される最初の基底ポインターです。これは、基底ポインターとして宣言されているものでなければならず、基底付き変数であってはなりません。ポインター A.PTR_2 (基底付きポインター変数として宣言されていなければなりません) の位置指定は、ポインター PTR_1 に含まれるアドレスを用いて行われます。ポインター配列 PTR_3 (これも基底付きとして宣言されていなければなりません) の位置指定は、ポインター A.PTR_2 の内容を用いて行われます。そして、最後のポインター配列内の指定された要素を用いて、該当の変数の位置が指定されます。たとえば、次のようにします。

```
('PTR_1' 'A.PTR_2' 'PTR_3(1,B.J)')
```

添え字の記述

添え字

```

.-整数-----
>>+.-修飾名-----+-----<<
|*-----|

```

整数には、必要に応じて先行符号 (プラスまたはマイナス) を付けた 1 から 15 桁までの数字が入ります。整数の添え字には小数点は使用できません。小数点を使用した場合は、システムが添え字の値を正しい数値として解釈せず、エラー・メッセージが出されます。

アスタリスク (*) は、配列プログラム変数の 1 つの次元のクロス・セクション表示を要求する場合に使用します。アスタリスクは、停止点追加 (ADDBKP) コマンド、追跡追加 (ADDTRC) コマンド、およびプログラム変数表示 (DSPPGMVAR) コマンドの PGMVAR キーワードの 1 次変数 (基底ポインターに基づいていない変数) でのみ、添え字として使用することができます。さらに、変数が複数の次元を持つ場合は、その添え字値の 1 つのみに対してアスタリスクを指定することができます。次に、配列のクロス・セクションの表示要求の例を示します。

```
DSPPGMVAR PGMVAR('X1(*,5,4)')
```

この例の場合、画面には、配列の要素のうち、2 番目の添え字が 5 に等しく、3 番目の添え字が 4 に等しいすべての要素が表示されます。

修飾名の記述

修飾名

```

>>+./ODV-番号-----+-----<<
|
|   V----- (1) |
|---変数---+---OF---+---変数---+---|
|           |'-IN-'|
|   V----- (1) |
|---変数---+-----|

```

注:

1. 最大 19 回まで反復可能。

高水準言語によっては、同じ完全修飾名を持つ複数の変数を宣言できる場合があります (ただし、通常は、宣言した後で、高水準言語プログラムの中でこれらの変数を参照することはできません)。OS/400 のテスト機能コマンドを使用してこのような変数を参照しようとした場合には、システムは、それらの変数の 1 つを選択して処理に使用します。重複した完全修飾名を選択しても、エラーが通知されることはありません。

修飾名の記述に関する規則

- ODV 番号は、斜線 (/) の後に、1 から 4 桁の 16 進数字 (0 から 9、および A から F) を付けたものです。

- 変数名は、プログラムの中の変数の名前であればなりません。この名前は、高水準言語での指定方法と同じ方法で指定しなければなりません。高水準言語によっては、ユーザーがプログラムのソースで指定した変数名に修飾子を加えて、修飾変数名を生成する場合があります。変数名の詳細については、該当の高水準言語解説書を参照してください。
- 変数名と特殊語 OF および IN との間は空白で区切らなければなりません。
- 名前を修飾するためにピリオドを使用する場合には、ピリオドと変数名との間に空白を置いてはなりません。
 - 変数名の指定順序は次の規則に従っていなければなりません。
 - 途中でピリオドのない修飾名の場合は、変数名は、その構造の中でレベルの低いものから高いものへの順に指定されているものと見なされます。
 - 1 つ以上のピリオドを含む修飾名の場合は、変数名は、その構造の中でレベルの高いものから低いものの順に指定されているものと見なされます。
- 修飾名に ODV 番号を使用しない場合は、変数がプログラムの中で固有のものとして識別されるようにするために、十分な数の修飾用変数名を指定しなければなりません。修飾名が単純名 (1 つの変数名のみが指定されたもの) であっても、複数の修飾用変数名を持つ名前であっても、次の条件のいずれかが満たされていれば、その変数はプログラムの中で固有のものとして識別されます (これらの条件では、1 つのプログラム変数を固有のものとして選択するためには、OS/400 のテスト機能コマンドを使用する方が、高水準言語プログラムで指定するよりも多くの修飾用変数名の指定を必要とすることがあります)。
 - プログラムの中に、指定した修飾変数名に一致する修飾用変数名のセットを持つ変数がただ 1 つのみ存在する場合は、その変数は固有のものとして見なされます。
 - 変数が、指定した修飾用変数名とまったく同じ修飾用変数名のセットを持つ場合は、その変数はプログラムの中で固有のものとして識別されます。修飾子の完全なセットを指定した状態を、変数名の完全修飾 といいます。修飾名については、完全修飾 が一致する変数が選択されます。修飾名と同じ名前をもつ変数があっても、指定されていない余分の修飾用変数名が加えられていれば、それは選択されません。

OS/400 オブジェクト

iSeries 400 がすべてのデータ処理情報を保管して処理するための手段は、OS/400* のオブジェクトによって提供されます。OS/400 オブジェクトは、記憶域に存在する (スペースを占める) 名前付きの単位であり、オペレーティング・システムはこの単位に対して操作を実行します。

CL コマンドは、OS/400* オブジェクトに対する操作を実行します。いくつかのタイプの OS/400 オブジェクトは、制御言語で作成され、使用されます。

OS/400 オブジェクトには、次の共通点があります。

- オブジェクトには、そのオブジェクトを記述する一連の属性が備わっていますが、これらの属性はオブジェクトの作成時にユーザーが定義します。
- システムが特定の機能の実行に使用しなければならないオブジェクトは、その機能を実行する CL コマンドで指定する必要があります。
- オブジェクトには、そのオブジェクトを記述する一連の属性があり、それらの属性にそれぞれ特定の値が割り当てられます。
- 通常、オブジェクトは、それぞれ他のオブジェクトから独立して存在します。ただし、オブジェクトによっては、他のオブジェクトに先立って作成しなければならないものもあります。たとえば、基礎となる物理ファイルが存在していないと、論理ファイルを作成することはできません。

- オブジェクトは、そのオブジェクトを使用する操作の実行前に作成しておく必要があります。各作成コマンドで作成するオブジェクト・タイプについては、それぞれの作成 (CRT) コマンドの項で詳しく説明します。
- 制御言語で使用されるすべての OS/400 オブジェクトに名前があります。CL コマンドで指定するオブジェクト名によって、コマンドの機能を実行するためにオペレーティング・システムがどのオブジェクトを使用するかが指示されます。
- オブジェクトは、単純名、修飾名、または総称名のいずれかを持ちます。

OS/400 オブジェクトに関する詳細については、以下を参照してください。

- 『ライブラリー・オブジェクト』
- 『オブジェクト・タイプ』
- 152 ページの『単純オブジェクト名および修飾オブジェクト名』
- 153 ページの『総称オブジェクト名』
- 154 ページの『オブジェクトの命名規則』
- OS/400 オブジェクト・タイプ別の事前定義値および省略時のライブラリー・ロケーション (150 ページ)

ライブラリー・オブジェクト

ほとんどのオブジェクトは、ライブラリーと呼ばれる特別なオブジェクトにグループ分けされています。『オブジェクト・タイプ』には、各種のオブジェクト・タイプとその省略時のライブラリーに関する説明が記載されています。

統合ファイル・システムを使用するオブジェクトの中には、次のようなものもあります。すなわちディレクトリー内であって、ライブラリーを検索する代わりにパス名パターンまたはオブジェクト名パターンを使用することによって検索することができるオブジェクトです。また、オブジェクトを見付けるためにこれらのディレクトリーを使用することもできます。統合ファイル・システム・コマンドに関する詳細については、『統合ファイル・システム』のトピックを参照してください。

オブジェクト・タイプ

以下の表に、すべての OS/400 オブジェクト・タイプの事前定義値をリストしてあります。オブジェクトの作成時点で、ライブラリー修飾子の指定が可能であるが指定をしなかった場合には、そのオブジェクトは右端の欄に示されているユーザーの現行ジョブ・ライブラリーに保管されます。ユーザーの現行ライブラリーは、各ユーザーのユーザー・プロファイルに指定されているものです。指定がない場合には、QGPL が現行ライブラリーとして使用されます。右端の欄に「N/A」と記されているその他のオブジェクトは、ユーザーの指定したライブラリーに保管することはできません。

OS/400 オブジェクト・タイプ別の事前定義値および省略時のライブラリー・ロケーション

値	オブジェクト・タイプ	省略時のユーザー・ライブラリー
*ALRTBL	警報テーブル	*CURLIB
*AUTL	権限リスト	N/A
*BLKSF	ブロック特殊ファイル	N/A
*BNDDIR	バインド・ディレクトリー	*CURLIB
*CFGL	構成リスト	N/A
*CHRSF	文字特殊ファイル	N/A
*CHTFMT	図表様式	*CURLIB
*CLD	C/400 ロケール記述	*CURLIB
*CLS	クラス	*CURLIB
*CMD	コマンド	*CURLIB
*CNNL	接続リスト	QSYS

値	オブジェクト・タイプ	省略時のユーザー・ライブラリー
*COSD	サービス・クラス記述	QSYS
*CRG	クラスター資源グループ	N/A
*CRQD	変更要求記述	*CURLIB
*CSI	通信サイド情報	*CURLIB
*CTLD	制御装置記述	QSYS
*DDIR	分散ファイル・ディレクトリー	N/A
*DEVD	装置記述	QSYS
*DIR	ディレクトリー	N/A
*DOC	文書	QDOC
*DSTMF	分散ストリーム・ファイル	N/A
*DTAARA	データ域	*CURLIB
*DTADCT	データ・ディクショナリー	N/A
*DTAQ	データ待ち行列	*CURLIB
*EDTD	編集記述	QSYS
*EXITRG	出口登録情報	N/A
*FCT	用紙制御テーブル	*CURLIB
*FIFO	先入れ先出し特殊ファイル	N/A
*FILE	ファイル	*CURLIB
*FLR	フォルダー	QDOC
*FNTRSC	フォント資源	*CURLIB
*FNTTBL	フォント・マッピング・テーブル	*CURLIB
*FORMDF	用紙定義	*CURLIB
*FTR	フィルター	*CURLIB
*GSS	グラフィック記号セット	*CURLIB
*IGCDCT	2 バイト文字セット (DBCS) 変換ディクショナリー	*CURLIB
*IGCSRT	2 バイト文字セット (DBCS) 分類テーブル	*CURLIB
*IGCTBL	2 バイト文字セット (DBCS) フォント・テーブル	N/A
*IMGCLG	イメージ・カタログ	N/A
*IPXD	インターネットワーク・パケット交換機能記述	QSYS
*JOB	ジョブ記述	*CURLIB
*JOBQ	ジョブ待ち行列	*CURLIB
*JOBSCD	ジョブ・スケジュール	*CURLIB
*JRN	ジャーナル	*CURLIB
*JRNRCV	ジャーナル・レシーバー	*CURLIB
*LIB	ライブラリー	QSYS
*LIND	回線記述	QSYS
*MENU	メニュー記述	*CURLIB
*MGTCOL	管理収集	QPFRDATA
*MODD	モード記述	QSYS
*MODULE	コンパイラー単位	*CURLIB
*MSGF	メッセージ・ファイル	*CURLIB
*MSGQ	メッセージ待ち行列	*CURLIB
*M36	AS/400 アドバンスト 36 マシン	*CURLIB
*M36CFG	AS/400 アドバンスト 36 マシン構成	*CURLIB
*NODGRP	ノード・グループ	*CURLIB
*NODL	ノード・リスト	*CURLIB
*NTBD	NetBIOS 記述	QSYS
*NWID	ネットワーク・インターフェース記述	QSYS
*NWS	ネットワーク・サーバー記述	QSYS
*OUTQ	出力待ち行列	*CURLIB
*OVL	オーバーレイ	*CURLIB
*PAGDFN	ページ定義	*CURLIB
*PAGSEG	ページ・セグメント	*CURLIB
*PDG	印刷記述子グループ	*CURLIB

値	オブジェクト・タイプ	省略時のユーザー・ライブラリー
*PGM	プログラム	*CURLIB
*PNLGRP	パネル・グループ定義	*CURLIB
*PRDAVL	プロダクト可用性	QSYS
*PRDDFN	プロダクト定義	QSYS
*PRDLOD	プロダクト・ロード	QSYS
*PSFCFG	印刷サービス機構 構成	*CURLIB
*QMFORM	QUERY 管理機能書式	*CURLIB
*QMQRV	QUERY 管理機能プログラム	*CURLIB
*QRYDFN	QUERY 定義	QGPL
*RCT	参照コード変換テーブル	QGPL
*SBSD	サブシステム記述	*CURLIB
*SCHIDX	検索索引	QGPL
*SOCKET	ローカル・ソケット	N/A
*SPADCT	スペル援助ディクショナリー	QGPL
*SRVPGM	サービス・プログラム	*CURLIB
*SQLPKG	SQL パッケージ	*CURLIB
*SQLUDT	ユーザー定義の SQL 型	N/A
*SSND	セッション記述	QGPL
*STMF	バイトストリーム・ファイル	N/A
*S36	システム /36 マシン記述	QGPL
*SVRSTG	サーバー記憶域	N/A
*SYMLNK	記号リンク	N/A
*TBL	表	*CURLIB
*USRIDX	ユーザー見出し	*CURLIB
*USRPRF	ユーザー・プロファイル	QSYS
*USRQ	ユーザー待ち行列	*CURLIB
*USRSPC	ユーザー・スペース	*CURLIB
*VLDL	妥当性検査リスト	*CURLIB
*WSCST	ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト	*CURLIB

単純オブジェクト名および修飾オブジェクト名

ライブラリー内の特定のオブジェクトの名前は、単純名としても修飾名としても指定できます。単純オブジェクト名は、オブジェクトの名前のみで構成される名前です。修飾オブジェクト名は、オブジェクトが入っているライブラリーの名前の後に、そのオブジェクトの名前を付けたものです。修飾オブジェクト名では、ライブラリー名とオブジェクト名とは斜線 (/) で連結します。

対象のオブジェクトが、ジョブのライブラリー・リストに含まれているライブラリーのいずれかに存在する場合には、そのオブジェクトの単純名および修飾名のいずれでも指定できます。すなわち、この場合、ライブラリー修飾子の指定はオプションです。指定するオブジェクトがライブラリー・リスト上のライブラリーのいずれにも含まれていない場合は、修飾名を指定する必要があります。

注: ジョブ名も修飾形式を取ることができますが、ジョブは OS/400 オブジェクトではないため、修飾オブジェクト名としては扱われません。ジョブ名は、ライブラリー名ではなくユーザー名およびジョブ番号で修飾します。JOB パラメーターの詳細については、171 ページの『JOB パラメーター』を参照してください。

例: 単純オブジェクト名および修飾オブジェクト名の形式を、次の表に示します。

名前タイプ	名前の構文	例
単純オブジェクト名	オブジェクト名	OBJA
修飾オブジェクト名	ライブラリー名 / オブジェクト名	LIB1/OBJB

総称オブジェクト名

総称オブジェクト名 を用いて、複数のオブジェクトを示すことができます。すなわち、総称名は、いくつかのオブジェクト名に共通する最初の 1 つ以上の文字で構成されます。システムは、ライブラリー・リスト内のライブラリーにあるオブジェクトのうち、指定された文字で始まる名前を持つオブジェクトをすべて見つけだします。名前の最後の文字がアスタリスク (*) であれば、それは総称名と見なされます。

引用符付き総称名は、引用符で囲んだ総称名です。通常の引用符付きの名前の場合と異なり、総称名の場合は、引用符と引用符との間に特殊文字がなくても、引用符が除去されません。総称名が “ABC*” であれば、システムは名前が “ABC で始まるオブジェクトを検索します。

総称名は、ライブラリー名によって修飾することもできます。総称名を修飾した場合、システムは、指定されたライブラリーのみを検索して、指定された総称名で始まる名前を持つオブジェクトを見付け出します。

注: 総称名がパス名である場合には、1 つ以上のディレクトリーによって修飾することもできます。パス名では、アスタリスク (*) の前後に文字を指定することができます。パス名の詳細については、『統合ファイル・システム』のトピックを参照してください。

総称名を指定すると、システムは、名前が指定の文字列で始まるすべてのオブジェクトに対して、所要の機能を実行します。ユーザーは、総称名によって識別される各オブジェクトに対して機能を実行するために必要な権限を持っている必要があります。ユーザーがオブジェクトに対して必要な権限を持っていないと、この機能は実行されず、その総称機能が失敗した個々のインスタンスについて診断メッセージが出されます。総称機能が正常に実行されたオブジェクトについては、それぞれ完了メッセージが出されます。完了メッセージを見るには、オンライン低レベル・メッセージを表示する必要があります。総称機能の実行が完了すると、すべてのオブジェクトに対して操作が正常に実行されたことを示す完了メッセージが出されます。1 つ以上のオブジェクトが正常に操作できなかった場合は、エスケープ・メッセージが出されます。ある装置ファイルについて一時変更の指定が有効な場合には、総称名ではなく、その一時変更で指定されている単一のオブジェクト名が、操作の実行に使用されます。

処理対象のオブジェクトが入っているライブラリーがすでにロックされている場合は、削除、移動、または名前変更のためのコマンドで総称名を使用してはなりません。総称オブジェクト名を見つけるための検索では、オブジェクトを含むライブラリーに対して、完全オブジェクト名を見つけるための検索よりも拘束度の高いロックが必要になります。これは、削除、移動、または名前変更のためのコマンドの実行中に、他のユーザーが同じライブラリーの中に総称ストリング検索に該当する名前のオブジェクトを作成するのを防ぐためです。この問題は、総称名の代わりに完全オブジェクト名を使用することによって回避できます。あるいは、ライブラリーをロックしているジョブまたはサブシステムを終了させる方法もあります。

注: どのジョブまたはサブシステムがライブラリーをロックしているのかを調べるには、WRKOBJLCK (オブジェクト・ロック処理) コマンドを使用してください。

コマンドによっては、総称名とともにライブラリー修飾子を指定して、操作の範囲を限定できる場合があります。たとえば、印刷ファイル変更 (CHGPRTF) コマンドで FILE(LIB1/PRT*) を指定すると、ライブラリー LIB1 に存在し、かつ名前が PRT で始まっている印刷装置ファイルのみが操作の対象となります。その他のライブラリーにある印刷装置ファイルは操作の対象外となります。

ライブラリー修飾子によって、操作範囲は次のように限定されます。

- ライブラリー名: 指定したライブラリーに含まれ、かつ総称名に該当するオブジェクトのみが、操作の対象になります。
- *LIBL: 総称操作を要求したジョブに関連付けられたライブラリー・リストに含まれ、かつ総称名に該当するオブジェクトが、操作の対象になります。

- *CURLIB: 総称名に該当するオブジェクトであり、かつ現行ライブラリーに含まれているものが操作の対象となります。
- *ALL: ユーザーが権限を持つ、システム上のすべてのライブラリーの総称名に該当するオブジェクトが、操作の対象になります。
- *USRLIBL: ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分に存在し、かつ総称名に該当するオブジェクトのみが、操作の対象になります。
- *ALLUSR: 以下を除くシステム・ライブラリー以外のすべてのライブラリー (名前の頭文字が Q でないもの) が、操作の対象になります。

```
#CGULIB    #DFULIB    #RPGLIB    #SEULIB
#COBLIB    #DSULIB    #SDALIB
```

次の Qxxx ライブラリーは、操作の対象になります。

```
QDSNX      QRCL        QUSRIJS     QUSRSYS
QGPL        QS36F       QUSRINFSKR  QUSRVxRxMx
QGPL38      QUSER38     QUSRNOTES
QMPGDATA    QUSRADSM    QUSRPOSGS
QMOMDATA    QUSRBRM     QUSRPOSSA
QMOMPROC    QUSRDIRCL   QUSRPYMSVR
QPFRDATA    QUSRDIRDB   QUSRDRDARS
```

注: ユーザーは、IBM がサポートする各リリースに対して、QUSRVxRxMx という形式の異なるライブラリー名を作成することができます。ここで、VxRxMx は、ライブラリーのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルを示します。

例: 総称オブジェクト名:

名前のタイプ	名前の構文	例
単純総称名	総称名*	OBJ*
修飾総称名	ライブラリー名 / 総称名*	LIB1/OBJ*
引用符付き総称名	"総称名**"	"ABC**"

オブジェクトの命名規則

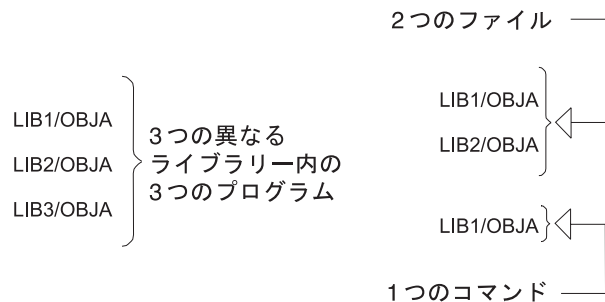
制御言語 (CL) コマンドで使用されるすべての OS/400 オブジェクトの命名については、すべての名前に対する標準規則に加えて、以下に示す規則も適用されます。単純オブジェクト名、修飾名、または総称名が使用できるかどうかについては、各 CL コマンドの構文図に示されています。

- 単一オブジェクトの名前の指定: 単一オブジェクトの名前には、名前の各部分 (単純名およびライブラリー修飾名) にそれぞれ最高 10 文字を使用することができます。オブジェクトの指定に関する詳細については、153 ページの『総称オブジェクト名』を参照してください。
- ユーザー作成のオブジェクトの名前の指定: IBM 提供のオブジェクト (コマンドを除く) には、すべて Q で始まる名前が付いていることから、ユーザー作成のオブジェクトと IBM 提供のオブジェクトを区別するために、ユーザー作成オブジェクトには Q で始まる名前を付けないようにしてください。CL オブジェクト名には最大 10 文字を使用できますが、一緒に使用している他の高水準言語の命名規則との整合性を保つために、文字数を少なくしなければならないこともあります。また、高水準言語によっては、名前に下線の使用が認められていないこともあります。たとえば、RPG では、名前が 8 文字以下に限定されており、下線も使用できません。
- 総称オブジェクトの名前の指定: 総称名は、末尾のアスタリスク (*) を除いて、最高 9 文字の英数字を使用できます。総称名の使用に関する詳細については、153 ページの『総称オブジェクト名』を参照してください。

たとえば、総称名が使用できる場合には、INV と INV* はどちらも有効な値です。INV を指定した場合には、INV という名前のオブジェクトのみが参照されます。総称名 INV* を指定した場合には、INV、INVOICE、INVENTORY、および INVENPGM1 など、INV で始まるすべてのオブジェクトが参照されます。引用符付きの総称名 “INV*” を指定した場合には、“INV%1” や “INV> など、”INV で始まるオブジェクトが参照されます。

- オブジェクトのライブラリー修飾子に関する制約: 作成するオブジェクトが、ライブラリー、ユーザー・プロファイル、回線記述、制御装置記述、装置記述、モード記述、サービス・クラス記述、または構成リストの場合は、オブジェクト名はライブラリー名で修飾することはできません。ライブラリーをライブラリー内に入れることはできないため、ライブラリー名を修飾することはできません。その他のオブジェクト・タイプ (*USRPRF、*LIND、*CTLD、*DEVD、*MODD、*COSD、および *CFGL) は、QSYS ライブラリーのみが存在するタイプとして扱われます。これらのオブジェクト・タイプのオブジェクトの名前のみが受け入れられる場合には、オブジェクト名をライブラリー名で修飾することはできません。オブジェクト記述表示 (DSPOBJD) コマンドでは、どのようなオブジェクト名も受け入れられるため、QSYS を指定できます。
- ライブラリー・リスト修飾子: ほとんどのコマンドでは、ライブラリーの代わりに事前定義値 *LIBL (および *CURLIB や *ALLUSR などの値) を使用できます。*LIBL は、修飾名の 2 番目の部分で指定されているオブジェクトを見つけるために、ジョブのライブラリー・リスト上にあるライブラリーを使用するよう指定します。
- 重複オブジェクト名: 同じライブラリーに、同じタイプで同じ名前を持つオブジェクトが 2 つ以上あってはなりません。

オブジェクト・タイプが異なる場合を除いて、同じ名前を持つ 2 つのオブジェクトを同じライブラリーに保管することはできません。OBJA という名前を持つオブジェクトが 2 つある場合、その 2 つを LIBx というライブラリーに保管できるのは、たとえば、一方がプログラムでもう一方がファイルである場合にに限られます。次に示す名前とオブジェクト・タイプの組み合わせは、すべて同時にシステムに存在することができます。



複数のライブラリーに同じ名前のオブジェクトが含まれており (しかも、それらのライブラリーが同じライブラリー・リスト上にあり)、オブジェクト名とともにライブラリー修飾子を指定しなかった場合には、その名前を持つ最初に見つかったオブジェクトが使用されます。したがって、同じ名前のオブジェクトが 2 つ以上ある場合には、オブジェクト名を所定のライブラリー名で修飾するか、あるいは、所定のライブラリーがライブラリー・リストの最初にくるようにしてください。たとえば、テストやデバッグを行う時点で修飾名を使用しない場合には、ライブラリー・リストの中で、テスト・ライブラリーを、プロダクション・ライブラリーより前に置いてください。

省略時ライブラリー

修飾オブジェクト名において、ライブラリー名は常にオプションです。ライブラリー名を指定しなかった場合には、コマンドの記述の中に示されている、省略時のライブラリー (通常は *CURLIB または *LIBL)

が使用されます。指定のオブジェクトを作成する場合は、現行ライブラリーが省略時値となります。すなわち、作成されたオブジェクトは、現行ライブラリーに入れられます。現行ライブラリーが定義されていない場合は、QGPL (汎用ライブラリー) に入れられます。既存のオブジェクトの場合には、ほとんどのコマンドで、*LIBL が省略時のライブラリーです。したがって、指定されたオブジェクトを見つけるために、ジョブのライブラリー・リストが使用されます。システムは、指定されたオブジェクトが見つかるまで、現行ライブラリー・リストにリストされているすべてのライブラリーを検索します。

オブジェクトの命名に関する詳細については、以下を参照してください。

- 『パス名 (*PNAME)』
- 157 ページの『総称名 (*GENERIC)』
- 157 ページの『固有名に関するその他の規則』

関連情報:

- 79 ページの『コマンド内での命名』
- 81 ページの『フォルダー名および文書名』

パス名 (*PNAME): パス名は、統合ファイル・システムの中でオブジェクトを位置指定するために使用できる文字ストリングです。このストリングは、1 つ以上の要素から構成できます。各要素は、スラッシュ (/) または円記号 (¥) で区切ります。各構成要素は一般的にディレクトリーまたはそれに相当するものですが、最後の構成要素にはディレクトリー、ファイルのようなほかのオブジェクト、または置かれる予定のオブジェクト (複数も可) の総称を使用することができます。

/ と ¥ 文字は区切り記号として使用されるため、パス名の各構成要素には / 文字、¥ 文字、およびヌルを使用することはできません。オブジェクトを含むファイル・システムで大文字と小文字が区別されるかどうか、およびオブジェクトが作成されるか検索されるかに応じて、名前が大文字に変換される場合も変換されない場合もあります。このパラメーターに CASE(*MONO) (省略時) と指定すると、単一引用符で囲まれていない値が、コマンド分析プログラムによってすべて大文字に変更されます。

パス名の先頭にある / または ¥ 文字は、最上層のディレクトリーである「ルート」(/) ディレクトリーからパスが始まることを示します。パス名の先頭に / または ¥ 文字がない場合は、コマンドを入力したユーザーの現行ディレクトリーからパスが始まると見なされます。

パス名は、ジョブに対して現在有効な CCSID で表さなければなりません。ジョブの CCSID が 65535 である場合は、パス名はそのジョブの省略時の CCSID で表さなければなりません。プログラム内のハードコーディングされたパス名は、CCSID 37 でコード化されます。したがって、パス名は、ジョブ CCSID に変換してからコマンドに渡さなければなりません。CL コマンドでのパス名文字ストリングの最大長は 5000 文字です。

QSYS.LIB ファイル・システム内のオブジェクトを操作する場合は、構成要素名の形式は「名前.オブジェクト・タイプ」とする必要があります。以下に例を示します。

```
'/QSYS.LIB/PAY.LIB/TAX.FILE'
```

特殊文字を含むパス名をコマンド行で入力する際には、アポストロフィ (') 記号で前後を囲まなければなりません。パス名を画面上で入力する場合は、これらの記号はオプションです。しかし、引用符付きストリングまたは特殊文字をパス名に入れる場合は、それらを囲む '' 記号も入れなければなりません。以下に、特殊文字の使用に関する規則を示します。

- パス名の先頭のスラッシュまたは円記号の前に波形記号 (~) 文字がある場合、パスは、コマンドを入力したユーザーのホーム・ディレクトリーから始まります。

- パス名の先頭に、波形記号 (~) 文字に続いてユーザー名、その次にスラッシュまたは円記号がある場合、パスは、そのユーザー名によって識別されるユーザーのホーム・ディレクトリーから始まります。
- コマンドによっては、パス名の最後の構成要素にアスタリスク (*) または疑問符 (?) を使用して、名前のパターンを検索できるものもあります。* は、* 文字の位置に任意の数の文字がある名前を検索するようにシステムに要求します。? は、? 文字の位置に単一の文字がある名前を検索するようにシステムに要求します。
- iSeries 400 の特殊値との混同を避けるため、パス名を単一のアスタリスク (*) 文字で始めることはできません。パス名の先頭でパターン照合を行うには、2 つのアスタリスク (**) を使用します。

注: これは、アスタリスクの前に他の文字がない相対パス名にのみ適用されます。

- 次の文字のいずれかを構成要素名で使用する場合は、パス名をアポストロフィ (') または引用符 (") で囲まなければなりません。
 - アスタリスク (*)
 - 疑問符 (?)
 - アポストロフィ (')
 - 引用符 (")
 - 波形記号 (~)。ただし、パス名の最初の構成要素名の最初の文字として使用する場合 (他の位置で使用する場合は、波形記号は単なる文字として解釈されます)。

この方法は、コマンド・ストリングの文字の意味が混乱したり、入力で誤りが起こりやすいため、お勧めできません。

- パス名では、コロン (:) を使用しないでください。コロンは、システム内で特別な意味を持ちます。
- コマンドおよび関連するユーザー画面に対する処理サポートは、コマンド・ストリングまたは画面で使用できる文字として、16 進数の 40 未満のコード・ポイントを認識しません。これらのコード・ポイントを使用する場合は、次のように 16 進数表記として入力しなければなりません。

```
crtmdir dir(X'02')
```

したがって、16 進数で 40 未満のコード・ポイントは、パス名に使用しないでください。この制約条件は、コマンドおよび関連する表示にのみ適用され、API には適用されません。

▶ 装置名の詳細については、トピック『システム管理のバックアップおよび回復』の『装置名の指定』を参照してください。◀

パス名の詳細については、Information Center の『統合ファイル・システム』のトピックを参照してください。

総称名 (*GENERIC): 総称名は、複数のオブジェクトに共通する少なくとも 1 つの先頭文字の後に、アスタリスクを付けたものです。(アスタリスクは、その前の共通文字列が総称名であることを示します。アスタリスクがなければ、システムはその文字列を特定のオブジェクトの名前であると解釈します。)

*GENERIC (総称名) に関する詳細については、このトピックの 153 ページの『総称オブジェクト名』のセクションを参照してください。

固有名に関するその他の規則: 以下のタイプの名前については、それに付加する特殊文字 (付加文字) に関して、以下のような規則があります。

- コマンド・ラベル の後にはコロン (:) を付けなければなりません。コロンの後には空白を置くことができますが、コロンの前には空白があってはなりません。コマンド・ラベル名は引用符付きの名前であってはなりません。
- CL 変数名 の前にはアンパーサンド記号 (&) を付けて、CL プログラムの中で使用される CL 変数であることを示さなければなりません。
- 組み込み関数名の前にはパーセント記号 (%) を付けて、式の中で使用できる IBM 提供の組み込み関数であることを示さなければなりません。組み込み関数名は引用符付きの名前とすることはできません。

これらの特殊文字は名前の一部とは見なされません。これらの文字は、その名前が何を示しているかをシステムに知らせるために、名前に付ける付加文字です。したがって、名前は付加文字を含めれば、最大で 11 文字になることがあります。

OS/400 オブジェクト、CL プログラム変数、システム値、および組み込み関数の名前は、個々のコマンドのパラメーターの中で、各コマンドの構文図の中に示されているとおりに指定できます。CL プログラムのほとんどのパラメーターでは、定数値の代わりに CL 変数名を使用することによって、プログラムの実行中に変化する値を指定できます。コマンドの実行時に使用されるオブジェクトおよび変数は、変数の内容で指定します。

一般に使用されるパラメーター: 補足説明

このセクションでは、CL コマンドで共通に用いられるいくつかのパラメーターについて補足説明を行います。ここに示されているパラメーターは、次の基準のいずれか、または両方を満たすパラメーターです。

- 使用形態について広範な情報を持つパラメーター。
- 多くの CL コマンドで使用されるパラメーター (たとえば AUT パラメーター) で、個々のコマンドのパラメーターの説明では基本的な情報のみが簡潔に示されているもの。

ここでは、上記に該当するコマンド・パラメーターについて補足的な説明を行います。この理由は次のとおりです。

- 個々のコマンドの項におけるパラメーターの説明を簡潔にするため。パラメーターの主要機能をよく知っているプログラマーの方には、通常、詳細な説明は不要と考えられます。
- 場合によってはプログラマーの方にとって役に立つと思われる補足的な情報を提供するため。

この情報は、簡単に参照できる形式になっており、各パラメーターの全般的説明には、その機能についての説明、使用上の規則、その他の役立つ情報が記載されています。各パラメーターに指定できる値も列記してあります。各値については、その意味に加えて、それがどのコマンドで使用できるかも示しています。個々のコマンドでのすべての値が示されているわけではありません。個々のコマンドのパラメーターに指定する値の特定の用法については、該当するコマンドの項を参照してください。

159 ページの『CL コマンドでの 2 バイト文字テキスト』

159 ページの『AUT パラメーター』

160 ページの『CLS パラメーター』

162 ページの『COUNTRY パラメーター』

167 ページの『EXCHTYPE パラメーター』

168 ページの『FILETYPE パラメーター』

169 ページの『FRCRATIO パラメーター』

170 ページの『IGCFEAT パラメーター』

171 ページの『JOB パラメーター』

175 ページの『OBJ パラメーター』

175 ページの『OBJTYPE パラメーター』

178 ページの『OUTPUT パラメーター』

179 ページの『PRTTXT パラメーター』

180 ページの『REPLACE パラメーター』

182 ページの『スケジューリング優先順位パラメーター (JOBPTY、OUTPTY、PTYLMT)』

183 ページの『SEV パラメーター』

185 ページの『SPLNBR パラメーター』

172 ページの『LABEL パラメーター』
174 ページの『MAXACT パラメーター』

185 ページの『TEXT パラメーター』
186 ページの『VOL パラメーター』
187 ページの『WAITFILE パラメーター』

CL コマンドでの 2 バイト文字テキスト

記述テキストが使用できる CL コマンドの中なら、どこにでも 2 バイト文字データを使用することができます。

2 バイト文字テキストは次の方法で入力してください。

1. 2 バイト文字テキストの始めに、まずアポストロフィ (') を入力します。
2. シフトアウト文字を入力します。
3. 2 バイト文字テキストを入力します。
4. シフトイン文字を入力します。
5. 2 バイト文字テキストの終わりにアポストロフィ (') を入力します。

たとえば、ABC という 2 バイト文字のリテラルを入力するには、次のようにします。0E はシフトアウト文字を表し、0F はシフトイン文字を表します。


```
'0EABC0F'
```

記述の表示および印刷が正しくできるようにするためには、1 つのオブジェクトの 2 バイト文字テキスト記述の長さを、2 バイト文字 14 文字にシフト制御文字の 2 文字分を加えた長さ限定してください。

AUT パラメーター

権限 (AUT) パラメーターは、作成コマンド、認可コマンド、および取り消しコマンドで使用します。このパラメーターによって、あるオブジェクトについてすべてのユーザーに認可する権限を指定します。また、オブジェクトの保護のために使用する権限リストも指定します。AUT パラメーターによって権限リストを組み込むことができるオブジェクト・タイプは、LIB、PGM、DTADCT、および FILE の 4 つです。共通認可は、OS/400 オブジェクト属性の 1 つであり、システムへのアクセス権を備えたすべてのユーザーの、そのオブジェクトに対する基本的な一連の権限を制御します。これらの権限は、特定のユーザーについて拡大することも縮小することもできます。権限リストを指定した場合には、権限リストの共通認可が、そのオブジェクトについての共通認可になります。オブジェクトの所有者は、作成時にはそのオブジェクトに対するすべての権限を持っています。

オブジェクトを専用オブジェクトとして作成した場合、または全ユーザーに与える権限を制限して作成した場合には、所有者は、オブジェクト権限認可 (GRTOBJAUT) コマンドに、特定のユーザーの名前および権限を指定することによって、特定のユーザーに認可する権限を拡大したり縮小したりすることができます。また、所有者は、オブジェクト権限取り消し (RVKOBJAUT) コマンド、またはオブジェクト権限編集 (EDTOBJAUT) コマンドを使用することにより、特定のユーザーまたは (共通認可または明示指定された権限、あるいはその両方を持つ) 全ユーザーについて、特定の権限を取り消すこともできます。

オブジェクト・タイプごとのセキュリティー提供および適切な使用権限の詳細については、「iSeries 機密保護解説書」 に記載されています。

指定可能な値

***LIBCRTAUT:** オブジェクトの共通認可は、ターゲット・ライブラリー (オブジェクトを含むライブラリー) の CRTAUT パラメーターの値から取得されます。共通認可は、オブジェクトの作成時に決まります。オブジェクトの作成後にライブラリーの CRTAUT 値を変更しても、その新しい値は既存のオブジェクトには影響しません。

***USE:** ユーザーは、オブジェクトに対して、プログラムの実行やファイルの読み取りなどの基本操作を実行することができます。ユーザーは、オブジェクトを変更することはできません。*USE 権限には、オブジェクト操作権、読み取り権限、および実行権限があります。

***CHANGE:** ユーザーは、所有者限定の操作、またはオブジェクト存在権限とオブジェクト管理権によって制御される操作を除き、すべての操作をオブジェクトに対して実行できます。ユーザーは、オブジェクトの基本機能を変更および実行できます。変更権限には、オブジェクト操作権とすべてのデータ権限があります。

***ALL:** ユーザーはすべての操作を実行できます。ただし、所有者限定の操作や、権限リスト管理権によって制御されている操作は実行できません。ユーザーは、オブジェクトの存在の制御、オブジェクトのセキュリティの指定、オブジェクトの変更、およびオブジェクトに対する基本機能の実行を行うことができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***EXCLUDE:** ユーザーは、オブジェクトにアクセスすることができません。

***EXECUTE:** ユーザーは、プログラムまたはプロシージャの実行、あるいはライブラリーまたはディレクトリーの検索を行うことができます。

権限リスト名: 使用する権限が入っている権限リストの名前を指定してください。

CLS パラメーター

クラス (CLS) パラメーターは、ジョブの実行時環境を定義する属性を識別します。各クラスでは、次の属性が定義されます。

- **実行優先順位:** クラスを使用して実行するすべてのジョブに割り当てる優先順位レベルを指定する数値。優先順位レベルは、システム資源を争奪するすべてのジョブのうちで、次に実行すべきジョブを決定するために使用されます。指定可能な値は 1 から 99 までであり、1 が最高優先順位です (優先順位 1 のすべてのジョブが最初に実行されます)。
- **タイム・スライス:** ジョブが開始可能になったときに、そのジョブを実行するのにシステムが認める最大プロセッサ時間。このタイム・スライスには、このジョブが意味ある量の作業を完了するのに必要とする時間を指定します (システムが補助記憶域にアクセスするために要する時間は、タイム・スライスには含まれません)。タイム・スライスが経過すると、そのジョブは待機状態になり、待ち行列内の同じ優先順位または高い優先順位を持つ他のジョブが実行されている間、(それらのジョブのタイム・スライスに指定された時間が経過するまで) 待機します。そのあとで、待機していたそのジョブに別のタイム・スライスが与えられます。
- **除去値:** ジョブが、処理の続行ができずに資源の割り当てを待っている間、またはタイム・スライスを使い果たし、待機中のほかの同位または高位のジョブに処理を譲らなければならない場合に、そのジョブ・ステップを主記憶域から補助記憶域に移すことができるかどうかを示します。
- **省略時の待ち時間:** 待ち状態を引き起こした命令が完了するのをシステムが待つ場合の、省略時設定の待ち時間。この待ち時間は、命令がシステム活動を待っている時間に適用されるもので、命令がユーザーからの応答を待っている時間には適用されません。通常、待ち時間とは、ユーザーが要求を取り消さず

にシステムの処置を待っている時間のことです。待ち時間を超過すると、該当のジョブに対してエラー・メッセージが渡されます。この省略時の待ち時間は、待ち状態を生じさせる CL コマンドに待ち時間が指定されていない場合のみ、適用されます。

ファイル資源の割り振りに使用される待ち時間は、ファイル記述に指定しますが、一時変更コマンドを使用して一時変更することができます。一時変更コマンドは、クラス・オブジェクトに指定された待ち時間を使用することを指定します。ファイルがオープンされたとき、ファイル資源が使用可能でなかった場合は、システムは、待ち時間が経過するまではファイル資源の割り振りを待ちます。

注: クラス属性は、ジョブの各経路指定ステップに適用されます。ほとんどのジョブでは経路指定ステップは 1 つのみですが、(リモート・ジョブ・コマンドまたはジョブ転送コマンドなどのために) ジョブの経路が変更された場合には、クラス属性はリセットされます。

- **最大 CPU 時間:** ジョブの経路指定ステップの実行を完了するために使用できる、プロセッサ時間の最大許容限度 (個々のタイム・スライスが異なる場合は全タイム・スライスの合計、各タイム・スライスが同じである場合はタイム・スライス時間×タイム・スライス数)。この時間内にジョブの経路指定ステップが完了しなかった場合には、その経路指定ステップは打ち切られ、メッセージがジョブ・ログに書き込まれます。
- **最大一時記憶域:** ジョブの経路指定ステップで使用できる一時記憶域の最大量。一時記憶域は、ジョブで実行されるプログラム、ジョブをサポートするために使用されるシステム・オブジェクト、およびジョブが作成した一時オブジェクトを入れるために使用されます。

システムは、いくつかのジョブ処理環境の属性を定義する 1 組のクラスとともに出荷されます。ユーザーは、クラス作成 (CRTCLS) コマンドを使用して独自のクラスを作成することができます。また、どのクラスも、クラス表示 (DSPCLS) コマンドを用いて表示し、クラス削除 (DLTCLS) コマンドを用いて削除することができます。

指定可能な値

修飾クラス名: そのクラスを保管するライブラリーの名前です。クラス名は、必要に応じて修飾されます。クラスの名前が修飾されておらず、CRTCLS コマンドに CLS パラメーターが指定されている場合には、クラス・オブジェクトは *CURLIB に保管されます。そうでない場合には、ライブラリー・リスト (*LIBL) を使用してクラス名が探されます。

システムで提供されるクラス (名前別) は次のとおりです。

QGPL/QBATCH

バッチ・ジョブ用

QSYS/QCTL

制御サブシステム用

QGPL/QINTER

対話式ジョブ用

QGPL/QPGMR

プログラミング・サブシステム用

QGPL/QSPL

スプーリング・サブシステムの印刷装置書出プログラム用

QGPL/QSPL2

基本システム・プールでの一般スプーリング用

COUNTRY パラメーター

COUNTRY パラメーターには、X.400 O/R 名の国コードまたは地域コード部分を指定します。ISO 3166 Alpha-2 コードまたは ITU-T の国または地域のコードを指定することができます。(ITU-T の国または地域のコードは、ITU-T (正式には CCITT) 勧告 X.121 (09/92)、 「公衆データ網のための国際番号計画」に記載されている、データ国別または地域別コードあるいは市外局番です。表 4 に、指定可能な国コードまたは地域コードのリストを示します。

指定可能な値

***NONE:** 国コードまたは地域コードを指定しません。

国コード: 次の表を見て、ISO 3166 Alpha-2 コード、または CCITT (ITU-2 と呼ばれる) 国コードを指定してください。

表 6. ISO X.400 国コードまたは地域コード

国または地域	ISO 3166 Alpha-2 コード	ITU-T ¹ 国コードまたは地域コード
アフガニスタン	AF	412
アルバニア	AL	276
アルジェリア	DZ	603
米領サモア	AS	544
アンドラ	AD	
アンゴラ	AO	631
アンギラ島	AI	
南極大陸	AQ	
アンティグア・バーブーダ	AG	344
アルゼンチン	AR	722
アルメニア	AM	283
アルバ島	AW	362
オーストラリア	AU	505
オーストリア	AT	232
アゼルバイジャン	AZ	400
バハマ	BS	364
バーレーン	BH	426
バングラデシュ	BD	470
バルバドス	BB	342
ベラルーシ	BY	257
ベルギー	BE	206
ベリーズ	BZ	702
ベナン	BJ	616
バーミューダ	BM	350
ブータン	BT	
ボリビア	BO	736
ボスニア・ヘルツェゴビナ	BA	
ボツワナ	BW	652
ブーベ島	BV	
ブラジル	BR	724
英領インド洋植民地	IO	
ブルネイ・ダルサラーム	BN	528
ブルガリア	BG	284
ブルキナファソ	BF	613
ブルンジ	BI	642
カンボジア	KH	456
カメルーン	CM	624
カナダ	CA	302、303

国または地域	ISO 3166 Alpha-2 コード	ITU-T ¹ 国コードまたは地域コード
カーボベルデ	CV	625
ケイマン諸島	KY	346
中央アフリカ共和国	CF	623
チャド	TD	622
チリ	CL	730
中国	CN	460
クリスマス島	CX	
ココス (キーリング) 諸島	CC	
コロンビア	CO	732
コモロ諸島	KM	654
コンゴ	CG	629
クック諸島	CK	548
コスタリカ	CR	712
コートジボアール	CI	612
クロアチア	HR	
キューバ	CU	368
キプロス	CY	280
チェコ共和国	CZ	230
デンマーク	DK	238
ジブチ	DJ	638
ドミニカ国	DM	366
ドミニカ共和国	DO	370
東チモール	TP	
エクアドル	EC	740
エジプト	EG	602
エルサルバドル	SV	706
赤道ギニア	GQ	627
エリトリア	ER	
エストニア	EE	248
エチオピア	ET	636
フォークランド (マルビナス) 諸島	FK	
フェロー諸島	FO	288
フィジー	FJ	542
フィンランド	FI	244
フランス	FR	208、209
フランス本国	FX	
仏領アンティル諸島		340
仏領ギアナ	GF	742
仏領ポリネシア	PF	547
仏領極南諸島	TF	
ガボン	GA	628
ガンビア	GM	607
グルジア	GE	282
ドイツ	DE	262 ~ 265
ガーナ	GH	620
ジブラルタル	GI	266
ギリシャ	GR	202
グリーンランド	GL	290
グレナダ	GD	352
グアドループ島	GP	
グアム島	GU	535
グアテマラ	GT	704
ギニア	GN	611
ギニアビサオ	GW	632

国または地域	ISO 3166 Alpha-2 コード	ITU-T ¹ 国コードまたは地域コード
ガイアナ	GY	738
ハイチ	HT	372
ハード・アンド・マクドナルド・アイランズ	HM	
ホンジュラス	HN	708
中国 (香港特別行政区)	HK	453、454
ハンガリー	HU	216
アイスランド	IS	274
インド	IN	404
インドネシア	ID	510
イラン	IR	432
イラク	IQ	418
アイルランド	IE	272
イスラエル	IL	425
イタリア	IT	222
ジャマイカ	JM	338
日本	JP	440 ~ 443
ヨルダン	JO	416
カザフスタン	KZ	401
ケニア	KE	639
キリバス	KI	545
朝鮮民主主義 人民共和国	KP	467
大韓民国	KR	450、480、481
クウェート	KW	419
キルギスタン	KG	437
ラオス	LA	457
ラトビア	LV	247
レバノン	LB	415
レソト	LS	651
リベリア	LR	618
リビア・アラブ国	LY	606
リヒテンシュタイン	LI	
リトアニア	LT	246
ルクセンブルグ	LU	270
中国 (マカオ特別行政区)	MO	455
マケドニア ²	MK ²	
マダガスカル	MG	646
マラウイ	MW	650
マレーシア	MY	502
モルジブ	MV	472
マリ	ML	610
マルタ	MT	278
マーシャル諸島	MH	
マルチニーク島	MQ	
モーリタニア	MR	609
モーリシャス	MU	617
マヨット島	YT	
メキシコ	MX	334
ミクロネシア	FM	550
モルドバ	MD	259
モナコ	MC	212
モンゴル	MN	428
モンテネグロ ²	ME ²	
モントセラト島	MS	354

国または地域	ISO 3166 Alpha-2 コード	ITU-T ¹ 国コードまたは地域コード
モロッコ	MA	604
モザンビーク	MZ	643
ミャンマー	MM	414
ナミビア	NA	649
ナウル	NR	536
ネパール	NP	429
オランダ	NL	204、205
オランダ領アンティル諸島	AN	362
ニューカレドニア	NC	546
ニュージーランド	NZ	530
ニカラグア	NI	710
ニジェール	NE	614
ナイジェリア	NG	621
ニウエ島	NU	
ノーフォーク島	NF	
北マリアナ諸島	MP	534
ノルウェー	NO	242
オマーン	OM	422
パキスタン	PK	410
パラオ	PW	
パナマ	PA	714
パプアニューギニア	PG	537
パラグアイ	PY	744
ペルー	PE	716
フィリピン	PH	515
ピトケアン島	PN	
ポーランド	PL	260
ポルトガル	PT	268
プエルトリコ	PR	330
カタール	QA	427
レユニオン島	RE	647
ルーマニア	RO	226
ロシア連邦	RU	250、251
ルワンダ	RW	635
セントヘレナ島	SH	
セントクリストファー・ネイビス	KN	356
セントルシア	LC	358
サンピエール・エ・ミクロン島	PM	308
セントビンセントおよびグレナディーンズ諸島	VC	360
サモア (西)	WS	549
サンマリノ	SM	292
サントメ・プリンシペ	ST	626
サウジアラビア	SA	420
セネガル	SN	608
セルビア ²	SP ²	
セイシェル	SC	633
シエラレオネ	SL	619
シンガポール	SG	525
スロバキア	SK	
スロベニア	SI	
ソロモン諸島	SB	540
ソマリア	SO	637
南アフリカ	ZA	655
南ジョージア島・南サンドイッチ諸島	GS	

国または地域	ISO 3166 Alpha-2 コード	ITU-T ¹ 国コードまたは地域コード
スペイン	ES	214
スリランカ	LK	413
スーダン	SD	634
スリナム	SR	746
スバルバル諸島・ヤンマイエン島	SJ	
スワジランド	SZ	653
スウェーデン	SE	240
スイス	CH	228
シリア・アラブ共和国	SY	417
台湾	TW	466
タジキスタン	TJ	436
タンザニア連合共和国	TZ	640
タイ	TH	520
トーゴ	TG	615
トケラウ諸島	TK	
トンガ	TO	539
トリニダード・トバゴ	TT	374
チュニジア	TN	605
トルコ	TR	286
トルクメニスタン	TM	438
タークス諸島・カイコス諸島	TC	376
ツバル	TV	
ウガンダ	UG	641
ウクライナ	UA	255
アラブ首長国連邦	AE	424、430、431
英国	GB	234、235、236、237
米国	US	310 ~ 316
アメリカ合衆国統治領諸島	UM	
ウルグアイ	UY	748
ウズベキスタン	UZ	434
バヌアツ	VU	541
バチカン市国	VA	225
ベネズエラ	VE	734
ベトナム	VN	452
バージン諸島 (英領)	VG	348
バージン諸島 (米領)	VI	332
ウォリス・フトーナ諸島	WF	543
西サハラ	EH	
イエメン	YE	421、423
旧ユーゴスラビア領	YU	220
ザイール	ZR	630
ザンビア	ZM	645
ジンバブエ	ZW	648

注:

- 1 国際電気通信連合 (ITU) 委員会の前身は、国際電信電話諮問委員会 (CCITT) です。
- 2 出版時に、これらの国または地域の ISO 3166 Alpha-2 コードを確認することができませんでした。このコードを使用する前に、最新の ISO 3166 標準を確認してください。

EXCHTYPE パラメーター

交換タイプ (EXCHTYPE) パラメーターを使用して、システムがディスク・ファイルに書き込むときに、3つのディスク交換タイプ (基本、H、または I) のいずれかを使用するかを指定してください。交換タイプは、ディスクのボリューム・ラベル域に保管されます。ディスクには、データ・ファイルごとに1つずつラベルがあります。

ユーザーは、ディスク装置ファイル・コマンド (ディスク・ファイル作成 (CRTDKTF) コマンド、ディスク・ファイル変更 (CHGDKTF) コマンド、またはディスク・ファイル一時変更 (OVRDKTF) コマンド) のいずれかを用いて、使用する交換タイプを指定することができます。また、高水準言語プログラム (サポートされている場合) によって、装置ファイルをオープンするときに、パラメーターとして渡すこともできます。

ディスク入力ファイルを処理する場合、システムは、ディスク装置ファイルまたは高水準言語プログラムに指定された交換タイプを使用しません。代わりに、ディスクのファイル・ラベルに保管されている交換タイプを使用します。

1つのディスクに、基本交換形式ファイルおよび I 交換形式ファイルの両方、あるいは H 交換形式ファイルおよび I 交換形式ファイルの両方を入れることができます。1つのディスクに、基本形式ファイルと H 形式ファイルの両方を入れることはできません。

指定可能な値

EXCHTYPE パラメーターには、ディスク・タイプ (1、2、または 2D) およびセクター・サイズ (128、256、512、または 1024 バイト) に応じて、次の値のいずれかを指定することができます。

***STD:** システムは、ディスク・タイプおよびセクター・サイズに基づいて交換タイプを決定します。ディスク・タイプが 1 または 2 で、ディスクのセクター・サイズが 128 バイトの場合には、基本交換タイプが使用されます。ディスク・タイプが 2D で、ディスクのセクター・サイズが 256 バイトの場合には、H 交換タイプが使用されます。これ以外のタイプとセクター・サイズの組み合わせについては、*STD の値は指定できません。

***BASIC:** 基本交換タイプが使用されます。ディスク・タイプは 1 または 2 で、ディスクのセクター・サイズは 128 バイトでなければなりません。

***H:** H 交換タイプが使用されます。ディスク・タイプは 2D で、ディスクのセクター・サイズは 256 バイトでなければなりません。

***I:** I 交換タイプが使用されます。ディスク・タイプとセクター・サイズは次のいずれでも構いません。

ディスク・タイプ セクター・サイズ (バイト)

1	128、256、または 512
2	128、256、または 512
2D	256、512、または 1024

FILETYPE パラメーター

FILETYPE パラメーターは、データベース・ファイル記述が、データ・レコードとソース・レコードのどちらを記述するのかを指定します。さらに、作成するデータベース・ファイルの各メンバーにデータ・レコードを入れるのか、ソース・レコード (ステートメント) を入れるのかも指定します。たとえば、ファイルには、RPG プログラム用の RPG ソース・ステートメント、または装置ファイルかデータベース・ファイル用のデータ記述仕様ソース・ステートメント (DDS ステートメント) を入れることができます。

注: ソース・タイプの物理 データベース・ファイルを作成している場合に、データ記述仕様 (DDS) によってそのファイルに関するフィールド・レベルの記述を提供していない場合には、物理ファイル作成 (CRTPF) コマンドまたはソース物理ファイル作成 (CRTSRCPF) コマンドのどちらでも使用することができます。ただし、CRTSRCPF コマンドは、ソース物理ファイルを作成するためのコマンドとして設計されているために、通常こちらの方が便利であり効率的です。ソース・タイプのデータベース・ファイルの作成時に DDS が提供される場合には、CRTPF コマンドまたは論理ファイル作成 (CRTLF) コマンドを使用しなければなりません。この 2 つのコマンドには、ソース入力を指定するための SRCFILE パラメーターおよび、SRCMBR パラメーターが含まれています。

ソース・ファイルの中のレコードには、少なくとも 3 つのフィールドが必要です。最初の 2 つはソース順序番号フィールドおよびデータ・フィールドであり、3 番目はソース・ステートメントが入るフィールドです。DDS を使用せずにソース・ファイルを作成する場合には、これらの 3 つのフィールドは OS/400 により自動的に作成されます。追加のソース・フィールドは DDS で定義することができます。順序番号フィールドの長さは、ゾーン形式の 6 桁で、そのうち 2 桁は小数部でなければなりません。日付フィールドの長さは、ゾーン形式の 6 桁でなければならず、小数部が含まれてはなりません。

ソースの順序番号フィールドおよび日付フィールドは、次の時点でソース・レコードに付加されます。

- レコードがシステムに取り込まれたとき
- 原始ステートメント入力ユーティリティ (アプリケーション開発 (Application Development*) ツール・ライセンス・プログラムの一部) によって、レコードが作成されたとき

インライン・データ・ファイル (標準ソース・ファイル様式として指定されたもの) が、ディスク装置から読み取られると、これらのフィールドが付加されます。スプール読み取りプログラムは、ソース順序番号フィールドに順序番号を入れ、全桁ゼロの日付フィールドをセットします。

ディスク装置から読み取ったレコードにこれらのフィールドがすでに入っている場合には、その既存フィールドは変更されません。データベース・ファイルのレコードがソースの様式で、しかもデータ形式のインライン・データ・ファイルとして読み取られる場合には、ソース順序番号フィールドおよび日付フィールドは除去されます。

データおよびソース・ファイルの詳細については、Information Center の『データベース・プログラミング』のトピックを参照してください。

指定可能な値

***DATA:** 作成するファイルは、データ・レコードを入れるため、またはそれを記述するためのファイルです。

***SRC:** 作成するファイルは、ソース・レコードを入れるため、またはそれを記述するためのファイルです。キー順ファイルを作成する場合には、6 桁のソース・レコード順序番号フィールドをキー・フィールドとして使用しなければなりません。

FRCRATIO パラメーター

強制書き込み率 (FRCRATIO) パラメーターは、挿入、更新、または削除したレコードを補助 (永久) 記憶装置に強制的に書き込む前に、挿入、更新、または削除できるレコードの最大数を指定します。このパラメーターに強制書き込み率を指定すると、挿入、更新、または削除されたレコードはすべて、少なくともこの書き込み率で示される頻度で、確実に補助記憶装置に書き込まれるようになります。システム障害が起こった場合にも、失われる可能性のあるレコードは、最後の強制書き込み操作が行われた後で挿入、更新、または削除されたレコードのみです。

強制書き込み率は、それが適用されるファイルのオープン・データ・パス (ODP) を使用して、挿入、更新、または削除されたすべてのレコードに対して、適用されます。2 つのプログラムが (SHARE(*YES) の指定により) ファイルを共用している場合は、強制書き込み率が、各プログラムにより挿入、更新、または削除された一連のレコードに、別々に適用されるわけではありません。これは、任意の組み合わせのレコード (両方のプログラムからの) が指定の強制書き込み率パラメーター値に一致すると、適用されます。たとえば、ファイルに対して強制書き込み率 5 を指定すると、2 つのプログラムからのレコードがどのように組み合わせられていても (一方のプログラムから 4 つ、他方のプログラムから 1 つなど)、処理レコードの合計が 5 つになったら、補助記憶装置へのレコード強制書き込みが行われます。2 つ以上のプログラムがそれぞれ別の ODP を介して同じファイルを使用している場合には、各 ODP について別々の強制書き込み率を指定することができます。各プログラムからのレコードの挿入、更新、および削除は、各 ODP ごとに個別に累計されます。

各データベース・ファイルには、それぞれ、強制書き込み率を割り当てることができます。複数の物理ファイルのデータにアクセスできる論理ファイルの場合には、基礎となる物理ファイルに指定したよりもさらに限定的な強制書き込み率 (少ないレコード数) を指定することができます。ただし、論理ファイルには、物理ファイルより低い強制書き込み率を指定することはできません。どの物理ファイルに指定した強制書き込み率よりも緩やかな強制書き込み率を論理ファイルに指定した場合には、各物理ファイルに指定した強制書き込み率のうち最も限定的なものが、論理ファイルに使用されます。たとえば、3 つの物理ファイルの強制書き込み率がそれぞれ 2、6、8 であった場合は、これら 3 つの物理ファイルを基礎とする論理ファイルの強制書き込み率には、2 より大きい値を指定することはできません。その論理ファイルに強制書き込み率が指定されていない場合は、2 であると見なされます。したがって、(どの物理ファイルが影響を受けるかに関係なく) プログラムが、論理ファイル中の 2 つのレコードを挿入、更新、または削除するたびに、これらのレコードが補助記憶装置に書き込まれます。


FRCRATIO の指定値は、SEQONLY の指定値を一時変更します。たとえば、次のように指定したとします。

```
OVRDBF ... SEQONLY(*YES 20) FRCRATIO(5)
```

この場合、値 20 は一時変更され、5 レコード分のバッファが使用されます。FRCRATIO(1) を指定した場合にもバッファは使用されますが、このバッファにはレコードが 1 つしか入りません。

挿入、更新、および削除されたレコードに関連したアクセス・パスは、そのアクセス・パスにかかわるレコードがすべて補助記憶装置に書き込まれた後で、初めて補助記憶装置に書き込まれます。ファイルの ODP が 1 つしかない場合には、強制書き込みが起こった時点で必ずアクセス・パスが補助記憶装置に書き込まれます。ファイルに 2 つ以上の ODP がある場合には、すべての ODP に関連した挿入済み、更新済み、および削除済みのすべてのレコードの強制書き込みが行われるたびに、アクセス・パスも補助記憶装置に書き込まれます。

注:

- これらの規則は、2 以上の強制書き込み率を指定した場合に限り適用されます。強制書き込み率として 1 を指定した場合は、すべての ODP がクローズされるまで、アクセス・パスは補助記憶装置に書き込まれません。
- ファイルをジャーナルに記録している場合は、FRCRATIO(*NONE) を指定する必要があります。詳細については、「バックアップおよび回復の手引き」 に記載されています。

指定可能な値

***NONE:** 強制書き込み率は指定されません。レコードをいつ補助記憶域に書き込むかは、システムによって決定されます。

強制書き込み前レコード数: 補助記憶域への強制書き込みが明示的に行われる前に処理される、更新、挿入、または削除されるレコードの数を指定してください。

IGCFEAT パラメーター

IGCFEAT パラメーターは、装置および言語に応じて、どの 2 バイト文字セット (DBCS) を使用するのかを指定します。構成する 2 バイト文字セットに対応する IGCFEAT パラメーター、および DBCS フォント・テーブルについては、次の表を参照してください。

表 7. IGCFEAT パラメーターで構成可能な DBCS 機能

言語 / 装置	物理 DBCS ワークステーションのタイプ	構成されるタイプ- 型	構成に組み込まれる DBCS 機能
日本語表示装置	5295-001 表示装置	5555-B01	((2424J4 55FE))
	5295-002 表示装置	5555-B01	((2424J4 68FE))
	InfoWindow 3477-J 表示装置	5555-B01、 C01	((2424J4 68FE))
	5250PC 付き PS/55	5555-B01	((2424J4 68FE))
	グラフィック 5250PC 付き PS/55*	5555-G01	((2424J4 68FE))
	グラフィック 5250PC 付き PS/55*	5555-G02	((2424J4 68FE))
	5250PC/2 付き PS/55	5555-E01	((2424J0 (1)))
	3270 表示装置	3279-0	((2424J0 (1)))
	OS/400 によるクライアント・アクセス /400 付きの PS/55	5555-B01	((2424J0 (1)))
日本語 24x24 印刷装置	5295-001 表示装置に接続	5553-B01	((2424J1 55FE))
	5295-002 表示装置に接続	5553-B01	((2424J1 68FE))
	PS/55 に接続	5553-B01	((2424J1 68FE))
	5227-001 印刷装置	5553-B01	((2424J2 55FE))
	5327-001 印刷装置	5553-B01	((2424J2 68FE))
日本語 32x32 印刷装置	5337-001 印刷装置	5553-B01	((3232J0 (1)))
	5383-200 印刷装置	5583-200	((3232J0 (1)))
韓国語表示装置	5250 表示装置	5555-B01	((2424K0 (1)))
	3270 表示装置	3279-0	((2424K0 (1)))
韓国語 24x24 印刷装置	5295 表示装置に接続	5553-B01	((2424K0 (1)))
	PS/55 に接続	5553-B01	((2424K0 (1)))
	5227-002 印刷装置	5553-B01	((2424K2 52FE))
中国語 (繁体字) 表示装置	5250 表示装置	5555-B01	((2424C0))
	3270 表示装置	3279-0	((2424C0))
中国語 (繁体字) 24x24 印刷装置	5295 表示装置に接続	5553-B01	((2424C0))
	PS/55 に接続	5553-B01	((2424C0))
	5227-003 印刷装置	5553-B01	((2424C2 5CFE))

言語 / 装置	物理 DBCS ワークステーションのタイプ	構成されるタイプ-	構成に組み込まれる DBCS 機能
中国語 (簡体字)	5250 表示装置	5555-B01	((2424S0))
表示装置	3270 表示装置	3279-0	((2424S0))
中国語 (簡体字)	PS/55 に接続	5553-B01	((2424S0))
24x24 印刷装置	5227-005 印刷装置	5553-B01	((2424S2 6FFE))

JOB パラメーター

JOB パラメーターは、コマンドを適用する対象となるジョブの名前を指定します。ジョブ名は、システム上のすべてのタイプのジョブを識別します。各ジョブは、次の形式を持つ修飾ジョブ名により識別されます。

ジョブ番号/ユーザー名/ジョブ名

注: 構文は OS/400 オブジェクト名と似ていますが、ジョブ名は OS/400 オブジェクト名とは異なる形式で修飾されます。

修飾ジョブ名の部分は次のようになります。

- ジョブ番号: ジョブ番号は、システムにより各ジョブに割り当てられた 6 桁の固有の番号です。ジョブ番号は、それ以外にジョブ名を他のジョブ名と区別する方法がない場合は、固有の修飾子となります。ジョブ番号は、ジョブ表示 (DSPJOB) コマンドを用いて調べることができます。ジョブ番号を指定する場合には、長さは必ず 6 桁にしなければなりません。
- ユーザー名: ユーザー名により、実行するジョブのもとのユーザー・プロファイルが分かります。ユーザー名は、ユーザー・プロファイルの名前と同じであり、最高 10 文字の英数字からなっています。ユーザー名は、ジョブのタイプに応じて、次のように決まります。
 - バッチ・ジョブ: ユーザー名は、SBMJOB コマンドに指定した名前か、BCHJOB または SBMJOB コマンドで参照するジョブ記述に指定した名前です。
 - 対話式ジョブ: ユーザー名は、サインオン時に指定した名前か、あるいはワークステーションのジョブ項目で参照されている、ジョブ記述の省略時値から取られた名前です。
 - 自動開始ジョブ: ユーザー名は、自動開始ジョブのジョブ項目で参照されるジョブ記述に指定されています。
- ジョブ名: ジョブ名には、最高 10 文字の英数字を指定できます。最初の文字は英字でなければなりません。ジョブ名は、ジョブの 3 つのタイプに応じて、次のように決まります。
 - バッチ・ジョブ: ジョブ名は、バッチ・ジョブ (BCHJOB) コマンドまたは、ジョブ投入 (SBMJOB) コマンドに指定した名前です。これらのコマンドに指定しなかった場合は、ジョブ記述の非修飾名が使用されます。
 - 対話式ジョブ: ジョブ名は、サインオンを行った装置 (ワークステーション) の名前と同じ名前になります。
 - 自動開始ジョブ: ジョブ名は、ジョブの実行時点で使用するサブシステム記述の、自動開始ジョブ項目に指定されます。このジョブ名は、自動開始ジョブ項目追加 (ADDAJE) コマンドで指定されたものです。

各コマンドに必要なとなるのは、ジョブを識別するために単純名を使用することのみです。ただし、単純名が固有の名前ではない場合には、さらに修飾を加える必要があります。

重複ジョブ名

対話式ジョブにおいて、重複したジョブ名をコマンドで指定した場合には、システムは、指定されたジョブ名で重複するものをすべて、修飾された形式でユーザーに示します。ジョブ名は、ユーザー名とジョブ番号によって修飾された形で表示されるため、ユーザーは、コマンドに指定したいジョブを、さらに明確に識別できます。これにより、正しい修飾ジョブ名を入力することができます。

バッチ・ジョブでコマンドに重複ジョブ名を指定すると、そのコマンドは処理されません。この場合には、ジョブ・ログにエラー・メッセージが書き込まれます。

指定可能な値

JOB パラメーターには、使用するコマンドに応じて、次に示す値の 1 つ以上を表示できます。

: このジョブはコマンドが入力されたジョブ、すなわち JOB() の指定を持つコマンドが入力されたジョブです。

*JOB: 単純ジョブ名として、ジョブ記述の修飾されていない名前が使用されます。

*NONE: ログ表示 (DSPLOG) コマンドの場合、ジョブ名は指定されません。

ジョブ名: 単純ジョブ名が指定されます。

修飾ジョブ名: ユーザーは、修飾ジョブ名を指定しなければなりません。ジョブ修飾子 (ユーザー名およびジョブ番号) を指定しなかった場合は、該当のジョブ名を見つけるために、現在システム上に存在しているすべてのジョブが検索されます。指定した名前が重複していることが検出された場合は、修飾ジョブ名を指定しなければなりません。

LABEL パラメーター

LABEL パラメーターは、入出力操作で使用する (ディスクまたはテープ上の) データ・ファイルの、データ・ファイル識別コードを指定します。データ・ファイルは、交換形式または保管 / 復元形式のいずれでも構いません。

注: 装置ファイル・コマンドは、交換形式のディスクおよびテープに対してのみ使用され、保管 / 復元形式の場合には使用されません。また、ユーザー定義の装置ファイルは、保管 / 復元操作では使用されません。

ディスクまたはテープの各データ・ファイルは、それぞれ、そのファイルのファイル・ラベルに保管されたデータ・ファイル識別コードを持っています。

ディスクの場合には、データ・ファイル・ラベルはすべて 1 箇所、すなわちそのディスクのボリューム・ラベル域に入ります。各ラベルには、データ・ファイル識別コードのほかに、ファイルに関する他の情報、すなわちファイルがディスクのどこに (どのトラック、どのセクターに) 保管されているか、およびファイルが別のディスクに続いているかどうか (マルチボリューム・データ・ファイルの場合) などについての情報が入っています。

テープの場合には、各テープ・ファイルのデータ・ファイル・ラベル (または見出しラベル) は、ファイルのデータの直前に置かれます。すなわち、テープでは、ファイルごとに、その見出しラベルとデータ・レコードとで 1 つの単位が形成され、1 つのファイルの後に別のファイルが続いています。各ラベルには、データ・ファイル識別コードのほかに、ファイルに関するその他の情報 (ファイル順序番号、レコード属性、ブロック属性、マルチボリューム・データ・ファイルかどうかなど) も入っています。

通常、データ・ファイル識別コードは 8 文字以下の英数字文字ストリングです。しかし、実際の最大文字数は、ファイルでどのようなデータ形式が使用されるか、ファイルがディスクettかテープのどちらかに入っているか、および、どの CL コマンドに識別コードが指定されるかなどの、いくつかの条件によって決まります。ファイル識別コード・フィールドの未使用部分はブランクのままにしてください。

データ・ファイル識別コードの最初の文字は、英字 (A から Z、\$, #、または @) でなければなりません。2 番目以降の文字は、英数字 (A から Z、0 から 9、\$, #、_、., および @) でなければなりません。識別コードをアポストロフィで囲めば、特殊文字も使用できます。ただし、そのディスクettまたはテープを iSeries 400 以外のシステムでも使用する場合は、そのシステムでの識別コードの指定に関する要件も考慮しなければなりません。

ディスクettおよびテープのデータ・ファイル識別コード

交換形式のディスクett の場合には、データ・ファイル識別コードは、8 文字を超えることはできません (RPG ファイル名の場合と同じ制限)。この制限が適用されるコマンドは次のとおりです。ディスクett・ファイル作成 (CRTDKTF) コマンド、ディスクett・ファイル変更 (CHGDKTF) コマンド、スプール・ファイル属性変更 (CHGSPLFA) コマンド、ディスクett・ファイル一時変更 (OVRDKTF) コマンド、ディスクett・ラベル削除 (DLTDKTLBL) コマンド、ディスクett表示 (DSPDKT) コマンド、およびディスクett読み取りプログラム開始 (STRDKTRDR) コマンド。

テープ の場合には、識別コードには最高 17 文字まで指定できます。ただし、テープを iSeries 400 以外のシステムで使用する場合には、8 文字以下の識別コード (または 17 文字以下の修飾識別コード) を使用しなければなりません。8 文字を超える場合には、識別コードを修飾した上でアポストロフィで囲まなければなりません。修飾識別コードの 2 つの部分はピリオドで区切り、どちらの部分も、8 文字以下になるようにしてください。たとえば、LABEL('TAXES.JAN1980') のように指定します。この制限が適用されるのは、次のコマンドです。テープ装置ファイル作成 (CRTTAPF) コマンド、テープ装置ファイル変更 (CHGTAPF) コマンド、テープ装置ファイル一時変更 (OVRTAPF) コマンド、およびテープ表示 (DSPTAP) コマンド。

ディスクettの場合もテープの場合も、同じボリュームの中に、同じデータ・ファイル識別コードが 2 つ以上あることは許されません。ただし、ファイル名が 8 文字以下である場合には、識別コードは、ディスクettまたはテープに書き込むデータベース・ファイルの名前と同じであっても差し支えありません。ディスクett・データ・ファイルおよびテープ・データ・ファイルには、データのみが入り、データベース・ファイルのようにファイル記述が入ることはありません。ディスクettの場合には、ERRORSET および SYSAREA という識別コードを使用することはできません。この 2 つの名前は、特殊な用途のためにシステムが予約しています。

データ・ファイルがボリュームに書き込まれる時点で、そのデータ・ファイルの識別コードが同じボリュームに記録されます。入出力操作の場合には、ディスクett装置ファイル・コマンドまたはテープ装置ファイル・コマンドの 1 つに、識別コードを指定したり、あるいは、高水準言語プログラムにより、該当の装置ファイルをオープンする際、パラメーターとして識別コードを渡すことができます。

保管 / 復元形式

保管 / 復元形式のディスクett の場合には、データ・ファイル識別コードには最高 17 文字を指定できます。ライブラリー名を用いてラベルを生成する場合には、ファイル識別コードに指定できるのは最高 15 文字です。識別コードは、最高 10 文字のライブラリー名と、それに続くピリオド、Q、および 3 桁の順序番号からなります。たとえば、LABEL('PAYLIB.Q014') のように指定します。15 文字という制約は、DSPDKT コマンドにより表示される保管 / 復元データ・ファイルの識別コードに適用されます。

保管 / 復元形式のテープ の場合には、識別コードに最高 17 文字を指定できます。ライブラリー名を用いてラベルを生成する場合、識別コードは 10 文字を超えることはできません。ライブラリー名以外のラベルを指定することもできます。

指定可能な値

LABEL パラメーターには、使用するコマンドに応じて、次の値のいずれか 1 つを指定することができます。

***ALL:** 指定したディスク・ボリュームまたはテープ・ボリュームの、すべてのデータ・ファイル識別コードについて、ラベルが画面に表示されます。

***NONE:** データ・ファイル識別コードは指定されません。ディスク操作またはテープ操作で使用するためには、装置ファイル (またはデータベース・ファイル、あるいはその両方) がオープンされる前に、データ・ファイル識別コードを指定しなければなりません。

***SAME:** ディスク装置ファイル、またはテープ装置ファイルに入っている既存のデータ・ファイル識別コードは、変更できません。

データ・ファイル識別コード: 装置ファイル記述で使用するため、または表示するためにディスクまたはテープ上のデータ・ファイル識別コードを指定してください。

***LIB:** ファイル・ラベルはシステムによって作成され、LIB パラメーターに指定したライブラリーの名前がファイル名の修飾子として使用されます。

***SAVLIB:** ファイル・ラベルはシステムによって作成され、SAVLIB パラメーターに指定したライブラリーの名前がファイル名の修飾子として使用されます。

MAXACT パラメーター

並行して開始し、活動状態を維持することができるジョブの最大数を指定するには、最大活動レベル (MAXACT) パラメーターを使用します。この指定は、ジョブ待ち行列項目、通信項目、経路指定項目、またはワークステーション項目を介して行うことができます。ジョブは、実行が開始された時点から実行が完了する時点まで、活動状態であると見なされます。これには、次に示す時間が含まれます。

- ジョブが実際に処理されている時間。
- ジョブがワークステーション・ユーザーからの応答を待っている時間。
- ジョブが開始されていて処理可能ではあるが、実際には処理装置を使用していない時間。たとえば、ジョブが指定のタイム・スライスを使い終えて、別のタイム・スライスが割り当てられるのを待っている時間。
- ジョブが開始されたが、処理のために使用できる状態になっていない時間。ジョブがそのメッセージ待ち行列にメッセージが送られてくるのを待っている時間。

指定可能な値

***NOMAX:** 同時に活動状態になれるジョブ数の限度はありません。

最大活動ジョブ数: この項目を介して、同時に活動状態にできるジョブの最大数を表す値を指定してください。

活動レベルの制御に関する詳細については、「実行管理の手引き」 を参照してください。

OBJ パラメーター

オブジェクト (OBJ) パラメーターには、このパラメーターを使用したコマンドにより処理される 1 つ以上のオブジェクトの名前を指定します。オブジェクトはすべて、使用するコマンドに応じて、LIB パラメーター、SAVLIB パラメーター、または OBJ パラメーターのライブラリー修飾子により指定されたライブラリーに入っていないければなりません。

コマンドによっては、一群のオブジェクトの総称名を指定することができるものもあります。総称名は、各オブジェクト名に共通する文字の後にアスタリスク (*) を付けたもの、たとえば、ABC* などです。名前に * が付いていない場合には、システムはその名前を完全なオブジェクト名であると見なします。

指定可能な値

OBJ パラメーターには、使用するコマンドに応じて、次のタイプの値を指定できます。

- *ALL
- 単純オブジェクト名
- 修飾オブジェクト名
- 総称オブジェクト名
- 修飾総称オブジェクト名

OBJTYPE パラメーター

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE) パラメーターは、オブジェクトが指定されたコマンドにより操作できる OS/400 オブジェクトのタイプを指定します。OBJTYPE パラメーターに指定できるオブジェクト・タイプは、コマンドによって異なります。

表 8 (176 ページ) は、OBJTYPE パラメーターを持つコマンドで、処理の対象にすることができるオブジェクト・タイプのリストを示すことを主な目的としています。X 印は、その行のオブジェクト・タイプを、その欄のコマンドの OBJTYPE パラメーターに指定できることを示しています。

この表は、ほとんどのオブジェクト・タイプを処理の対象とすることのできる、オブジェクト関連コマンドの早見表としても活用できます。特定のコマンド・タイプに関連する特定のコマンドを知らなくても、この表で示すオブジェクト関連コマンドによって、ほとんどのオブジェクトに対して一般的な操作を行うことができます。たとえば、CPYF (ファイル・コピー)、または CPYLIB (ライブラリー・コピー) などの特定のコマンドを使用しなくても、CRTDUPOBJ コマンドを使用して、ファイルまたはライブラリーのコピーを作成できます。この表によって、特定のオブジェクトに対して特定の機能を実行したい場合に、一般的なオブジェクト関連コマンドを使用できるかどうかを知ることができます。

次に示すコマンドにも OBJTYPE パラメーターがありますが、処理対象となるオブジェクト・タイプの数が少ないので、表には含まれていません。

- CHKDLO コマンドでは *DOC および *FLR が処理対象になります。
- CPROBJ および DCPOBJ コマンドでは *FILE、*MENU、*MODULE、*PGM、*PNLGRP、および *SRVPGM が処理対象になります。
- CRTSQLPKG コマンドでは *PGM および *SRVPGM が処理対象になります。
- DSPPGMADP コマンドでは *PGM、*SQLPKG および *SRVPGM が処理対象になります。
- DSPPGMREF コマンドでは *PGM および *SQLPKG が処理対象になります。
- RSTCFG コマンドでは *CFGL、*CNL、*COSD、*CTLD、*DEVD、*LIND、*MODD および *NWID が処理対象になります。
- SAVLICPGM コマンドでは *LNG および *PGM が処理対象になります。

• SETOBJACC コマンドでは *FILE および *PGM が処理対象になります。

DSPLNK および WRKLNK コマンドでは、すべてのオブジェクト・タイプが処理対象になります。

上記以外に、ALCOBJ コマンドおよび DLCOBJ コマンドでも、オブジェクト・タイプ値の指定が必要です。しかし、これらのコマンドの場合は、オブジェクト・タイプ値を必須パラメーター OBJ の 4 つの値 (値のリスト) の中の 1 つとして指定します。次のオブジェクト・タイプを ALCOBJ および DLCOBJ コマンドの OBJ パラメーターに指定することができます。*AUTL、*BNDDIR、*CLD、*CRQD、*CSI、*DEVD、*DTAARA、*DTADCT、*DTAQ、*FCT、*FILE、*FNTRSC、*FORMDF、*IPXD、*LIB、*MENU、*MODULE、*MSGQ、*NODL、*NTBD、*NWSO、*OVL、*PAGDFN、*PAGSEG、*PDG、*PGM、*PNLGRP、*PSFCFG、*QMFORM、*QMQRV、*QRYDFN、*SBSO、*SCHIDX、*SQLPKG、*SRVPGM、*SSND、*S36、*USRIDX、*USRQ、*USRSPC、および *WSCST。

注: RTVOBJD と DSPOBJD は同じオブジェクト・タイプをサポートしています。RTVOBJD でサポートされているオブジェクト・タイプを確認するには、次の表の DSPOBJD の欄を参照してください。

表 8. OBJTYPE パラメーターを含むコマンドで使用されるオブジェクト・タイプ

値	基本的なオブジェクト関連コマンド															その他のオブジェクト 関連コマンド							
	オブジェクト					オブジェクト権限					一般					D	P	R	S	A	V	S	
	C	D	M	R	W	C	D	E	G	R	C	D	C	C	W								C
	H	M	O	N	W	H	S	D	R	H	S	H	R	R	H	M	P	R		S	A	V	S
	K	P	V	M	R	O	O	O	O	O	O	O	D	O	O	S	D	R	C	H	V	A	V
	O	O	O	O	O	A	A	A	A	A	B	B	O	O	L	P	O	I	O	B	B	O	B
	B	B	B	B	B	U	U	U	U	U	J	J	W	B	C	G	B	N	B	B	B	O	B
	J	J	J	J	J	D	T	T	T	T	D	D	N	J	K	P	J	F	J	J	J	J	J
*ALRTBL	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
*AUTL	X	X		X	X	X	X	X			X	X	X	X	X	X	X						
*BLKSF																			X				
*BNDDIR	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
*CFGL	X	X			X	X	X	X	X	X	X	X			X	X	X						
*CHRSF																				X			
*CHTFMT	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X				X	X
*CLD	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
*CLS	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
*CMD	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
*CNNL	X	X			X	X	X	X	X	X	X	X				X	X	X					
*COSD	X	X			X	X	X	X	X	X	X	X				X	X	X					
*CSI	X	X		X	X	X	X	X	X					X		X	X	X					
*CRG			X											X	X					X	X	X	
*CRQD	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
*CTLD	X	X		X	X	X	X	X	X	X	X	X			X	X	X	X					
*DEVD	X	X		X	X	X	X	X	X	X	X	X			X	X	X	X					

*DDIR	X	X			X	X	X					X			X		X	X			
*DIR		X	X	X				X	X	X	X		X	X		X	X	X	X	X	X
*DOC	X				X		X	X	X	X	X	X		X	X						
*DSTMF	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		X	X	X	X	X	X	X	X
*DTAARA	X	X			X	X	X					X			X		X	X			
*DTADCT		X					X										X	X			
*DTAQ						X															
*EDTD	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
*EXITRG	X	X	X			X	X	X				X	X			X	X	X	X	X	X
*FCT	X	X		X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
*FIFO																					
*FILE	X	X		X	X	X	X	X	X	X	X	X		X	X	X	X	X	X	X	X
*FLR	X	X		X		X						X			X		X	X			
*FNTRSC	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
*FNNTBL	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		X	X	X	X	X
*FORMDF	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
*FTR	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
*GSS	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
*IGCDCT	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		X	X	X
*IGCSRT	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
*IGCTBL	X	X			X	X	X	X	X	X	X	X			X	X	X	X	X	X	X
*IPXD	X	X		X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		X	X	X	X			
*JOB	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
*JOBQ	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X			X		X	X	X
*JOBSCD	X	X		X	X	X	X	X	X	X	X	X					X		X	X	X
*JRN	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		X	X	X	X	X	X	X
*JRNRCV	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		X	X	X	X	X	X	X
*LIB	X	X			X	X	X	X	X	X	X	X	X		X	X	X	X			
*LIND	X	X			X	X	X	X	X	X	X	X	X		X	X	X	X			
*MEDDFN	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		X	X	X
*MENU	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
*MGTCOL	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
*MODD	X	X			X	X	X	X	X	X	X	X			X	X	X	X			
*MODULE	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
*MSGF	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
*MSGQ	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
*NODGRP	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
*NODL	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		X	X	X	X	X	X	X
*NTBD	X	X		X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		X	X	X	X			
*NWID	X	X		X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		X	X	X	X			
*NWS	X	X		X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		X	X	X	X			
*OUTQ	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
*OVL	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
*PAGDFN	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
*PAGSEG	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
*PDG	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X

*PGM	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
*PNLGRP	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
*PRDAVL		X		X		X				X	X	X	X	X	X		X		X	
*PRDDFN	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
*PRDLOD		X	X	X	X	X				X	X	X	X	X	X	X	X	X		
*PSFCFG	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
*QMFORM	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
*QMQR Y	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
*QRYDFN	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		X	X	X	X	X	X
*RCT	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
*SBSD	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
*SCHIDX	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		X			X	X	X	X	X	X
*SOCKET														X			X			
*SPADCT	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X			X	X	X	X	X	X
*SQLPKG	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
*SQLUDT		X		X									X							
*SRVPGM	X		X		X	X	X	X	X	X	X	X		X	X	X	X	X	X	X
*SSND	X	X			X	X	X	X	X	X	X	X		X	X	X	X	X	X	X
*STMF																	X			
*SVRSTG		X			X	X	X	X	X	X	X				X	X	X	X	X	X
*SYMLNK				X									X				X			
*S36	X	X	X		X	X	X	X	X	X	X	X		X	X	X	X	X	X	X
*TBL	X	X			X	X	X	X	X	X	X	X		X	X	X	X	X	X	X
*USRIDX	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
*USRPRF	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		X	X	X	X			
*USRQ	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		X	X	X	X	X	X	X
*USRSPC	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
*VLDL	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
*WSCST	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		X	X	X	X	X	X

指定可能な値

ALL::** そのコマンドで使用可能であり、名前指定され、かつ指定のライブラリーに存在しているすべてのオブジェクト・タイプが、オブジェクトの指定されたコマンドでの操作の対象となります。ALL** は、そのコマンドに適用されるオブジェクト・タイプのみを表します。どの OS/400 オブジェクト・タイプを指定することができるかについては、個々のコマンドの OBJTYPE パラメーターの説明を参照してください。

オブジェクト・タイプ: コマンドにより処理されるオブジェクトのタイプを指定するための事前定義値を指定してください。

OUTPUT パラメーター

OUTPUT パラメーターを使用して、表示コマンドからの出力を画面に表示するか、印刷するか、あるいは出力ファイルに書き出すかを指定します。基本的には、いずれの場合にも同じ情報が出力されますが、形式のみは、該当する装置に最も適した形式で情報が表示されるように変更されます。たとえば、表示画面よりも印刷ページの方が行数が多いため、欄見出しの反復は印刷出力の方が少なくなります。

出力を画面に表示する場合、表示コマンドを出したワークステーションにその出力が送られます。この出力は、その表示コマンドで使用される表示装置ファイルに指定された形式で表示されます。各表示コマンドで

作成される出力ごとに、別々の装置ファイルが使用されます。また、表示する場合、印刷する場合、および出力ファイルに書き出す場合によって、それぞれ装置ファイルが異なります。ほとんどの場合、コマンドの名前は、該当のタイプの装置ファイルのファイル名の一部になります。

出力を印刷する場合には、出力はスプールされ、項目がジョブの出力待ち行列に入れられます。この出力は、印刷出力書き出しプログラム開始 (STRPRTWTR) コマンドに指定されている印刷装置で印刷することができます。

注: IBM 提供の印刷装置ファイルは、出荷時点では SPOOL(*YES) が指定されていますが、印刷装置ファイル一時変更 (OVRPRTF) コマンド、または印刷装置ファイル変更 (CHGPRTF) コマンドを使用して、SPOOL(*NO) に変更することができます。

表示コマンドに OUTPUT パラメーターを指定しなかった場合は、省略時値である * を指定したものと見なされます。この省略時値の結果として生成される出力は、コマンドを入力したジョブのタイプによって決まります。次の表に、対話式ジョブおよびバッチ・ジョブの場合にどのように出力が生成されるかを示します。

出力	対話式ジョブ	バッチ・ジョブ
*	表示	印刷
*PRINT	印刷	印刷

指定可能な値

*: 対話式ジョブから要求した出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスプール出力の印刷となります。

*PRINT: 出力は、ジョブのスプール出力の印刷となります。

*OUTFILE: 出力は、指定したデータベース・ファイルに書き込まれます。

PRTTXT パラメーター

印刷テキスト (PRTTXT) パラメーターは、リストの最下部および区切りページに印刷するテキストを指定します。印刷テキストは、ジョブがシステムに入った時点で、ジョブ属性からコピーされます。別のシステムで開始された印刷ファイルでは、ターゲット・システムの印刷テキストは使用されません。印刷テキストは、特定のジョブの印刷テキストを定義するためのジョブ属性 (PRTTXT) であり、また、*SYSVAL が指定されたジョブの省略時値となるシステム値 (QPRTTXT) です。QPRTTXT は、システム全体にわたって、すべてのジョブの省略時値となります。

印刷テキストは、長さ 30 文字以内で指定できます。印刷テキストは、用紙幅の中央に位置合わせされ、オーバーフロー域に印刷されます。30 文字幅のテキスト・フィールド内でのテキストの中央そろえは、ユーザーが行わなければなりません。

印刷テキストがブランクでなければ、システムは、各ページの下に 30 文字のテキストを印刷します。このテキストは、通常、オーバーフロー行の次に置かれ、(用紙長において可能であれば) テキストの前に 1 行のブランクが設けられます。ユーザーの印刷したテキストがオーバーフロー行を超えている場合は、ユーザー・テキストの最後の行の次に印刷テキストが置かれ、この場合も、可能であればその印刷テキストの前に 1 行のブランクが設けられます。オーバーフロー行が用紙の最終行の場合には、印刷テキストも用紙の最終行に印刷されるため、ユーザー・テキストの上に重ねて印刷テキストが印刷されることもあります。

ジョブ区切りおよびファイル区切り用の印刷テキストは、区切りページの 1 行目に置かれます。ジョブ区切りには、ファイルの印刷時点でその区切り記号を作成したジョブの印刷テキストが入ります。ファイル区切りには、その後続くスプール・ファイルの印刷テキストと同じ印刷テキストが入ります。

印刷テキストは、あらゆるジョブ・タイプに指定できます。システムおよびサブシステムのモニター・ジョブでは、システム値が使用されます。読み取りプログラム・ジョブおよび書き出しプログラム・ジョブでは、システム値が使用されます。ただし、該当する読み取りプログラムまたは書き出しプログラムに関連した QSPLxxxx ジョブ記述内で印刷テキストを変更した場合は、別です。

印刷テキストは、次の階層順序に従って決定されます。ある階層で印刷テキストが指定されていなかった場合は、次の順序の階層のテキストが使用されます。

階層順序は、優先順位の高いものから示すと、次のようになります。

- 一時変更印刷ファイルの値
- 印刷ファイルの値
- ジョブ変更 (CHGJOB) コマンドにより変更されたジョブ属性
- ジョブ投入 (SBMJOB) コマンドまたは、バッチ・ジョブ (BCHJOB) コマンドにより設定されたジョブ属性
- ジョブ記述
- システム値

指定可能な値

システム値 QPRTTXT には、*SYSVAL 以外の任意の文字ストリングを指定できます。*BLANK を指定した場合は、印刷テキストは印刷されません。PRTTXT には、使用するコマンドに応じて次に示す値のいくつかを選択することができます。

***SAME:** 印刷テキストは変更されません。

***CURRENT:** 印刷テキストは投入ジョブから取られます。

***JOBID:** 印刷テキストは、ジョブの実行を制御するジョブ記述から取られます。

***SYSVAL:** 印刷テキストは、システム値 QPRTTXT から取られます。

***BLANK:** 印刷テキストは印刷されずブランクになります。

印刷テキスト: 30 文字のテキストを指定してください。テキストにブランクが含まれている場合には、項目全体をアポストロフィで囲まなければなりません。ページの中央にテキストを位置合わせして印刷するためには、その印刷テキストを、30 桁のフィールドの中央に位置合わせしなければなりません。

REPLACE パラメーター

置き換え (REPLACE) パラメーターは作成コマンドで使用されます。このパラメーターは、既存のオブジェクト (存在する場合) を、同じ名前、ライブラリー、オブジェクト・タイプを持つ、今回作成するオブジェクトと置き換えるように指定します。新しいオブジェクトのユーザーには、旧オブジェクトの場合と同じ権限が認可されます。置き換えられるオブジェクトが権限リストによって保護されている場合は、新しいオブジェクトも同じ権限リストによって保護されます。新しいオブジェクトの権限は、置き換えられるオブジェクトの共通認可と同じです。作成コマンドの AUT パラメーターは無視されます。置き換えられるオブジェクトの専用認可は、そのまま新しいオブジェクトに継承されます。置き換えられるオブジェクトの所有者は、新しいオブジェクトに継承されません。新しいオブジェクトの所有者は、そのオブジェクトの作成

者、または作成者のグループ・プロファイルです。現行ジョブまたは別のジョブが使用中である場合、パネル・グループ、表示装置ファイル、およびメニューなどのいくつかのオブジェクトは、置き換えることができません。

作成されるオブジェクトがプログラムまたはサービス・プログラムの場合には、置き換えられるプログラムのユーザー・プロファイル (USRPRF パラメーター) の値が使用されます。プログラム作成コマンドまたはサービス・プログラム作成コマンドのユーザー・プロファイルの値 (USRPRF パラメーター) は、無視されます。置き換えられるプログラムまたはサービス・プログラムのユーザー・プロファイル (USRPRF パラメーター) の値が *OWNER の場合は、置き換えられるプログラムまたはサービス・プログラムの現在の所有者のみが、既存のプログラムまたはサービス・プログラムと置き換わる新しいプログラムまたはサービス・プログラムを作成できます。既存のオブジェクトと作成されるオブジェクトの所有者が一致しない場合、オブジェクトは作成されず、メッセージ CPF2146 が送られます。

作成されるオブジェクトがプログラムまたはサービス・プログラムの場合は、オブジェクトを作成するユーザーが、USEADPAUT(*YES) 属性によって、プログラムまたはサービス・プログラムを作成できる限り、置換されたプログラムまたはサービス・プログラムの使用借用権限 (USEADPAUT) 値が使用されます。ユーザーが借用権限を使用するプログラムまたはサービス・プログラムを作成できるかどうかは、QUSEADPAUT システム値によって決まります。たとえば、置換される既存のオブジェクトが USEADPAUT(*YES) を持ち、ユーザーが、借用権限を使用するプログラムまたはサービス・プログラムを作成する権限を持たない場合、作成されるプログラムまたはサービス・プログラムは USEADPAUT(*NO) を持ちます。この場合、USEADPAUT 値はコピーされません。ユーザーが、借用権限を使用するプログラムまたはサービス・プログラムを作成する権限を持つ場合、作成されるプログラムまたはサービス・プログラムは、置換されるプログラムまたはサービス・プログラムと同じ USEADPAUT 値を持ちます。USEADPAUT 値が置換されるオブジェクトにコピーされたかどうかを示す通知メッセージが送られます。

作成中のオブジェクトがファイルであり、REPLACE パラメーターで省略時の値を取るか *YES を指定した場合は、保管ファイルおよび DDM ファイルを除く既存の装置ファイルのうちで、同じ修飾名を持つファイルが、新しいファイルで置き換えられます。たとえば、既存の表示装置ファイルを、新しい印刷装置ファイルまたはテープ・ファイルなどで置き換えることができます。

既存のオブジェクトを新しいオブジェクトで置き換えるには、その既存のオブジェクトに対するオブジェクト管理権 (*OBJMGT)、オブジェクト存在権 (*OBJEXIST)、および読み取り権 (*READ) が必要です。

▶ 新しいオブジェクトの作成が正常に完了すると、既存のオブジェクトは名前が変更され、ライブラリー QRPLOBJ に移されるか、あるいはそのオブジェクトが独立 ASP にある場合はライブラリー QRPLxxxx に移されます (この「xxxx」は、ASP グループの基本 ASP の番号です)。古いオブジェクトは、文字 Q の後にタイム・スタンプを付加した名前に変更され、ライブラリー QRPLOBJ に移されるか、あるいはそのオブジェクトが独立 ASP にあった場合はライブラリー QRPLxxxxx に移されます。◀

制約条件: プログラムは、実行中でも置き換えることができます。ただし、置き換えられたプログラムの名前が Q タイム・スタンプ名に変更された後で、そのプログラムがプログラム・メッセージ待ち行列を参照すると、プログラムは実行不能になり、該当するプログラム・メッセージ待ち行列が見つからないことを示すエラー・メッセージが表示されます。

物理データベース・ファイル、論理データベース・ファイル、および保管ファイルは、いかなるファイルによっても置き換えることはできません。

ライブラリー QRPLOBJ は、システムの初期プログラム・ロード (IPL) が完了した時点で消去されます。

▶ ライブラリー QRPLxxxxx は、ASP グループの基本 ASP が有効になった時点で消去されます。◀

指定可能な値

***YES:** 作成する新しいオブジェクトと同じ名前を持ち、しかも同じオブジェクト・タイプの既存のオブジェクトが同じライブラリーにある場合に、システムはその既存のオブジェクトを新しいオブジェクトで置き換えます。

***NO:** 作成する新しいオブジェクトと同じ名前を持ち、しかも同じオブジェクト・タイプの既存のオブジェクトが同じライブラリーにあっても、システムはその既存のオブジェクトを新しいオブジェクトで置き換えません。

スケジューリング優先順位パラメーター (JOBPTY、OUTPTY、PTYLMT)

システムが処理すべきジョブとスプール・ファイルを選択する順序を決定するときには、スケジューリング優先順位パラメーターの指定が使用されます。各ジョブには、ジョブ選択およびスプール・ファイル出力の両方に使用するスケジューリング優先順位を指定します。ジョブのスケジューリング優先順位は、バッチ・ジョブ (BCHJOB)、ジョブ投入 (SBMJOB)、ジョブ記述作成 (CRTJOB)、およびジョブ記述変更 (CHGJOB) などのコマンドの JOBPTY パラメーターにより指定します。ジョブからのスプール出力を生成する場合の優先順位は、これらのコマンドの OUTPTY パラメーターにより指定します。

さらに、どのジョブも特定のユーザー・プロファイルのもとで処理されるので、各ジョブの優先順位には、ユーザー・プロファイル作成 (CRTUSRPRF) コマンド、およびユーザー・プロファイル変更 (CHGUSRPRF) コマンドに指定する PTYLMT パラメーターの値によって、制約を付けることができます。このパラメーター値は、当該ユーザー・プロファイルのもとで実行されるすべてのジョブが持ち得る最高ジョブ・スケジューリング優先順位および最高出力優先順位を制御します。すなわち、ジョブ・コマンドの JOBPTY パラメーターおよび OUTPTY パラメーターに指定する優先順位は、そのジョブに関連したユーザー・プロファイルの PTYLMT パラメーターに指定された優先順位を超えることはできません。スケジューリング優先順位は、ジョブ実行のために選択する順序を決めるために使用されるもので、クラス・オブジェクトに指定する実行優先順位とは関係ありません。

3 つのスケジューリング優先順位パラメーターで指定する項目は次のとおりです。

- PTYLMT パラメーターは、投入するすべてのジョブに対し、最高のスケジューリング優先順位を指定します。ユーザー・プロファイルに影響を及ぼすコマンドでは、PTYLMT パラメーターの値が、それぞれの特定のジョブに関連したコマンドの JOBPTY パラメーターに指定可能な最高優先順位となります。ジョブの投入に使用するコマンドには、これより低い優先順位をジョブの優先順位として指定することができます。BCHJOB コマンドまたは SBJJOB コマンドの JOBPTY に、関連するユーザー・プロファイルの PTYLMT に指定した優先順位より高い優先順位を指定した場合には、エラー・メッセージが画面に表示され、PTYLMT に指定した最高優先順位を指定したものと見なされます。CHGJOB コマンドまたは CHGJOB コマンドに PTYLMT 値より高い優先順位を指定した場合は、エラー・メッセージが表示され、ジョブの属性は変更されません。
- JOBPTY パラメーターは、投入する特定のジョブに使用される優先順位の値を指定します。投入する特定ジョブに関連したコマンドでは、JOBPTY パラメーターに、そのジョブの実際のスケジューリング優先順位を指定します。
- OUTPTY パラメーターでは、ジョブで作成されるすべてのスプール出力ファイルからの出力を生成するための優先順位を指定します。OUTPTY パラメーターに指定した優先順位の値は、各スプール・ファイルが出力のために処理する順序を決定します。ジョブで作成されるすべてのスプール・ファイルに対して、同じ値が適用されます。

スケジューリング優先順位として指定できるパラメーターの値は、0 から 9 までであり、1 が最高の優先順位、9 が最低の優先順位です。優先順位 0 が指定されているジョブはすべて、待機中の 1 から 9 までの優先順位を持つほかのすべてのジョブより先に、処理のためにスケジューリングされます。

優先順位パラメーターは、次のコマンドに指定できます。

JOBPTY	OUTPTY	PTYLMT
ADDJOBJS	ADDJOBJS	
BCHJOB	BCHJOB	CHGUSRPRF
CHGJOB	CHGDKTF	CRTUSRPRF
CHGJOB	CHGJOB	
CHGJOBJS	CHGJOBJS	
CRTJOB	CHGJOB	RTVUSRPRF
SBMJOB	CHGJOB	
SBMJOBJS	CHGJOBJS	
	CHGPJ	
	CHGPRTF	
	CHGSPLFA	
	CRTDKTF	
	CRTJOB	
	CRTPRTF	
	OVRDKTF	
	OVRPRTF	
	SBMJOB	
	SBMJOBJS	

指定可能な値

優先順位パラメーターには、使用するコマンドに応じて、次の値のうちの 1 つ以上が適用されます。

5: CRTUSRPRF コマンドに値を指定しないと、5 がユーザー・プロファイルの優先順位の上限として使用される省略時の値になります。その場合は、実行のために投入するどのジョブについても、ユーザーが指定できる最高優先順位は 5 となります。**CRTJOB** コマンドでほかに優先順位が指定されていない場合は、5 がジョブ・スケジューリング優先順位および出力優先順位の両方について、省略時値となります。

***SAME:** 割り当てられた優先順位、または割り当て可能な最高優先順位は変更されません。

***JOB:** ジョブのスケジューリング優先順位は、そのジョブの実行に使用するジョブ記述から得られます。

スケジューリング優先順位: 0 から 9 までの値の 1 つを優先順位として指定してください。0 は最高の優先順位を、9 は最低の優先順位を表します。優先順位 0 は、CHGJOB でのみ指定することができます。

SEV パラメーター

重大度 (SEV) パラメーターは、次のような重大度コードを指定します。

- エラー・メッセージに関連した重大度のレベルを記述する。
- ユーザーまたはプログラムにメッセージが戻されるようにするための最小重大度レベルを示す。
- バッチ・ジョブを打ち切る。
- 重大な構文エラーがあった場合にコマンドの処理を打ち切る。

注: 一部のコマンドの LOG パラメーターでも、ロギングのため (どのジョブ活動メッセージ、およびエラー・メッセージをジョブ・ログに記録するかを制御するため) に、この重大度コードを使用します。

重大度コードは、00 から 99 までの範囲内の 2 桁の値です。値が大きくなるほど、状態の重大度または重要度が高くなります。ユーザーに送られるメッセージの重大度コードは、そのメッセージが示している状態の重大度を示します。複数のメッセージが同じ重大度コードを持てます。事前定義済みのメッセージに対して重大度コードが指定されていない場合は、00 (通知のみ) を指定したものと見なされます。

重大度コードは、メッセージをメッセージ記述追加 (ADDMSGD) コマンドで定義する際、どのようなメッセージに対しても指定することができます。メッセージの重大度コードを変更するには、メッセージ記述変更 (CHGMSGD) コマンドを使用します。

システムとともに出荷されるすべての IBM 提供のメッセージには、IBM 定義の重大度コードが使用されています。

00 - 通知: この重大度のメッセージは、情報の提供のみを行うものです。エラーが検出されたわけではないので、応答の必要はありません。この種のメッセージは、ある機能が実行中であることや、実行が正常に完了したことなどを示します。

10 - 注意: この重大度のメッセージは、エラーが起きた可能性があることを示します。プログラムは、欠落している入力を補うなど、省略時の処置を取っている場合もあります。この操作の結果は、意図されたとおりのものと見なされます。

20 - エラー: エラーが検出されましたが、それに対しては自動回復プロシージャが適用されたものと判断されるので、処理は続行されます。エラーの起きた入力の代わりに省略時の値が使用された可能性もあります。操作の結果は、必ずしも正しいとは限りません。実行された機能は、部分的にしか完了していない場合があります。たとえば、リストのうちのある項目は正しく処理されたのに、別の項目は正しく処理されていない場合もあります。

30 - 重大エラー: 自動回復機能による修復が不可能な重大エラーが検出されたために、省略時の値を適用できません。このエラーがソース・データの中にある場合には、その入力レコード全体がスキップされます。プログラムの実行中にこの種のエラーが起きた場合は、プログラムの異常終了 (重大度 40) が生じます。操作結果は有効ではありません。

40 - プログラムまたは機能の異常終了: 操作が終了しました。多くの場合、データが正しくないために操作が打ち切られたか、あるいは、ユーザーが操作を打ち切ったためです。

50 - ジョブの異常終了: ジョブが打ち切られたか、あるいは開始されていませんでした。経路指定ステップが異常終了したか、その開始に失敗したか、ジョブ・レベルの機能が正しく実行されなかったか、あるいはジョブが打ち切られたなどの理由が考えられます。

60 - システム状況: この重大度のメッセージは、システム・オペレーターに対してのみ出されます。この種のメッセージは、入出力装置、サブシステム、またはシステム全体についての状況あるいは注意を示します。

70 - 装置保全: この重大度のメッセージは、システム・オペレーターに対してのみ出されます。このメッセージは、ある装置が誤動作状態にあるか、または何らかの動作不能状態になっていることを示します。ユーザーがシステム操作を復元できる場合も、サービス技術員の援助が必要な場合もあります。

80 - システム警報: この重大度のメッセージは、システム・オペレーターに対してのみ出されます。このメッセージは、システムをただちに停止しなければならないほど深刻ではありませんが、何らかの予防措置を取らない限り、事態がさらに悪化する可能性があるということを警告するものです。

90 - システム保全: この重大度のメッセージは、システム・オペレーターに対してのみ出されます。このメッセージは、サブシステムまたはシステム全体が操作不能になった状態を示しています。

99 - 処置: この重大度のメッセージは、応答の入力、印刷用紙の変更、またはディスクットの交換などの、手操作による何らかの処置が必要であることを示しています。

SPLNBR パラメーター

1 つのジョブで複数のスプール・ファイルを作成し、すべてのスプール・ファイルが同じ名前である場合には、スプール・ファイル番号 (SPLNBR) パラメーターを使用します。ファイルには、1 から始まり、ジョブがファイルをオープンする順序に従って番号が付けられます。ジョブ・ログは常に、ジョブの最後のファイルになります。

ファイル番号は、ジョブで各ファイルをオープンする (出力レコードを作成する) 際に生成され、システムにそのジョブまたはファイル (あるいはその両方) が存在している間は、システムにより使用されます。ファイルが 2 回以上オープンされたためにそれぞれに固有の名前が付いていない場合は、このファイル番号を使用して、CL コマンドの処理するファイル (または、ファイルがまだ完成していない場合にはレコード群) を指定します。

TEXT パラメーター

TEXT パラメーターは、作成または変更するオブジェクトを簡潔に説明するユーザー定義の記述を指定します。この記述には、最高 50 文字まで入れることができます。引用符付きストリング (すなわち、アポストロフィで囲まれているストリング) の場合には、256 個の EBCDIC 文字のどれでも指定できます。ストリングに空白およびその他の特殊文字が含まれていない場合は、アポストロフィは不要です。50 の文字位置のうち指定した記述に満たない桁は、空白で埋められます。

この記述は、オブジェクト記述表示 (DSPOBJD) コマンドを用いて指定のオブジェクトを画面に表示する場合に、OS/400 オブジェクトを説明するために使用されます。ユーザーが表示できるのは、オブジェクト操作権を持っているオブジェクトのみです。OS/400 のオブジェクト・タイプのリストについては、175 ページの『OBJTYPE パラメーター』の説明を参照してください。

データベース・ソース・ファイルを用いて、何らかのタイプのオブジェクトを作成するコマンドの場合は、(省略時では) ソース・ファイル・メンバーのテキストを、新たに作成するオブジェクトのテキストとして使用できます。たとえば、CL プログラムを作成するのに制御言語プログラム作成 (CRTCLPGM) コマンドを使用する場合、TEXT パラメーターにテキストを指定しなければ、ソース・ファイル (SRCFILE パラメーター) のソース・ファイル・メンバー (SRCMBR パラメーター) に指定されているテキストが、CL プログラムの記述テキストとして使用されます。

指定可能な値

TEXT パラメーターには、使用するコマンドに応じて、次の値のうち 1 つ以上を使用することができます。

***SRCMBRTXT:** データベース・ソース・ファイルに基づいてオブジェクトを作成するコマンドの場合に限り、指定したソース・メンバーのテキストが使用されます。装置またはインライン・ファイルをソース入力として使用する場合、またはソース入力を使用しない場合には、テキストは空白になります。

***BLANK:** 作成または変更するオブジェクトのユーザー記述は空白のままです。

***SAME:** ユーザー定義のテキストは変更されません。

'記述': 作成または変更するオブジェクトについての説明を指定してください。オブジェクトを説明するために、最高 50 文字をアポストロフィで囲んで (空白およびその他の特殊文字が含まれている場合には必須) 指定できます。アポストロフィを 50 文字のうち 1 文字として使用する場合、アポストロフィの文字を表すには 1 重でなく 2 重のアポストロフィ (') を使用する必要があります。

VOL パラメーター


ボリューム (VOL) パラメーターは、ディスク操作、テープ操作、または光ディスク操作で使用するボリュームのボリューム識別コードを指定します。1 ディスク・ボリュームは、1 枚のディスクで構成され、1 テープ・ボリュームは、1 リールのテープで構成されます。1 光ディスク・ボリュームは、光ディスク・カートリッジの片面か、1 枚の CD-ROM で構成されます。光ディスク・カートリッジには両面があり、それぞれの面は別個のボリュームになります。

ボリューム識別コードは、そのディスク、テープ、または光ディスクを識別する識別コードであり、各ディスク、テープ、または光ディスク (のラベル域) に保管されています。複数のディスク (ボリューム) を操作する場合は、VOL パラメーターに識別コードを指定した順序と同じ順序で、それらのディスク (ボリューム) をディスク・ドライブに入れる必要があります。ボリューム識別コードが抜けている場合や、順序が正しくない場合は、システム・オペレーターに照会メッセージが送られます。

テープ・ボリュームは、テープ装置ファイル・コマンドの VOL パラメーターに指定した識別コードと同じ順序で、かつ DEV パラメーターに指定した装置名の順序に従って、テープ装置にセットしなければなりません。ただし、テープが逆方向に読み取られる (COBOL でサポートされている機能) 場合は、VOL パラメーターに指定した順序とは逆の順序でボリュームをセットします。この場合にも、DEV パラメーターに指定する装置名の順序は正方向読み取りの順序です。

一般に、ディスク・ボリュームおよびテープ・ボリュームの識別コードを指定するための規則として、6 桁までの文字および数字を任意に組み合わせて使用することができます。識別コードをアポストロフで囲めば、特殊文字も使用することができます。ただし、そのディスクまたはテープを iSeries 400 以外のシステムでも使用する場合は、そのシステムでの識別コードの指定に関する要件も考慮しなければなりません。

光ディスク・ボリューム識別コードには、32 文字まで指定することができ、数字と大文字を一緒に使用することができます。光ディスク・ボリューム識別コードは、固有のものを指定してください。同じ識別コードを持つ 2 つの光ディスク・ボリュームを、同時にシステムに提示することはできません。光ディスク・

ボリューム ID に関するすべての規則のリストは、「**オブティカル・サポート**」 に記載されています。

データ交換形式のディスクおよびラベル付きテープについては、次の規則が適用されます。

- 文字: 各ボリューム識別コードを 6 文字まで指定することができます。英字および数字をどのような順序で指定しても差し支えありません。
- 固有性: 複数のボリュームに同じ識別コードを付けることができます。複数のボリュームに同じ識別コードを使用したファイルがある場合は、システムは各ボリュームに書き込まれた順序番号を用いて、内部的に順序を追跡します。ただし、各ボリュームには、できる限り固有の識別コードを付けてください。
- 順序: 1 つの操作で (識別コードの異なる) 複数のボリュームを使用する場合には、それらのボリュームは、VOL パラメーターに指定したボリューム識別コードと同じ順序になっていなければなりません。

マルチボリューム・ファイル

ディスクがマルチボリューム・ファイル (すなわち、1 つのデータ・ファイルが同じ名前でも、複数のディスクにわたっている) の場合は、最初のボリューム以降、すべてのボリュームの処理が終わるまで、ディスク・ボリュームごとにシステム・オペレーターにメッセージが送られます。1 つのファイルに 100 枚を超えるディスクが使用されている場合 (S/R 形式の場合のみ) は、最初の 100 枚 (01 から 99 および 00) のディスクの後ろのディスクには最初の 100 枚と重複したディスク順序番号が付くこととなります。ファイルから 100 枚のディスクの書き込みを行うごとに、書き込まれたディスケ

ットの合計数を示すメッセージがシステム・オペレーターに送られます。このようなディスクセットを読み取る場合には、ディスクセット・ボリュームを挿入する順序はオペレーターが決めなければなりません。

操作に使用する複数のボリューム (テープまたはディスク) が、すべて同一のボリューム識別コードを持っている場合は、使用する各ボリュームごとに 1 回ずつ、その識別コードを VOL パラメーターに指定しなければなりません。たとえば、QGPL という名前の 3 つのテープを保管操作に使用する場合は、VOL(QGPL QGPL QGPL) を指定する必要があります。

テープのマルチボリューム・ファイルを処理する際に、複数のテープ装置を使用する場合は、VOL パラメーターに指定した順序と同じ順序で、テープ・ボリュームをテープ装置にセットしなければなりません。たとえば、5 個のボリュームと 3 台のテープ装置を使用する場合には、VOL1 は装置 1 に、VOL2 は装置 2 に、VOL3 は 3 に、VOL4 は装置 1 に、そして VOL5 は装置 2 にそれぞれセットします。

指定可能な値

***MOUNTED:** 装置内に現在置かれているボリュームが使用されます。

***NONE:** ボリューム識別コードは指定されません。

***SAME:** 前に指定されているボリューム識別コードは変更されません。

***SAVVOL:** システムは、保管 / 復元ヒストリーの情報を用いて、最新の保管バージョンが、どのテープまたはディスクセットに入っているかを判断します。復元コマンドの DEV パラメーターに指定された装置が、当該オブジェクトの最新バージョンの保管されている装置と一致しない場合は、ユーザーにエラー・メッセージが戻され、その機能は終了します。コマンドに指定されている装置に誤ったボリュームが取り付けられている場合は、復元操作を始める前にまずセットしなければならないボリュームを示すメッセージが、システム・オペレーターに戻されます。

ボリューム識別コード: 1 つ以上のボリュームの識別コードを、装置に装着して使用する順序で指定します。各テープまたはディスクのボリューム識別コードには、最大 6 文字の英数字が入ります。各光ディスク・ボリューム識別コードには、最大 32 文字が使用されます。複数の識別コードをリストするときには、ブランクが区切り記号として使用されます。

WAITFILE パラメーター

WAITFILE パラメーターを使用すると、次について指定できます。

- ファイルのオープン時にファイル資源が割り振られる間、プログラムが待機する最大秒数。
- APPC 装置に対して呼び出し機能が出されたときのセッション資源について
- 獲得操作を実行してファイルを読み取る際、割り振られる装置について

プログラムが待機しなければならない場合には、該当する資源が使用可能になるまで、またはこの待ち時間が切れるまで、待機状態になります。2 つ以上のファイル資源が必要で、それらのファイル資源がほかのシステム・ユーザーにより使用されているために使用できない場合は、プログラムはそれぞれの資源の割り振りを個別に待たなければならないことになります。このパラメーターに指定した最大値は、個々の待機状態ごとに適用されます。

待ち時間の長さは、このパラメーターで指定することも、オブジェクトに適用されるクラスの省略時の待ち時間を使用することもできます。指定した秒数の時間内にファイル資源が割り振られなかった場合は、プログラムにエラー・メッセージが戻されます。

割り振りの必要なファイル資源は、オープンされるファイルのタイプによって決まります。ファイル資源は、以下のものから成ります。

- スプールされない (SPOOL(*NO) が指定された) 装置ファイルの場合、ファイル資源には、ファイル記述および装置記述が含まれます。装置記述の割り振りが必要なために、該当の装置自体も使用可能になっていなければなりません。
- スプールされる (SPOOL(*YES) が指定された) 装置ファイルの場合、ファイル資源には、ファイル記述、指定した出力待ち行列、および、システム内でスプール・データのために使用される記憶域が含まれます。データはスプールされるので、装置記述 (および装置自体) が使用可能である必要はありません。
- データベース・ファイルの場合、ファイル資源は、ファイル・データおよびメンバー・データにより構成されています。ファイルの関連メンバーのパスはアクセスされません。したがって、システムがその関連メンバーを待機することはありません。アクセス・パスが使用可能でない場合 (たとえばアクセス・パスが再作成中の場合) には、WAITFILE の指定時間が切れる前にファイルのオープン例外エラーが起きることがあります。

オブジェクト割り振り (ALCOBJ) コマンドを用いて、ファイルがオープンされる前に、特定のファイル資源を割り振ることができます。

APPC 装置による会話のために割り振られたセッション資源は、アプリケーション・プログラムが切り離し機能を出すか切り離し指示を受け取ってから別の呼び出し機能が出るまでの間に失われることがあります。セッション資源が失われた場合には、このパラメーターの値に基づいて、別のセッション資源の割り振りをシステムが待つ時間が決まります。

指定可能な値

***IMMED:** プログラムは待機しません。ファイルのオープン時に、ファイル資源の即時割り振りが必要になります。

***CLS:** クラス記述に指定されている省略時の待ち時間が、ファイル資源の割り振りの待ち時間として使用されます。

秒数: ファイル資源の割り振りをプログラムが待つ場合の、最大許容時間を秒単位で指定してください。有効な値の範囲は 1 から 32767 秒です。

CL コマンドで使用されるデータベースおよび装置ファイル

IBM 提供の CL コマンドの多くは、処理時にデータベース・ファイルおよび装置ファイルを使用します。この項では、コマンドとコマンドが使用する IBM 提供ファイルを相互に参照できます。次の基準を満たすすべてのライセンス・プログラムのすべてのコマンドおよびファイルも記載されています。

- 記載されているファイルのタイプは、以下のとおりです。
 - データベース・ファイル: データが入っているファイルや、モデル・ファイルとして使用されるファイル (データなし) を含む、物理ファイル (PF) および論理ファイル (LF)。
 - 装置ファイル: ディスケット (DKTF)、テープ (TAPF)、および印刷装置 (PRTF)
- プログラムで宣言して別のファイルで一時変更できるようにするなど、ユーザーが使用する可能性のあるファイルのみが記載してあります。使用例を 2 つ示します。
 - 使用するフォント (FONT パラメーター) や印刷される 1 インチあたりの行数 (LPI パラメーター) など、印刷装置ファイルの属性のいくつかを変更する
 - IBM 提供のファイルをユーザー自身の出力ファイルで一時変更する (可能な場合)

この項に記載されていないファイル・タイプは、以下のとおりです。

- iSeries 400 提供の表示 (DSPF) 装置ファイル。これらのファイルを変更したり、一時変更したりしてはならないためです。
- ディレクトリー・コマンド、文書ライブラリー・オブジェクト・コマンド、および光ディスク索引データベース・ファイルによって使用される、iSeries 400 提供のデータベース・ファイルの大部分。これらのファイルは一時変更できないためです。

上述のように、特定のコマンドのモデル・ファイルとして使用される IBM 提供の物理 (PF) ファイルまたは論理 (LF) ファイルが、次の表にまとめてあります。(DSPFD コマンド、DSPJRN コマンド、および STRPFRMON コマンドのところにリストされているモデル・ファイルがその例です)。ほとんどの場合、これらのモデル・ファイルにはデータは含まれません。代わりに、コマンドを使用した結果得られる実際の出力データを保管するファイルの定義 (すなわちレコード様式) を含んでいます。これらのファイルのレコード様式については、オンラインでファイル記述を表示するか、そのコマンドについて記載している資料またはソフトコピー・マニュアルを参照してください。

さらに、IBM 提供のファイルであると見なされるファイルの中には、そのファイルを必要とする機能が使用されるまでは実際にはシステムに存在せず、必要になった時点で作成されるものもあります。

次の注では、コマンドおよびファイルの表の分類方法と、表で使われている肩文字の意味について説明します。

表の注:	
1.	表の最初の欄には、iSeries 400 提供のファイル (3 番目の欄に示されています) を使用する CL コマンドがリストされています。表の中の項目は、まず、コマンド名 のアルファベット順に並べられています。1 つのコマンドに対して複数のライブラリーが存在する場合、項目はさらにファイルのライブラリー名 順に並べられており、その後、各ライブラリー内のファイル名 ごとに並べられています。
2.	<p>ファイルの説明に肩文字 1 (1) が付いているファイルは、コマンドからの出力がそのコマンドの出力関連のパラメーターによって出力される形式に送信される場合にのみ使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 番号 ¹ が印刷装置ファイル (PRTF) 記述の末尾に付いている場合は、印刷装置ファイルが、ジョブ環境、およびコマンドに指定 (想定) された印刷関連の値に応じて使用されることを示します。コマンド (主に DSPxxx コマンドおよび WRKxxx コマンド) に OUTPUT パラメーターを指定する場合、バッチ・ジョブで OUTPUT(*) を指定するか、バッチ・ジョブまたは対話式ジョブで OUTPUT(*PRINT) を指定すると、出力が印刷されます。その他のコマンドの場合は、それぞれのパラメーターで *PRINT、*LIST、*SRC の値を指定すると、出力が印刷されます。 番号 ¹ がデータベース・ファイル (PF または LF) 記述の末尾に付いている場合は、データベース・ファイルがコマンドに指定 (想定) された印刷関連の値に応じて使用されることを示します。コマンド (主に DSPxxx コマンドおよび SAVxxx コマンド) に OUTPUT パラメーターを指定する場合、OUTPUT(*OUTFILE) を指定すると、出力がデータベース・ファイルに送信されます。*OUTFILE に類似する値をパラメーターの 1 つに指定するその他のコマンドについても、同じことが言えます。
3.	ファイルの説明に 肩文字 2 (2) が付いているファイルは、出力ファイルではなくモデル・ファイル です。モデル・ファイルでは、実際の出力を入れるために作成されるファイルのレコード様式を定義します。
4.	ファイル・ライブラリーとして「ユーザー・ライブラリー」と示されているファイルは、ユーザーがこれらのファイルを作成しない限り、システムには存在しません。このコマンドを使用すると、ユーザーの指定したライブラリーに、示されたファイル名でファイルが作成されます。

表 2. CL コマンドで使用されるファイル

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
ADDDOCCVN	QUSRSYS	QAO1CRL	LF	入出力用の文書変換論理ファイル。
	QUSRSYS	QAO1CVNP	PF	入出力用の文書変換物理ファイル。
	QUSRSYS	QAO1DCVN	PRTF	文書変換印刷装置ファイル。
ADDDSTQ	QUSRSYS	QASNADSQ	PF	SNADS 配布待ち行列テーブル。
ADDDSTRTE	QUSRSYS	QASNADSQ	PF	SNADS 配布待ち行列テーブル。
	QUSRSYS	QASNADSR	PF	SNADS 経路指定テーブル。
ADDDSTSYSN	QUSRSYS	QASNADSA	PF	SNADS 2 次ノード ID テーブル。

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
ADDNETJOBE	QUSRSYS	QANFNJE	PF	ネットワーク・ジョブ項目データベース・ファイル。
ADDSOCE	QUSRSYS	QAALSOC	PF	制御範囲ファイル。
ADDTAPCTG	QUSRSYS	QATAMID	PF	カートリッジ ID DB ファイル。
	QUSRSYS	QLTAMID	LF	カートリッジ ID 論理ファイル。
	QUSRSYS	QATACGY	PF	カテゴリー DB ファイル。
	QUSRSYS	QLTACGY	LF	カテゴリー論理ファイル。
ADDTCPHTE	QUSRSYS	QATOCHOST	PF	TCP/IP ホスト・ファイル。
ADDTCPIFC	QUSRSYS	QATOCIFC	PF	TCP/IP 構成ファイル。
ADDTCPPORT	QUSRSYS	QATOCPORT	PF	TCP/IP 構成ファイル。
ADDTCPRSI	QUSRSYS	QATOCRSI	PF	TCP/IP 構成ファイル。
ADDTCPRTE	QUSRSYS	QATOCRTE	PF	TCP/IP 構成ファイル。
ADDTXTIDXE	QUSRSYS	QABBADMTB	PF	OfficeVision テキスト検索サービス管理テーブル。
ANSQST	QSYS	QPQAPRT	PRTF	質問回答印刷装置ファイル。
ANZACCGRP	QPFR	QAPTDDS	PF	パフォーマンス・データ DDS ソース・ファイル。
	QPFR	QAPTPAGD	PF	処理アクセス・グループ (PAG) 内のファイルおよびプログラムのパフォーマンス・データベース入力ファイル。
	QPFR	QPPTPAG	PRTF	環境、ジョブ、ファイル、およびプログラムの要約データを含む PAG データの印刷装置ファイル。
ANZDBF	QPFR	QAPTAZDR	PF	パフォーマンス・データ収集ファイル: アプリケーション・データベース・ファイル分析データ。

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QPFR	QAPTDDS	PF	パフォーマンス・データ DDS ソース・ファイル。
	QPFR	QPPTANZD	PRTF	物理から論理へのデータベース・ファイルの関係と論理から物理へのデータベース・ファイルの関係を示すパフォーマンス印刷装置ファイル。
ANZDBFKEY	QPFR	QAPTAZDR	PF	論理ファイルのキー構造を示す、アプリケーション・データベース・ファイル分析データのパフォーマンス・入力ファイル。
	QPFR	QAPTDDS	PF	パフォーマンス・データ DDS ソース・ファイル。
	QPFR	QPPTANKM	PRTF	論理ファイル・キー構造データを含むパフォーマンス印刷装置ファイル。
	QPFR	QPPTANZK	PRTF	アクセス・パスおよびレコード選択データを含むパフォーマンス・印刷装置ファイル。
ANZPFRDTA	QSYS	QAPMxxxx	PF	QAPMxxxx パフォーマンス・データ収集ファイル。ここで、xxxx は、 ASYN、BSC、 CIOP、CONF、DIOP、 DISK、ECL、ETH、 HDLC、IDLC、JOBS、 LAPD、LIOP、MIOP、 POOL、SYS、および X25 です。 ²
	QPFR	QPAVPRT	PRTF	アドバイザーのレポートを含む、パフォーマンス印刷装置ファイル。 ¹

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
ANZPGM	QPFR	QAPTAZPD	PF	パフォーマンス・データ収集ファイル: アプリケーション・プログラム分析データ。
	QPFR	QPPTANZP	PRTF	プログラムからファイルへの関係とファイルからプログラムへの関係を示すパフォーマンス印刷装置ファイル。
ASKQST	QSYS	QPQAPRT	PRTF	質問回答印刷装置ファイル。
CFGDSTSRV	QUSRSYS	QASNADSA	PF	SNADS 2 次ノード ID テーブル。
	QUSRSYS	QASNADSQ	PF	SNADS 宛先待ち行列テーブル。
	QUSRSYS	QASNADSR	PF	SNADS 宛先システム経路指定テーブル。
CFGTCP	QUSRSYS	QATOCIFC	PF	TCP/IP インターフェース・ファイル。
	QUSRSYS	QATOCRTE	PF	TCP/IP 経路ファイル。
	QUSRSYS	QATOCTCPIP	PF	TCP/IP 属性ファイル。
	QUSRSYS	QATOCPORT	PF	TCP/IP ポート制約条件ファイル。
	QUSRSYS	QATOCRSI	PF	TCP/IP RSI ファイル。
	QUSRSYS	QATOCHOST	PF	TCP/IP ホスト名ファイル。
	QUSRSYS	QATOCPS	PF	TCP/IP サービス・ファイル。
CFGTCPSMTP	QUSRSYS	QATMSMTP	PF	TCP/IP SMTP ファイル。
	QUSRSYS	QATMSMTPA	PF	TCP/IP SMTP ファイル。
CHGDOCCVN	QUSRSYS	QAO1CRL	LF	入出力用の文書変換論理 ファイル。
CHGDTA	QIDU	QDTALOG	PRTF	監査制御ログ印刷装置ファイル。
	QIDU	QDTAPRT	PRTF	レコードおよびアキュムレーターの合計印刷装置ファイル。

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QSYS	QPDZDTALOG	PRTF	DFU 実行時監査ログ。
	QSYS	QPDZDTAPRT	PRTF	DFU 実行時印刷装置データ・ファイル。
CHGDSTQ	QUSRSYS	QASNADSQ	PF	SNADS 配布待ち行列テーブル。
CHGDSTRTE	QUSRSYS	QASNADSQ	PF	SNADS 配布待ち行列テーブル。
	QUSRSYS	QASNADSR	PF	SNADS 経路指定テーブル。
CHGFTP	QUSRSYS	QATMFTP	PF	TCP/IP FTP 構成ファイル。
CHGHTTP	QUSRSYS	QATMHTTP	PF	TCP/IP HTTP ファイル。
CHGLPDA	QUSRSYS	QATMLPD	PF	TCP/IP LPD 構成ファイル。
CHGPOPA	QUSRSYS	QATMPOPA	PF	POP サーバー構成ファイル。
CHGPRB	QUSRSYS	QASXNOTE	PF	問題ログのユーザー注記ファイル。
	QUSRSYS	QASXPROB	PF	問題ログの問題ファイル。
CHGQSTDB	QSYS	QPQAPRT	PRTF	質問回答印刷装置ファイル。
CHGSMTPA	QUSRSYS	QATMSMTP	PF	TCP/IP SMTP 構成ファイル。
CHGTAPCTG	QUSRSYS	QATAMID	PF	カートリッジ ID データベース・ファイル。
	QUSRSYS	QATAMID	LF	カートリッジ ID 論理データベース・ファイル。
CHGTCPA	QUSRSYS	QATOCTCPIP	PF	TCP/IP 属性ファイル。
CHGTCPHTE	QUSRSYS	QATOCHOST	PF	TCP/IP ホスト・ファイル。
CHGTCPIFC	QUSRSYS	QATOCIFC	PF	TCP/IP インターフェース・ファイル。
CHGTCPRTE	QUSRSYS	QATOCRTE	PF	TCP/IP 経路ファイル。
CHGTELNA	QUSRSYS	QATMTELN	PF	TCP/IP TELNET 構成ファイル。
CHKTAP	QSYS	QSYSTAPE	TAPF	テープ出力用の印刷装置ファイル。

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
CLRDKT	QSYS	QSYSDKT	DKTF	出力に使用するディスク装置ファイル。
CMPJRNIMG	QSYS	QPCMPIMG	PRTF	ジャーナル・イメージ比較印刷装置ファイル。
CPYF	QSYS	QSYSPRT	PRTF	コピー・ファイル印刷装置ファイル。 ¹
CPYFRMDKT	QSYS	QSYSPRT	PRTF	コピー・ファイル印刷装置ファイル。 ¹
CPYFRMQRYF	QSYS	QSYSPRT	PRTF	コピー・ファイル印刷装置ファイル。 ¹
CPYFRMTAP	QSYS	QSYSPRT	PRTF	コピー・ファイル印刷装置ファイル。 ¹
CPYIGCTBL	QSYS	QSYSDKT	DKTF	入出力に使用するディスク装置ファイル。
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	入出力に使用するテープ装置ファイル。
CPYPFRDTA	QSYS	QAPMxxxx	PF	QAPMxxxx パフォーマンス・データ収集ファイル。ここで、xxxx は、 ASYN、BSC、 BUS、CIOP、CONF、 DIOP、DISK、DMPT、 ECL、ETH、HDLC、 IOBS、JOBS、LIOP、 MIOP、POOL、RESP、 RWS、SBSD、SYS、 TSK、および X25 です。 ²
CPYPTF	QSYS	QSYSDKT	DKTF	入出力に使用するディスク装置ファイル。
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	入出力に使用するテープ装置ファイル。
CPYSRCF	QSYS	QSYSPRT	PRTF	コピー・ファイル印刷装置ファイル。 ¹
CRTAPAR	QSYS	QSYSDKT	DKTF	出力に使用するディスク装置ファイル。
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	出力に使用するテープ装置ファイル。
CRTBNDC	QGPL	QCSRC	PF	C/400 ソース省略時入力ファイル。

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
CRTBND CBL	QGPL	QCBLLSRC	PF	ILE COBOL/400 ソース省略時入力ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PF	ILE COBOL/400 ソース・リスト印刷装置ファイル。
CRTBND CL	QGPL	QCLSRC	PF	CL ソース省略時入力ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	CL ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹
CRTBNDRPG	QGPL	QRPGLESRC	PF	ILE RPG/400 ソース省略時入力ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	ILE RPG/400 ソース・リスト印刷装置ファイル。
CRTCBLMOD	QGPL	QCBLLSRC	PF	ILE COBOL/400 ソース省略時入力ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PF	ILE COBOL/400 ソース・リスト印刷装置ファイル。
CRTCBLPGM	QGPL	QLBLSRC	PF	COBOL/400 ソース省略時入力ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	COBOL/400 ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹
CRTCLD	QGPL	QCLDSRC	PF	C ロケール記述省略時ソース入力ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	C ロケール記述ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹
CRTCLMOD	QGPL	QCLSRC	PF	CL ソース省略時入力ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	CL ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹
CRTCLPGM	QGPL	QCLSRC	PF	CL ソース省略時入力ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	CL ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹
CRTCMD	QGPL	QCMDSRC	PF	コマンド定義ソース省略時入力ファイル。

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	コマンド定義ソース・リスト印刷装置ファイル。
CRTCMOD	QGPL	QCSRC	PF	C/400 ソース省略時入力ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	C/400 ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹
CRTDSPF	QGPL	QDDSSRC	PF	DDS ソース省略時入力ファイル。
	QSYS	QPDDSSRC	PRTF	DDS ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹
CRTICFF	QGPL	QDDSSRC	PF	DDS ソース省略時入力ファイル。
	QSYS	QPDDSSRC	PRTF	DDS ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹
CRTLASREP	QGPL	QAOIASCI	PF	省略時のソース物理ファイル。
	QGPL	QAOIASCM	PF	省略時のソース入力ファイル。
	QGPL	QAOIASCT	PF	省略時のメタテーブル・ファイル。
	QOSI	QAOIXLAT	PF	変換ファイル。
CRTLTF	QGPL	QDDSSRC	PF	DDS ソース省略時入力ファイル。
	QSYS	QPDDSSRC	PRTF	DDS ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹
CRTMNU	QGPL	QMNUSRC	PF	省略時のメニュー・ソース入力ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	メニュー・ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹
CRTMSGFMNU	QGPL	QDDSSRC	PF	\$BMENU によってメニュー用に作成された DDS ソース。
	QGPL	QS36DDSSRC	PF	\$BMENU によってメニュー用に作成された DDS ソース。
	QSSP	QPUTMENU	PRTF	\$BMENU ソース・リスト印刷装置ファイル。

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	Pascal ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹
CRTPF	QGPL	QDDSSRC	PF	DDS ソース省略時入力ファイル。
	QSYS	QPDDSSRC	PRTF	DDS ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹
CRTPGM	QSYS	QSYSPRT	PRTF	プログラム・ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹
CRTPNLGRP	QGPL	QPNLSRC	PF	省略時のパネル・グループ・ソース入力ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	パネル・グループ・ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹
CRTPRTF	QGPL	QDDSSRC	PF	DDS ソース省略時入力ファイル。
	QSYS	QPDDSSRC	PRTF	DDS ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹
CRTQSTDB	QSYS	QAQA00xxxx	LF	質問回答データベース・モデル・ファイル。 ²
	QSYS	QAQA00xxxx	PF	質問回答データベース・モデル・ファイル。 ²
CRTQSTLOD	QSYS	QPQAPRT	PRTF	質問回答印刷装置ファイル。
CRTRJEBSCF	QRJE	QRJESRC	PF	RJE BSC ファイルの作成に使用する DDS ソース・ファイル。
CRTRJECFG	QRJE	QRJESRC	PF	RJE BSC または RJE 通信ファイルの作成に使用する DDS ソース・ファイル。
CRTRJECMNF	QRJE	QRJESRC	PF	RJE 通信ファイルの作成に使用する DDS ソース・ファイル。
CRTRPGMOD	QGPL	QRPGLSRC	PF	ILE RPG/400 ソース省略時入力ファイル。

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QSYS	QSYSVRT	PRTF	ILE RPG/400 ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹
CRTRPGPGM	QGPL	QRPGSRC	PF	RPG ソース省略時入力ファイル。
	QSYS	QSYSVRT	PRTF	RPG ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹
CRTRPTPGM	QGPL	QRPGSRC	PF	RPG ソース省略時入力ファイル。
	QSYS	QSYSVRT	PRTF	RPG ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹
CRTSQLC	QGPL	QCSRC	PF	SQL C ソース・ファイル。
	QSYS	QSYSVRT	PRTF	SQL C 印刷装置ファイル。 ¹
CRTSQLCI	QGPL	QCSRC	PF	SQL C ソース・ファイル。
	QSYS	QSYSVRT	PRTF	SQL C 印刷装置ファイル。 ¹
CRTSQLCBL	QGPL	QLBLSRC	PF	SQL COBOL ソース・ファイル。
	QSYS	QSYSVRT	PRTF	SQL COBOL 印刷装置ファイル。 ¹
CRTSQLCBLI	QGPL	QCBLESRC	PF	SQL COBOL ソース・ファイル。
	QSYS	QSYSVRT	PRTF	SQL COBOL 印刷装置ファイル。 ¹
CRTSQLFTN	QGPL	QFTNSRC	PF	SQL FORTRAN ソース・ファイル。
	QSYS	QSYSVRT	PRTF	SQL FORTRAN 印刷装置ファイル。 ¹
CRTSQLPLI	QGPL	QPLISRC	PF	SQL PLI ソース・ファイル。
	QSYS	QSYSVRT	PRTF	SQL PLI 印刷装置ファイル。 ¹
CRTSQLRPG	QGPL	QRPGSRC	PF	SQL RPG ソース・ファイル。
	QSYS	QSYSVRT	PRTF	SQL RPG 印刷装置ファイル。 ¹
CRTSQLRPGI	QGPL	QRPGLESRC	PF	SQL RPG ソース・ファイル。
	QSYS	QSYSVRT	PRTF	SQL RPG 印刷装置ファイル。 ¹

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
CRTSRVPGM	QSYS	QSYSPRT	PRTF	サービス・プログラム・ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹
CRTS36CBL	#LIBRARY	QS36SRC	PF	S/36 互換 COBOL ソース省略時入力ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	S/36 互換 COBOL ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹
CRTS36DSPF	QGPL	QDDSSRC	PF	\$\$FGR によって表示装置ファイル用に作成された DDS ソース。
	QGPL	QS36DDSSRC	PF	\$\$FGR によって表示装置ファイル用に作成された DDS ソース。
	QSSP	QPUTSFGR	PRTF	\$\$FGR ソース・リスト印刷装置ファイル。
CRTS36MNU	QGPL	QDDSSRC	PF	\$BMENU によってメニュー用に作成された DDS ソース。
	QGPL	QS36DDSSRC	PF	\$BMENU によってメニュー用に作成された DDS ソース。
	QSSP	QPUTMENU	PRTF	\$BMENU ソース・リスト印刷装置ファイル。
CRTS36RPG	#LIBRARY	QS36SRC	PF	システム /36 RPG II ソース省略時入力ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	システム /36 RPG II ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹
CRTS36RPGR	#LIBRARY	QS36SRC	PF	システム /36 RPG II ソース省略時入力ファイル。
CRTS36RPT	#LIBRARY	QS36SRC	PF	システム /36 RPG II 自動報告ソース省略時入力ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	システム /36 RPG II 自動報告ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
CRTTAPCGY	QUSRSYS	QATACGY	PF	ライブラリー装置データベース・ファイル。
	QUSRSYS	QLTACGY	LF	ライブラリー装置論理データベース・ファイル。
CRTTBL	QGPL	QTBLSRC	PF	テーブル・ソース省略時入力ファイル。
CVTPFRDTA	QPFR	QACPxxxx	PF	QACPxxxx パフォーマンス・データ収集ファイル。ここで、xxxx は、CNFG、GPHF、PROF、および RESP です。
	QPFR	QAITMON	PF	パフォーマンス・データ収集ファイル: ジョブおよびライセンス内部コードのタスク・データ。
	QSYS	QAPMyyyy	PF	QAPMyyyy パフォーマンス・データ収集ファイル。ここで、yyyy は、CIOP、CONF、DIOP、DISK、JOBS、LIOP、POOL、RESP、RWS、および SYS です。 ²
	QSYS	QAPMzzzz	PF	QAPMzzzz パフォーマンス・データ収集ファイル。ここで、zzzz は、ASYN、BSC、BUS、DMPT、ECL、ETH、HDLC、MIOP、および X25 です。 ²
	QPFR	QAPTAPGP	PF	機能域データのパフォーマンス・データ収集ファイル。
CVTRPGSRC	ユーザー・ライブラリー	QRPGSRC	PF	RPG/400 ソース・ファイル (元ファイル)。
	ユーザー・ライブラリー	QRPGLESRC	PF	ILE RPG/400 ソース・ファイル (宛先ファイル)。
	QSYS	QSYSPT	PRTF	ILE RPG/400 リスト印刷装置ファイル。

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	ユーザー・ライブラリー	QRNCVTLG	PF	ILE RPG/400 変換ログ・ファイル。
DLTALR	QUSRSYS	QAALERT	PF	警報データベース・ファイル。
DLTBESTMDL	ユーザー・ライブラリー	QACYMDLS	PF	キャパシティー・プランニング・モデルの BEST/I ファイル。
DLTPFRDTA	QPFR	QAPGSUMD	PF	グラフィック・データのパフォーマンス・データ収集ファイル。
	QSYS	QAPMxxxx	PF	QAPMxxxx パフォーマンス・データ収集ファイル。ここで、xxxx は、 ASYN、BSC、 BUS、CIOP、CONF、 DIOP、DISK、DMPT、 ECL、ETH、HDLC、 IOBS、JOBS、LIOP、 MIOP、POOL、RESP、 RWS、SBSD、SYS、 TSK、および X25 です。 ²
	QPFR	QAPTLOCKD	PF	パフォーマンス・データ収集ファイル: ロックと競合捕そくデータ。
	QPFR	QTRxxxx	PF	QTRxxxx パフォーマンス・データ収集ファイル。ここで、xxxxx は、 IDX、JOBT、 JSUM、SLWT、および TSUM です。
DLTPRB コマンド:				
DLTPRB コマンド用の 8 つの QASXxxxx ファイルは、すべて、DSPPRB コマンドの QUSRSYS ライブラリーに示したファイルのサブセットと同じです。これらのファイルの説明については、DSPPRB コマンドを参照してください。				
DLTPRB	QUSRSYS	QASXxxxx	PF	DSPPRB コマンドを参照してください。
DLTQST	QSYS	QPQAPRT	PRTF	質問回答印刷装置ファイル。
DLTQSTDB	QSYS	QPQAPRT	PRTF	質問回答印刷装置ファイル。

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
DLTTAPCGY	QUSRSYS	QATACGY	PF	ライブラリー装置データベース・ファイル。
	QUSRSYS	QLTACGY	LF	ライブラリー装置論理データベース・ファイル。
DMPCLPGM	QSYS	QPPGMDMP	PRTF	CL プログラム・ダンプ印刷装置ファイル。
DMPJOB	QSYS	QPSRVDMP	PRTF	サービス・ダンプ印刷装置ファイル。
DMPOBJ	QSYS	QPSRVDMP	PRTF	サービス・ダンプ印刷装置ファイル。
DMPYSOBY	QSYS	QPSRVDMP	PRTF	サービス・ダンプ印刷装置ファイル。
DMPTAP	QSYS	QPTAPDMP	PRTF	テープ・ダンプ印刷装置ファイル。
DMPTRC	QSYS	QAPMDMPT	PF	パフォーマンス追跡ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	SDA ソース印刷装置ファイル。
DSPACC	QSYS	QSYSPRT	PRTF	アクセス・コード表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPACCAUT	QSYS	QSYSPRT	PRTF	アクセス・コード表示権限印刷装置ファイル。 ¹
DSPACCGRP	QPFR	QAPTDDS	PF	パフォーマンス・データ DDS ソース・ファイル。
	QPFR	QAPTPAGD	PF	パフォーマンス・データ収集ファイル: 処理アクセス・グループ (PAG) 内のファイルおよびプログラムに関するデータ。
	QPFR	QPPTPAG	PRTF	処理アクセス・グループ表示印刷装置ファイル。 ¹
	QPFR	QPPTPAGD	PRTF	処理アクセス・グループ (PAG) 内のファイルおよびプログラムを含むパフォーマンス印刷装置ファイル。

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
DSPACTPJ	QSYS	QSYSPRT	PRTF	活動事前開始ジョブ表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPAPPNINF	QUSRSYS	QALSxxx	PF	APPN 情報の保管に使用するレコード様式を含む 4 つの QALSxxx モデル・データベース・ファイルのセット。ここで、xxx は、DIR、END、INM、および TDB です。 ²
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	APPN 情報表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPAUTHLR	QSYS	QADSHLR	PF	権限ホルダー・オブジェクト項目のレコード様式を含むモデル・データベース・ファイル。 ²
	QSYS	QPSYDShL	PRTF	権限ホルダー表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPAUTL	QSYS	QAOBJAUT	PF	権限リスト項目のレコード様式を含むモデル・データベース・ファイル。 ²
	QSYS	QPOBJAUT	PRTF	権限リスト項目印刷装置ファイル。 ¹
DSPAUTLDLO	QSYS	QSYSPRT	PRTF	権限リスト印刷装置ファイル。 ¹
DSPAUTLOBJ	QSYS	QADALO	PF	権限リスト・オブジェクト項目のレコード様式を含むモデル・データベース・ファイル。 ²
	QSYS	QPSYDALO	PRTF	権限リスト・オブジェクト表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPAUTUSR	QSYS	QPAUTUSR	PRTF	許可ユーザー印刷装置ファイル。 ¹
DSPBCKSTS	QSYS	QSYSPRT	PRTF	バックアップ状況表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPBCKUP	QSYS	QSYSPRT	PRTF	バックアップ・オプション表示印刷装置ファイル。 ¹

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
DSPBCKUPL	QSYS	QSYSPRT	PRTF	バックアップ・リスト表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPBKP	QSYS	QPDBGDSP	PRTF	停止点 (デバッグ・モード) 印刷装置ファイル。 ¹
DSPBNDDIR	QSYS	QABNDBND	PF	バインド・ディレクトリー項目のレコード様式を含むモデル・データベース・ファイル。 ²
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	バインド・ディレクトリー内容表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPCFGL	QSYS	QPDCCFGL	PRTF	構成リスト印刷装置ファイル。 ¹
DSPCHT	QSYS	QPGDDM	PRTF	BGU 定義の図表出力印刷装置ファイル。 ¹
DSPCLS	QSYS	QPDSCLS	PRTF	クラス印刷装置ファイル。 ¹
DSPCMD	QSYS	QPCMD	PRTF	コマンド値印刷装置ファイル。 ¹
DSPCNNL	QSYS	QPDCNNL	PRTF	接続リスト印刷装置ファイル。 ¹
DSPCNNSTS	QSYS	QSYSPRT	PRTF	接続状況印刷装置ファイル。 ¹
DSPCOSD	QSYS	QPDCCOS	PRTF	サービス・クラス記述印刷装置ファイル。 ¹
DSPCSI	QSYS	QSYSPRT	PRTF	通信サイド情報印刷装置ファイル。 ¹
DSPCTLD	QSYS	QPDCCTL	PRTF	制御装置記述印刷装置ファイル。 ¹
DSPDBG	QSYS	QPDBGDSP	PRTF	デバッグ表示 (デバッグ・モード) 印刷装置ファイル。 ¹
DSPDBR	QSYS	QADSPDBR	PF	データベース・ファイルの関係に関する情報を保管するために作成されるファイルのレコード様式を定義するモデル・データベース・ファイル。 ²

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QSYS	QPDSPDBR	PRTF	データベース・ファイルの関係に関する情報を含む印刷装置ファイル。 ¹
DSPDDMF	QSYS	QPDSPDDM	PRTF	分散データ管理 (DDM) ファイル・リスト印刷装置ファイル。 ¹
DSPDEVD	QSYS	QPDCDEV	PRTF	装置記述印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QAOSDIRO	PF	ディレクトリー表示出力ファイル: OUTFILFMT(*TYPE1)
	QSYS	QAOSDIRB	PF	ディレクトリー表示出力ファイル: OUTFILFMT(*TYPE2) DETAIL(*BASIC)
	QSYS	QAOSDIRF	PF	ディレクトリー表示出力ファイル: OUTFILFMT(*TYPE2) DETAIL(*FULL)
	QSYS	QAOSDIRX	PF	ディレクトリー表示出力ファイル: OUTFILFMT(*TYPE3) DETAIL(*FULL)
	QSYS	QPDSPDDL	PRTF	表示されるディレクトリー項目の全 詳細用の印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QPDSPDSM	PRTF	表示されるディレクトリー項目の基本 詳細用の印刷装置ファイル。 ¹
DSPDKT	QSYS	QPDSPKT	PRTF	基本データ交換形式のディスクレット用の印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QPSRODSP	PRTF	保管 / 復元形式のディスクレット用の印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QSYSDKT	DKTF	入力用のディスクレット装置ファイル。
DSPDLOAUT	QSYS	QSYSPRT	PRTF	文書ライブラリー・オブジェクト権限表示印刷装置ファイル。 ¹

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
DSPDLONAM	QSYS	QSYSPRT	PRTF	文書ライブラリー・オブジェクト表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPDSTL	QSYS	QAOSDSTO	PF	配布リスト出力ファイル。
	QSYS	QPDSPLDL	PRTF	配布リスト詳細印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QPDSPLSM	PRTF	配布リストの要約印刷装置ファイル。 ¹
DSPDSTCLGE	QVMSS	QACQFVOF	PF	MSS/400 配布カタログ項目表示コマンドの出力ファイル・モデル。 ²
DSPDSTLOG	QSYS	QPDSTD LG	PRTF	分散ログ表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPDSTSRV	QSYS	QPDSTSRV	PRTF	配布サービス印刷装置ファイル。 ¹
	QUSRSYS	QASNADSA	PF	SNADS 2 次ノード ID テーブル。
	QUSRSYS	QASNADSQ	PF	SNADS 宛先待ち行列テーブル。
	QUSRSYS	QASNADSR	PF	経路指定テーブル・データベース・ファイル。
DSPDTA	QIDU	QDTAPRT	PRTF	DFU 監査制御印刷装置ファイル。
	QSYS	QPDZDTALOG	PRTF	DFU 実行時監査ログ。
	QSYS	QPDZDTAPRT	PRTF	DFU 実行時印刷装置データ・ファイル。
DSPDTAARA	QSYS	QPDSPDTA	PRTF	データ域印刷装置ファイル。 ¹
DSPDTADCT	QSYS	QPDSPPFD	PRTF	データ・ディクショナリー印刷装置ファイル。 ¹
DSPEDTD	QSYS	QPDCEDSP	PRTF	編集記述印刷装置ファイル。 ¹

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
DSPFD コマンド: DSPFD コマンドの場合、次の項目のうちファイル・タイプが PF であるものはすべて物理ファイル (実際の出力ファイルではなく、モデル・ファイル) であり、ファイルのタイプ (またはグループ) に関する特定のタイプの情報を保管するために作成されるファイルのレコード様式を定義します。(TYPE パラメーターおよび FILEATR パラメーターの説明については、DSPFD コマンドを参照してください。これらのパラメーターは、これらのファイルを使用することになるすべての値を識別します。)したがって、各モデル・ファイルの記述の最後には 以下のような共通部分があります。共通部分の 前 に くる各記述の固有の部分は、 ファイルの用途 の欄に記載してあります。 ... を保管するために作成されるファイルのレコード様式を定義するモデル・データベース・ファイル。				
DSPFD	QSYS	QAFDACCP	PF	アクセス・パス・ファイル情報... ²
	QSYS	QAFDBASI	PF	すべてのファイルに共通の基本的なファイル情報... ²
	QSYS	QAFDBSC	PF	BSC ファイルおよび混合ファイルの装置属性情報... ²
	QSYS	QAFDCMN	PF	通信ファイルおよび混合ファイルの装置属性情報... ²
	QSYS	QAFDCSEQ	PF	照合順序情報... ²
	QSYS	QAFDCST	PF	制約関係情報... ²
	QSYS	QAFDDDM	PF	分散データ管理 (DDM) ファイル属性情報... ²
	QSYS	QAFDDKT	PF	ディスク・ファイル属性情報... ²
	QSYS	QAFDDSP	PF	表示装置ファイルおよび混合ファイルの表示装置属性情報... ²
	QSYS	QAFDICF	PF	ICF ファイル属性情報... ²
	QSYS	QAFDJOIN	PF	結合論理ファイル情報... ²
	QSYS	QAFDLGL	PF	論理ファイル属性情報... ²
	QSYS	QAFDMBR	PF	データベース・メンバー情報... ²
	QSYS	QAFDMBRL	PF	データベース・メンバー・リスト情報... ²
	QSYS	QAFDNGP	PF	ノード・グループ情報... ²


コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QSYS	QAFDPHY	PF	物理ファイル属性情報... ²
	QSYS	QAFDPRT	PF	印刷装置ファイル属性情報... ²
	QSYS	QAFDRFMT	PF	レコード様式情報... ²
	QSYS	QAFDSAV	PF	保管ファイル情報... ²
	QSYS	QAFDSELO	PF	選択 / 省略情報... ²
	QSYS	QAFDSPOL	PF	装置ファイルのプール情報... ²
	QSYS	QAFDTAP	PF	テープ・ファイル属性情報... ²
	QSYS	QAFDTRG	PF	トリガー情報... ²
	QSYS	QPDSPPFD	PRTF	ファイル記述印刷装置ファイル。 ¹
DSPFFD	QSYS	QADSPFFD	PF	ファイル・フィールド記述を保管するために作成されるファイルのレコード様式を定義するモデル・データベース・ファイル。 ²
	QSYS	QPDSPPFD	PRTF	ファイル・フィールド記述印刷装置ファイル。 ¹
DSPFLR	QSYS	QADSPDOC	PF	文書リスト出力データベース・ファイル。
	QSYS	QADSPFLR	PF	フォルダー・リスト出力データベース・ファイル。
	QSYS	QPDSPFRLR	PRTF	フォルダー表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPFNTRSCA	QSYS	QPDSPFNT	PRTF	フォント資源属性印刷装置ファイル。 ¹
DSPGDF	QSYS	QPGDDM	PRTF	BGU 定義のグラフィック・データ印刷装置ファイル。 ¹
DSPGNDDIR	QSYS	QABNDBND	PF	システム提供の出力ファイル。 ¹

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
DSPHDWRSC コマンド:				
<p>DSPHDWRSC コマンドの場合、次の項目のうちファイル・タイプが PF であるものはすべて物理ファイル (実際の出力ファイルではなく、モデル・ファイル) であり、特定のタイプのハードウェア資源情報を保管するために作成されるファイルのレコード様式を定義します。したがって、各モデル・ファイルの記述の最後には 以下のような共通部分があります。共通部分の前になる各記述の固有の部分は、ファイルの用途の欄に記載してあります。</p> <p>... に関する情報を保管するために作成されるファイルのレコード様式を定義するモデル・データベース・ファイル。</p>				
DSPHDWRSC	QSYS	QARZDCMN	PF	通信資源... ²
	QSYS	QARZDLWS	PF	ローカル・ワークステーションの資源... ²
	QSYS	QARZDPRC	PF	プロセッサ資源... ²
	QSYS	QARZDTRA	PF	トークンリング・ローカル・エリア・ネットワーク (TRLAN) アダプター資源... ²
	QSYS	QARZDSTG	PF	記憶装置資源... ²
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	ハードウェア資源印刷装置ファイル。 ¹
DSPHFS	QSYS	QSYSPRT	PRTF	階層ファイル・システム表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPHSTGPH	QPER	QPPGGPH	PRTF	ヒストリー・グラフ表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPIDXSTS	QUSRSYS	QABBADMTB	PF	OfficeVision テキスト検索サービス管理テーブル。
DSPIGCDCT	QSYS	QPDSPDCT	PRTF	DBCS 印刷装置ファイル。 ¹
DSPJOB	QSYS	QPDSJOB	PRTF	ジョブ表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPJOB	QSYS	QPDSJOB	PRTF	ジョブ表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPJOB	QSYS	QPDSJOB	PRTF	ジョブ表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPJOB	QSYS	QPDSJOB	PRTF	ジョブ表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPJOBLOG	QSYS	QPJOBLOG	PRTF	ジョブ・ログ印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QPJOBLOGO	PRTF	バージョン 2 リリース 3 より前の AS/400 用のジョブ・ログ印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QAMHJLPR	PF	1 次ジョブ・ログ・モデル・ファイル。 ²

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QSYS	QAMHJLSC	PF	2 次ジョブ・ログ・モデル・ファイル。 ²

DSPJRN コマンド:

DSPJRN コマンドの場合、以下のファイルのうち、ファイル・タイプが PF のものは、すべて物理ファイル (実際の実出力ファイルではなく、モデル・ファイル) であり、ジャーナル・レシーバーから取得および変換されたジャーナル項目のグループを保管するために作成されるファイルのレコード様式を定義します。検索する項目のグループは、ジャーナル処理されていれば、特定のタイプの情報でもすべてのタイプの情報でも構いません。作成された各ファイルには、検出されたジャーナル項目が、4 つの基本的な形式 (*TYPE1、*TYPE2、*TYPE3、または *TYPE4) のいずれか、あるいは検出対象の特定のタイプのデータに定義された形式に変換されて保管されます。

- *TYPE1: 「バックアップおよび回復の手引き」  で説明されている基本ファイル様式。
- *TYPE2: *TYPE1 のすべてとユーザー・プロファイル・フィールド。
- *TYPE3: *TYPE2 のすべてとヌル値標識。
- *TYPE4: *TYPE3 のすべてと JID (参照保全およびトリガー情報)。
- タイプ依存形式 - 検索される情報の特定のタイプ (4 番目以降のファイルについては以下で説明しています) に関連する形式。たとえば、モデル・ファイル QASYAFJE は、システムにおける権限障害 (AF) に関連するすべての検索されたジャーナル項目を保管するために、固有の形式を持ちます。

以下にリストされている DSPJRN PF ファイルについては、すべてのモデル・ファイル記述に、以下の太字で示すような共通部分があります。各ファイル記述の固有の部分は、**ファイルの用途**欄に記載されています。

... に関連する検索および変換されたジャーナル項目を入れるために作成されるファイルのレコード様式を定義するモデル・データベース・ファイル。

DSPJRN	QSYS	QADSPJRN	PF	特定のタイプ (またはすべてのタイプ) の情報 (*TYPE1 の形式で保管されます)... ²
	QSYS	QADSPJR2	PF	特定のタイプ (またはすべてのタイプ) の情報 (*TYPE2 の形式で保管されます)... ²
	QSYS	QADSPJR3	PF	特定のタイプ (またはすべてのタイプ) の情報 (*TYPE3 の形式で保管されます)... ²
	QSYS	QADSPJR4	PF	特定のタイプ (またはすべてのタイプ) の情報 (*TYPE4 の形式で保管されます)... ²
	QSYS	QADXERLG	PF	DSNX ログ・エラー... ²

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QSYS	QADXJRNL	PF	DSNX ログ・データ... ²
	SYS	QAJBACG	PF	ジョブ会計... ²
	QSYS	QALZALK	PF	無効なライセンス・キー... ²
	QSYS	QALZALL	PF	使用限度の拡大... ²
	QSYS	QALZALU	PF	使用限度を超過したライセンス・ユーザー... ²
	QSYS	QAPTACG	PF	印刷ジョブ会計... ²
	QSYS	QATOSLOG	PF	SNMP ログ項目... ²
	QSYS	QASYADJE	PF	属性の監査に対する変更... ²
	QSYS	QASYAFJE	PF	権限の障害... ²
	QSYS	QASYAPJE	PF	借用権限の使用... ²
	QSYS	QASYCAJE	PF	オブジェクト権限 (権限リストまたは権限オブジェクト) に対する変更... ²
	QSYS	QASYCDJE	PF	コマンド・ストリング... ²
	QSYS	QASYCOJE	PF	システムで作成されたオブジェクト... ²
	QSYS	QASYCPJE	PF	ユーザー・プロファイルの作成操作、変更操作、および復元操作... ²
	QSYS	QASYCQJE	PF	*CRQD オブジェクトに対する変更... ²
	QSYS	QASYDOJE	PF	システムから削除されたオブジェクト... ²
	QSYS	QASYDSJE	PF	DST 機密保護担当者のパスワードのリセット... ²
	QSYS	QASYGSJE	PF	記述子の提供... ²
	QSYS	QASYIPJE	PF	プロセス間通信... ²
	QSYS	QASYJDJE	PF	ジョブ記述の USER パラメーターに対する変更... ²
	QSYS	QASYJSJE	PF	ジョブの変更... ²
	QSYS	QASYLDJE	PF	ディレクトリーのリンク / リンク解除 / ルックアップ... ²
	QSYS	QASYMLJE	PF	メール処置... ²

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QSYS	QASYNAJE	PF	ネットワーク属性に対する変更... ²
	QSYS	QASYNDJE	PF	ディレクトリーの検索違反... ²
	QSYS	QASYNEJE	PF	末端地点違反... ²
	QSYS	QASYOMJE	PF	オブジェクトの移動操作および名前変更操作... ²
	QSYS	QASYORJE	PF	オブジェクト復元操作... ²
	QSYS	QASYOWJE	PF	オブジェクトの所有権に対する変更... ²
	QSYS	QASYO1JE	PF	シングル光ディスク・オブジェクト・アクセス... ²
	QSYS	QASYO2JE	PF	デュアル光ディスク・オブジェクト・アクセス... ²
	QSYS	QASYO3JE	PF	光ディスク・ボリューム・アクセス... ²
	QSYS	QASYPAJE	PF	所有者の権限を借用するプログラムに対する変更 (CHGPGM)... ²
	QSYS	QASYPGJE	PF	オブジェクト 1 次グループに対する変更... ²
	QSYS	QASYPOJE	PF	印刷装置出力処置... ²
	QSYS	QASYPSJE	PF	プロファイルのスイッチング... ²
	QSYS	QASYPWJE	PF	無効なパスワードまたはユーザー・プロファイル名の使用試行... ²
	QSYS	QASYRAJE	PF	権限変更時のオブジェクトの復元... ²
	QSYS	QASYRJJE	PF	ユーザー・プロファイル名を含むジョブ記述の復元... ²
	QSYS	QASYROJE	PF	所有権が QDFTOWN に変更されたときのオブジェクトの復元... ²
	QSYS	QASYRPJE	PF	所有者の権限を借用するプログラムの復元... ²

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QSYS	QASYRQJE	PF	*CRQD オブジェクトの復元... ²
	QSYS	QASYRUJE	PF	RSTAUT コマンドの使用による、ユーザー・プロファイルに対する権限復元操作... ²
	QSYS	QASYRZJE	PF	1 次グループの復元時の変更... ²
	QSYS	QASYSDJE	PF	システム配布ディレクトリーに対する変更... ²
	QSYS	QASYSEJE	PF	サブシステムの経路指定に対する変更... ²
	QSYS	QASYSFJE	PF	スプール・ファイルでの処置... ²
	QSYS	QASYSMJE	PF	システム管理の変更... ²
	QSYS	QASYSOJE	PF	サーバー・セキュリティの変更... ²
	QSYS	QASYSTJE	PF	システム保守ツールの使用... ²
	QSYS	QASYSVJE	PF	システム値に対する変更... ²
	QSYS	QASYVAJE	PF	アクセス制御リストに対する変更... ²
	QSYS	QASYVCJE	PF	接続の開始および終了... ²
	QSYS	QASYVFJE	PF	サーバー・ファイルのクローズ... ²
	QSYS	QASYVLJE	PF	アカウント限界の超過... ²
	QSYS	QASYVNJE	PF	ネットワークのログオンおよびログオフ... ²
	QSYS	QASYVPJE	PF	ネットワーク・パスワード・エラー... ²
	QSYS	QASYVRJE	PF	ネットワーク資源へのアクセス... ²
	QSYS	QASYVSJE	PF	サーバー・セッションの開始および終了... ²
	QSYS	QASYVUJE	PF	ネットワーク・プロファイルに対する変更... ²

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QSYS	QASYVVJE	PF	サービス状況に対する変更... ²
	QSYS	QASYYCJE	PF	文書ライブラリー・オブジェクトに対する変更... ²
	QSYS	QASYRJE	PF	文書ライブラリー・オブジェクトの読み取り操作... ²
	QSYS	QASYZCJE	PF	オブジェクトに対する変更... ²
	QSYS	QASYZMJE	PF	オブジェクト・メソッド・アクセス... ²
	QSYS	QASYZRJE	PF	オブジェクトの読み取り操作... ²
	QSYS	QAWCTPJE	PF	パフォーマンスの調整... ²
	QSYS	QAZDCFLG	PF	SNADS 配布待ち行列テーブルに対する構成の変更... ²
	QSYS	QAZDERLG	PF	SNADS ログ・エラー... ²
	QSYS	QAZDJRNL	PF	SNADS ログ・データ... ²
	QSYS	QAZDRTL	PF	SNADS の経路指定テーブルおよび 2 次システム名テーブルに対する変更... ²
	QSYS	QAZDSYLG	PF	SNADS のその他のロギング対象システム・レベル・オカレンス... ²
	QSYS	QAZMFCF	PF	メール・サーバー・フレームワーク (MSF) 構成変更ロギング... ²
	QSYS	QAZMFER	PF	メール・サーバー・フレームワーク (MSF) エラー・ロギング... ²
	QSYS	QAZMFLG	PF	メール・サーバー・フレームワーク (MSF) データ・ロギング... ²

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QSYS	QAZMFSY	PF	メール・サーバー・フレームワーク (MSF) システム情報 ログイン... ²
	QSYS	QPDSPJRN	PRTF	ジャーナル表示印刷装置ファイル。 ¹
	QX400	QAX4ELOG	PF	X.400 ログ・エラー... ²
	QX400	QAX4MLOG	PF	X.400 メッセージ転送エージェントの構成に対する変更... ²
	QX400	QAX4NLOG	PF	送達されたかどうかについての X.400 による通知... ²
	QX400	QAX4RLOG	PF	X.400 経路の構成に対する変更... ²
	QX400	QAX4ULOG	PF	X.400 のユーザー・メッセージまたはプローブ・メッセージ... ²
DSPJRNRCVA	QSYS	QPDSPRCV	PRTF	ジャーナル・レシーバー属性印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	ローカル・ハードウェア資源印刷装置ファイル。 ¹
DSPLIB	QSYS	QPDSPLIB	PRTF	ライブラリー印刷装置ファイル。 ¹
DSPLIBD	QSYS	QPRTLIBD	PRTF	ライブラリー記述印刷装置ファイル。 ¹
DSPLIBL	QSYS	QPRTLIBL	PRTF	ライブラリー・リスト印刷装置ファイル。 ¹
DSPLIND	QSYS	QPDCLINE	PRTF	回線記述印刷装置ファイル。 ¹
DSPLOG	QSYS	QPDSPLOG	PRTF	ログ表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPMNUA	QSYS	QPDSPMNU	PRTF	メニュー属性印刷装置ファイル。 ¹

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
DSPMOD コマンド: <p>DSPMOD コマンドの場合、次のすべての項目は、ファイルのタイプ (またはグループ) に関する特定のタイプの情報を保管するために使用されるファイルのファイル・タイプを持ちます。(DETAIL パラメーターの説明については、DSPMOD コマンドを参照してください。このパラメーターは、これらのファイルを使用することになるすべての値を識別します。) したがって、各モデル・ファイルの記述の最後には 以下のような共通部分があります。共通部分の前に くる各記述の固有の部分は、ファイルの用途の欄に記載してあります。</p> <p>... を保管するために作成されるファイルのレコード様式を定義するモデル・データベース・ファイル。</p>				
DSPMOD	QSVMS	QACQSRC	PRTF	セキュリティー出口プログラム例のソース... ¹
	QSYS	QABNDMBA	PF	基本情報と互換性のセクション... ¹
	QSYS	QABNDMSI	PF	解凍したサイズおよびサイズの限界... ¹
	QSYS	QABNDMEX	PF	このモジュールで定義され、他のモジュールにエクスポートされる記号... ¹
	QSYS	QABNDMIM	PF	このモジュールの外部の定義済みの記号... ¹
	QSYS	QABNDMPR	PF	プロシージャー名とタイプのリスト... ¹
	QSYS	QABNDMRE	PF	プログラムまたはサービス・プログラムにモジュールをバインドしたときにモジュールによって参照されていたシステム・オブジェクトのリスト... ¹
	QSYS	QABNDMCO	PF	モジュールの著作権情報...
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	モジュール印刷装置ファイル... ¹
DSPMODD	QSYS	QPDCMOD	PRTF	モード記述印刷装置ファイル。 ¹
DSPMODSTS	QSYS	QPDCMOD	PRTF	モード状況印刷装置ファイル。 ¹
DSPMSG	QSYS	QPDSMSG	PRTF	メッセージ表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPMSGD	QSYS	QPMSGD	PRTF	メッセージ記述印刷装置ファイル。 ¹

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
DSPNETA	QSYS	QANFDNPF	PF	ネットワーク・ファイル項目のレコード様式を定義するために使用するモデル・データベース・ファイル。 ²
	QSYS	QPDSNET	PRTF	ネットワーク属性表示印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QPNFNJE	PRTF	ネットワーク・ジョブ項目表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPNWID	QSYS	QPDCNWID	PRTF	ネットワーク・インターフェース記述記述印刷装置ファイル。 ¹
DSPOBJAUT	QSYS	QAOBJAUT	PF	オブジェクト権限項目のレコード様式を定義するモデル・データベース・ファイル。 ²
	QSYS	QPOBJAUT	PRTF	オブジェクト権限印刷装置ファイル。 ¹
DSPOBJD	QSYS	QADSPOBJ	PF	オブジェクト記述項目のレコード様式を定義するモデル・データベース・ファイル。 ²
	QSYS	QPRTOBJD	PRTF	オブジェクト記述印刷装置ファイル。 ¹
DSPPOVR	QSYS	QPDSPOVR	PRTF	一時変更表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPPDGPRF	QGPL	QPCJPDGPRF	PRTF	印刷記述子グループ・プロファイル用の印刷装置ファイル。 ¹
DSPFRGPH	QPFRRDATA	QAPGGPHF	PF	パフォーマンス・データベース・ファイル: グラフ形式データ。
	QPFRRDATA	QAPGPKGPF	PF	パフォーマンス・データベース・ファイル: グラフ・パッケージ・データ。
	QPFRR	QPPGGPH	PRTF	パフォーマンス・グラフ印刷装置ファイル。 ¹

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
DSPPGM	QSYS	QPDPGM	PRTF	プログラム表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPPGMADP	QSYS	QADPGMAD	PF	指定のプロファイルを採用するプログラム名の保管用に作成されるファイルのレコード様式を定義するモデル・データベース・ファイル。 ²
	QSYS	QPPGMADP	PRTF	指定のプロファイルを適用するプログラムをリストする印刷装置ファイル。 ¹
DSPPGMREF	QSYS	QADSPPGM	PF	プログラム参照を保管するために作成されるファイルのレコード様式を定義するモデル・データベース・ファイル。 ²
	QSYS	QPDSPPGM	PRTF	プログラム参照を含む印刷装置ファイル。 ¹
DSPPGMVAR	QSYS	QPDBGDSP	PRTF	プログラム変数 (デバッグ・モード) 印刷装置ファイル。 ¹
DSPPRB コマンド:				
下記の QUSRSYS ライブラリー内の 8 つの QASXxxxx ファイルは、すべて、DLTPRB コマンドおよび WRKPRB コマンドによっても使用されます。以下のそれ以外のファイル (QSYS 内) は、これらのコマンドでは使用されません。				
DSPPRB	QSYS	QASXxxxx	PF	問題出力ファイルのレイアウトを含む 5 つの QASXxxxx モデル・データベース・ファイルのセット。ここで、xxxx は、CAOF、FXOF、PBOF、SDOF、および TXOF です。 ²
	QSYS	QSPRTD	PRTF	問題ログの詳細 印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QSPRTL	PRTF	問題ログの要約 印刷装置ファイル。 ¹
³ 以下の 8 ファイルは、DLTPRB コマンドおよび WRKPRB コマンドによっても使用されます。				
	QUSRSYS	QASXCALL ³	PF	問題ログの呼び出し一時変更ファイル。

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QUSRSYS	QASXDTA ³	PF	問題ログのデータ識別コード・ファイル。
	QUSRSYS	QASXEVT ³	PF	問題ログの事象ログ・ファイル。
	QUSRSYS	QASXFRU ³	PF	問題ログの考えられる原因のファイル。
	QUSRSYS	QASXNOTE ³	PF	問題ログのユーザー注記ファイル。
	QUSRSYS	QASXPROB ³	PF	問題ログの問題ファイル。
	QUSRSYS	QASXPTF ³	PF	問題ログの PTF ファイル。
	QUSRSYS	QASXSYMP ³	PF	問題ログの徴候ストリング・ファイル。
DSPPTF	QSYS	QADSPPTF	PF	プログラム一時修正 (PTF) 情報を保管するために作成されるファイルのレコード様式を定義するモデル・データベース・ファイル。 ²
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	プログラム一時修正 (PTF) 表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPPWSCD	QSYS	QSYSPRT	PRTF	電源スケジュール表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPRCDLCK	QSYS	QPDSPLK	PRTF	レコード・ロック表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPRDBDIRE	QSYS	QSYSPRT	PRTF	分散リレーショナル・データベース・ディレクトリー印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QADSPDE	PF	RDB ディレクトリー項目のレコード様式を定義するモデル・データベース・ファイル。
DSPRJECFG	QRJE	QPRTCFG	PRTF	RJE 構成印刷装置ファイル。 ¹
DSPSAVF	QSYS	QPSRODSP	PRTF	保管ファイルの保管 / 復元情報用の印刷装置ファイル。 ¹

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
DSPSBSD	QSYS	QPRTSBSD	PRTF	サブシステム記述印刷装置ファイル。 ¹
DSPSFWRSC	QSYS	QARZLCOF	PF	IBM ライセンス・プログラムおよび SystemView パッケージ・アプリケーションに関する情報を保管するために作成されるファイルのモデル・データベース・ファイル。 ²
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	ソフトウェア資源印刷装置ファイル。 ¹
DSPSOCSTS	QSYS	QSYSPRT	PRTF	制御範囲状況印刷装置ファイル。 ¹
	QUSRSYS	QAALSOC	PF	制御範囲データベース・ファイル。
DSPSRVPGM	QSYS	QSYSPRT	PRTF	サービス・プログラム印刷装置ファイル。 ¹
DSPSYSSTS	QSYS	QPDSPSTS	PRTF	システム状況表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPSYSVAL	QSYS	QPDSPSVL	PRTF	システム値印刷装置ファイル。 ¹
DSPTAP	QSYS	QPTAPDSP	PRTF	テープ出力用の印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QPSRODSP	PRTF	保管 / 復元形式のテープ用の印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	入力用のテープ装置ファイル。
DSPTAPCGY	QSYS	QTAPCGY	PRTF	テープ・カテゴリー 1 用の印刷装置ファイル。
	QSYS	QATACOF	PF	テープ・カテゴリー 2 のモデル出力ファイル。
	QUSRSYS	QATACGY	PF	ライブラリー装置データベース・ファイル。
	QUSRSYS	QLTACGY	LF	ライブラリー装置論理データベース・ファイル。
DSPTAPCTG	QSYS	QPTACTG	PRTF	テープ・カートリッジ識別コード 1 用の印刷装置ファイル。

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QSYS	QATAVOF	PF	テープ・カートリッジ識別コード 2 のモデル出力ファイル。
	QUSRSYS	QATAMID	PF	ライブラリー装置データベース・ファイル。
	QUSRSYS	QATAMID	LF	ライブラリー装置論理データベース・ファイル。
DSPTAPSTS	QSYS	QPTAPSTS	PRTF	テープ・ライブラリー用の印刷装置ファイル。
	QSYS	QATAIOF	PF	テープのモデル出力ファイル。
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	入力用のテープ装置ファイル。
	QSYS	QPTYSWTD	PRTF	電話スイッチ項目を印刷するための印刷装置ファイル。 ¹
DSPTRAPRF	QSYS	QSYSPRT	PRTF	トークンリング・ネットワーク・アダプター・プロファイルを含む印刷装置ファイル。 ¹
DSPTRC	QSYS	QPDBGDSP	PRTF	追跡 (デバッグ・モード) 印刷装置ファイル。 ¹
DSPTRCDTA	QSYS	QPDBGDSP	PRTF	追跡データ (デバッグ・モード) 印刷装置ファイル。 ¹
DSPTRNSTS	QSYS	QSYSPRT	PRTF	トークンリング・ネットワーク状況印刷装置ファイル。 ¹
DSPUSRPMN	QSYS	QSYSPRT	PRTF	文書権限表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPUSRPRF	QSYS	QADSPUPA	PF	TYPE(*OBJAUT) の場合のユーザー・プロファイルのレコード様式を定義するモデル・データベース・ファイル。 ²
	QSYS	QADSPUPB	PF	TYPE(*BASIC) の場合のユーザー・プロファイルのレコード様式を定義するモデル・データベース・ファイル。 ²

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QSYS	QADSPUPO	PF	TYPE(*OBJOWN) の場合のユーザー・プロファイルのレコード様式を定義するモデル・データベース・ファイル。 ²
	QSYS	QPUSRPRF	PRTF	ユーザー・プロファイル印刷装置ファイル。 ¹
DSPWSUSR	QSYS	QSYSPRT	PRTF	ワークステーション・ユーザー印刷装置ファイル。 ¹
DUPTAP	QSYS	QSYSTAP	TAPF	入出力に使用するテープ装置ファイル。
EDTIGCDCT	QSYS	QPDSPDCT	PRTF	DBCS 印刷装置ファイル。
EDTQST	QSYS	QPQAPRT	PRTF	質問回答印刷装置ファイル。
EJTEMLOUT	QSYS	QPEMPRTF	PRTF	エミュレーション印刷装置ファイル。
ENDDSKCOL	QPFR	QAPTDDS	PF	パフォーマンス・データ DDS ソース・ファイル。
	QPFR	QAPTDSKD	PF	パフォーマンス・データ収集ファイル: ディスク活動データ。
ENDIDXMON	QUSRSYS	QABBADMTB	PF	OfficeVision テキスト検索サービス管理テーブル。
ENDJOBTRC	QPFR	QAPTDDS	PF	パフォーマンス・データ DDS ソース・ファイル。
	QPFR	QAPTTRCJ	PF	パフォーマンス・データ収集ファイル: ジョブ追跡データ。
	QPFR	QPPTTRCD	PRTF	ジョブ追跡分析詳細データを含むパフォーマンス印刷装置ファイル。
	QPFR	QPPTTRC1	PRTF	物理ディスク活動のジョブ追跡分析要約データを含むパフォーマンス印刷装置ファイル。

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QPFR	QPPTTRC2	PRTF	ジョブ追跡分析出力要約 データを含むパフォーマンス印刷装置ファイル。
ENDPRTEML	QSYS	QPEMPRTF	PRTF	エミュレーション印刷装置ファイル。
	QPFR	QAPTSAMH	PF	パフォーマンス・データ収集ファイル: 高水準のサンプル・アドレス・モニター (SAM) データ。
	QPFR	QAPTSAMV	PF	パフォーマンス・データ収集ファイル: 低水準のサンプル・アドレス・モニター (SAM) データ。
FMTDTA	QSYS	QSYSPRT	PRTF	データ形式印刷装置ファイル。
	QGPL	QFMTSRC	PF	分類ソース省略時入力ファイル。
FNDSTRPART	QPDA	QPUOPRTF	PRTF	ユーザーのストリング検索要求の PDM 印刷装置出力ファイル。
FNDSTRPDM	QPDA	QPUOPRTF	PRTF	ユーザーのストリング検索要求の PDM 印刷装置出力ファイル。
HLDDSTQ	QUSRSYS	QASNADSQ	PF	SNADS 配布待ち行列テーブル。
INZDKT	QSYS	QSYSDKT	DKTF	出力に使用するディスクセット装置ファイル。
INZTAP	QSYS	QSYSTAP	TAPF	出力に使用するテープ装置ファイル。
LODPTF	QSYS	QSYSDKT	DKTF	入力に使用するディスクセット装置ファイル。
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	入力に使用するテープ装置ファイル。
LODQSTDB	QQALIB	QAQAxxxx00	PF	質問回答が提供するモデル・データベース・ファイル。 ²
	QSYS	QAQA00xxxx	LF	質問回答データベース・モデル・ファイル。 ²

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QSYS	QAQA00xxxx	PF	質問回答データベース・モデル・ファイル。 ²
	QSYS	QPQAPRT	PRTF	質問回答印刷装置ファイル。
MRGFORMD	QPDA	QPAPFPRT	PRTF	組み合わせ形式記述印刷装置ファイル。
MRGTCPHT	QUSRSYS	QATOCHOST	PF	TCP/IP ホスト・ファイル。
PRTACTRPT	ユーザー・ライブラリー	QAITMON	PF	パフォーマンス・データ収集ファイル: ジョブおよびライセンス内部コードのタスク・データ。
	QPFR	QAPTDDS	PF	パフォーマンス・データ DDS ソース・ファイル。
	QPFR	QPITACTR	PRTF	ジョブおよびライセンス内部コードのタスク・データを含むパフォーマンス印刷装置ファイル。
PRTAFPDTA	QSYS	QSYSPRT	PRTF	高機能印刷データ印刷装置ファイル。
PRTCMDUSG	QSYS	QSYSPRT	PRTF	コマンド使用法印刷装置ファイル。
PRTCMNTRC	QSYS	QASCCMNT	PF	通信追跡レコードを保管するために作成されるファイルのレコード様式を定義するモデル・データベース・ファイル。 ²
	QSYS	QPCSMPT	PRTF	通信追跡印刷装置ファイル (並行保守モニター)。 ¹
PRTCPTTRPT	QPFR	QAPTDDS	PF	パフォーマンス・データ DDS ソース・ファイル。
	QPFR	QPPTCPTTR	PRTF	コンポーネント・レベルの活動データを含むパフォーマンス印刷装置ファイル。

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QSYS	QAPMxxxx	PF	QAPMxxxx パフォーマンス・データ収集ファイル。ここで、xxxx は、 ASYN、BSC、 CIOP、CONF、DIOP、 DISK、ECL、ETH、 HDLC、JOBS、LIOP、 MIOP、POOL、RESP、 RWS、および SYS です。 ²
PRTDEVADR	QSYS	QPDDEVA	PRTF	装置アドレス印刷印刷装置ファイル。
PRTDOC	QSYS	QAPOUFL	PF	文書出力データベース・ファイル。 ¹
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	文書印刷印刷装置ファイル。 ¹
PRTDSKINF	QSYS	QAEZDISK	PF	ディスク・スペース情報のモデル出力ファイル。
	QUSRSYS	QAEZDISK	PF	ディスク・スペース情報のデータベース入力ファイル。
	QSYS	QPEZDISK	PRTF	ディスク・スペース報告印刷装置ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	ディスク・スペース報告印刷装置ファイル。OVRPRTF を使用する場合は、このファイルを指定しなければなりません。
PRTDSKRPT	QPFR	QAPTDDS	PF	パフォーマンス・データ DDS ソース・ファイル。
	QPFR	QAPTDSKD	PF	ディスク活動収集データのパフォーマンス・データベース入力ファイル。
	QPFR	QPPTDSK	PRTF	ディスク装置入出力活動データの印刷装置ファイル。

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
PRTERRLOG	QSYS	QAPRTELG	PF	エラー・ログ・レコードを保管するために作成されるファイルのレコード様式を定義するモデル・データベース・ファイル。 ²
	QSYS	QAVOLSTA	PF	ボリューム統計を保管するために作成されるファイルのレコード様式を定義するモデル・データベース・ファイル。 ²
	QSYS	QPCSMPT	PRTF	エラー・ログ (並行保守モニター用) 印刷装置ファイル。 ¹
PRTINTDTA	QSYS	QPCSMPT	PRTF	内部データ (並行保守モニター用) 印刷装置ファイル。
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	出力に使用するテーブ装置ファイル。
PRTJOBTRPT	QPFR	QAPTDDS	PF	パフォーマンス・データ DDS ソース・ファイル。
	QPFR	QPPTITVJ	PRTF	ジョブ間隔収集データを含むパフォーマンス印刷装置ファイル。
	QSYS	QAPMxxxx	PF	QAPMxxxx パフォーマンス・データ収集ファイル。ここで、xxxx は、CONF および JOBS です。 ²
PRTJOBTRC	QPFR	QAJOBTRC	PF	パフォーマンス・データ収集ファイル: ジョブ追跡データ。
	QPFR	QAPTDDS	PF	パフォーマンス・データ DDS ソース・ファイル。
	QPFR	QAPTTRCJ	PF	パフォーマンス・データ収集ファイル: ジョブ追跡データ。
	QPFR	QPPTTRCD	PRTF	ジョブ追跡分析詳細データを含むパフォーマンス印刷装置ファイル。

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QPFR	QPPTTRC1	PRTF	物理ディスク活動のジョブ追跡分析要約データを含むパフォーマンス印刷装置ファイル。
	QPFR	QPPTTRC2	PRTF	ジョブ追跡分析出力要約 データを含むパフォーマンス印刷装置ファイル。
PRTLCKRPT	ユーザー・ライブラリー	QAPTLCKD	PF	ロックと競合捕そくデータを含むパフォーマンス・データ収集出力 ファイル
	QPFR	QAPTDDS	PF	パフォーマンス・データ DDS ソース・ファイル。
	QPFR	QPPTLCK	PRTF	ロックと競合捕そくデータを含むパフォーマンス・データ収集印刷装置 ファイル
	QSYS	QAPMDMPT	PF	システムのロックと競合捕そくの追跡データを含むパフォーマンス・データ収集入力 ファイル。 ²
PRTPOLRPT	QPFR	QAPTDDS	PF	パフォーマンス・データ DDS ソース・ファイル。
	QPFR	QPPTITVP	PRTF	サブシステムおよびプール活動の間隔データを含むパフォーマンス印刷装置ファイル。
	QSYS	QAPMxxxx	PF	QAPMxxxx パフォーマンス・データ収集ファイル。ここで、xxxx は、CONF、JOBS、および POOL です。 ²
PRTRSCRPT	QPFR	QAPTDDS	PF	パフォーマンス・データ DDS ソース・ファイル。
	QPFR	QPPTITVR	PRTF	ディスクおよび通信回線の活動間隔データを含むパフォーマンス印刷装置ファイル。

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QSYS	QAPMxxxx	PF	QAPMxxxx パフォーマンス・データ収集ファイル。ここで、xxxx は、 ASYN、BSC、 CIOP、CONF、DIOP、 DISK、ECL、ETH、 HDLC、LIOP、MIOP、 RESP、RWS、および SYS です。 ²
	QPFR	QAPTSAMH	PF	パフォーマンス・データ収集ファイル: 高水準のサンプル・ アドレス・モニター (SAM) データ。
	QPFR	QAPTSAMV	PF	パフォーマンス・データ収集ファイル: 低水準のサンプル・ アドレス・モニター (SAM) データ。
	QPFR	QPPTSAM	PRTF	SAM パフォーマンス・ データの印刷装置 ファイル。
PRTSYSRPT	QPFR	QAPTDDS	PF	パフォーマンス・データ DDS ソース・ ファイル。
	QPFR	QPPTSYSR	PRTF	システムの作業負荷 および資源の使用状 況データを含むパフ ォーマンス印刷装置 ファイル。
	QSYS	QAPMxxxx	PF	QAPMxxxx パフォーマンス・データ収集 ファイル。ここで、 xxxx は、 ASYN、BSC、 CONF、DISK、ECL、 ETH、HDLC、JOBS、 POOL、SYS、および X25 です。 ²
PRTTNSRPT	QPFR	QAPTDDS	PF	パフォーマンス・データ DDS ソース・ ファイル。
	QPFR	QPSPDJS	PRTF	ジョブ要約 データを 含むパフォーマンス 印刷装置ファイル。

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QPFR	QSPDTD	PRTF	ジョブ状態遷移 データを含むパフォーマンス印刷装置ファイル。
	QPFR	QSPDTS	PRTF	ジョブ・トランザクション・データを含むパフォーマンス印刷装置ファイル。
	QSYS	QAPMxxxx	PF	QAPMxxxx パフォーマンス・データ収集ファイル。ここで、xxxx は、DMPT および JOBS です。 ²
PRTRC	QSYS	QSRVTRC	PRTF	ジョブ追跡印刷装置出力ファイル。 ¹
PRTRCRPT	ユーザー・ライブラリー	QTRTJOBT	PF	バッチ・ジョブ追跡データを含むパフォーマンス・データ収集入力ファイル。
	QPFR	QAPTDSS	PF	パフォーマンス・データ DDS ソース・ファイル。
	QSYS	QAPMDMPT	PF	システム追跡データを含むパフォーマンス・データ収集入力ファイル。 ²
QRYDOCLIB	QSYS	QAOSIQDL	PF	文書ライブラリー QUERY 出力ファイル。
QRYDST	QSYS	QAOSILIN	PF	着信配布出力ファイル。
	QSYS	QAOSILOT	PF	発信配布出力ファイル。
RCLSTG	QSYS	QPRCLDMP	PRTF	ダンプ出力リスト再利用。
RCVDST	QSYS	QAOSIRCV	PF	着信メール配布受信モデル・データベース・ファイル。 ²
RCVTIEF	QSYS	QPTIRCV	PRTF	受信ファイル要約印刷装置ファイル。 ¹
RLSDSTQ	QUSRSYS	QASNADSQ	PF	SNADS 配布待ち行列テーブル。
RMVDSTQ	QUSRSYS	QASNADSQ	PF	SNADS 配布待ち行列テーブル。
	QUSRSYS	QASNADSR	PF	SNADS 経路指定テーブル。

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
RMVDSTRTE	QUSRSYS	QASNADSQ	PF	SNADS 配布待ち行列テーブル。
	QUSRSYS	QASNADSR	PF	SNADS 経路指定テーブル。
RMVDSTSYSN	QUSRSYS	QASNADSA	PF	SNADS 2 次ノード ID テーブル。
RMVNETJOBE	QUSRSYS	QANFNJE	PF	ネットワーク・ジョブ項目データベース・ファイル。
RMVSOCE	QUSRSYS	QAALSOC	PF	制御範囲ファイル。
RMVTAPCTG	QUSRSYS	QATAMID	PF	カートリッジ ID データベース・ファイル。
	QUSRSYS	QLTAMID	LF	カートリッジ ID 論理データベース・ファイル。
	QUSRSYS	QATACGY	PF	カテゴリー・データベース・ファイル。
	QUSRSYS	QLTACGY	LF	カテゴリー論理ファイル。
RMVTCPHTE	QUSRSYS	QATOCHOST	PF	TCP/IP ホスト・ファイル。
RMVTCPIFC	QUSRSYS	QATOCIFC	PF	TCP/IP インターフェース・ファイル。
RMVTCPPORT	QUSRSYS	QATOCPORT	PF	TCP/IP ポート制約条件ファイル。
RMVTCPRSI	QUSRSYS	QATOCRSI	PF	TCP/IP リモート・システム情報ファイル。
RMVTCPRTE	QUSRSYS	QATOCRTE	PF	TCP/IP 経路ファイル。
RMVXTIDXE	QUSRSYS	QABBADMTB	PF	OfficeVision テキスト検索サービス管理テーブル。
RNMTCPHTE	QUSRSYS	QATOCHOST	PF	TCP/IP ホスト・ファイル。
RSTCFG	QSYS	QASRRSTO	PF	構成のモデル出力ファイル。 ²
	QSYS	QPSRLDSP	PRTF	復元オブジェクト状況印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	入力に使用するテーブル装置ファイル。

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
RSTDLO	QSYS	QAOJRSTO	PF	復元される文書ライブラリー・オブジェクトのモデル出力ファイル。 ²
	QSYS	QPRSTDLO	PRTF	復元される文書およびフォルダー用の印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QSYSDKT	DKTF	入力に使用するディスク装置ファイル。
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	入力に使用するテープ装置ファイル。
RSTLIB	QSYS	QASRRSTO	PF	ライブラリーのモデル出力ファイル。 ²
	QSYS	QPSRLDSP	PRTF	復元オブジェクト状況印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QSYSDKT	DKTF	入力に使用するディスク装置ファイル。
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	入力に使用するテープ装置ファイル。
RSTLICPGM	QSYS	QPSRLDSP	PRTF	復元オブジェクト状況印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QSYSDKT	DKTF	入力に使用するディスク装置ファイル。
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	入力に使用するテープ装置ファイル。
RSTOBJ	QSYS	QASRRSTO	PF	復元されるオブジェクトのモデル出力ファイル。 ²
	QSYS	QPSRLDSP	PRTF	復元オブジェクト状況印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QSYSDKT	DKTF	入力に使用するディスク装置ファイル。
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	入力に使用するテープ装置ファイル。
RSTUSRPRF	QSYS	QASRRSTO	PF	ユーザー・プロファイルのモデル出力ファイル。 ²
RSTUSRPRF	QSYS	QSYSTAP	TAPF	入力に使用するテープ装置ファイル。

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
RTVDOC	QSYS	QAOSIRTV	PF	文書ライブラリー出力ファイルからの文書の検索。
RTVDSKINF	QSYS	QAEZDISK	PF	ディスク情報のモデル・ファイル。
	QUSRSYS	QAEZDISK	PF	ディスク情報用のデータベース出力ファイル。
RUNQRY	QSYS	QPQUPRFIL	PRTF	QUERY 出力に使用する印刷装置ファイル。 ¹
SAVCFG	QSYS	QASAVOBJ	PF	保管されるオブジェクトのモデル出力ファイル。 ²
	QSYS	QPSAVOBJ	PRTF	保管されるオブジェクト用の印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	出力に使用するテーブ装置ファイル。
SAVCHGOBJ	QSYS	QASAVOBJ	PF	保管されるオブジェクトのモデル出力ファイル。 ²
	QSYS	QPSAVOBJ	PRTF	保管されるオブジェクト用の印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QSYSDKT	DKTF	出力に使用するディスクセット装置ファイル。
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	出力に使用するテーブ装置ファイル。
SAVDLO	QSYS	QAOJSAVO	PF	保管される文書およびフォルダーのモデル出力ファイル。 ²
	QSYS	QPSAVDLO	PRTF	保管される文書およびフォルダー用の印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QSYSDKT	DKTF	出力に使用するディスクセット装置ファイル。
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	出力に使用するテーブ装置ファイル。
SAVLIB	QSYS	QASAVOBJ	PF	保管されるオブジェクトのモデル出力ファイル。 ²

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QSYS	QPSAVOBJ	PRTF	保管されるオブジェクト用の印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QSYSDKT	DKTF	出力に使用するディスク装置ファイル。
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	出力に使用するテープ装置ファイル。
SAVOBJ	QSYS	QASAVOBJ	PF	保管されるオブジェクトのモデル出力ファイル。 ²
	QSYS	QPSAVOBJ	PRTF	保管されるオブジェクト用の印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QSYSDKT	DKTF	出力に使用するディスク装置ファイル。
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	出力に使用するテープ装置ファイル。
SAVSAVFDTA	QSYS	QASAVOBJ	PF	保管されるオブジェクトのモデル出力ファイル。 ²
	QSYS	QPSAVOBJ	PRTF	保管されるオブジェクト用の印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QSYSDKT	DKTF	出力に使用するディスク装置ファイル。
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	出力に使用するテープ装置ファイル。
SAVSECDTA	QSYS	QASAVOBJ	PF	保管されるオブジェクトのモデル出力ファイル。 ²
	QSYS	QPSAVOBJ	PRTF	保管されるオブジェクト用の印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	出力に使用するテープ装置ファイル。
SAVSYS	QSYS	QASAVOBJ	PF	保管されるオブジェクトのモデル出力ファイル。 ²
	QSYS	QPSAVOBJ	PRTF	保管されるオブジェクト用の印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	出力に使用するテープ装置ファイル。

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
SBMDKTJOB	QSYS	QKSPDKT	DKTF	すべてのディスクットの読み取りに使用するディスクット装置ファイル。
SBMFNCJOB	QSYS	QDFNDATA	DSPF	非 ICF 金融機関表示装置ファイル。
	QUSRSYS	QFNDEVTBL	PF	装置テーブルに関するデータを含むファイル。
	QUSRSYS	QFNPGMTBL	PF	プログラム・テーブルに関するデータを含むファイル。
	QUSRSYS	QFNUSRTBL	PF	ユーザー・テーブルに関するデータを含むファイル。
SETTAPCGY	QUSRSYS	QATACGY	PF	カテゴリー・データベース・ファイル。
	QUSRSYS	QLTACGY	LF	カテゴリー論理ファイル。
SNDDSTQ	QUSRSYS	QASNADSQ	PF	SNADS 配布待ち行列テーブル。
SNDFNCIMG	QSYS	QCRFDWNL	ICFF	4701 制御装置との通信に使用する ICF ファイル。
SNDPTFORD	QGPL	Qnnnnnnn	SAVF	PTF 保管ファイル。ここで、nnnnnnn は、PTF 番号です。
	QSYS	QESPRTF	PRTF	PTF カバー・レター用の印刷装置ファイル。
SNDSRVRQS	QGPL	Qnnnnnnn	SAVF	PTF 保管ファイル。ここで、nnnnnnn は、PTF 番号です。
	QSYS	QESPRTF	PRTF	PTF カバー・レター用の印刷装置ファイル。
	QUSRSYS	QAEDCDBPF	PF	保守連絡先情報を含むファイル。
STRCODE	ユーザー・ライブラリー	EVFCICFF	ICFF	ワークステーションとの通信に使用する ICF ファイル。
STRCPYSCN	QSYS	QASCCPY	PF	画面コピー出力ファイルのパターン。

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
STRDFU	QSYS	QDFUPRT	PRTF	DFU 印刷装置ファイル。
	QSYS	QPDZDTALOG	PRTF	DFU 実行時監査ログ。
	QSYS	QPDZDTAPRT	PRTF	DFU 実行時印刷装置データ・ファイル。
STRDKTRDR	QSYS	QKSPLDKT	DKTF	すべてのディスクエットの読み取りに使用するディスクエット装置ファイル。
STRDKTWTR	QSYS	QKSPLDKT	DKTF	すべてのディスクエットの書き込みに使用するディスクエット装置ファイル。

注 E - STRIDXMOM コマンド

STRIDXMOM コマンドおよび STRRGZIDX コマンドは、OfficeVision テキスト検索サービス内の 10 ファイルのうち、9 ファイルを使用します。これらのファイルは、STRUPDIDX コマンドでも使用されます。これらの 9 ファイル (名前はすべて QABBxxxx) については、STRUPDIDX コマンドの箇所を参照してください。このリストの 10 番目 (最後) のファイル (QABBLADN) は、STRIDXMOM でも STRRGZIDX でも使用されません。

STRIDXMOM	QUSRSYS	QABBxxxx	PF	注 E を参照。
STRPDM	QPDA	QPUOPRTF	PRTF	PDM の表示対象リスト用の印刷装置ファイル。

CRTPFRTDA コマンド:

CRTPFRTDA コマンドの次のファイルはすべて、物理ファイル (PF) または論理ファイル (LF) です。これらのファイルは、(実際の出力ファイルとしてではなく) モデル・ファイルとして使用され、このコマンドが収集したパフォーマンス・データを保管するために作成されたファイルのレコード様式を定義します。これらのモデル・ファイルはすべて QSYS ライブラリーに入っており、これらが作成するファイルはユーザーが決めたライブラリーに入ります。(このライブラリーは、省略時は、*MGTCOL オブジェクト用に指定したものと同一ライブラリー (通常は QPFRTDA) です。)作成された各ファイルには、特定のタイプのパフォーマンス・データが、収集対象の特定のタイプのデータに定義された形式で保管されます。

以下にリストされているファイルについては、各モデル・ファイルの記述に、下記に示す太字の共通部分があります。冒頭に入る各記述の固有の部分は、**ファイルの用途**の欄に記載してあります。

... を保管するために作成されるデータ収集ファイルのレコード様式を定義するモデル・パフォーマンス・モニター・データベース・ファイル。

CRTPFRTDA	QSYS	QAPMAPPN	PF	APPN データ... ²
	QSYS	QAPMASYN	PF	非同期データ... ²
	QSYS	QAPMBSC	PF	2 進同期データ... ²
	QSYS	QAPMJOBMI	PF	MI からのジョブ・データ...
	QSYS	QAPMJOBOS	PF	OS/400 からのジョブ・データ...

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QSYS	QAPMJOBWT	PF	ジョブ待機バケツト・データ... ²
	QSYS	QAPMJOBWTD	PF	ジョブ待機バケツト記述... ²
	QSYS	QAPMJSUM	PF	要約されたジョブ・データ...
	QSYS	QAPMBUS	PF	バス・カウンター・データ... ²
	QSYS	QAPMCIOP	PF	通信制御装置データ... ²
	QSYS	QAPMCONF	PF	システム構成データ... ²
	QSYS	QAPMDDI	PF	DDI 分散インターフェース・データ... ²
	QSYS	QAPMDIOP	PF	記憶装置制御装置データ... ²
	QSYS	QAPMDISK	PF	ディスク記憶域 (DASD) データ... ²
	QSYS	QAPMDOMINO	PF	ドミノ・データ... ²
	QSYS	QAPMECL	PF	ECL またはトークンリング LAN のデータ... ²
	QSYS	QAPMETH	PF	イーサネット統計データ... ²
	QSYS	QAPMFRLY	PF	フレーム・リレー・データ... ²
	QSYS	QAPMHDLC	PF	HDLC および SDLC の制御データ... ²
	QSYS	QAPMHTTPB	PF	HTTP サーバー (powered by Apache) 基本データ... ²
	QSYS	QAPMHTTPD	PF	HTTP サーバー (powered by Apache) 詳細データ... ²
	QSYS	QAPMIDLC	PF	ISDN データ・リンク制御ファイル項目データ... ²
	QSYS	QAPMJOBBL	LF	QAPMJOBMI および QAPMJOBOS のジョブ・データの論理ビュー... ²
	QSYS	QAPMLAPD	PF	ISDN LAPD ファイル項目データ... ²

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QSYS	QAPMLIOP	PF	ローカル・ワークステーション制御装置(WSC) データ... ²
	QSYS	QAPMMIOP	PF	多機能制御装置データ... ²
	QSYS	QAPMPOOLB	PF	主記憶域プール・データ... ²
	QSYS	QAPMPOOLT	PF	プール調整データ... ²
	QSYS	QAPMPOOLL	LF	プール・データとしての論理ビュー... ²
	QSYS	QAPMPPP	PF	PPP プロトコル・データ... ²
	QSYS	QAPMRESP	PF	ローカル・ワークステーションの応答データ... ²
	QSYS	QAPMSAP	PF	トークンリング LAN、イーサネット、分散データ・インターフェース、およびフレーム・リレーのサービス・アクセス・ポイント... ²
	QSYS	QAPMSBSD	PF	サブシステム記述データ... ²
	QSYS	QAPMSNA	PF	SNA データ... ²
	QSYS	QAPMSNADS	PF	SNADS データ... ²
	QSYS	QAPMSTND	PF	DDI 端末データ... ²
	QSYS	QAPMSTNE	PF	イーサネット端末データ... ²
	QSYS	QAPMSTNL	PF	トークンリング LAN 端末データ... ²
	QSYS	QAPMSTNY	PF	フレーム・リレー端末データ... ²
	QSYS	QAPMSYSCPU	PF	システム CPU データ... ²
	QSYS	QAPMSYSL	LF	ログ表示 CPU システム・データ... ²
	QSYS	QAPMSYSTEM	PF	システム・パフォーマンス・データ... ²
	QSYS	QAPMTCP	PF	TCP システム・データ... ²
	QSYS	QAPMTCPIFC	PF	TCP インターフェース・データ... ²
	QSYS	QAPMTSK	PF	システム内部データ... ²

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QSYS	QAPMUSRTNS	PF	ユーザー定義トランザクション・データ... ²
	QSYS	QAPMX25	PF	X.25 通信データ... ²
STRPRTEML	QSYS	QPEMPRTF	PRTF	エミュレーション印刷装置。
STRPRTWTR	QSYS	QPSPLPRT	PRTF	すべての印刷装置の書き込みに使用する印刷装置ファイル。
STRQMQRV	QSYS	QPQXPRTF	PRTF	QUERY CPI によって使用される印刷装置ファイル。 ¹
STRQST	QQALIB	QAQAxxxx00	PF	質問回答が提供するモデル・データベース・ファイル。 ²
	QSYS	QAQA00xxxx	LF	質問回答データベース・モデル・ファイル。 ²
	QSYS	QAQA00xxxx	PF	質問回答データベース・モデル・ファイル。 ²
	QSYS	QPQAPRT	PRTF	質問回答印刷装置ファイル。

注 F - STRRGZIDX コマンド

STRRGZIDX コマンドおよび STRIDXMON コマンドは、OfficeVision テキスト検索サービス内の 10 ファイルのうち、9 ファイルを使用します。これらのファイルは、STRUPDIDX コマンドでも使用されます。これらの 9 ファイル (名前はすべて **QABBxxxxx**) については、**STRUPDIDX** コマンドの箇所を参照してください。このリストの 10 番目 (最後) のファイル (QABBLADN) は、STRRGZIDX でも STRIDXMON でも使用されません。

STRRGZIDX	QUSRSYS	QABBxxxxx	PF	注 F を参照。
STRSDA	QGPL	QDDSSRC	PF	DDS ソース省略時入力ファイル。
STRSEU	QGPL	QTXTSRC	PF	SEU ソース省略時入力ファイル。
	QPDA	QPSUPRTF	PRTF	SEU ソース・メンバー印刷装置ファイル。
STRSST	QSYS	QPCSMPT	PRTF	保守ツール印刷装置ファイル。 ¹
	QTY	QATYALMF	PF	警報レコード様式の電話データベース・モデル・ファイル。

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QUSRSYS	QATYSWTE	PF	ユーザーが作成したスイッチ項目の電話データベース・ファイル。
	QTY	QATYCDRF	PF	警報レコード様式の電話データベース・モデル・ファイル。
	QUSRSYS	QATYSWTE	PF	ユーザーが作成したスイッチ項目の電話データベース・ファイル。

STRUPDIDX コマンド:

STRUPDIDX コマンドは、OfficeVision テキスト検索サービスに関連付けられている、次の 10 個のファイルを使用します。このうちの最初の 9 ファイル (QABBLADN 以外のすべて) は、STRIDXMON コマンドおよび STRRGZIDX コマンドでも使用されます。

次のすべてのファイルの記述には、共通部分があります。すなわち、各ファイル記述の共通部分は、下記の太字部分で始まります。続く 各記述の固有の部分は、**ファイルの用途**の欄に記載してあります。

OfficeVision テキスト検索サービス...

STRUPDIDX	QUSRSYS	QABBADMTB	PF	... 管理テーブル。
	QUSRSYS	QABBCAN	PF	... 候補ファイル。
	QUSRSYS	QABBCOX	PF	...コンテキストの索引。
	QUSRSYS	QABBDEX	PF	...外部文書索引識別コード。
	QUSRSYS	QABBDIC	PF	...ディクショナリー。
	QUSRSYS	QABBDIX	PF	...内部文書見出し識別コード。
	QUSRSYS	QABBDOX	PF	...文書索引テーブル。
	QUSRSYS	QABBFIX	PF	...部分構文索引。
	QUSRSYS	QABBIQTB	PF	...スケジューリング待ち行列。
	QUSRSYS	QABBLADN ⁴	PF	...索引付き LADN (ライブラリー割り当て文書名) のリスト。
TRCCNN	QSYS	QSYSPRT	PRTF	接続追跡印刷装置ファイル。

⁴ この QABBLADN ファイルは、STRRGZIDX コマンドでも STRIDXMON コマンドでも使用されません。

TRCCPIC	QSYS	QACM0TRC	PF	CPI 通信データベース追跡モデル出力ファイル。 ²
---------	------	----------	----	---------------------------------------

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	CPI 通信追跡印刷装置ファイル。 ¹
TRCICF	QSYS	QAIFTRCF	PF	ICF データベース追跡出力ファイル。
	QSYS	QPIFTRCF	PRTF	ICF 追跡印刷装置ファイル。 ¹
TRCINT	QSYS	QPCSMPT	PRTF	内部追跡 (並行保守モニター用) 印刷装置ファイル。
	QSYS	QSYSDKT	DKTF	出力用のディスクレット装置ファイル。
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	出力用のテープ装置ファイル。
TRCJOB	QSYS	QATRCJOB	PF	追跡レコードを保管するために作成されたファイルのレコード様式を定義するデータベース・ファイル。 ²
	QSYS	QPSRVTRC	PRTF	ジョブ追跡印刷装置出力ファイル。 ¹
UPDDTA	QSYS	QPDZDTALOG	PRTF	DFU 実行時監査ログ。
	QSYS	QPDZDTAPRT	PRTF	DFU 実行時印刷装置データ・ファイル。
VFYLNKLPDA	QSYS	QSYSPRT	PRTF	LPDA-2 をサポートするリンクの検査印刷装置ファイル。 ¹
WRKACTJOB	QSYS	QPDSPAJB	PRTF	活動ジョブ表示印刷装置ファイル。 ¹
WRKALR	QUSRSYS	QAALERT	PF	警報データベース・ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	警報印刷装置ファイル。 ¹
WRKCFGSTS	QSYS	QSYSPRT	PRTF	構成状況印刷装置ファイル。 ¹
WRKCNTINF	QUSRSYS	QAEDCDBPF	PF	接続データを含むデータベース・ファイル。
WRKDDMF	QSYS	QPWRKDDM	PRTF	分散データ管理 (DDM) ファイル属性印刷装置ファイル。 ¹
WRKDEVTBL	QUSRSYS	QFNDEVTBL	PF	装置テーブルに関するデータを含むファイル。

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
WRKDIR	QSYS	QPDSDDL	PRTF	ディレクトリー項目の詳細 印刷装置ファイル。
	QSYS	QPDSPSM	PRTF	ディレクトリー項目の要約 印刷装置ファイル。
WRKDOCCVN	QUSRSYS	QAO1CRL	LF	入出力用の文書変換論理 ファイル。
	QUSRSYS	QAO1CVNP	PF	入出力用の文書変換物理 ファイル。
	QUSRSYS	QAO1DCVN	PRTF	文書変換印刷装置ファイル。
WRKDPCQ	QSYS	QPDXWRKD	PRTF	DSNX/PC の待機配布要求用の印刷装置ファイル。 ¹
WRKDSKSTS	QSYS	QPWCDSKS	PRTF	ディスク状況印刷装置ファイル。 ¹
WRKDSTL	QSYS	QPDSPLDL	PRTF	配布リストの詳細 印刷装置ファイル。
	QSYS	QPDSPLSM	PRTF	配布リストの要約 印刷装置ファイル。
WRKDSTQ	QSYS	QPDSTSTS	PRTF	配布状況印刷装置ファイル。 ¹
	QUSRSYS	QASNADSQ	PF	SNADS 宛先待ち行列テーブル。
WRKFCT	QRJE	QPDSPFCT	PRTF	用紙制御テーブル印刷装置ファイル。 ¹
WRKGRPPDM	QPDA	QPUOPRTF	PRTF	PDM の表示対象リスト用の印刷装置ファイル。 ¹
WRKHDWRSC	QSYS	QASUPTL	PF	ハードウェア資源ロック・データベース・ファイル。
WRKHTTPCFG	QUSRSYS	QATMHTTPC	PF	TCP/IP HTTP ファイル。
WRKJOB	QSYS	QPDSJOB	PRTF	ジョブ表示印刷装置ファイル。 ¹
WRKJOBQ	QSYS	QPRTSPLQ	PRTF	ジョブ待ち行列印刷装置ファイル (スプール待ち行列)。 ¹
WRKJOBSCDE	QSYS	QSYSPRT	PRTF	ジョブ・スケジュール項目印刷装置ファイル。 ¹
WRKJRNA	QSYS	QPDSPJNA	PRTF	ジャーナル属性印刷装置ファイル。 ¹

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
WRKLIBPDM	QPDA	QPUOPRTF	PRTF	PDM の表示対象リスト用の印刷装置ファイル。 ¹
WRKMBRPDM	QPDA	QPUOPRTF	PRTF	PDM の表示対象リスト用の印刷装置ファイル。 ¹
WRKMSG	QSYS	QPDSPMMSG	PRTF	メッセージ待ち行列メッセージ用の印刷装置ファイル。 ¹
WRKMSGD	QSYS	QPMSGD	PRTF	メッセージ記述印刷装置ファイル。
WRKNAMSMTP	QSYS	QATMSMTP	PF	TCP/IP SMTP パーソナル別名テーブル。
	QSYS	QATMSMTPA	PF	TCP/IP SMTP システム別名テーブル。
WRKNETF	QSYS	QANFDNTF	PF	ネットワーク・ファイル表示用のデータベース・ファイル。 ¹
	QSYS	QPNFDNTF	PRTF	ネットワーク・ファイル表示用の印刷装置ファイル。 ¹
WRKNETJOBE	QUSRSYS	QANFNJE	PF	ネットワーク・ジョブ項目のデータベース・ファイル。 ¹
	QSYS	QPNFNJE	PRTF	ネットワーク・ジョブ項目の印刷装置ファイル。 ¹
WRKOBJLCK	QSYS	QPDSPOLK	PRTF	オブジェクト・ロック表示印刷装置ファイル。 ¹
WRKOBJPDM	QPDA	QPUOPRTF	PRTF	PDM の表示対象リスト用の印刷装置ファイル。 ¹
WRKOUTQ	QSYS	QPRTSPLQ	PRTF	出力スプール待ち行列印刷装置ファイル。 ¹
WRKOUTQD	QSYS	QPDSPSQD	PRTF	出力待ち行列記述。 ¹
WRKPARTPDM	QPDA	QPUOPRTF	PRTF	PDM の表示対象リスト用の印刷装置ファイル。
WRKPGMTBL	QUSRSYS	QFNPGMTBL	PF	プログラム・テーブルに関するデータを含むファイル。

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
WRKPRB コマンド:				
WRKPRB コマンドの QUSRSYS ライブラリーに示されている 8 つの QASXxxxx というファイルは、すべて、DSPPRB コマンドの QUSRSYS ライブラリーに示されているファイルのサブセットと同じです。これらのファイルの説明については、 DSPPRB コマンドを参照してください。				
WRKPRB	QSYS	QSPRTD	PRTF	問題ログの詳細 印刷装置ファイル。
	QSYS	QSPRTL	PRTF	問題ログの要約 印刷装置ファイル。
	QUSRSYS	QASXxxxx	PF	QUSRSYS ライブラリー内にあるこれら 8 つのファイルについては、 DSPPRB コマンドを参照してください。
WRKPRJPD	QPDA	QPUOPRTF	PRTF	PDM の表示対象リスト用の印刷装置ファイル。 ¹
WRKQRY	QSYS	QPQUPFIL	PRTF	QUERY 出力に使用する印刷装置ファイル。
WRKQST	QSYS	QPQAPRT	PRTF	質問回答印刷装置ファイル。
WRKRBDIRE	QSYS	QSYSPRT	PRTF	分散リレーショナル・データベース・ディレクトリー印刷装置ファイル。 ¹
WRKRDR	QSYS	QPRTRDWT	PRTF	読み取りプログラム表示印刷装置ファイル。 ¹
WRKRJESSN	QRJE	QPRJESTS	PRTF	RJE セッションの活動状況印刷装置ファイル。 ¹
WRKRPYLE	QSYS	QPRTRPYL	PRTF	システム応答リスト印刷装置ファイル。 ¹
WRKSBMJOB	QSYS	QPDSPSBJ	PRTF	投入済みジョブ印刷装置ファイル。 ¹
WRKSBS	QSYS	QPDSPSBS	PRTF	サブシステム表示印刷装置ファイル。 ¹
WRKSBSJOB	QSYS	QPDSPSBJ	PRTF	サブシステム・ジョブ表示印刷装置ファイル。 ¹
WRKSHRPOOL	QSYS	QSYSPRT	PRTF	共用記憶域プール印刷装置ファイル。 ¹
WRKSOC	QUSRSYS	QAALSOC	PF	制御範囲データベース・ファイル。

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
WRKSPLF	QSYS	QPRTSPLF	PRTF	スプール・ファイル 印刷装置ファイル。 ¹
WRKSPLFA	QSYS	QPDSPSFA	PRTF	スプール・ファイル 属性印刷装置ファイル。 ¹
WRKSPTPRD	QSYS	QSYSPRT	PRTF	サポート・プロダクト 印刷装置ファイル。 ¹
WRKSRVPVD	QUSRSYS	QAEDSPI	PF	サービス提供元情報 ファイル。
WRKSRVRQS	QUSRSYS	QANSSRI	PF	サービス要求装置フ ァイル。
WRKSSND	QRJE	QPRTSSND	PRTF	セッション記述印刷 装置ファイル。 ¹
WRKSYSACT	ユーザー・ライブラリー	QAITMON	PF	パフォーマンス・デ ータ収集ファイル: ジョブおよびライ センス内部コードのタ スク・データ。 ¹
	QPFR	QAPTDDS	PF	パフォーマンス・デ ータ DDS ソース・ ファイル。
WRKSYSSTS	QSYS	QPDSPSTS	PRTF	システム状況印刷装 置ファイル。 ¹
WRKSYSVAL	QSYS	QSYSPRT	PRTF	システム値印刷装置 ファイル。 ¹
WRKTAPCTG	QUSRSYS	QATAMID	PF	カートリッジ ID デ ータベース・ファ イル。
	QUSRSYS	QATAMID	LF	カートリッジ ID 論 理データベース・フ ァイル。
	QUSRSYS	QATACGY	PF	カテゴリー・デー タベース・ファイル。
	QUSRSYS	QLTACGY	LF	カテゴリー論理フ ァイル。
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	入力用のテープ装置 ファイル。
WRKTCPTP	QUSRSYS	QATOCPTP	PF	TCP/IP 2 地点間プロ ファイル構成。
	QUSRSYS	QATOCMODEM	PF	TCP/IP 2 地点間モデ ム構成。
WRKTIE	QSYS	QPTIRCV	PRTF	受信されたファイル の印刷装置ファイル 要約。

コマンド名	ファイル・ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
WRKTRA	QSYS	QSYSPRT	PRTF	トークンリング・ネットワーク・アダプターのリストを含む印刷装置ファイル。 ¹
WRKTXIDX	QUSRSYS	QABBADMTB	PF	OfficeVision テキスト検索サービス管理テーブル。
WRKUSRJOB	QSYS	QPDSPSBJ	PRTF	ユーザー・ジョブ表示印刷装置ファイル。 ¹
WRKUSRTBL	QUSRSYS	QFNUSRTBL	PF	ユーザー・テーブルに関するデータを含むファイル。
WRKWTR	QSYS	QPRTRDWT	PRTF	書き出しプログラム表示印刷装置ファイル。 ¹

サーバーでのコマンド記述の印刷

iSeries サーバーで、コマンドに関するパラメーターおよび値の説明を印刷する際には、以下の手順に従ってください。

- あるコマンドについて、ヘルプの全体を印刷するには、次のいずれかを行います。
 - 任意のコマンド行からコマンド名 (たとえば CRTUSRPRF) を入力し、F1 を押します。そのコマンドの一般ヘルプおよび各コマンドのパラメーターのヘルプが画面に表示されます。F14 を押すと、そのコマンド・ヘルプが印刷されます。
 - 任意のコマンドのプロンプト画面で先頭行までカーソルを移動し、F1 を押します。その後 F14 を押します。
- CL コマンドの特定のキーワード・パラメーターに関するヘルプを印刷するには、以下を実行します。
 - コマンド行から CL コマンド名を入力して F4 を押し、コマンドのプロンプト画面を表示します。ヘルプが必要なキーワード・パラメーターの行の任意の位置にカーソルを置きます。F1 を押すと、そのキーワード・パラメーターに関するヘルプが表示されます。F14 を押すと、そのヘルプが印刷されます。

CL に関する情報の PDF 版を印刷する方法については、2 ページの『トピックの印刷』を参照してください。

CL の関連情報

CL の使用に関する詳細については、以下の情報源を参照してください。

「CL プログラミング」

この資料では、プログラミングについて広範囲に説明しています。制御言語プログラミング、プログラミングの概念、オブジェクトとライブラリー、メッセージ処理、およびユーザー定義のコマンドとメニューなどのトピックを含んでいます。



Printed in Japan